

**高等学校の中国語と韓国朝鮮語
学習のめやす(試行版)**

目 次

はじめに	4
「学習のめやす」提案の背景	4
隣国のことば、隣人のごとばとしての中国語と韓国朝鮮語	4
高等学校の外国語の科目としての中国語と韓国朝鮮語の位置づけ	5
試行版としての「学習のめやす」	5
協働プロジェクトとしての「学習のめやす」	6
高等学校の外国語教育への提案	
高等学校における外国語教育	9
1. 外国語を学ぶ意味	9
1-1. 二十一世紀の地球社会に生きる	9
1-2. 二十一世紀の多言語・多文化社会に生きる	9
1-3. 未知の言語との遭遇から学ぶ	10
2. 英語以外の外国語を学ぶ意味	10
2-1. 多様な外国語教育の推進	10
2-2. 英語にはない外国語の魅力と複数言語を学習する効果	11
3. 隣国のことばを学ぶ意味	11
3-1. 国としての立場から	11
3-2. 地域と学校としての立場から	12
3-3. 学習者としての立場から	13
3-4. 言語と文化の関係性の視点から	14
3-5. 日本と隣国関係性の視点から	14
3-6. 交流言語としての視点から	14
3-7. 近隣地域の相互理解への礎としての意味	15
3-8. 高等学校における中国語と韓国朝鮮語教育の理念	16

目次

外国語の教科目標	17
1. 高等学校学習指導要領・普通教育・「外国語」の教科目標	17
2. 外国語教育の再考 1: コミュニケーションを目標とした外国語教育とは何か	17
2-1. 「学習のめやす」における外国語教育の捉えかた	18
2-2. 「学習のめやす」における言語運用能力の捉えかた	18
2-3. 「学習のめやす」における言語と文化の関係の捉えかた	19
3. 外国語教育の再考 2: 文化理解を目標とした外国語教育とは何か	19
3-1. 文化とは何か	19
3-2. 文化理解とは何か	20
高等学校の韓国朝鮮語: 学習のめやす	
科目目標と科目内容	23
1. 科目目標	23
2. 科目内容	23
2-1. 言語領域	23
2-2. 文化領域	24
3. 科目内容の取り扱い	24
3-1. 韓国朝鮮語とその背景にある文化	24
3-2. 学習・教育方法の工夫	27
3-3. 他教科・領域との連携	27
3-4. 教室の内外の連携	27
学習目標と学習内容	28
1. 学習目標	28
2. 学習内容と学習到達目標	28
2-1. コミュニケーション能力指標とは	29
2-2. コミュニケーション能力指標(案): 韓国朝鮮語	33
2-3. 言語領域の指標一覧: 韓国朝鮮語	47
3. コミュニケーション能力指標にもとづく韓国朝鮮語の授業	51
3-1. 単元案と授業の進めかた	51
3-2. 文字と発音の導入	66
3-3. 学習・教育方法の工夫	67
3-4. 他の教科との連携	70

高等学校の中国語:学習のめやす

科目目標と科目内容	77
1. 科目目標	77
2. 科目内容	77
2-1. 言語領域	77
2-2. 文化領域	78
3. 科目内容の取り扱い	78
3-1. 中国語とその背景にある文化	78
3-2. 学習・教育方法の工夫	80
3-3. 他教科・領域との連携	80
3-4. 教室の内外の連携	80
学習目標と学習内容	81
1. 学習目標	81
2. 学習内容と学習到達目標	81
2-1. コミュニケーション能力指標とは	82
2-2. コミュニケーション能力指標(案):中国語	85
2-3. 言語領域の指標一覧:中国語	118
2-4. 一般語彙と教室中国語	122
3. コミュニケーション能力指標にもとづく中国語の授業	123
3-1. 授業計画の立てかた	123
3-2. 発音と文字	128
3-3. 単元指導案例	130
3-4. 年間指導計画例	146
3-5. 学習・教育方法の工夫	157
3-6. 他の教科や教室内外の連携	160
「学習のめやす」作成プロジェクトについて	
平成 18 年度の研究経過	167
「学習のめやす」作成プロジェクトの参加者	172
「学習のめやす」内容構成図	173
「学習のめやす」執筆担当一覧	174
プロジェクト協力者と参照資料	176

はじめに

『高等学校の中国語と韓国朝鮮語:学習のめやす(試行版)』(以下、「学習のめやす」という)は、文部科学省の「学力向上拠点形成事業」の一環である「わかる授業実現のための教員の教科指導力向上プログラム」(平成 17 年度-18 年度)の委嘱事業として進められた「高等学校における中国語と韓国朝鮮語の目標・内容・方法に関する研究」の成果である。日本の高等学校で実施されている中国語教育および韓国朝鮮語教育の発展を願う高等学校等の教師が中心となって、大学の教員 6 名を含む関係者の助言を得て作成したものである。

「韓国朝鮮語」に関して、教育現場では韓国語、朝鮮語、ハングルなど、様々な名称が使用されているが、本「学習のめやす」では、それらの総称として「韓国朝鮮語」という名称を使っている。

「学習のめやす」提案の背景

現在、日本の高等学校では、中国語も韓国朝鮮語も選択科目である場合が多く単位数も少ないために、他教科の教諭が兼任もしくは非常勤講師が授業を行っているのがほとんどである。科目としての位置づけも脆弱で、受講者が集まらない、教師が転勤したなどの理由で閉講に追い込まれることも珍しくない。教材が不足しているばかりでなく、教師研修の機会も少ない。高等学校の中国語と韓国朝鮮語教育は、一人ひとりの教師の努力と熱意で辛うじて支えられてきたといっても過言ではない。

文部科学省が 2 年ごとに実施している「高等学校等における国際交流等の状況」に関する調査によれば、平成 17 年度に中国語教育に取り組んでいた高等学校は 553 校、高校全体の 10.2% である。韓国朝鮮語教育に取り組んでいた高等学校は、わずか 286 校で、全体の 5.3% にすぎない。履修者数でみると、中国語は、2 万 2,161 人で、高校生千人あたり 6.1 人。韓国朝鮮語にいたっては、8,891 人で高校生千人あたり 2.5 人という状況である。日本にとって極めて重要な隣国のことばの学習者数としては、あまりにも少ないと言わざるをえない。しかし、この 10 年ないし 20 年を振り返ってみると、中国語と韓国朝鮮語教育に取り組んでいる学校は年々増えており、開設学校数からみると、平成 2 年度を境に中国語がフランス語、ドイツ語を凌いで英語に次いで第二の外国語の地位を占め、平成 17 年度には、韓国朝鮮語が英語、中国語に次ぐ外国語に成長したことが分かる。しかし、こうしたニーズの拡大と成長に制度が追いついていないのが現状である。今やまさに、日本の外国語教育のなかに中国語と韓国朝鮮語教育を明確に位置づけるべき時期が到来しているのではないだろうか。

隣国のことば、隣人のごととしての中国語と韓国朝鮮語

「学習のめやす」では、高校生が外国語を学ぶ意味、そして英語以外の外国語を学ぶ意味を問い直しながら、そのなかで中国語と韓国朝鮮語を学ぶ意味をさまざまな角度から捉え、隣国のことば、隣人のごととしての中国語と韓国朝鮮語に共通の教育理念を掲げた。日中韓の視座を提起し、21世紀にふさわしい日本の高等学校における外国語教育に一石を投じる思いで、本「学習のめやす」を作成したといえる。いうまでもなく、中国語および韓国朝鮮語は、地理的にも、歴史的に

も、また文化的、経済的にも日本と密接な関係にある隣国のことばであり、日本語との関係性が最も深いことばでもある。短期および長期の外国人滞在者数からみても、日本語話者と中国語や韓国朝鮮語の母語話者とは日常的に隣り合わせで暮らしており、二つのことばは日本国内の多文化共生のためのコミュニケーション言語であるともいえる。

高等学校の外国語の科目としての中国語と韓国朝鮮語の位置づけ

外国語学習は、21世紀に生きる人間にとって必須のものである。多言語、多文化の環境にある地球上の様々な人々とコミュニケーションできる能力を身につけることの素晴らしさとともに、人間的成長の面でも複数の言語を学ぶことの教育的意義は計り知れない。しかし、中国語教育および韓国朝鮮語教育が名実ともにそのような評価を得るためには、教育の内容と方法をさらに向上させなければならない。

高等学校の「外国語」は、平成11年に文部科学省より告示された現行の高等学校学習指導要領に、普通教育に関する教科の一つとして、その教育目標や学習指導内容が定められている。しかし、科目として取り上げられているのは英語のみで、その他の外国語科目は英語に準じるとして具体的な記述はない。「学習のめやす」では、こうした状況を打開するために、高等学校学習指導要領で定める「外国語」の教科目標に基づき、「中国語」と「韓国朝鮮語」の二つの科目について、学習の対象である中国語、韓国朝鮮語によるコミュニケーション能力を身につけるための科目目標と科目内容および学習目標を提示することをめざした。さらにそれらの科目目標と科目内容および学習目標を具現化するものとして、学習内容と学習到達目標を言語領域および文化領域にわたる、話題分野別のコミュニケーション能力指標という形で提示している。話題分野別の指標にしたのは、何よりも高校生の学習への動機づけを高め、高校生の関心および必要性に沿った学習内容にすることを重視したことによる。そして今回最も多くの時間とエネルギーを注いだのが、言語領域の指標づくりである。中国語や韓国朝鮮語を使ってどのようなコミュニケーション活動ができるようになるのか、レベル別の学習到達目標を示す指標を作成した。最後に、教育現場の教師がこの指標をすぐに使えるように、指標をもとに作成した年間指導計画例や単元例などの事例も複数提示した。

中国語と韓国朝鮮語には共通性もあるが、当然それぞれに固有性を有していることから、科目目標および科目内容以下についてはそれぞれ別個に作成した。また、日本の高等学校において二つの言語が置かれてきた教育環境や教育研究・実践上の蓄積の違い、またその背景にある歴史、文化、政治、経済的要因などによって、コミュニケーション能力指標や事例集の内容は同じではない。中国語の場合には、すでに『高校中国語教育のめやす』（平成11年度版、全国高等学校中国語教育研究会編集発行）を作成していることもあり、研究のスタートラインが韓国朝鮮語とは違っていたことにもよる。まさに本「学習のめやす」は、高等学校における中国語教育にとって、本格的なめやすといえるものであり、韓国朝鮮語教育にとっては、記念すべき初めてのめやすの誕生といえるものである。わずか15ヵ月間足らずの研究の成果として、どちらも画期的なものであると自負している。

試行版としての「学習のめやす」

「学習のめやす」は、あくまでも広く議論を募るための「試行版」であるとともに、研究成果の現時

はじめに

点での報告でもある。「学習のめやす」はもちろん教育の標準化をめざしているわけではない。学習者、学習条件、学習ニーズによって教育現場は多様であり、授業は、学習者のことを最も理解している教師が、学習者と共に創造すべきものである。標準自体も弾力性のあるものでなければならない。しかし、今後の教育研究の発展のためにも、また教材を開発したり、教師研修の内容を検討する際にも、教育目標や内容、方法について共通の土俵があることは意味があるだろう。「学習のめやす」を、日本全国の高等学校で中国語教育あるいは韓国朝鮮語教育を支えている教師のもとに届け、その目標の妥当性を検証していただきながら、目標を共有していきたいと思う。「学習のめやす」が授業設計に悩む教師たちの一助になればと願っている。

協働プロジェクトとしての「学習のめやす」

高等学校における中国語教育および韓国朝鮮語教育の社会的な位置づけと教育環境の整備が強く望まれるなか、民間のこうした自主的な研究が、文部科学省から委嘱事業として認められたことは大変意義深いことであり、ここにあらためて深く感謝の意を表したい。

本研究プロジェクトの推進委員会のメンバー構成、研究の経緯の詳細、研究の課題などについては、巻末資料に記した。プロジェクトの中心は、高等学校の教師あるいは教師だった9名のコアメンバーであり、それぞれ国語科、英語科、社会科など他教科を教えている兼任の教諭または非常勤講師である。また日本語話者と目標言語の母語話者から構成されており、互いに補完しつつ協働作業にあたった。日々高校生と向き合い、試行錯誤を繰り返しながら、より楽しく、より効果のある授業をめざして努力してきたコアメンバーが、本プロジェクトの研究に広がりや深みを与えてくれた。膨大なエネルギーと貴重な時間をこのプロジェクトのために捧げてくださった全メンバーに対し、心から敬服し感謝している。また大局的かつ多様な立場から本プロジェクトを見守り、適切な助言と協力をしてくださった6名の大学教員の専門家および埼玉県教育局の指導主事をはじめ、外部助言者としてプロジェクトに最新情報の提供と、貴重な助言をしてくださった国内外の専門家にも厚く御礼を申し上げたい。本プロジェクトが、中国語教育および韓国朝鮮語教育それぞれにおける高連携を深めるとともに、中国語と韓国朝鮮語の教育関係者間の出会いをもたらし、国内外の研究の風通しをよくする契機になったことも大変意義深いことだった。

財団法人国際文化フォーラム(TJF)としても、本研究プロジェクトの運営を通じて本研究に関わることができたことを光栄に思っている。TJFは、日本の高等学校の中国語および韓国朝鮮語教育を促進する事業に力を注ぐとともに、海外の小中高校の日本語教育に関連する事業にも取り組んできた。その中で、中国、韓国の日本語教育に協力する事業については、国内の中国語および韓国朝鮮語教育の関連事業につなげる努力もしてきた。密接な関係にある日中韓を中心とする近隣地域の学校教育において、英語ばかりでなく、お互いの言語を教える「相互言語教育」を制度的に位置づけ、その連携を図り、協力体制を築くために微力ながら貢献していきたいと考えている。高邁な目標ではあるが、その実現に向かって小さな歩みを続けたいと思う。

平成19年3月

財団法人国際文化フォーラム

．高等学校における外国語教育

高等学校における中国語と韓国朝鮮語教育の目標および内容を設定するにあたって、高等学校において外国語を学ぶ意味、そして英語以外の外国語を学ぶ意味を問い直しながら、隣国のことばとしての中国語と韓国朝鮮語を学ぶ意味をさまざまな立場や視点に立って考えてみたい。

1. 外国語を学ぶ意味

日本の高等学校では、現在、英語を中心とする外国語教育が実施されているが、高校生が外国語を学ぶ意味は何なのかあらためて問い直してみよう。

1-1. 二十一世紀の地球社会に生きる

21 世紀を迎え、ITの劇的な進歩によって、情報通信網は地球の隅々までを覆い、人々のコミュニケーションの速度も量も国境を超えて飛躍的に増大した。交通手段の物理的、経済的な発達により、国際的な人・もの・情報の移動はますます活発になり、言語や文化を異にする人同士が日常生活において接触する機会も増えてきている。また、政治、経済、貿易、観光、文化、医療など各分野の国際的な相互依存関係も緊密の一途をたどっており、国際関係や人的交流を円滑に進めていくことが多くの国にとって必須の課題となっている。一方、環境、食糧、人口といった、地球規模の問題は人類共通の課題となっており、これらの問題を解決するには、一人ひとりが、地球社会に生きているという自覚をもつとともに、国際的な理解と協調を深めることが不可欠となっている。

こうしたグローバル化の波は、一部の人の周辺で起きているのではなく、広く世界の人々の日常に打ち寄せてきており、とりわけ 21 世紀を担う若い世代の人々には、国際的な場での活動や交流を適切に行う能力、すなわち「国際対話能力」(グローバルリテラシー、外国語によるコミュニケーション能力)を身につけることが求められている。

1-2. 二十一世紀の多言語・多文化社会に生きる

このようなグローバル化した国際社会は、異なる言語や文化的背景をもつ人々が共生し、協働していく社会でなければならない。国境を越えたときだけでなく、様々な言語に触れる機会が日本の全国各地に生まれているのである。まさに日本国内にも、多言語・多文化社会が到来しており、それへの対応が求められているといえる。異なる言語や文化的背景をもつ人々と共生し、協働していくためには、外国人に日本語を学んでもらうばかりでなく、私たち日本人も外国語を学び、日本社会をより開かれたものにする必要があるであろう。また、多言語・多文化社会において異なる言語をもつ人々とコミュニケーションをとりながらより良好な人間関係を築いていくためには、言語と一体化している多様な文化についても理解を深めることが必要である。グローバル化した国際社会に対応するためには、日本の社会全体のなかで、世界の多様な言語や文化に精通する人材を育成することが極めて重要であり、そのために様々な言語を学習する機会があることが望まれる。

1-3. 未知の言語との遭遇から学ぶ

母語以外の言語を学ぶことによって、それまで意識していなかった言語のしくみや成り立ち、文化の特質、人間・言語・文化の関係などについて理解を深めていくことができる。また母語と比較することによって、自己の言語や文化に対する理解や洞察力を深めるとともに、複眼的、立体的な視点を得ることによって、視野を広げ新たな世界観を確立することができる。

高校生に、「ことば」が本来もつおもしろさ、豊かさ、学ぶ楽しさを感じてもらうとともに、母語だけでは交わせなかった他者とのコミュニケーションができることの喜びや新鮮な驚きを味わってもらいたい。また、様々な言語的・文化的背景をもつ人々とのコミュニケーションの重要性を認識してもらうことは、母語による日本人同士のコミュニケーションにも大きな影響を与え、また生涯にわたって言語を学習する基礎を培うことにもつながると考える。

2. 英語以外の外国語を学ぶ意味

こうした外国語を学ぶニーズがあるなかで、政府が、「国際的な言語の一つのツールとして、英語の重要性というのが大変大きくなってきている」（『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」平成 14 年7月）として、「英語が使える日本人」を育成する戦略構想および行動計画を打ち出し、まず英語教育改革および国語力の増進に関する新しい施策を展開しているのは周知のとおりである。英語が外国語のなかで最も優先されるのは、国際的に通用度が高いこと、国際会議など多言語状況では共通言語として使用される頻度が高いこと、PC やインターネットでも英語が使えると幅が広がること、社会全体において多様な機会を得ることができるなど、それなりの理由がある。それでは、英語以外の外国語を学ぶ意味とは何であろうか。

2-1. 多様な外国語教育の推進

(1) 学習の選択肢の提供

学習者が複数の言語を学ぶことの意味を考えるまえに、日本の学校教育のなかで、学習者の興味・関心、学校や地域の特色に応じた英語以外の外国語を学ぶ選択肢が提供されることの意味を考えてみたい。21 世紀の日本がグローバル社会および多言語・多文化社会に対応する社会を志向するとき、英語だけでは立ち行かないのは自明である。すでに医療・看護、法律の現場でも深刻な事態が起きていることは報道されているとおりである。また日本国内に限っても、各地域に固有な地理的、歴史的、社会的、経済的背景があり、英語以外の外国語を必要としている地域がある。学習者にとっても、英語だけが外国語ではないことを知り、ことばのおもしろさを様々な選択肢のなかで味わえることは、教育を豊かなものにしていくことにもなる。

(2) 文部科学省の外国語教育多様化推進政策

文部科学省は、外国語教育の多様化を積極的に推進する政策について、いくつかの答申や報告書を発表し、「英語だけでなくより多様な外国語教育を積極的に推進する」（『臨時教育審議会答申』昭和 61 年～平成元年）、「近隣のアジア諸国の言語はもとより、英語以外の様々な外国語の教育を一層推進することが必要である」（『外国語教育の改善に関する調査協力者会議報告』平成 3～5 年）、「高等学校における多様な言語学習への配慮、とくにこれまで欧米先進諸国に目を向け

がちだったことを改め、アジア諸国等の言語にも一層目を向けるようにすることを促したい」（「英語指導方法等の改善の推進に関する懇談会」平成12～13年）などと、その意向を明らかにしている。

また平成15年より「外国語教育多様化推進地域事業」を開始し現在にいたっている。中国語では、神奈川・大阪・和歌山・兵庫・長崎、韓国朝鮮語では、大阪・鹿児島各府県がそれぞれ特定地域に指定され、研究が進んでいる。

2-2. 英語にはない外国語の魅力と複数言語を学習する効果

教育現場から報告される教師の意見や生徒たちの感想文によれば、英語以外の外国語を学ぶ意味は以下のとおりである。

英語とは違う外国語との出会いや発見の喜びを味わうことができる。

とくに、英語のアルファベットとは異なる文字との出会いは、新鮮である。また、日本語とのつながりが深い外国語には英語とは違う発見がある。

英語と日本語との比較では得られなかった新たな視点・視野が獲得できる。

英語と比較した場合にみられる日本語の特徴を、日本語固有のものとして捉えることができるが、比較する対象の言語が変われば、それらの特徴が日本語固有のものではないことがある。比較の対象を変えることによって得られる新たな発見は、複眼的な思考を培うことにつながる。

文化学習の面からも、国際語としての英語は、国・地域によって言語と文化が必ずしも対応していないところから（もちろん民族英語の学習もあるが）、言語と文化のつながりを学習するのが難しい言語である。他の外国語を学ぶことによって、文化理解はより深まり、比較する言語や文化が複数になることによって、得てして陥りがちな日本や他の地域の文化についての固定的でステレオタイプな観念を緩和させ、多文化的な視点が獲得できる。

英語でのコミュニケーションが難しい人々との交流が可能になる。

英語ができれば世界のどこにいても困らないというわけではない。また日本で日常的に接する人々の外国語は必ずしも英語だけではない。英語話者の人口は世界の人口約60億の1/4でしかない。

3. 隣国のことばを学ぶ意味

外国語がそれぞれに学ぶ意味があるなかで、なぜ中国語と韓国朝鮮語なのかを考えてみたい。高等学校において中国語と韓国朝鮮語を学ぶ意味を考えることは、とりもなおさず、中国語と韓国朝鮮語話者とのように関わっていくのか、またそれらの話者が住む地域や国々をどのように捉え、どのような関係を構築していきたいと思っているのか、という私たちの姿勢を問うことになる。

3-1. 国としての立場から

日本は国として、近隣の国々や地域とどのような関係を築こうとしているのだろうか。また言語政策として、それらの国々や地域のことばである中国語と韓国朝鮮語をどのように位置づけているのだろうか。以下に「21世紀日本の構想」懇談会が平成12年1月に発表した報告書のなかから、中国語と韓国朝鮮語教育について言及している部分を引用する。同報告書では、「隣交」のすすめと

して、韓国(朝鮮半島)・中国との関係構築に国民を挙げて取り組むべきであると提唱している。

【隣交の提唱】

「21世紀には、地理的な近接性を持ち、歴史的・文化的な関係も深く、今後の潜在力を秘めた東アジアにおける協力関係を一段と強化すべきである。とくに日本と韓国・中国との関係は、単に外交という名で呼ぶには足りない。その関係は外交と呼ぶには余りにも深く、にもかかわらず、十分に深まっているとはいえない。外交的な努力だけでは掴みきれないものをすくいとり、深みのある関係を築く営みが必要である。そういう営みを「隣交」と呼ぶことにしたい。中国と韓国(朝鮮半島)との関係を長期的に安定させ、信頼関係を結ぶには、これまでの通常的外交努力では不十分であり、観光的、風俗的、流行的な理解では追いつかない。ある種の国民的な覚悟が必要である。そういう意味での「隣交」である。「隣交」に踏み出すにあたっては、日本人がこれら隣国の民族の歴史、伝統、言語、文化を十分に理解することが求められる。そのためには、学校教育において両国の歴史と日本との関係史、とりわけ現代史を教える時間を充実させるとともに、韓国語や中国語の語学教育を飛躍的に拡充するのが望ましい。日本国内の主要な案内板には英語と共に両国語が併記されるくらいに「隣交」感覚を研ぎ澄ませたいものである。(第1章「日本のフロンティアは日本の中にある」より)

3-2. 地域と学校としての立場から

(1) 高等学校の外国語教育における中国語と韓国朝鮮語の実施状況

高等学校における中国語と韓国朝鮮語教育は、開設学校数や履修者数においていまだ少ないとはいえ、平成2年を境に外国語教育全体のなかで、開設学校数では中国語は英語に次ぐ外国語となっている。平成17年度現在、中国語教育を開設する学校数は、昭和61年度には46校だったものが553校と高校全体の10.2%を占めるまでになっている。その伸びは平成に入る直前からとくに顕著で、韓国朝鮮語教育を開設する学校は286校で全体の5.3%、明治以来日本の外国語教育に君臨してきたフランス語、ドイツ語を開設学校数では追い抜いている(文部科学省「高等学校等における国際交流等の状況」平成16年、「学校基本調査」平成17年)。大学入試センター試験の外国語科目にも中国語(平成9年)、韓国語(平成14年)がそれぞれ加えられた。

中国語と韓国朝鮮語教育は高等学校の外国語教育のなかでそれぞれ固有の歴史を有し、社会的位置づけがなされてきており、ひとまとめにして語ることは到底できないが、共通しているのは、1980年代の国際化の波とともに、高等学校にも国際コースや国際学科が新設されたり、修学旅行で海外に行くようになったり、海外の学校と交流・提携したりすることと連動して、中国語と韓国朝鮮語教育が導入された経緯があるという点である。90年代に入ると、高等学校の多様化が進み、学校裁量によって導入される事例が増えている。

(2) 中国語と韓国朝鮮語教育の実施状況

中国語教育、韓国朝鮮語教育ともに、歴史的、地理的、経済的、社会的要因から、地域によって開設状況が異なり、学校数にもばらつきがみられる。中国語教育が盛んな地域としては、沖縄、長崎、兵庫、大阪、福岡、神奈川、和歌山などが挙げられる。そのうち福岡、沖縄を除く5府県は、文部科学省が平成14年度から実施している「外国語教育多様化推進地域事業」の指定を、現在、またはこれまでに受けたことがある地域である。韓国朝鮮語教育が盛んな地域としては、兵庫、大阪、神奈川、鹿児島などが挙げられる。そのうち「外国語教育多様化推進地域事業」の指定を現在、またはこれまでに指定を受けたことがある地域は、大阪、鹿児島の両府県である。

こうした二つの言語に対する地域や学校のニーズは、日本各地における在留外国人の増加とも関係している。上記の各府県の多くは、中国や韓国朝鮮にルーツをもつ在日の人々が多い地域と重なっているが、ニューカマーと呼ばれる新規に在住するようになった外国人の数も各地で急激に増えており、地域や学校において多言語化、多文化化の問題が生じている。ちなみに平成17年度末の統計では、在日外国人の数が最も多いのは韓国籍と朝鮮籍および中国籍の人で、合わせて全体の約56%を占めている。地域社会で同じ住民として外国人と共生し、また学校のなかで同じ児童生徒として在日外国籍の子どもたちと共生していくためにも、中国語や韓国朝鮮語の学習は必要であり、その意義も大きい。こうした両言語へのニーズの高まりを背景に、高等学校における両言語の教育の量的拡大と質的な多様化が進行しているのに対して、教育環境整備および制度が追いついていないのが現状であるといえる。

3-3. 学習者としての立場から

学習者が中国語と韓国朝鮮語を選択する理由は様々である。その理由として学習者が挙げるのは、中国語に関しては、将来仕事等に役に立つ、中国語話者の人口が多いのでたくさんの人と話せる、中国は将来発展する、中国の歴史・文化(食文化、映画)に興味がある、中国の人と話したい・仲良くなりたい・友人がいるので話せるようになりたい、中国に行ったときに使いたい、中国に留学したい、漢字が好き・学びやすそう、英語より親しみやすい・楽しい、英語以外のことを学びたい、他の人がやっていないことをしたい、などである。

韓国朝鮮語に関しては、韓国の歴史・文化(テレビドラマや映画、音楽、食文化)に関心がある、韓国の人と話したい・仲良くなりたい・友人がいるので話せるようになりたい、韓国に行ったときに使いたい、ハングルに興味をもった、などである。

では実際に履修した学習者たちは、何を学び取っているのだろうか。学習者が着実に増加している現在、言語の学習を通してかれらの隣国に対するイメージや考え方が変化していることは間違いない。韓国朝鮮語の例を以下に引用してみたい。

【隣国理解および自国の再認識と韓国の人々との交流】

日本語と似ているようで、親近感を感じた。まったく知らなかった韓国のことをもっと知って、お互いの国も仲良くなれたらいいと思った。他国を理解するには、その国の言語を勉強するのが一番いい方法だと思った。本当に近い国なのに、まったく知らなかった韓国のことが少し分かった。在日コリアンの話を初めて聞いて、すごく大切なことを知った。ハングルの学んだことで、以前よりもアジアや日本に目を向けるようになった。意識することもなかった日本のこと、自分が日本人であることなどを、あらためて考えるきっかけになった。韓国と日本の関係や歴史問題についても考えるようになった。高校卒業後、韓国人の友人に出会い、高校時代に韓国語を勉強していたことで、彼らを身近な存在に感じ、違和感なく受け入れられたとき、勉強しておいてよかったと思った。英語以外に外国語があることを肌で感じた。何より文通で、隣国の同い年の子どもたちが日本の若者に強い関心をもっていることを知って、びっくりした。韓国の高校生と交流したことで、韓国に対して興味と関心をもつようになった。「韓国」という国に対して漠然と抱いていたイメージにとらわれなくなり、等身大の人々を感じられるようになった。(長野県松本蟻ヶ崎高等学校教諭西澤俊幸氏の「ハングル基礎」を選択した生徒190名に対するアンケート調査(平成14年)の報告書「ハングルの授業はいつもちょっぴりドキドキ」より抜粋して編集。平成17年の読売教育賞・外国語教育の部入賞作品)

3-4. 言語と文化の関係性の視点から

中国語や韓国朝鮮語を学ぶと、英語との比較では気づかなかった日本語の発見があり、日本語の特徴や思考の枠組みを相対的に捉えることができるようになる。例えば英語と比較してよくいわれる日本語の特徴に敬語表現があるが、韓国朝鮮語と日本語を比較すれば敬語表現が日本語固有のものではないことが分かる。また同じ敬語表現でも日本語と違うことも分かり、固定観念で日本語を捉えるのではなく広い視野のなかで日本語をみることができるようになる。

中国語と韓国朝鮮語は、ことばのしくみ(構造)・語彙・音声において、日本語との類似性、共通性が発見できる言語である。同じ漢字文化圏という共通性があるが、類似しているようで違う点も多々ある。それは言語教育の上で大きな意義をもつといえる。周知のとおり、中国語は日本語の文字の成り立ちや語彙に大きな影響を与えたが、中国語と韓国朝鮮語を学ぶことによって、あらためて日本語の語彙のなかに多く混在する中国語と韓国朝鮮語を再認識し、新鮮な驚きをもって発見する楽しさを味わうことができる。また中国語から借用した漢語をもとに日本人が作った和製漢語の逆輸出といった中国語と日本語との関係も理解することができる。こうした例は枚挙にいとまがない。まさに、日本語を第一言語とする者にとって、隣国のことばを学ぶという知的な喜びやおもしろさを、自らの言語に照らしながら体感できるのである。

さらに、中国語と韓国朝鮮語を、単一の民族言語、国民国家の言語と捉えるのではなく、多文化、多民族、多地域の言語として捉えることによって新たな言語観や文化観を獲得することができることにも着目したい。

このように日本語や日本文化と密接な関係にある中国語と韓国朝鮮語を学ぶことは、隣国の人々や文化に対して関心をもち、理解を深めていくことになると同時に、日本語あるいは日本の文化のことを再認識し、深く理解することにもつながるといえる。自己の姿を映し出す鏡として、他の外国語をもってしては代えがたい外国語である。

3-5. 日本と隣国関係性の視点から

中国語と韓国朝鮮語は、日本にとって言語や文化の面ばかりでなく、地理的、歴史的にも密接な関係にあり、社会の形成に相互に大きな影響を及ぼした国・地域の言語であるということ、まず押さえないといけないだろう。中国語と韓国朝鮮語の学習を通して、日本と隣国の歴史的な関係を、双方の見方をふまえて見直すきっかけにもなるだろう。また、自己や自国との関係性や相互依存性を、歴史を通じて認識できることは、大きな意味があるといえる。

中国、韓国との経済関係もますます緊密化しており、JETRO発表の「日本年次貿易動向」2006年によると、日本の対外貿易額に占める割合は、輸出では中国が14.3%で2位、韓国が7.8%で3位を占め、輸入では中国が20.5%で1位を占めている。いまや中国は、日本の最大の貿易相手国である米国に取って代わろうとしている。

3-6. 交流言語としての視点から

中国語と韓国朝鮮語は、ともに日本に暮らす多くの中国と韓国朝鮮にルーツをもつ人々の言語であり、日本国内の多文化共生のためのコミュニケーション言語である。また短期および長期外国人滞在者数からみても、中国語と韓国朝鮮語は、日本との人的往来が最も多い国や地域の言語

である。まさに中国語と韓国朝鮮語は日本人にとって隣人の言語なのである。しかし、隣国の言語、隣人の言語でありながら、学習の機会が非常に限られているのが現状である。

【日本における外国人の出入国者の状況】

(1) 外国人入国者数

平成 18 年版『出入国管理』(法務省入国管理局発行)によると、平成 17 年における外国人入国者総数(再入国を含む)は 745 万 103 人。国籍(出身地)別で見ると、韓国が 200 万 8,418 人と最も多く(全体の 27.0%)、中国(台湾)¹ が 131 万 5,594 人で 2 位(17.7%)、次いで米国が 85 万 3,845 人(11.5%)、中国が 78 万 924 人(10.5%)である。ちなみに平成 19 年 1 月に同局が発表した速報によると、平成 18 年における総数は 810 万 7,684 人。国籍(出身地)別では、韓国が同じく 1 位で 236 万 9,877 人(29.2%)、中国(台湾)が 2 位、そして中国が米国を抜いて 98 万 411 人(12.1%)で、3 位に浮上している。

(2) 外国人新規入国者数(再入国者を除く)

また、上記入国者総数のうち、再入国者を除く新規入国者数は 612 万 709 人で、そのうち、約 94% を占める観光、商用、親族訪問等を目的とした短期滞在者数は、中国(台湾)が 112 万 9,250 人(全体の 31.8%)で最も多く、2 位が韓国で 101 万 7,206 人(28.7%)、次いで米国、中国(香港)の順となっている。また留学および就学を目的とした新規入国者数でも、韓国、中国がともに上位を占め、全体の過半数を占めている。

こうした状況のもとで、日本国内の都市部を中心に、中国語と韓国朝鮮語話者と出会うことがごく日常的になり、2-3 時間もあれば中国や韓国に行けるというのが現実のものとなった。中国語と韓国朝鮮語を学ぶことは、当該の国・地域との人・もの・情報の行き来を円滑にし、協力関係の構築に役立つことはもちろんであるが、最も重要な教育的意味は、学習者がコミュニケーションをとろうとすれば、生身の話者と直接向き合い、学習したことばで対話することができる状況にあることではないだろうか。中国語や韓国朝鮮語が置かれている状況が、読み書き中心の日本の言語教育に根本的変革を迫ったといえる。学習したことばを何とか使って対話できたとき、素朴ながらも心の底からの喜びを感じるだろうし、つながりを実感するのではないだろうか。言語は意思疎通のための単なる道具ではない。人との関わり、つながりを実現させてくれるものなのである。

中国語と韓国朝鮮語を学習するのは、中国語と韓国朝鮮語話者とのコミュニケーションを実現するためではないだろうか。他者と向き合い、他者と対話するために、交わるために、そしてつながるために、私たちはことばを学ぶのである。それが次項に掲げる教育理念の基本的考え方である。

3-7. 近隣地域の相互理解への礎としての意味

日本国内の学校教育において、中国語と韓国朝鮮語教育を促進することによって、若い頃から隣国および隣人の言語や文化に対して関心をもって理解し、中国語と韓国朝鮮語話者と積極的に交流しようとする態度が形成される。中国語と韓国朝鮮語を学ぶことは、中国語と韓国朝鮮語話者が多く住む地域、すなわち私たちのパートナーである中国、韓国をはじめとする近隣地域の人々との対話を深めることである。そうした近隣地域において、相互に相手の言語教育を導入し交流を深めることは、相手の言語を学ぶ生徒、教える教師をはじめ、地域に生きる人々の相互理解に寄与し、さらに地域の安定した友好関係、協力関係を築く礎となることをアピールしたい。

1. 「中国(香港)」、「中国(台湾)」の各表記は、それぞれ平成 18 年版『出入国管理』(法務省入国管理局発行)によっている。「中国(香港)」は、中国国籍を有する人で香港特別行政区旅券を所持する人を指している。

3-8. 高等学校における中国語と韓国朝鮮語教育の理念

隣国のことば、隣人のことばとしての中国語と韓国朝鮮語を学ぶ意味を踏まえながら、高等学校における中国語と韓国朝鮮語教育の理念として、以下の標語を掲げる。

他者の発見 自己の発見 つながりの実現

21 世紀を迎えた今日、人やものの交流はまさに世界規模で増大しているが、それが必ずしも相互の理解につながっているとはいいい難く、むしろステレオタイプな決め付けや扇情的な非難さえ見受けられるのは残念なことである。今こそ望ましい未来社会を創っていく第一歩を踏み出さなければならない。そのために、まず中国、韓国をはじめとする近隣地域において、真の意味でのつながりを実現すべきだと考える。つながりを実現するためには、まず他者を知り、その他者と真摯に向き合い、自己を見つめ直すことが必要である。その際に、近隣の国のことばを学ぶことは大きな意味をもつ。なぜなら、たとえば見慣れないハングル文字で表される韓国朝鮮語が、学んでみると日本語と非常に似通った言語であったり、見慣れたはずの漢字を使う中国語の単語が、実は日本語とは違う意味をもっていることに気づいたりするように、他者の発見と自己の再発見が同時双方向的に行われるからである。

標語における「他者の発見」とは、他言語の発見、他文化の発見、生身の他者の発見を指している。中国語と韓国朝鮮語という未知の言語と遭遇し、その背景にある文化に触れることによって、様々な発見や気づき生まれ、言語や文化を学ぶ楽しさと、おもしろさ、驚きがさらなる学習の動機づけとなる。そして何よりも学習者が、中国語と韓国朝鮮語を使ってコミュニケーションをとろうとすることが中国語と韓国朝鮮語話者との出会いをもたらし、お互いに尊重の念をもって向き合うことにつながるという点で大きな意味があるのである。

「自己の発見」とは、自言語の発見、自文化の発見、自己そのものの発見を指している。他者と出会い、関わることによってこそ見えてくる自己がある。つまり、他言語との対照によって自言語を再発見し、他文化との比較によって自文化を再認識し、自己の考えを表現するとともに、相手の考えを理解しようとするやりとりを通じて、自己を振り返り、自己の存在をも再認識するのである。

このような、他者の発見と自己の再発見の積み重ねは、他者と自己を正視したうえで自己を表現し他者の言葉に耳を傾けるといふ「伝えあいによる共感」を生み出す。そして、この伝え合いによる共感、さらに相互の「わかりあい」と新たな価値の「わかちあい」に発展し、ひいては真の意味でのつながりを実現させるのである。共に生き、自他の関係性を構築しながら、共同社会を創ることをめざすこと、それを「つながりの実現」と呼びたい。

中国語と韓国朝鮮語教育を通じて生徒に豊かな学びの場を提供し、すべての人が共に生きていける未来社会の形成者を育むことを目指すものである。

． 外国語の教科目標

高等学校における中国語および韓国朝鮮語の目標は、平成 11 年 3 月に文部科学省より告示された現行の高等学校学習指導要領の「外国語」の教科目標に基づいて設定しなければならない。以下、外国語の教科目標を確認した上で、高等学校における外国語教育のあり方を再考した。

1. 高等学校学習指導要領・普通教育・「外国語」の教科目標

現行の高等学校学習指導要領の第 2 章第 8 節において、「外国語」は普通教育に関する教科の一つであり、その目標は以下のように定められている。

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的コミュニケーション能力を養う。【第一款 目標】

高等学校における中国語と韓国朝鮮語は、「外国語」のなかの科目であるところから、当然上記の目標を教科としての目標に設定することになる。教科目標は、以下の四つの内容から構成され、最終的に実践的コミュニケーション能力を養うことを目標としている。

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すること

コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

自分の考えなどを表現する能力を養うこと

初歩的な外国語を用いて自分の考えや気持ちなど伝えたいことを話したり、書いたりして表現する能力を養う。

情報や相手の意向などを理解する能力を養うこと

初歩的な外国語を聞いたり、読んだりして、話し手や書き手の意向や具体的な内容など相手が伝えようとすることを理解する能力を養う。

言語や文化に対する理解を深めること

初歩的な外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などについての理解を深める。

2. 外国語教育の再考 1：コミュニケーションを目標とした外国語教育とは何か

高等学校の外国語教育のあり方を考えるにあたって、まず外国語の教科目標に掲げられている内容をどのように解釈するのか検討する必要がある。まず、教科目標のなかのキーワードである「コミュニケーション」や「実践的コミュニケーション能力」という用語について、その内容を検討しながら、本「学習のめやす」において、「コミュニケーション」という用語をどのように捉えるのかを定義する。

2-1. 「学習のめやす」における外国語教育の捉えかた

「学習のめやす」では、外国語教育ひいては言語そのものについて、以下のように捉えており、その基本的考え方としてコミュニカティブ・アプローチをとっている。言語は、基本的にしくみ(構造)をもったものである。しかし、その言語のしくみや形式を正確に教えることが言語教育の目的である、とは考えていない。言語とは、あくまでもコミュニケーションのために、また、コミュニケーションとして学ばれるものだ、という考え方をとっている。実際に使えることが重要であり、実際のコミュニケーション状況から切り離して学んだのでは、意味がないと考える。

その考え方に基づいて、「学習のめやす」でも、外国語教育は実践的コミュニケーションをめざすこととして、コミュニケーション能力をいかに身につけさせるかを主眼に置いている。文法を熟知するよりも、意味のやりとりができることが重視されるが、だからといって言語のしくみを教えることを軽視するものでもない。コミュニケーションを行うために必要な限りにおいて、当然言語のしくみ(構造)も教えるべきだと捉えている。というより、目標言語によるコミュニケーション活動を通して付随的に言語のしくみが学ばれることをめざしたい。そのために、文法項目の配列を重視した従来の教授法はとらずに、定型句として暗記してしまうことも躊躇なくする立場に立っている。

意味のあるやりとりを活動に導入するためには、実際にその言語表現が使われそうな場面や状況を設定したり、学習者にとって意味のある内容を扱うことを重視する。そのため、「学習のめやす」では高校生の関心や発達年齢にあった内容(話題)を提示して、その内容に沿ったコミュニケーション能力の目標を設定することとした。学習者が表現したいと思っていること、表現できたらいいこと、すぐに役に立つ内容を、言語形式にとらわれずに、早い段階で実現させるという意味で、内容重視の立場に立っている。

またコミュニカティブ・アプローチをとる立場から、そのコミュニケーション能力を習得する方法として、学習者参加型のコミュニケーション活動を例示することとした。つまり、学習の過程もコミュニカティブであることをめざしている。

2-2. 「学習のめやす」における言語運用能力の捉えかた

「学習のめやす」では、言語活動を支える言語運用能力を、「話す、書く、聞く、読む」の4技能に分けて捉えている。しかし、コミュニケーション論で使用されている三つのコミュニケーション・モード(対人、解釈、提示)の捉え方も導入し、聞く、話すについては、話された内容を解釈したり発表したりするだけでなく、対話のなかで情報のやりとりをしたり、感情を表したり、意見を交換したりする能力も含めて定義している。また、読む、書くについても、書かれた内容を理解したり発表したりするだけでなく、書かれたもののやりとりのなかで、情報のやりとりをしたり、感情を表したり、意見を交換したりする能力も含めている。それらの能力には、考える力や、自他の意見を調整する力も含まれる。つまり、伝統的なスキルとしての4技能そのものの上達をめざすのではなく、4技能を使ってコミュニケーションできることを重視する必要がある。その際、言語運用能力がどれだけ学習者の身についたのか把握できるように、明確な学習内容と学習到達レベルを設定することとした。後述するコミュニケーション能力指標がそれである。

2-3. 「学習のめやす」における言語と文化の関係の捉えかた

教科の目標のなかで文化はどのように位置づけられているのだろうか。文化は言語の背景にあるものとして、知識・理解の対象となっているが、「実践的コミュニケーション能力」の獲得をめざすとき、コミュニケーションは単に言語能力だけでは十分に行うことができないであろう。日本の社会状況のなかで高等学校の外国語教育について考えることを前提とすると、目標言語を使って、対話の相手とコミュニケーションを図ろうとすると、文化的に異なる背景をもった相手に対して積極的な態度をとれるかどうかは、多分に異文化対応の問題ともなってくる。異文化に対する先入観や固定観念、偏見などがあつたら十分にコミュニケーションを図ることができないだろう。異文化に対して関心をもち、積極的に相手とコミュニケーションをとろうとする態度は、異文化理解学習による態度形成と深くつながっている。

また言語活動を通して、自己「表現」や他者「理解」を深めていくコミュニケーションには、当然、言語そのもののやりとりだけではなく、それぞれに特徴的な言語行動や非言語行動が伴ってくる場合が多い。さらにコミュニケーションの場面や状況に応じて、適切な表現を使ったり相手を理解したりするためには、文化的背景について知っていることが必要となることが多い。文化は言語の背景にあるものとして知識・理解の対象となるばかりでなく、言語行動や非言語行動など、言語と深く結びついたものとしてもコミュニケーションに介在するといえるのである。すなわち、教科目標の四つの中に、文化の内容が含まれていると解釈することとした。

したがって「学習のめやす」では、教科目標として養成したいコミュニケーション能力は、言語領域(言語運用能力 = コミュニケーションに対する関心・意欲・態度+表現・理解の言語技能+言語知識)と文化領域(文化理解力 = 社会文化的能力や異文化間コミュニケーション能力とよばれている能力。言語と密接な文化+言語の背景にある文化についての理解が含まれる)の二つの領域から構成される。通常、コミュニケーションは言語領域のことをさすことが多いが、「学習のめやす」では、言語と文化の両方を含む概念として捉え、いわば「総合的コミュニケーション能力」という意味で「コミュニケーション」という用語を使用する。

3. 外国語教育の再考 2: 文化理解を目標とした外国語教育とは何か

「学習のめやす」では、コミュニケーションは言語と文化の二つの領域で構成されるとしたが、その場合、文化とは何か、また文化理解とは具体的に何を指すのかを以下に定義する。

3-1. 文化とは何か

「学習のめやす」における「文化」は、広義の文化を意味し、人々の生活様式や行動様式と、それらの背景にある抽象化された価値観や考え方、感じ方などを含む、生活体系全体をさすことばとして使っている。

また「学習のめやす」では、文化を言語と一体化しているものとして捉えていることを踏まえて、学習の対象となる文化は、a. 言語と直接結びついている文化(呼称などの言語行動や、あいづち・お辞儀・ジェスチャーなどの非言語行動)と、b. 言語と直接結びついていないが、言語使用場面・状況およびコミュニケーションの相手を理解するために必要と思われる、言語の背景にある文化

(地理・歴史・生活習慣・教育制度・行事等々)の両方を含んでいる。ただし、b.の内容については広範囲にわたるので、外国語教育としては、後述する「コミュニケーション能力指標」のなかで、話題分野ごとに取り上げるといいと思われる文化事象を具体的に例示することにしたい。

3-2. 文化理解とは何か

文化領域におけるコミュニケーション能力とはどのような能力を身につけることが必要とされるのであろうか。上述したとおり、単に言語の背景にある文化について知識・理解を得ることを指すのではないとしたら、知識学習だけではない文化理解の学習が必要とされてくることになる。

コミュニケーション相手との文化の交わりのなかで、相手に対して関心を持ち、積極的に関わろうとする態度を育てることがまず必要とされる。またコミュニケーションの過程で相手の背景にある文化を理解しようとするとき、コミュニケーションを成り立たせるためには、国民国家に独自の文化に対する固定観念をもっているだけでは多様な他者に対応できない。自己との調整もしなければならぬだろう。コミュニケーションは、まさに言語での対話であると同時に、文化の対話でもある。

文化理解の目標

これを踏まえて、「学習のめやす」では、文化事象や事物についての学習を深める際、ステレオタイプな文化知識の注入をすることを極力避けるために、文化領域での目標を以下のように捉えることとした。

観察・気づき・発見

学習の対象となる文化(目標文化という)に対する関心を喚起し、事物や行動などさまざまな文化事象を観察して、気づきと発見の体験をする。

文化事象の比較

目標文化と自文化の比較を中心に、目標文化内や自文化内の比較、目標文化と自文化以外の他文化との比較をしながら、グローバルな視野で相違性、共通性、関係性を発見する。

文化事象の共通性・相違性の要因考察

目標文化と自文化を比較してわかった相違性、共通性、関係性の背景にある要因の考察を経て、目標文化についての理解を深めるとともに、自文化を再認識し、文化の多様性や可変性などの視点を獲得する。

異文化間の調整と相互作用

目標文化と自文化の共通性や関係性、相互依存性を認識することを通じて、固定観念や先入観を是正し、共感性を醸成するとともに、相違性に対して尊重する態度を身につける。こうした自他を含む多様なものの見方や考え方を理解しながら、広い視野や世界観を広げていくことをめざす。

コミュニケーションは自他の対話であり、自己表現と他者理解のやりとりのなかで、相手と交渉したり、互いの意見を調整したり、多文化間の文化調整をする能力が問われるといえる。

また中国語と韓国朝鮮語教育においては、中国語と韓国朝鮮語の背景にある文化の当該国内の文化の多様性および日本国内の中国と韓国朝鮮にルーツをもつ人々、ひいてはより広い地域における文化の多様性を視野にいれた文化理解をすることが重要である。

科目目標と科目内容

高等学校における外国語としての韓国朝鮮語は、高等学校学習指導要領の第2章「普通教育に関する各教科」・第8節「外国語」・第2款「各科目」・第7「英語以外の外国語に関する科目」のなかで、「英語以外の外国語に関する科目については、第1から第6までに示す英語に関する各科目の目標及び内容等に準じて行うものとする」と位置づけられている。目標および内容として、具体的な記述はない。

高等学校において韓国朝鮮語教育が置かれている現状では、英語に関する各科目である、「オーラル・コミュニケーション」、「オーラル・コミュニケーション」、「英語」、「英語」、「リーディング」、「ライティング」に準じた科目設定は難しいため、「学習のめやす」では、「韓国朝鮮語」という科目設定で、それぞれの目標および内容を設定する。

1. 科目目標

韓国朝鮮語の学習を通じて、韓国朝鮮語およびその背景にある文化に対して関心をもって理解を深め、生徒の関心に根ざしつつ、さらに関心を豊かにするような話題について、韓国朝鮮語で情報や考えなどを理解したり表現したりする基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

2. 科目内容

韓国朝鮮語およびその背景にある文化を領域とするコミュニケーション活動を行う。

なお、以下の言語領域および文化領域にでてくる「様々な話題」は、上記の科目目標に示した「生徒の関心に根ざしつつ、さらに関心を豊かにするような話題」のことを指している。具体的な話題については、-2-2.で示す「コミュニケーション能力指標」において、13 の話題分野を設定して提示している。13 の話題分野とは、ことば、自分と身近な人、からだ、食、学校、ふだんの生活、余暇、ファッション、買い物、町と交通、天気と季節、イベント、社会である。

2-1. 言語領域

韓国朝鮮語で以下の言語活動を行う。

話す

- 様々な話題について、韓国朝鮮語で自分の考えや意見及び情報などを口頭で発表する。
- 対話のなかで、韓国朝鮮語を話して、他の人と情報のやりとりをしたり、感情を表したり、意見を交換したりする。

書く

- 様々な話題について、韓国朝鮮語で自分の考え、意見及び情報などを、書いて発表する。
- 韓国朝鮮語で書かれたもののやりとりのなかで、韓国朝鮮語を書いて、他の人と情報のやりとりをしたり、感情を表したり、意見を交換したりする。

聞く

- 様々な話題について、韓国朝鮮語で話された内容を理解し、解釈する。
- 対話のなかで、韓国朝鮮語を聞いて、他の人と情報のやりとりをしたり、感情を表したり、意見を交換したりする。

読む

- 様々な話題について、韓国朝鮮語で書かれたものを理解し、解釈する。
- 韓国朝鮮語で書かれたもののやりとりのなかで、韓国朝鮮語を読んで、他の人と情報のやりとりをしたり、感情を表したり、意見を交換したりする。

これらの言語活動を行うために必要とされる、韓国朝鮮語に関する知識、すなわち韓国朝鮮語の文字・発音・しくみ(文法/語法、表現、語彙ほか)について理解を深める。

2-2. 文化領域

韓国朝鮮語の背景にある文化および生徒の自文化を中心とする、文化についての理解を深め視野をひろげる。以下の観点から文化理解を行う。

韓国朝鮮語の背景にある文化に対して、関心をもって観察し、事物や行動等の見える文化に気づき、理解を深める。

韓国朝鮮語の背景にある文化に関する様々な話題について、自文化と比較しながら、相違性、共通性、関係性を発見する。

韓国朝鮮語の背景にある文化に関する様々な話題について、自文化と比較してわかった相違性、共通性、関係性の背景にある要因を考察し、グローバルな視点から文化の多様性・可変性に気づく。

他文化に対して尊重の念をもち、他文化に対する固定観念や先入観を客観的にふりかえる。多様な文化間の調整を図ろうとする。

3. 科目内容の取り扱い

韓国朝鮮語の科目内容として示された、韓国朝鮮語およびその背景にある文化を領域とするコミュニケーション活動を行うにあたっては、以下の点に留意して科目内容を豊かにすることが望まれる。

3-1. 韓国朝鮮語とその背景にある文化

韓国朝鮮語科目の学習の対象とする「韓国朝鮮語」と「その背景にある文化」を、「学習のめやす」では以下のようにそれぞれ定義する。

(1) 韓国朝鮮語はどこで用いられているか

世界に数千あるといわれる言語のうち、韓国朝鮮語の話者は7000万人を超えており、話者の数では世界でも15位内外に入る大言語である。朝鮮半島のみならず、延辺朝鮮族自治州をはじめとする中国、カザフスタン、ウズベキスタンなどの中央アジア、米国、オーストラリア、そして他ならぬ日本など、世界の広い範囲に話者が存在していることが知られている。多くの大言語がそうであるように、方言をはじめとする言語のヴァリエーションが韓国朝鮮語にも存在するわけである。

韓国朝鮮語を高等学校で学習する際には、何よりもまずこの言語がこうした広い範囲で用いられており、さらに日本においては民族学校を中心とする在日韓国人、朝鮮人のなかでも用いられているといったことへ関心が喚起されて良いであろう。

(2) 大韓民国の標準語と朝鮮民主主義人民共和国の文化語

世界で行われている韓国朝鮮語のうち、正書法を有するヴァリエーションとしては、大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国それぞれのいわゆる標準語に相当するもの2つをあげることができる。前者はソウルことばを基礎にしたもので、「標準語」とされ、後者の標準語は平壤のことばを基礎にしたもので「文化語」と呼ばれている。世界に広がっている韓国朝鮮語のみならず、言語学的にはこの韓国の標準語と共和国の文化語という2つのヴァリエーションは、どこまでも1つの言語と認められており、互いの意思の疎通にも全く困らないほどで、その違いはわずかなものであるということができる。

(3) 学習の対象とする韓国朝鮮語とは

高等学校における学習対象としては、韓国のソウルことばを基礎にした標準語とするのが現段階では唯一可能な選択であろう。共和国の文化語とその基礎となっている平壤のことばへの全面的なアプローチが現在は限られていることから、韓国の標準語が、その全体像へ日本において近づきうる唯一の対象であるといえる。ただしどこまでも共和国の文化語とその正書法の存在、また世界に広がっている多様なヴァリエーションの存在への関心は常に開かれているべきである。今後、交流が活発になれば、対象はさらに豊かな広がりを持ちうるであろう。

また、当該の言語が文字で表されるものであれば、言語が実際に行われるありかたは、話されたことばと書かれたことばという大きく2つのありかたを認めることができる。音声を媒介にした音声言語と、文字を媒介にした文字言語という2つのありかたである。高等学校における「学習のめやす」では、このいずれをも視野に入れる。明治以来、日本の言語教育、なかんずくいわゆる外国語教育は、主として書物を通じた、書かれたことばへの接近という形が主流をなしてきたことは否めない。近年になって、英語教育をはじめとして、話されたことばへの接近が重要視されてきたのだと言えよう。

その観点から見ると、学習の対象となる韓国の標準語は、人為的に定められた規範的なものであり、その規範は、書かれたことばにあっては、共和国の文化語との垣根はほとんどない。一方、話されたことばに注目するとき、韓国の標準語は、アナウンサーなど、訓練を積んだ一定の話者がニュースなど一定の局面でのみ用いているものである。この点では、標準語の基礎となっているソウルことばとは若干の乖離がある。今日、高校生自身が韓国の話しことばへ接する機会がますます拡大していることから見ると、韓国の標準語のみならず、その基礎となっているソウルことば、つまりソウルの話しことばもまた、高等学校での学習の視野に入っていなければならないであろう。

単刀直入にいうと、韓国語にあっては、人は標準語のように話さないのである。母音の数さえ、8-10母音体系といわれる標準語に対し、実際のソウルことばは事実上の7母音体系である。「おばさん」と「おばーさん」のように、母音の長短で単語の意味を区別する標準語に対し、実際の話しことば、つまりソウルことばではもはや長母音は崩壊しており、ほとんどの話者自身が長母音であるか

どうかを認識できないといった実態にある。話されたことばを学習の大きな柱と据えるのであれば、ソウルの話したことばへの接近は欠かせないものである。

(4) 話されたことばへの接近と韓国朝鮮語話者とのこころの通い合い

第 章でも述べたとおり、現在、日本の国内において韓国朝鮮語の話者へ接する機会は日増しに増大している。日本と韓国の間を 1 日 1 万人以上が往来する時代となり、とりわけ大都市圏を中心に、多くの韓国朝鮮語話者が日本語話者のすぐ隣に存在するという様相が見られるようになった。単にメディアなどで韓国朝鮮語に接する機会があるといったありようではなく、メディアのこちら側にも、メディアを共有する側にも韓国朝鮮語の話者が存在するという様相である。まさに日常の中に韓国朝鮮語が存在するのである。言い換えれば日本語と韓国朝鮮語が共に息づく時空間の中に私たちが生きているということに他ならない。

こうした条件は言語学習にあっては決定的なものである。つまり韓国朝鮮語は、「アンヨンハセヨ」(こんにちは)ということばを発すれば、「アンヨンハセヨ」(こんにちは)ということばが返ってくる言語なのである。もし高校生がこうした瞬間を体験したとしよう。こうした体験は大げさにいえば、ことばによって一瞬たりともいわば心と心が通じ合う瞬間である。ことばによって人が心と心を交わすという素晴らしい体験をすることができる言語、それが韓国朝鮮語である。このことは近代百数十年にわたって行われてきた、書かれたことばへの接近という外国語教育のあり方を根底から変革できる契機を、韓国朝鮮語が内包しているのだということを意味する。話者がすぐ隣に存在する言語にあっては、単に書物のみを対象に学ぶというありかたでは、もはや言語教育は成立しない。書かれたことばのみならず実際に話されたことばへ近づくこと、これが韓国朝鮮語教育に求められているのである。また、そのことはとりもなおさず、ことばによって人と人との心を通わせるとはいかなることか、さらに、ことばは人間にとっていかなるものかといった、ことばをめぐる本質的な問題を考えるための大きな手がかりとなるのである。

(5) 韓国朝鮮語の背景にある文化とは

ことばの背景にある文化を考えると、言語と同じように多様なヴァリエーションがあり、韓国朝鮮語圏といえどもすべてを画一的にとりだすことはできない。そうした前提に立ちながらも、他ならぬ日本語圏と韓国朝鮮語圏との文化的な差異といったものが浮かび上がってくるであろう。

とりわけ生活に密着した文化にあっては、やはり実際に触れることができるという点で、韓国の文化を中心にみてゆくのが实际的であろう。ただし、広く朝鮮半島、さらに日本や朝鮮半島以外の韓国朝鮮語社会における文化についても、その視野は開かれていることが大切であろう。歴史といった視野からいうならば、これは朝鮮半島のみならず、日本との関わりはもちろん、広くアジアへの関心、また世界に広がりつつある韓国朝鮮語圏への関心も重要であろう。また、単に学ぶべき対象を自らの外にあると捉えるのではなく、学習者自身が今立っている場そのものが、韓国朝鮮語圏の歴史や文化と深い関わりのうちにあるということへも、関心が拓かれることが大切であろう。

3-2. 学習・教育方法の工夫

韓国朝鮮語を使ったコミュニケーション活動を積極的に行うために、学習者志向で学習者参加型の活動を導入する。活動例としては、以下のようなものが挙げられる。具体的には、「 -3-1. 単元例と授業の進めかた」(pp. 51-65)および「 -3-3-4. 効果的な教室活動の導入」(pp. 69-70)で例示している。

歌、図画工作、踊り、劇、ゲーム、買い物、料理、調査、インタビュー、写真撮影、ビデオ収録、ロールプレイ、シミュレーション、ディベート、ディスカッションなどの活動の導入

写真、テープ、ビデオ、映画、実物教材(レリア)などの活用

母語話者との交流:手紙・資料・カセットテープ・ビデオテープ・ファックス・電子メールなどの交換、ホームページ・電子会議による交流、ゲストの教室受入れ・訪問、国際会議(世界教室)、共同授業・共同研究の実施など

3-3. 他教科・領域との連携

科目の内容を豊かなものにし、学習の相乗効果を高めるために、韓国朝鮮語を国語、社会、総合的学習の時間(国際理解教育)などの他教科・科目や領域と連携させ、他教科・領域の内容を積極的にコミュニケーション活動に導入する。具体的な連携例については、「 -3-4. 他の教科との連携」(pp. 70-74)で示している。

3-4. 教室の内外の連携

科目の内容を豊かなものにするために、教室内の活動にとどまらず、教室外の外部機関、地域社会、他の学校、対象言語話者などと積極的に連携したり、交流などを実施したり、学習成果の発表の場を作ったりしてコミュニケーション活動を行う。

． 学習目標と学習内容

「学習のめやす」においては、高校生として身につけたい韓国朝鮮語を使ったコミュニケーション能力の向上を目標とした授業づくりをめざして、前章で示した韓国朝鮮語科目の目標と内容に基づいた学習目標と学習内容を以下のとおり設定する。

1. 学習目標

外国語の教科目標(-1)および韓国朝鮮語の科目目標(-1)において示した目標は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成、自分の考えなどを表現する能力の養成、情報や相手の意向などを理解する能力の養成、言語や文化に対する理解、の四つの内容から構成されており、それらの目標が、以下の学習目標となる。「学習のめやす」では、コミュニケーションは言語領域と文化領域から成るという考え方にに基づき、文化領域の学習についても言語領域の学習と同じように、四つの目標のなかに位置づけている。すなわち、言語の背景にある文化についても関心をもって学び、異なる文化的背景をもつ相手に対して積極的にコミュニケーション活動を行おうとする態度を形成すること、文化的背景のなかで言語を表現したり理解したりすることを目指している。また文化を理解することについても、目標言語の背景にある文化について知識を得ることだけを目標とするのではなく、それらを学ぶことをとおして、自らの文化ひいては文化そのものについての理解を深め、新鮮な発見や比較によって考える力、文化を捉える視点を獲得して視野を広げていくことを目標としている。

コミュニケーションへの関心・意欲・態度

韓国朝鮮語およびその背景にある文化に対して関心をもち、積極的にコミュニケーション活動を行おうとする。

表現の能力

韓国朝鮮語を用いて、情報や考えなど伝えたいことを話したり、書いたりして、韓国朝鮮語の文化的背景の中で表現する。

理解の能力

韓国朝鮮語を聞いたり、読んだりして、情報や話し手や書き手の意向など相手が伝えようとすることを、韓国朝鮮語の文化的背景の中で理解する。

言語や文化についての知識・理解

韓国朝鮮語の学習を通じて、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化を理解する。言語の知識とは、言語の文字・発音・しくみ(構造文法/語法+表現+語彙ほか)についての知識をさしている。

2. 学習内容と学習到達目標

「学習のめやす」においては、高校生として身につけたい韓国朝鮮語を使ったコミュニケーション能力の向上を目標とした授業づくりをめざして、上記の学習目標を達成するための具体的な学習

内容と学習到達目標を示した。これをコミュニケーション能力指標とよび、「 -2. 科目内容」で示したように、言語領域と文化領域の二つの領域について、話題分野別に設定することにした。

2-1. コミュニケーション能力指標とは

生徒の学習への動機づけや意欲を高め、生徒が主体的にコミュニケーション活動に参加できるようにするためには、第一に、生徒に対して、韓国朝鮮語を使ってどのようなコミュニケーション活動ができるようになるのか、学習の到達目標を明確にしてあげることが重要である。第二に、コミュニケーション活動が生徒にとって意味のある内容で行われることが必要である。

こうした観点に立って、「学習のめやす」では、生徒の興味や関心に根ざした身近な話題や、生徒の関心を広げ豊かにするような話題を選定している。それらの話題分野の内容に沿って、教室内だけでなく、日本国内および海外で、生徒が韓国朝鮮語を使用する場面や状況を想定しながらコミュニケーション能力指標を作成した。具体的な話題を設定することで、具体的な言語活動や文化学習の目標および内容が明確になるといえる。

具体的な話題については、後述する 13 の話題分野を設定している。話題分野の妥当性および優先度については、今後広く教育現場からのフィードバックを得て検討していきたい。

コミュニケーション能力のうち言語領域については、言語運用能力のめやすとして、全ての話題分野に共通する学習到達目標の大枠を 4 段階のレベルに分けて設定したが、4 技能を特定した能力指標を提示するものではない。また、本「学習のめやす」試行版では、高等学校の韓国朝鮮語教育の現状を考慮して、優先度の高いレベル 1 と 2 のみを対象とすることにした。

したがって、各話題分野ごとのレベル別の指標は、韓国朝鮮語を使ってどのような内容について「やりとり(話す・書く・聞く・読む)」ができるかを示した指標であり、4 技能それぞれの言語運用能力指標ではない。どの技能を使って具体的に何ができるかは、それぞれの教師が自分の教えている状況によって具体的に決定することを想定している。

4 技能を特定した言語運用能力指標の作成については、今後の議論に委ねたい。本「学習のめやす」を土台にして研究をさらに進めるとともに、全国の高等学校の韓国朝鮮語の教師や韓国朝鮮語教育に従事する専門家の参加を得ながら、多くの教育現場からの教育実践例を収集して、指標を成長させていきたいと考えている。

また、言語領域の学習内容および学習到達目標を達成するためには、学習活動、表現、語彙が必要であるが、本試行版では、指標に学習活動と語彙は例示されていない。ただし、学習活動例については、「 -3-3-4. 効果的な教室活動の導入」の項でいくつかの活動を紹介するとともに、「 -3-1. 単元案と授業の進めかた」で具体例を提示している。語彙例についても単元案で取り上げている。

表現例では、文法項目の配列を重視した従来の教授法に囚われずに、高校生にとって必要度が高く意味のある表現は、言語のしくみとしての難易度には拘わらず提示している。学習の初期の段階では、言語のしくみの説明は必要最小限に抑え、よく使う表現は慣用句や定型表現として覚えて実際の場面で使えるようにし、その能力をもとに、その後の学習段階で言語のしくみの理解を深めていくことを含め、弾力的な教授法の導入が必要となる。

文化領域については、各話題分野に沿って、文化理解の対象としてふさわしい文化事象を「気づきや理解のための着眼点」として提示している。これらの事象を、上記「2.科目内容」で示した文化理解の観点から学習することが目標とされる。

2-1-1. 話題分野

学習への動機づけを高めるため、高校生の興味や関心に沿った身近な話題や、高校生の関心を広げる話題を選定し、以下の13分野を設定した。13の話題分野は、自分(高校生)を中心とする同心円的な広がりにもとづいて配列したが、これは教える順を示したものではない。また、すべてを取り上げなくてはならないということではない。

[表 1] 話題分野の内容

話題分野		話題の内容
1	ことば	母語と外国語に関する話題、簡単なあいさつことばを含む
2	自分と身近な人	自分に関する話題、友だちや家族など身近な人の話題など
3	からだ	からだの部位や特徴、健康などに関する話題
4	食	食べ物の好き嫌いや食事の習慣など、食生活に関する話題
5	学校	自分が所属する学校の様子や学校での生活に関する話題
6	ふだんの生活	学校の時間以外のふだんの生活や家に関する話題
7	余暇	放課後や休日、アルバイト、趣味などに関する話題
8	ファッション	服やアクセサリー、化粧品などに関する話題
9	買い物	実際の買い物場面、買い物行動に関する話題
10	町と交通	町の様子や通学ほかに利用する交通機関に関する話題
11	天気と季節	四季や天気に関する簡単なあいさつ、気候に関する話題
12	イベント	年中行事や個人・家族に関する記念日などの話題
13	社会	地理・歴史・時事問題などに関する知識についての話題

2-1-2. 言語領域の指標

言語領域のレベル設定にあたっては、高等学校における学習時間として最大6単位相当分を対象とすることにした。レベル設定に関しては、CEF¹⁾の共通参照枠ほかを参照して、表2のとおり4段階のレベルを設定した。参照したCEF共通参照枠については巻末(p. 177)に掲げた。ただし、本試行版では、レベル1と2のみを対象にした。学習時間が2~4単位の学校が大多数を占める現状において、この二つのレベルが、もっとも切実に求められていると考えるからである。6単位を履修する学校の場合、一般的にはレベル3ないし4の段階に到達することが可能だと考えられる。もちろんクラスの状況によって同じ単位数でも学習の進度は異なる場合があるので、表2のレベルと単位数は必ずしも相関関係にはない。

なお、2~4単位の授業で全話題分野についてレベル2に到達することを想定しているわけではない。学校や生徒等の状況に応じて適切な話題分野を選択し、レベル1または2の範囲で授業を組み立てることを想定している(1と2にまたがってもよい)。各話題分野における言語領域の指標

1) Common European Framework of Reference for Languages, Council of Europe 2001

は、4 技能(話す・書く・聞く・読む)のいずれかが明示されたものを除き、基本的にはどの技能で具体的に何ができるかは、それぞれの教師が自分の教えている状況や生徒等の状況に応じて、具体的に決定することを想定している。

[表 2] 韓国朝鮮語のコミュニケーション能力指標における言語領域のレベル設定

1	高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、最小限のやりとりができる。
2	高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、おおよそのやりとりができる。
3	高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲以外のことについても、なんとかやりとりができる。
4	(1) 高校生にとって身近な話題について、まとまりのあるやりとりができる。 (2) 高校生にとって身近な話題以外のことについても、なんとか(最小限の)やりとりができる。
5	(このプロジェクトでは、5 以上を設定しない)

注:「やりとり」を広義に解釈し、話す・書く・聞く・読むだけなどの一方的な言語活動も「やりとり」の1つとして捉える。

言語領域の指標は、韓国朝鮮語を使って何ができるようになるかという具体的な目標であるとともに、授業を構成する材料でもある。教師はこれを用いることにより、授業の目標を明確にし、効果的に授業を運営することが可能になる。なお、話題分野ごとの言語領域の指標は、本プロジェクトに参加した教師の授業実践から抽出した内容に沿って作成したものであり、各分野のあらゆる話題を網羅してはいない。教師はそれをそのまま使ってもよいし、これを例示としてとらえ、独自に設定することも可能である。このような意味において、コミュニケーション能力指標は完成されたものではない。多くの教師等の参加を得て、発展させていくことを想定したものである。

表現例

表現例は、高校生にとって意味のあるやりとりができるようになるために、日常よく使われる表現や実際の生活場面で使われる表現を取り上げるよう努めた。従来、言語の学習においては、文法・語彙・発音などの言語の知識について、その難易度などによる提示順を考慮することがあったが、言語領域の指標では必ずしもこうした順序によらずに、生きたコミュニケーションにおける必要度を基準に、表現例を選定した。

また、表現例に含まれる言語のしくみについて、どの時点でどの程度扱うかは、生徒の状況により個々の教師の判断に委ねられている。場合によっては、理解が難しい言語の知識を含む表現例は、語彙あるいは定型句として導入することも含め、授業の運営についてはさまざまな方法が考えられる。詳細は単元案と授業の進めかたを参照されたい(pp. 51-65)。言語領域の指標がそうであったように、それに対応した表現例もあくまでも例示であって、これらの表現例をもとに、教師が生徒の状況等に応じて実際の授業で扱う表現を選定することを想定している。

2-1-3. 文化領域の着眼点

文化領域の着眼点は、各話題分野に関連する文化的背景を理解するうえでの留意すべき点を示すものであり、当該分野における言語領域の指標にかかわるものと、さらにその周辺的なポイントを例示している。教師は、文化領域の着眼点に留意した授業運営を行うことで、文化に関してステ

レオタイプな知識を注入することを極力避け、自文化と対象文化、あるいは自文化のなかの他文化との比較・考察を経て、文化の多様性や可変性などの視点に気づくことを通じ、異文化および自文化に対する寛容な態度ならびに多文化的な視野の形成をはかることができると考える。

2-1-4. 授業方式

「学習のめやす」は、高校生の興味や関心に沿った話題分野ごとに設定されたコミュニケーション能力指標を活用して授業の目標を明確化することにより、生徒のコミュニケーション能力を向上させることを目的としている。したがって、授業方式は教師主導のいわゆる講義型ではなく、コミュニケーション能力指標を達成するための生きたコミュニケーション活動を取り入れた授業づくりが必要である。単元ごとにトピックを設定するトピックベースの単元構成も有効であろう。

なお、こうした授業方式や単元構成を取り入れることは、従来のように教科書を使用したり、言語の知識を学習することと相容れないものではなく、むしろ共存し得るものである。ただし、教科書に沿って進めることや言語の知識を学習すること自体が目標なのではなく、あくまでコミュニケーション能力の向上が目標であり、そのために教科書を使い、言語の知識を学習するという点を明確にする必要がある。

2-1-5. 評価

現行の高等学校生徒指導要録（平成13年4月）において、普通教育に関する各教科の評価の観点及びその趣旨が定められている。外国語科の評価の観点は、(1)コミュニケーションへの関心・意欲・態度、(2)表現の能力、(3)理解の能力、(4)言語や文化についての知識・理解の四つである。本「学習のめやす」では、「1-1. 学習目標」で示した学習目標の到達度を評価するということから、その観点は、(1)言語領域および文化領域を含むコミュニケーションへの関心・意欲・態度、(2)文化的背景の中での表現の能力、(3)文化的背景の中での理解の能力、(4)言語や文化についての知識・理解となる。指導と評価の一体化の考え方から、学習内容と学習到達目標を示したコミュニケーション能力指標と、それぞれの教師が設定する言語運用能力の到達目標を振り所に評価をすることを想定している。

2-2. コミュニケーション能力指標(案): 韓国朝鮮語

ことば

この指標(案)は1つの提案であり、完成されたものではありません。

言語領域		文化領域	
レベル1: 高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、最小限のやりとりができる。 レベル2: 高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、おおよそのやりとりができる。			
レベル	指標(言ったり、書いたり、聞いたり、読んだりできる)	表現例: 指標の(1)(2)(3)・・・と対応	気づきや理解のための着眼点
1	(1) なに語ができるか (2) なに語を勉強しているか (3) どこで学んでいるか (4) ~語で何というか (5) ハングルでどう書くか尋ね、書いてもらうことができる (6) どの国でなに語が話されているか (7) 出会い・感謝・謝罪の基本的な決まったあいさつができる	(1) 영어 하세요? 한국말 잘하시네요. 한글 조금 알아요. (2) 중국말도 배웁니까? (3) 학원에서 배워요. 텔레비전 강좌를 봐요. (4) 농구가 일본말로 뭐예요? (5) A: 전화는 한글로 어떻게 써요? B: 이렇게 써요. (6) 필리핀에서는 어떤 말을 쓰니까? 영어를 하는 나라는 어디입니까? (7) A: 고맙습니다. B: 예.	a. ことわざ b. 漢字文化圏に共通する四字熟語 c. 韓国朝鮮語・日本語・英語などの擬声語と擬態語(オノマトペ) d. ハングル・漢字・日本の文字の由来、文字表の由来 e. 語順・品詞・人称代名詞など f. よく読まれる作品、ベストセラー g. 高校生にはやっている本、漫画、雑誌
2	(1) ハングル字母の名前を使ってつづりを尋ね、説明できる (2) 学習の動機は何か (3) 言語学習についての感想はどうか難易・面白い・つまらないなど (4) 言葉の類似・相違点は何か(文法が違うなど) (5) 好きな言葉は何か (6) 示されたことわざ・慣用句を理解できる (7) あいさつに対して複数の返答が使える(元氣かに対して、風邪だなど)	(1) '어이의 에'예요? 받침은 마음에예요. (2) A: 왜 배워요? B1: 한국 영화를 좋아해서요. B2: 북한에 관심이 있어서요. (3) 중국어는 발음이 어렵지만 한자로 통해요. (4) 한국어는 일본어랑 문법이 비슷해서 쉬워요. (5) 좋아하는 말은 '희망'이에요. (6) 낮 놓고 기억자도 모른다 낮말은 새가 듣고 밤말은 쥐가 듣는다 팔방미인 (7) A: 잘 있었어요? B: 감기 걸렸어요.	h. 子供でも知っているむかし話、民話 i. 映画、ドラマ j. 毛筆でハングルを書く、韓国朝鮮語で俳句をつくる、韓国朝鮮語の落語を聴く、歌をつくる・聞く k. 高校生の外国語学習 l. 目上の人や友達と話すときの言葉づかい m. メールの顔文字・絵文字など n. 高校生がよく使う略語、はやり言葉

自分と身近な人

この指標(案)は1つの提案であり、完成されたものではありません。

言語領域		文化領域	
レベル1:高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、最小限のやりとりができる。 レベル2:高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、おおよそのやりとりができる。			
レベル	指標(言ったり、書いたり、聞いたり、読んだりできる)	表現例:指標の(1)(2)(3)・・・と対応	気づきや理解のための着眼点
1	(1) 自分、相手、人の名前が何か (2) 身分(高校生・学生など)や学年は何か (3) 住んでいる場所はどか (4) 年齢がいくつか (5) 誕生日がいつか (6) 星座やえとは何か (7) 好きなもの(趣味、スポーツ、食べ物など)は何か (8) 携帯電話の番号やメールアドレスは何か (9) 学校の所在地はどこか (10) 家族構成が何人でだれがいるか (11) ボーイフレンドやガールフレンドの有無 (12) 国籍や出身がどこか (13) 名前をどう書くか	(1) A: 저는 사토 아이입니다. 이름이 무엇입니까? B: 저는 김영진이라고 합니다. 반갑습니다. (2) A: 저는 고등학생입니다. B: 저는 고등학생이 아니에요. 대학생이에요. A: 몇 학년이에요? B: 2 학년이에요. (3) A: 어디에 살아요? B: 고베(神戸)에 살아요. (4) A: 몇 살이에요? B: 열일곱 살이에요. (5) A: 생일이 언제예요? B: 10 월 18 일이에요. (6) A: 무슨 띠예요? B: 돼지띠예요. (7) A: 취미가 뭐예요? B: 영화 감상이예요. A: 좋아하는 스포츠가 뭐예요? B: 야구예요. (8) A: 핸드폰 전화번호 몇 번이에요? B: 012-3456-7891 이예요. A: 메일 주소 가르쳐 주세요. B: abc@def.gh 예요. (9) A: 학교는 어디에 있어요? B: 스미요시구(住吉區)에 있어요. (10) A: 식구가 어떻게 돼요? B: 아버지, 어머니, 형, 나, 그리고 강아지예요. (11) A: 남자 친구 있어요? B: 네, 있어요. 고 3 이예요. (12) A: 어느 나라 사람이예요? B1: 중국 사람이예요. B2: 제일 교포 3 세예요. A: 어디서 왔어요? B: 도쿄(東京)에서 왔어요. (13) A: 이름 어떻게 써요? B: 한자로는 이렇게 써요.	a. 姓の数や由来、本貫制度、名前の付けかた、表記、人気のある名前、男女差 b. 人の呼びかた、だれをどう呼ぶか c. 歳・誕生日、星座・えと、満年齢と数え年 d. 家族や親戚の呼称、付き合いかた日常生活、正月・旧盆・法事・結婚式のときなど e. 友だち・異性との付き合い、親友とすること スキンシップ、デートのしかた、「ともだち」はどまでか、好みのタイプ f. 人と人との距離感、話すときに目を合わせるか、どのくらい近づくと(遠いと)不愉快か g. 好きなこと 趣味、スポーツ、音楽、メール・ネット・チャット・携帯電話、食べ物 h. 将来の夢、人気のある職業 i. よく飼われているペット

2	<p>(1) 身近な人の身分や職業は何か</p> <p>(2) どんな性格か(優しい,こわい, 長所、短所など)</p> <p>(3) 外見はどんなか(背が高い, きれいなど)</p> <p>(4) 住んでいる場所のようすはどう(近くに何があるか, 便利かなど)</p> <p>(5) 高校卒業後の進路はどうか(単語や、~行きたいなど一定の文型で)</p> <p>(6) 将来、何をしたいか、何になりたいか</p> <p>(7) 親戚がどこに住んでいるか</p> <p>(8)好きなことやもの・人について、その理由は何か</p>	<p>(1) A: 아버지는 뭐 하세요? B: 회사원이에요.</p> <p>(2) A: 선생님은 무서워요? B: 아뇨, 친절해요.</p> <p>(3) 형은 키가 크고 뚱뚱해요.</p> <p>(4) A: 가나가와(神奈川)는 어떤 곳이에요? B: 도쿄 근처에 있는데 차이나타운이 유명해요.</p> <p>(5) A: 학교 졸업하면 뭐 할 생각이예요? B1: 대학에 진학할 거예요. B2: 직장 생활할 거예요.</p> <p>(6) A: 영희 씨, 영희 씨 꿈이 뭐예요? B: 제 꿈이요? 제 꿈은 가수가 되는 거예요.</p> <p>(7) 이모가 제주도에 살고 계세요.</p> <p>(8) A: 왜 가을을 좋아해요? B: 날씨도 좋고 과일이 맛있어서요.</p>	
---	--	--	--

からだ

この指標(案)は1つの提案であり、完成されたものではありません。

言語領域		文化領域	
レベル1: 高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、最小限のやりとりができる。 レベル2: 高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、おおよそのやりとりができる。			
レベル	指標(言ったり、書いたり、聞いたり、読んだりできる)	表現例: 指標の(1)(2)(3)・・・と対応	気づきや理解のための着眼点
1	(1) 体の部位と特徴は何か (2) 血液型は何か (3) 不調を訴える(疲れた・眠い・おなかがすいた・のどがかわいたなど)	(1) 눈이 예뻐요. 머리가 길어요. (2) A: 혈액형이 뭐예요? B: A 형이에요. A: 그렇게 안 보여요. (3) 피곤해요. 졸려요. 배고파요. 목이 말라요.	a. からだに関する話題やタチ、血液型による性格診断、からだの特徴を話題にするときに気をつけなければいけないこと b. 接触に関するタチ、スキンシップのやりかた、体罰 c. 病気の治しかた、風邪を引いたら何をするか(病院、薬局、漢方など) d. 何が体にいいと考えられているか、(身体健康)によい食べ物、すること
2	(1) 身長や体重はどれくらいか(数字で) (2) 床屋や美容院で自分の希望を伝えることができる (3) どのように具合が悪いのか(風邪をひいている、熱がある、咳が出るなど) (4) どのようなけがをしたか(ろんだ、出血、骨折、ねんざなど) (5) 今の容貌はどんなか、どんな希望があるか (6) 健康のためにすべきとしているとは何か	(1) 저는 키가 160cm 예요. 체중은 비밀이에요. (2) 앞머리는 짧게 하고 뒷머리는 정리해 주세요. (3) 감기에 걸려서 기침이 나고 열도 있어요. (4) 넘어져서 무릎에서 피가 나요. 뼈가 부러졌어요. (5) 저는 눈이 작아서 눈 큰 사람이 부러워요. 뚱뚱해서 살을 빼고 싶어요. (6) 저는 건강을 위해서 야채를 많이 먹으려고 해요. 다이어트하니까 단 음식은 줄일 거예요.	e. 理想の容貌とは f. 身体の部位を使った慣用句 g. 身振り、ジェスチャ、数える時の指の折りかたなど h. 体を使ったゲーム・遊び、じゃんけん、手遊び、指きり

食

この指標(案)は1つの提案であり、完成されたものではありません。

言語領域		文化領域	
レベル1: 高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、最小限のやりとりができる。 レベル2: 高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、おおよそのやりとりができる。			
レベル	指標(言ったり、書いたり、聞いたり、読んだりできる)	表現例: 指標の(1)(2)(3)・・・と対応	気づきや理解のための着眼点
1	(1) 好きな(嫌いな)食べものは何か (2) 食べたい(飲みたい)ものは何か (3) 食べられないもの、食べないものは何か (4) 作れる(作ってみたい)食べものは何か (5) 料理を(料理名で)注文できる (6) 朝食・昼食・きのうの夜に食べたもの・食べた場所はどか (7) おいしいかどうか (8) 食事ときの基本的な決まり文句を使うことができる	(1) 한국 음식은 비빔밥을 좋아해요. 낫토(納豆)는 싫어해요. (2) A: 뭐 마시고 싶어요? B: 콜라요. (3) 김치는 못 먹어요. (4) 김밥을 만들 수 있어요. (5) 불고기 하나 주세요. (6) 아침에 빵 먹었어요. 점심은 식당에서 라면 먹었어요. (7) A: 맛있어요? B: 별로예요. (8) 잘 먹었습니다.	a. 食事のときのマナーとタブー、あいさつ、ボディラゲージ、してはいけないと b. 調理方法、食材、味付け c. 食べかた、調味料、箸・スプーンなど d. 年中行事の食べ物、正月、秋夕(チュソク)、誕生日、クリスマス e. 代表的な食べ物 f. 朝昼夕食の習慣、食卓に並ぶもの
2	(1) 「頼んだものではない」「まだ来ないと伝えることができる (2) おおまかな作り方はどうか(調味料・食材・調理器具など) (3) 味はどうか(からい、あまい、うすいなど) (4) 日韓の年中行事のとき何を食べるか (5) ダイエットの方法はどうか(食べないもの、カロリーなど) (6) 自分の食習慣はどうか(いつ、どこ、だれ、どんなものなど) (7) 自分の外食の習慣はどうか(頻度、どこなど) (8) 食文化の違いはどうか(食べかた、マナーなど) (9) 個人的な食べかたの違いはどうか(かける、混ぜるなど)	(1) 이거 아니에요. 아직 안 나왔어요. (2) 설탕을 넣습니다. 계란을 프라이팬에 구워요. (3) 이 김치는 매워요. 국이 좀 싱거워요. (4) 설날에는 떡국을 먹어요. 오세치(御節)는 일본 설음식에예요. (5) 딸기 케이크는 몇 칼로리에요? (6) 아침은 잘 안 먹어요. 저녁은 가족이랑 먹어요. (7) 주말에는 가족과 레스토랑에 가요. (8) 한국 젓가락은 나무가 아니에요. 스테인레스예요. (9) 스파게티도 카레도 비벼서 먹어요.	g. ダイエット食品 h. どのような食器を使っているか、どう使うか、箸の使いかた i. 飲食店での注文のしかた j. 外食、露店、ファミレス、コンビニ、配達してくれる食べ物 k. いろいろな文化が融合した食べ物、特有の食べ物、移り変わり(ブルゴギキムチバーガーなど) l. 間食、おやつに何を食べるか、夜食、飲み物

学校

この指標(案)は1つの提案であり、完成されたものではありません。

言語領域		文化領域	
レベル1: 高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、最小限のやりとりができる。 レベル2: 高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、おおよそのやりとりができる。			
レベル	指標(言ったり、書いたり、聞いたり、読んだりできる)	表現例: 指標の(1)(2)(3)・・・と対応	気づきや理解のための着眼点
1	(1) 何年生か (2) 何部に所属しているか (3) 好きな(嫌いな)科目・興味のある(ない)科目は何か (4) 教室や学校にあるものは何か、ないものは何か (5) 学校はどこにあるか(地名で) (6) 休み時間には何をするか (7) 宿題をしたかどうか (8) (授業に関する教員の指示に従う)ことができる	(1) A: 몇 학년이예요? B: 1 학년이예요. (2) A: 클럽 활동 뭐 해요? B: 야구부예요. (3) 좋아하는 과목은 영어입니다. 싫어하는 과목은 수학입니다. (4) 교무실에 에어컨이 있지만 교실에는 없어요. (5) 우리 학교는 요코하마(横濱)에 있어요. (6) A: 쉬는 시간에 뭐 해요? B: 친구하고 이야기해요. (7) A: 숙제 했어요? B: 안 했어요. (8) 말해 보세요. 모두 자리에 앉으세요.	a. 学校にあるもの(ないもの)、小中高校、地域、国 b. 校則 c. 行事 d. 授業時間、長期休業 e. クラブ活動のありかた f. 生徒、教師、保護者にとっての理想の学校 g. 学校内の人間関係(教師と学生、先輩と後輩など)、呼びかた、敬語など
2	(1) 校内で何がどこにあるか (2) 生徒は何人いるか (3) 授業・試験の始まる時間や終わる時間はいつか、試験の日程はいつか (4) どんな学校行事がいつ、どこであるか、をで何をしたか (5) 学校や授業、先生はどんなか (6) 学校の特徴はどんなか、日本の高校生活はどんなか (7) 学校で楽しいことやたいへんなとは何か (8) どんな時間割で勉強しているか(何曜日、何時間、科目)	(1) 체육관 앞에 풀장이 있어요. (2) 우리 학교에는 학생이 700 명 정도 있어요. (3) 1 교시는 9 시에 시작하고 6 교시는 3 시 반에 끝나요. 기말 시험은 3 과부터 7 과까지예요. (4) 지난주에 도쿄(東京) 디즈니랜드로 소풍 갔어요. 우리 받은 학교 축제 때 야키소바를 팔았어요. (5) 우리 선생님은 무섭지만 재미있어요. (6) 우리나라 고등학생은 아르바이트를 하는 사람이 많아요. (7) 우리 학교는 선택 과목이 많아서 다른 학교보다 바빠요. (8) 저는 월요일에 국어, 수학, 세계사를 듣고 있어요.	

ふだんの生活

この指標(案)は1つの提案であり、完成されたものではありません。

言語領域		文化領域	
レベル1:高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、最小限のやりとりができる。 レベル2:高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、おおよそのやりとりができる。			
レベル	指標(言ったり、書いたり、聞いたり、読んだりできる)	表現例: 指標の(1)(2)(3)・・・と対応	気づきや理解のための着眼点
1	(1) 1日の生活で何をしているか(行動や習慣) (2) 家、部屋に何があるか (3) 持ち物、かばんの中に何があるか	(1) 몇 시에 일어나요? 4시부터 아르바이트해요. (2) 방에 컴퓨터 있습니까? (3) 교과서는 어디 있어요? 만화책 가져왔어요?	a. 生活ルーティン、平日・休日の就寝時間、その他の行動、朝起きて初めにするとなど b. 自分と友だちの部屋、ホームステイ先の部屋などにあるもの c. 家のつくりを図にしてみる、又シヨン 一戸建て、地域や国、時代それぞれの家屋など
2	(1) 今日や明日、来週などに何をするか(具体的な予定を簡潔に) (2) 昨日や先週などに何をしたか(具体的なことを簡潔に) (3) 何時に何をしたか(具体的なことを簡潔に) (4) 1週間の生活で何をしているか(学校、アルバイト、予備校、習いごと) (5) 部屋の大きさ、部屋に何がどこにあるか (6) 家について、大きさや形状の種類、何階建てか、何の部屋があるか、何がどこにあるか (7) 家事について、何をだれがいつするか (8) 食習慣について、朝昼夕食を食べるか、どこでいつ食べるか	(1) 오늘 어디 갈 거예요? 편의점에서 빵 살 거예요. (2) 지난 토요일에 시험을 했어요. 영화 보러 갔어요. (3) 4시부터 5시까지 낮잠을 잤어요. (4) 일요일 배고는 매일 배구해요. 토요일 오후에 학원에 가요. (5) 창문 밑에 침대가 있어요. (6) 이층집이에요. 텔레비전은 거실하고 내 방에 있어요. (7) 방 청소는 누가 해요? 어제 빨래했어요. (8) 아침은 먹어요?	d. アルバイトをしているか、時給、勤務時間、アルバイト先など e. こづかいは誰からもらうか、金額、使い道 f. 家族内の家事分担、自分は何をするか g. どんなテレビを見ているか h. 携帯電話の料金、電話の相手など

余暇

この指標(案)は1つの提案であり、完成されたものではありません。

言語領域		文化領域	
レベル1: 高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、最小限のやりとりができる。 レベル2: 高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、おおよそのやりとりができる。			
レベル	指標(言ったり、書いたり、聞いたり、読んだりできる)	表現例: 指標の(1)(2)(3)・・・と対応	気づきや理解のための着眼点
1	(1) 放課後・休日などに何をするか(したか) (2) 時間があるかないか (3) 好きなスポーツは何か (4) 旅行で行ったところ(行きたいところ)はどこか (5) 趣味はなにか (6) 好きな芸能人は誰か	(1) A: 주말에 뭐 했어요? B: 서클 활동했어요. (2) A: 내일 시간이 있어요? B: 아뇨, 없어요. (3) A: 좋아하는 스포츠가 뭐예요? B: 야구 좋아해요. (4) A: 어디 가고 싶어요? B: 오키나와(沖縄)에 가고 싶어요. (5) A: 취미가 뭐예요? B: 영화 감상이에요. (6) A: 일본 가수 누구 좋아해요? B: 스머프예요.	a. 放課後や学校の帰り道、ふだんの土日、夏休みなど、友だちとよく行くところ(映画、カラオケ、ゲームセンター、ネットカフェなど) b. 人気のある習いごとなど c. 人気のあるスポーツや選手 d. 人気のある音楽や芸能人、TV番組、映画 e. こづかいやバイト代の金額、使い道、貯金 f. 家族との外出の行き先、外食など
2	(1) 応援しているチームはどこか (2) いつ・誰と、どこへ行くか(行ったか) (3) アルバイトについて、しているか・していないか。感想はどうか(楽しい・つらいなど) (4) 余暇に何をしたか(映画、コンサート、ライブ、花火、祭りなど)、感想はどうか楽しかったなど (5) 友人を外出に誘えることができる (6) 出かける時に持っていくものは何か (7) 待ち合わせの約束をすることができる	(1) A: 어느 팀 팬이에요? B: 자이언트예요. (2) A: 일요일 오후에 친구하고 시부야(澁谷)에서 만났어요. B: 아르바이트해요? A: 많이 힘들어요? B: 네, 바빠서 많이 힘들어요. (4) A: '러브 레터'어땠어요? B: 재미있었어요. (5) A: 쇼핑하러 신사이바시(心齋橋)에 갈래요? B: 네, 같이 가요. (6) A: 내일 소풍에 뭐 가져가요? B: 트럼프하고 초콜릿하고 카메라요. (7) A: 어디서 몇 시쯤에 만날까요? B: 백화점 앞에서 네 시쯤에 만나요.	g. 長期休暇の過ごしかた、旅行

ファッション

この指標(案)は1つの提案であり、完成されたものではありません。

言語領域		文化領域	
レベル1: 高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、最小限のやりとりができる。 レベル2: 高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、おおよそのやりとりができる。			
レベル	指標(言ったり、書いたり、聞いたり、読んだりできる)	表現例: 指標の(1)(2)(3)・・・と対応	気づきや理解のための着眼点
1	(1) 服やアクセサリに関する基本的な表現 (2) 服やアクセサリをほめる (3)好きな色やよく着る色は何か (4) ファッション雑誌を読むか、何を読むか	(1) 옷을 입어요. 모자를 써요. 부츠를 신어요. 안경을 꺼요. (2) 치마가 잘 어울려요. (3) A: 무슨 색 옷을 잘 입어요? B: 분홍색이에요. (4) 패션 잡지에 관심이 있어요? 어떤 잡지를 봐요?	a. 服装や持ち物が示す意味、服や持ち物の TPO b. 化粧、パーマ・染髪に対する考えかたする・しない、いつから・どのようになど c. 学校の制服(ある・ない)、必要・不必要など d. 伝統的な着物(和服)や韓服はどんなときに着るか e. 色が示す意味、色を使った慣用語
2	(1) 化粧をするか、いつからしたか (2) 制服があるか、どんな制服か (3) どんな服装が好きか (4) 美容院や床屋へ行くか、どんな髪型にしたいか (5) 何を、どこで、いくらで買ったか (6) いつ、どんな服装をするか (7) ファッションにいくらくらいお金をかけるか (8) 今どんなものを着ているか (9) 伝統的な衣服はいつどんなときに着るか	(1) 학교에 화장하고 와요? (2) 우리 학교 교복은 치마가 짧아서 정말 예뻐요. (3) 저는 청바지에 티셔츠가 좋아요. (4) 지금은 스트레이트이지만 파마를 하고 싶어요. A: 얼마 만에 미용실에 가요? B: 3개월에 한 번 가요. (5) 이 액세서리는 요코하마(横濱)에서 샀어요. 30% 세일이었어요. (6) 보통은 바지만 입는데 데이트할 때는 예쁜 원피스를 입어요. (7) 한 달에 쇼핑에 드는 돈은 만 엔 정도예요. (8) 오늘은 더워서 반팔에 미니 스커트를 입고 샌들을 신었어요. (9) 여름 축제 하나비 때는 유카타를 입어요.	

買い物

この指標(案)は1つの提案であり、完成されたものではありません。

言語領域		文化領域	
レベル1: 高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、最小限のやりとりができる。 レベル2: 高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、おおよそのやりとりができる。			
レベル	指標(言ったり、書いたり、聞いたり、読んだりできる)	表現例: 指標の(1)(2)(3)・・・と対応	気づきや理解のための着眼点
1	(1) 買う意志を伝える (2) 買いたいものがあるかどうか (3) 商品が何か (4) 日頃の買い物はとで何をかうか	(1) 이거 주세요. (2) 있어요? 없어요? (3) A: 이거 뭐예요? B: 보리차예요. A: 이거 망고 주스 맞아요? B: 아뇨, 오렌지 주스예요. (4) A: 쇼핑은 어디에서 해요? 주로 뭐 사요? B: 100 엔숍에 가요. 화장품 사요.	a. 店や販売形態(百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、在来商店、売店、露店、市場、物売り、自販機など) b. 何をとでかうか c. 買いかたと売리카た、定価販売か、値引き交渉をするか d. 陳列のしかた、おまけなどのサービス、消費税 e. 店や銀行の窓口、ATMなどの営業時間
2	(1) いくつ買いたいか (2) 買いたいものがいくらか (3) どんな規格・色のものを買いたいか (4) 買いたいものの売り場はとで、営業時間は何時から何時までか (5) 何のために、何をかうか	(1) 호떡 세 개 주세요. (2) A: 얼마예요? B: 6천원입니다 (3) 큰 거 하나하고 작은 거 하나 주세요. 똑 같은 거 두 개 주세요. 흰 색 없어요? (4) A: 시디는 어디에서 팔아요? B: 시디 매장은 7층에 있습니다. 이 근처에 밧데리를 파는 데가 있어요? 여기는 몇 시부터 몇 시까지입니까? (5) A: 집에는 무슨 선물할 거예요? B: 돌김하고 유자차요	f. 紙幣・貨幣の種類 g. 包装は有料か、どの程度か(袋、箱、包装紙など) h. 買手側と売手側の意識、店に入ってからのかゆり

町と交通

この指標(案)は1つの提案であり、完成されたものではありません。

言語領域		文化領域	
レベル1: 高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、最小限のやりとりができる。 レベル2: 高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、おおよそのやりとりができる。			
レベル	指標(言ったり、書いたり、聞いたり、読んだりできる)	表現例: 指標の(1)(2)(3)・・・と対応	気づきや理解のための着眼点
1	(1) 主にどの交通機関を使って通学しているか (2) 町に何があるか(店、施設の名前) (3) バス・電車の行き先が読める (4) 切符を買う(鉄道、高速バス) (5) 目的の交通機関がどれか尋ねたり確かめたりできる (6) 駅や町の中の標識が読める	(1) 걸어서 다녀요. 버스 타고 와요. (2) 학교 근처에 편의점이 없어요. 버스 정류장은 집에서 가까워요. (3) 서울역, 부산행 (4) 수원 2장요. (5) 신촌 가는 버스는 몇 번입니까? 부산 가는 차 맞아요? (6) 화장실, 나가는 곳	a. さまざまな交通手段の利用のしかた、料金、地域差など b. 道路標識、交通ルール c. 何歳で免許をとれるか d. 町の案内表示など e. 待ち合わせ場所
2	(1) タクシーに乗って行き先をつけられる。ここで降りると言える (2) 単純な道順ならば示したり、理解できる (3) 待ち合わせの時間と場所を決められる (4) 運転免許があるかないか (5) どういう経路で通学しているか、またどのくらい時間がかかるか (6) 目的地まで、どれくらい時間がかかるか、どのくらい費用がかかるか (7) 店や施設の営業時間が何時から何時までか、休日はいつか (8) 交通手段を選んだ理由は何が、遠いから、近いから、疲れたからなど	(1) 청량리까지 가 주세요. (2) 쪽 가서 식당 앞에서 오른쪽으로 가세요. (3) 그럼, 호텔 로비에서 아침 10시에 만나요. (4) 오토바이 면허증이 있어요. (5) 역까지 걸어가서 전철 타고 다녀요. 1시간 걸려요. (6) 신주쿠(新宿)까지 전철로 200엔이에요. (7) 도서관은 9시부터 5시까지예요. 일요일은 쉬어요. (8) 남산은 멀어요. 택시 타고 가세요.	f. 町や地域の周りにあるもの(寺、墓、教会など)、自販機、コンビニで売っているもの g. バリアフリー、町のつくり

天気と季節

この指標(案)は1つの提案であり、完成されたものではありません。

言語領域		文化領域	
レベル1: 高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、最小限のやりとりができる。 レベル2: 高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、おおよそのやりとりができる。			
レベル	指標(言ったり、書いたり、聞いたり、読んだりできる)	表現例: 指標の(1)(2)(3)・・・と対応	気づきや理解のための着眼点
1	(1) 四季に関して来た・暖かい・寒いなど (2) 天気に関して晴れ・雨・暑い・寒いなど (3) 気候にかかわる持ち物、身につけるものは何か	(1) 봄은 따뜻해요. 여름이 왔네요. 첫눈이 왔어요! (2) 어제는 비가 왔어요. 눈이 와요. 날씨가 맑아요. 한국에도 장마가 있어요. (3) 우산을 쓰세요. 장갑 끼고 목도리를 해요.	a. 天気や四季にまつわるあいさつ b. 気候(暑さ、寒さ、湿度など) c. 季節を象徴するもの何を見ると春か、初雪、黄砂など d. 季節のイベント(冬祭り、夏祭り、花見、もみじ狩りなど)
2	(1) 好きな季節はどれか、その理由は何か (2) 天気予報を聞いたり読んだりして、基本的な情報を得ることができる (3) 最近どんな自然災害が起きたか台風・地震など (4) 自分の国や地域の気候の特徴は何か	(1) 여름을 좋아해요. 방학이 기니까요. (2) 오늘 날씨는 구름이 많이 끼고 오후 한 때 비가 오겠습니다. (3) 규슈(九州) 지방은 홍수로 피해가 컸어요. 홋카이도(北海道)에서 지진이 났어요. (4) 한국은 지진이 없어요. 아오모리(靑森)는 눈이 많이 와요.	

イベント

この指標(案)は1つの提案であり、完成されたものではありません。

言語領域		文化領域	
レベル1: 高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、最小限のやりとりができる。 レベル2: 高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、おおよそのやりとりができる。			
レベル	指標(言ったり、書いたり、聞いたり、読んだりできる)	表現例: 指標の(1)(2)(3)・・・と対応	気づきや理解のための着眼点
1	(1) 年中行事(正月・クリスマスなど 祝日などの日付けはいつか (2) 家族や個人の記念日(誕生日、両親の結婚記念日など)と、その日付けはいつか (3) プレゼントに何を贈りたいか、もらいたいか	(1) 한글날은 10 월 9 일이에요. 이번 크리스마스는 일요일이에요? (2) A: 오늘 무슨 날이에요? B: 엄마 생일이에요. (3) 졸업 선물은 뭐가 좋을가요? 친구에게 CD 를 선물하고 싶어요.	a. 祝祭日 b. 誕生日(陽暦・陰暦)、誕生日の祝いかた、恋人たちの記念日など c. 通過儀礼(トルチャンチ、七五三、成人式など) d. 祭祀(チェサ)、法事、先祖供養、初詣でなど e. 誕生日・引越し・受験などに好まれるプレゼント、その包装 f. 年中行事、年末年始の過ごしかた、年賀状・クリスマスカードなど
2	(1) 年中行事・祝日にはどんな日があるか (2) どんな通過儀礼があるか、何をしたら誕生 100 日祝い・成人式など (3) 年中行事・祝日には何をしたら墓参り、クリスマス、新年挨拶など (4) 記念日などに何を贈るか (5) 個人的な記念日やイベントにはどんなものがあるか、何をしたら(誕生日・バレンタインなど)	(1) 한국은 크리스마스가 휴일이에요. 한국 설날은 두 번 있어요. (2) A: 돌잔치가 뭐예요? B: 한 살 생일 파티예요. (3) 추석에는 할아버지 성묘를 갑니다. (4) A: 선물 풀어 봐도 괜찮아요? B: 네, 마음에 드세요? (5) 발렌타인데이는 좋아하는 사람과 함께 지내요.	

社会

この指標(案)は1つの提案であり、完成されたものではありません。

言語領域		文化領域	
レベル1: 高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、最小限のやりとりができる。 レベル2: 高校生にとって身近な話題について、話者が想定している範囲で、おおよそのやりとりができる。			
レベル	指標(言ったり、書いたり、聞いたり、読んだりできる)	表現例: 指標の(1)(2)(3)・・・と対応	気づきや理解のための着眼点
1	(1) 行きたいところ、行ったところの地名と、その位置はどこか (2) ニュースを見るか、新聞を読むか	(1) A1: 어디에 가고 싶어요? B1: 태국에 가고 싶어요. A1: 태국은 어디에 있어요? B1: 동남아시아에 있어요. A2: 디즈니랜드는 도쿄(東京)에 있어요? B2: 아뇨, 지바(千葉)에 있어요. (2) 매일 뉴스 봐요? 오늘 신문 읽었어요?	a. 入試制度、進学率、就職活動 b. 日本と韓国の首相と大統領、道知事と県知事、市長、党、選挙などの制度 c. 朝鮮半島の分断、休戦ライン、徴兵制など d. 王朝名、歴史上の人物やできごとと評価、歴史観
2	(1) 世界の地名(国名、都市・首都名、名所・旧蹟、山・川・海など)が何か (2) どんな職業が人気があるか・社会的評価が高いか (3) 現代の政治的に著名な人物、歴史上の人物について、何をして有名なのが(国を建てた、何かを作ったなど)歴史上のできごとをやりとりできる戦争・王朝など (4) 習慣について何をするか、しないかなど (5) 社会的な関心事は何か(環境問題・戦争・飢餓・歴史・高齢化など)	(1) A: 한국의 수도는 베이징(北京)이 아니에요? B: 아니에요, 서울이에요. (2) A: 일본에서 인기있는 직업이 뭐예요? B: 요즘 사회 복지와 관련된 직업이 인기가 있어요. (3) 세종대왕 아세요? 한국 역사상 아주 유명한 사람이예요. A: 한국 대통령이 누구예요? B: 노무현 아니에요? (4) A: 일인당 얼마예요? B: 오늘은 제가 낼게요. (5) A: 저는 환경 문제에 관심이 있어요. 철수 씨는 어때요? B: 저는 환경 문제보다 전쟁에 관심이 있어요.	e. 大都市・山・大河川・海洋の名称、行政区画(道・県・市・区など)、地名のもつ意味・由来、世界遺産 f. 自然と人の付き合いかた、キャンプ、登山、花見、文学や神話と自然 g. ごみの捨て方・ホテルのアメティーグッズなどの環境問題対策 h. 地域・都市・国家・民族に対するイメージ、民族意識と地域意識をどう思っているか、「ウリナラ」の持つ意味 i. 男女の役割、家事と仕事の分担、社会的地位など、ジェンダーに関すること

2-3. 言語領域の指標一覧: 韓国朝鮮語

韓国朝鮮語のコミュニケーション能力指標(案)では、以下の13の話題分野を、それぞれ言語領域と文化領域に分けて設定している。言語領域については、話題分野ごとにレベル別の指標を設定した。その一覧は、以下に記載するとおりである。各項目の左端にある数字はレベルを示す。()内の数字はコミュニケーション能力指標に記載された数字であるが、順番に特に意味はなく、難易度や授業に導入する順を定めるものではない。

- | | | |
|------------|-----------|-----------|
| 1. ことば | 6. ふだんの生活 | 11. 天気と季節 |
| 2. 自分と身近な人 | 7. 余暇 | 12. イベント |
| 3. からだ | 8. ファッション | 13. 社会 |
| 4. 食 | 9. 買い物 | |
| 5. 学校 | 10. 町と交通 | |

ことば レベル1

- 1- (1) なに語ができるか
- 1- (2) なに語を勉強しているか
- 1- (3) どこで学んでいるか
- 1- (4) ~語で何というか
- 1- (5) ハングルでどう書くか尋ね、書いてもらうことができる
- 1- (6) どの国でなに語が話されているか
- 1- (7) 出会い・感謝・謝罪の基本的な決まったあいさつができる

自分と身近な人: レベル1

- 1- (1) 自分、相手、人の名前が何か
- 1- (2) 身分(高校生・学生など)や学年は何か
- 1- (3) 住んでいる場所はどこか
- 1- (4) 年齢がいくつか
- 1- (5) 誕生日がいつか
- 1- (6) 星座やえとは何か
- 1- (7) 好きなもの(趣味、スポーツ、食べ物など)は何か
- 1- (8) 携帯電話の番号やメールアドレスは何か
- 1- (9) 学校の所在地はどこか
- 1- (10) 家族構成が何人でだれがいるか
- 1- (11) ボーイフレンドやガールフレンドの有無
- 1- (12) 国籍や出身がどこか
- 1- (13) 名前をどう書くか

ことば レベル2

- 2- (1) ハングル字母の名前を使ってつづりを尋ね、説明できる
- 2- (2) 学習の動機は何か
- 2- (3) 言語学習についての感想はどうか(難易・面白い・つまらないなど)
- 2- (4) 言葉の類似・相違点は何か(文法が違うなど)
- 2- (5) 好きな言葉は何か
- 2- (6) 示されたことわざ・慣用句を理解できる
- 2- (7) あいさつに対して複数の返答が使える(元気かに対して、風邪だなど)

自分と身近な人: レベル2

- 2- (1) 身近な人の身分や職業は何か
- 2- (2) どんな性格か(優しい、こわい、長所、短所など)
- 2- (3) 外見はどんなか(背が高い、きれいなど)
- 2- (4) 住んでいる場所のようすはどうか(近くに何があるか、便利かなど)
- 2- (5) 高校卒業後の進路はどうか(単語や、~行きたいなど一定の文型で)
- 2- (6) 将来、何をしたいか、何になりたいか
- 2- (7) 親戚がどこに住んでいるか
- 2- (8) 好きなことやもの・人について、その理由は何か

からだ レベル1

- 1- (1) 体の部位と特徴は何か
- 1- (2) 血液型は何か
- 1- (3) 不調を訴える(疲れた・眠い・おなかがすいた・のどがかわいたなど)

食: レベル1

- 1- (1) 好きな(嫌いな)食べものは何か
- 1- (2) 食べたい(飲みたい)ものは何か
- 1- (3) 食べられないもの、食べないものは何か
- 1- (4) 作れる(作ってみたい)食べものは何か
- 1- (5) 料理を(料理名で)注文できる
- 1- (6) 朝食・昼食・きのうの夜に食べたもの・食べた場所はどこか
- 1- (7) おいしいかどうか
- 1- (8) 食事ときの基本的な決まり文句を使うことができる

学校: レベル1

- 1- (1) 何年生か
- 1- (2) 何部に所属しているか
- 1- (3) 好きな(嫌いな)科目・興味のある(ない)科目は何か
- 1- (4) 教室や学校にあるものは何か、ないものは何か
- 1- (5) 学校はどこにあるか(地名で)
- 1- (6) 休み時間には何をするか
- 1- (7) 宿題をしたかどうか
- 1- (8) (授業に関する)教員の指示に従うことができる

ふだんの生活: レベル1

- 1- (1) 1日の生活で何をしているか(行動や習慣)
- 1- (2) 家、部屋に何があるか
- 1- (3) 持ち物、かばんの中に何があるか

からだ レベル2

- 2- (1) 身長や体重はどれくらいか(数字で)
- 2- (2) 床屋や美容院で自分の希望を伝えることができる
- 2- (3) どのように具合が悪いのか(風邪をひいている、熱がある、咳が出るなど)
- 2- (4) どのようなけがをしたか(ころんだ、出血、骨折、ねんざなど)
- 2- (5) 今の容貌はどんなか、どんな希望があるか
- 2- (6) 健康のためにすべきこと、していることは何か

食: レベル2

- 2- (1) 「頼んだものではない」「まだ来ない」と伝えることができる
- 2- (2) おおまかな作り方はどうか(調味料・食材・調理器具など)
- 2- (3) 味はどうか(からい、あまい、うすいなど)
- 2- (4) 日韓の年中行事のとき何を食べるか
- 2- (5) ダイエットの方法はどうか(食べないもの、カロリーなど)
- 2- (6) 自分の食習慣はどうか(いつ、どこ、だれ、どんなものなど)
- 2- (7) 自分の外食の習慣はどうか(頻度、どこなど)
- 2- (8) 食文化の違いはどうか(食べかた、マナーなど)
- 2- (9) 個人的な食べかたの違いはどうか(かける、混ぜるなど)

学校: レベル2

- 2- (1) 校内で何がどこにあるか
- 2- (2) 生徒は何人いるか
- 2- (3) 授業・試験の始まる時間や終わる時間はいつか、試験の日程はいつか
- 2- (4) どんな学校行事がいつ、どこであるか、そこで何をしたか
- 2- (5) 学校や授業、先生はどんなか
- 2- (6) 学校の特徴はどんなか、日本の高校生活はどんなか
- 2- (7) 学校で楽しいことやたいへんなことは何か
- 2- (8) どんな時間割で勉強しているか(何曜日、何時間、科目)

ふだんの生活: レベル2

- 2- (1) 今日や明日、来週などに何をするか(具体的な予定を簡潔に)
- 2- (2) 昨日や先週などに何をしたか(具体的なことを簡潔に)
- 2- (3) 何時に何をしたか(具体的なことを簡潔に)
- 2- (4) 1週間の生活で何をしているか(学校、アルバイト、予備校、習いごと)
- 2- (5) 部屋の大きさ、部屋に何がどこにあるか
- 2- (6) 家について、大きさや形状の種類、何階建てか、何の部屋があるか、何がどこにあるか
- 2- (7) 家事について、何をだれがいつするか
- 2- (8) 食習慣について、朝食夕食を食べるか、どこでいつ食べるか

余暇:レベル1

- 1- (1) 放課後・休日などに何をするか(したか)
- 1- (2) 時間があるかないか
- 1- (3) 好きなスポーツは何か
- 1- (4) 旅行で行ったところ(行きたいところ)はどこか
- 1- (5) 趣味はなにか
- 1- (6) 好きな芸能人は誰か

ファッションレベル1

- 1- (1) 服やアクセサリーに関する基本的な表現
- 1- (2) 服やアクセサリーをほめる
- 1- (3) 好きな色やよく着る色は何か
- 1- (4) ファッション雑誌を読むか、何を読むか

買い物:レベル1

- 1- (1) 買う意志を伝える
- 1- (2) 買いたいものがあるかどうか
- 1- (3) 商品が何か
- 1- (4) 日頃の買い物はどこで何をかうか

町と交通:レベル1

- 1- (1) 主にどの交通機関を使って通学しているか
- 1- (2) 町に何があるか(店、施設の名前)
- 1- (3) バス・電車の行き先が読める
- 1- (4) 切符を買える(鉄道、高速バス)
- 1- (5) 目的の交通機関がどれか尋ねたり確かめたりできる
- 1- (6) 駅や町の中の標識が読める

余暇:レベル2

- 2- (1) 応援しているチームはどこか
- 2- (2) いつ・誰と、どこへ行くか(行ったか)
- 2- (3) アルバイトについて、しているか・していないか。感想はどうか(楽しい・つらいなど)
- 2- (4) 余暇に何をしたか(映画、コンサート、ライブ、花火、祭りなど)、感想はどうか(楽しかったなど)
- 2- (5) 友人を外出に誘うことができる
- 2- (6) 出かける時に持っていくものは何か
- 2- (7) 待ち合わせの約束をすることができる

ファッションレベル2

- 2- (1) 化粧をするか、いつからしたか
- 2- (2) 制服があるか、どんな制服か
- 2- (3) どんな服装が好きか
- 2- (4) 美容院や床屋へ行くか、どんな髪型にしたいか
- 2- (5) 何を、どこで、いくらで買ったか
- 2- (6) いつ、どんな服装をするか
- 2- (7) ファッションにいくらくらいお金をかけるか
- 2- (8) 今どんなものを着ているか
- 2- (9) 伝統的な衣服はいつどんなときに着るか

買い物:レベル2

- 2- (1) いくつ買いたいのか
- 2- (2) 買いたいものがいくらか
- 2- (3) どんな規格・色のものを買いたいのか
- 2- (4) 買いたいものの売り場はどこか、営業時間は何時から何時までか
- 2- (5) 何のために、何をかうか

町と交通:レベル2

- 2- (1) タクシーに乗って行き先をつけられる、ここで降りると言える
- 2- (2) 単純な道順ならば示したり、理解できる
- 2- (3) 待ち合わせの時間と場所を決められる
- 2- (4) 運転免許があるかないか
- 2- (5) どういう経路で通学しているか、またどのくらい時間がかかるか
- 2- (6) 目的地まで、どれくらい時間がかかるか、どのくらい費用がかかるか
- 2- (7) 店や施設の営業時間が何時から何時までか、休日はいつか
- 2- (8) 交通手段を選んだ理由は何か(遠いから、近いから、疲れたからなど)

天気と季節: レベル1

- 1- (1) 四季に関して(来た・暖かい・寒いなど)
- 1- (2) 天気に関して(晴れ・雨・暑い・寒いなど)
- 1- (3) 気候にかかわる持ち物、身につけるものは何か

イベント: レベル1

- 1- (1) 年中行事(正月・クリスマスなど)、祝日などの日付けはいつか
- 1- (2) 家族や個人の記念日(誕生日、両親の結婚記念日など)と、その日付けはいつか
- 1- (3) プレゼントに何を贈りたいか、もらいたいか

社会: レベル1

- 1- (1) 行きたいところ、行ったところの地名と、その位置はどこか
- 1- (2) ニュースを見るか、新聞を読むか

天気と季節: レベル2

- 2- (1) 好きな季節はどれか、その理由は何か
- 2- (2) 天気予報を聞いたり読んだりして、基本的な情報を得ることができる
- 2- (3) 最近どんな自然災害が起きたか(台風・地震など)
- 2- (4) 自分の国や地域の気候の特徴は何か

イベント: レベル2

- 2- (1) 年中行事・祝日にはどんな日があるか
- 2- (2) どんな通過儀礼があるか、何をするか(誕生 100 日祝い・成人式など)
- 2- (3) 年中行事・祝日には何をするか(墓参り、クリスマス、新年挨拶など)
- 2- (4) 記念日などに何を贈るか
- 2- (5) 個人的な記念日やイベントにはどんなものがあるか、何をするか(誕生日・バレンタインなど)

社会: レベル2

- 2- (1) 世界の地名(国名、都市・首都名、名所・旧蹟、山・川・海など)が何か
- 2- (2) どんな職業が人気があるか・社会的評価が高いか
- 2- (3) 現代の政治的に著名な人物、歴史上の人物について、何をして有名なのか(国を建てた、何かを作ったなど)、歴史上のできごとをやりとりできる(戦争・王朝など)
- 2- (4) 習慣について(何をするか、しないかなど)
- 2- (5) 社会的な関心事は何か(環境問題・戦争・飢餓・歴史・高齢化など)

3. コミュニケーション能力指標にもとづく韓国朝鮮語の授業

3-1. 単元案と授業の進めかた

単元案(1)

作成日:2007年3月5日

単元名 (活動名)	習得した会話の内容を文字で書いて読む																	
学習目標	これまで習得した会話の内容を文字で書き、読めるようにする																	
学年	1年__ 2年__ 3年 <u>X</u> 4年__ その他(記入)_____	1クラスの人数: <u>25</u>																
履修単位数	今年度の履修単位: <u>2</u>	前年度までの履修単位: <u>0</u>																
時間構成	授業の単位時間(1コマ): <u>50</u> 分	授業のコマ連続: <u>2</u> 回	1週間の授業時間: <u>100</u> 分															
実施時期	<u>07</u> 年 <u>5</u> 月 <u>後半</u> から	<u>07</u> 年 <u>6</u> 月 <u>半ば</u> まで	総時数: <u>9</u> 時間															
授業担当者	1 ながとよいち 2																	
使用している教科書	1 自主教材 2																	
話題分野*	<table border="0"> <tr> <td>1. <u>ことば</u></td> <td>6. <u>ふだんの生活</u></td> <td>11. <u>天気と季節</u></td> </tr> <tr> <td>2. <u>自分と身近な人</u></td> <td>7. <u>余暇</u></td> <td>12. <u>イベント</u></td> </tr> <tr> <td>3. <u>からだ</u></td> <td>8. <u>ファッション</u></td> <td>13. <u>社会</u></td> </tr> <tr> <td>4. <u>食</u></td> <td>9. <u>買い物</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. <u>学校</u></td> <td>10. <u>町と交通</u></td> <td></td> </tr> </table>			1. <u>ことば</u>	6. <u>ふだんの生活</u>	11. <u>天気と季節</u>	2. <u>自分と身近な人</u>	7. <u>余暇</u>	12. <u>イベント</u>	3. <u>からだ</u>	8. <u>ファッション</u>	13. <u>社会</u>	4. <u>食</u>	9. <u>買い物</u>		5. <u>学校</u>	10. <u>町と交通</u>	
1. <u>ことば</u>	6. <u>ふだんの生活</u>	11. <u>天気と季節</u>																
2. <u>自分と身近な人</u>	7. <u>余暇</u>	12. <u>イベント</u>																
3. <u>からだ</u>	8. <u>ファッション</u>	13. <u>社会</u>																
4. <u>食</u>	9. <u>買い物</u>																	
5. <u>学校</u>	10. <u>町と交通</u>																	
話題分野	レ ベ ル	参照した言語領域の指標: 言ったり、書いたり、聞いたり、 読んだりです	参照した言語領域の 表現例: 参照した文化領域の指標: 気づきや理解のための着眼点															
1.ことば	1	(7) 出会い・感謝・謝罪の基本的な決まったあいさつができる	안녕하세요? 반갑습니다. 안녕히 가세요.															
2.自分と身近な人々	1	(1) 名前 (2) 身分(高校生・学生など)、学年 (3) 住んでいる場所	이름이 뭐예요? --라고 합니다. --학교 삼학년이에요. --에 살아요.															
4.食	1	(1) 好きな食べもの (6) 朝食・昼食・きのうの夜に食べたもの・食べた場所	(1) 좋아하는 음식은 뭐예요? - 라면이에요. (6) 아침에 뭐 먹었어요? - 못 먹었어요.															
5.学校	1	(6) 休み時間にすること (7) 宿題をした、していない	(6) A: 쉬는 시간에 뭐해요? B: 친구하고 이야기해요. (7) A: 숙제 했어요? B: 안 했어요.															
6.ふだんの生活	2	(1) 今日や明日、来週などに何をするか(具体的な予定を簡潔に)	(1) 오늘은 어디 갈 거예요? - 에 갈 거예요 - 에서 뭐 할 거예요? - 쇼핑할 거예요.															
7.余暇	1	(3) 好きなスポーツ	(3) 좋아하는 스포츠는 뭐예요? - 축구예요.															
学習・教育方法の工夫																		
文法・語彙																		

* 1 から 13 の話題分野をクリックすると、各分野の言語領域と文化領域の指標が表示されます。この単元(活動)で扱う言語領域の指標と表現例、文化領域の指標をコピーし、該当欄に貼り付けてください。コミュニケーション能力指標に示した指標や表現例は参照例であり、みなさんの工夫で追加・削除できます。指標や表現例をそのままの形で使うことを想定していませんので、ご注意ください。

授業の進めかた：習得した会話の内容を文字で書いて読む(9時間分)

時間	区切	内容	資料																				
1	導入	趣旨(これまで学習したものを文字で書けるようにすること)を伝える																					
	字母	<p>【県名パズル】 県名リストを配り、その中の一つだけ何県かを伝え、残りを解説させる。</p> <p>【字母整理】字母整理表に字母を整理させる。 子音字母の配列</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>ㄱ</td><td>ㄴ</td><td>ㅇ</td><td>ㄷ</td></tr> <tr><td>ㄱ</td><td>ㄷ</td><td>ㅌ</td><td>ㅍ</td></tr> <tr><td>ㅋ</td><td>ㅌ</td><td>ㅍ</td><td>ㅍ</td></tr> <tr><td>ㅍ</td><td>ㅎ</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>母音字母の配列</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>ㅏ</td><td>ㅑ</td><td>ㅓ</td><td>ㅕ</td><td>ㅗ</td></tr> </table> <p>備考 子音字母は、「ㄱㅇㅌㅍ」を「グドゥジュブ」のように濁音で提示する。 2. 県名をハングル見ないで、書かせる。</p>	ㄱ	ㄴ	ㅇ	ㄷ	ㄱ	ㄷ	ㅌ	ㅍ	ㅋ	ㅌ	ㅍ	ㅍ	ㅍ	ㅎ			ㅏ	ㅑ	ㅓ	ㅕ	ㅗ
ㄱ	ㄴ	ㅇ	ㄷ																				
ㄱ	ㄷ	ㅌ	ㅍ																				
ㅋ	ㅌ	ㅍ	ㅍ																				
ㅍ	ㅎ																						
ㅏ	ㅑ	ㅓ	ㅕ	ㅗ																			
2	書く	<p>【名前を書く】字母整理表自分の名前を書かせる。綴りの間違いや、字形の不具合を矯正する。</p> <p>・「ん」「っ」について、質問が出れば「ㄴ」「ㅍ」を下に書くように教える。</p> <p>・「わ」は「와」(オァ)と教える。</p>																					
3	復習	<p>【短冊物語】 「桃太郎」や「浦島太郎」などの物語を 10 ほどの短文で構成し、各文を短冊にして、10 人グループのメンバーに配布し、読みあうだけで、見せないようにしてその順番を当てさせる。</p>	<p>・「桃太郎」「浦島太郎」</p>																				
	韓国朝鮮語を書く	<p>【文字カルタ】</p> <ol style="list-style-type: none"> これまで学習した単語をカルタにして、絵面でカルタ取りをする。 文字面の文字をノートに写させる。 文字のフラッシュカードをする。 文字面でカルタ取りをする。 	<p>・文字カルタ</p> <p>・フラッシュカード</p>																				
4		<p>【字母の追加】</p> <ol style="list-style-type: none"> カルタに提示した単語の中から、追加字母を説明する。 ・母音字母は「ㅓ」と「ㅕ」 ・濃音(平音の重ね字)字母「ㅍㅍㅍㅍ」 カルタの単語を書かせる練習をする。 																					
		<p>【パッチム】(字の下に書き入れる字母) 「今日はどこに行きますか」に答えさせ、「~に」の部分を書かせる。「ハッキョエ」(学校に)の次に、「チベ」(家に)を書かせる。「エ」(예)を先に書かせることで、집(家)の綴りを理解させる。</p> <p>【語末のパッチムと「~は」】 「~は」(는/은)、「~です」(이에요/예요)の使い分けを説明し、練習させる。 備考 「~を」「~が」はやらない。</p>																					
6, 7	作文	<p>【自己紹介】</p> <ol style="list-style-type: none"> 構文のつづり方を一通り板書して、ノートに書かせる。 自己紹介文を書かせ、読み発表させる。 (あいさつ、名前、学校、学年、住んでいる場所、好きな食べ物、好きなスポーツや趣味) 提出させ、チェックする。 返却して、読み発表をさせる。 																					
8, 9		<p>【作文】昨日したこと、今日することについて</p> <ol style="list-style-type: none"> 作文させ、提出させてチェックする。 読み発表させる。 																					

単元案(2)

作成日:2007年3月3日

単元名 (活動名)	休み時間にすること																	
学習目標	休み時間にどんな行動をするかについて、やりとりができるようになる。																	
学年	1年__ 2年__ 3年__ 4年__ その他(記入)_____	1クラスの人数__16人__																
履修単位数	今年度の履修単位: __2__	前年度までの履修単位: __0__																
授業時間の構成	授業の単位時間(1コマ): __50__分	授業のコマ連続: __2__回	1週間の授業時間: __100__分															
実施時期	2006年__6__月__30__日 から 2006年__6__月__30__日まで		総時数: __2__時間															
授業担当者	1 山下誠 2																	
使用している教科書	1 好きやねんハングル(ただし、文字と発音編のみ。本単元については使用せず。) 2																	
話題分野	<table border="0"> <tr> <td>1. ことば</td> <td>6. ふだんの生活</td> <td>11. 天気と季節</td> </tr> <tr> <td>2. 自分と身近な人</td> <td>7. 余暇</td> <td>12. イベント</td> </tr> <tr> <td>3. からだ</td> <td>8. ファッション</td> <td>13. 社会</td> </tr> <tr> <td>4. 食</td> <td>9. 買い物</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 学校</td> <td>10. 町と交通</td> <td></td> </tr> </table>			1. ことば	6. ふだんの生活	11. 天気と季節	2. 自分と身近な人	7. 余暇	12. イベント	3. からだ	8. ファッション	13. 社会	4. 食	9. 買い物		5. 学校	10. 町と交通	
1. ことば	6. ふだんの生活	11. 天気と季節																
2. 自分と身近な人	7. 余暇	12. イベント																
3. からだ	8. ファッション	13. 社会																
4. 食	9. 買い物																	
5. 学校	10. 町と交通																	
話題分野	レベ ル	参照した言語領域の指標: 言ったり、書いたり、聞いたり、読んだり	参照した言語領域の表現例: 参照した文化領域の指標: 気づきや理解のための着眼点															
4. 食	1	(1) 好きな(嫌いな)食べものは何か	(1) 낫토 (納豆) 는 싫어해요. l. 間食: おやつに何を食べるか、夜食、飲み物															
5. 学校	1	(4) 教室や学校にあるものは何か、ないものは何か (6) 休み時間には何をするか	(4) 교무실 (6) A: 쉬는 시간에 뭐해요? B: 친구하고 이야기해요. a. 学校にあるもの・ないもの d. 授業時間、長期休業															
学習・教育方法の工夫	・対話によって新規学習事項を提示し、練習する方式を採用。教師の模範発話を繰り返すのではなく、聞かれたら答える、という自然なコミュニケーション活動のなかに、提示と練習を盛り込み、モチベーションの高揚と学習事項の定着をはかる。・対話の活動の後に、ワークシートでの文字化の活動を配置し、「聞き話す」を重視しながら、「読み書く」もきちんとおさえる。																	
文法・語彙	는, 하고, 예, 입니다, 입니까, 싫어해요, 좋아해요, 데이트해요, 독서해요, 공부해요, 이야기해요, 해요, 마셔요, 먹어요, 자요, 가요, 쉬는 시간, 수업 시간 라운지, 운동장, 교실, 계단, 컴퓨터 교실, 시청각 교실, 교무실, 화장실, 매점 주스, 커피, 콜라, 우롱차, 녹차, 홍차, 도시락, 과자																	

* 1 から 13 の話題分野をクリックすると、各分野の言語領域と文化領域の指標が表示されます。この単元(活動)で扱う言語領域の指標と表現例、文化領域の指標をコピーし、該当欄に貼り付けてください。コミュニケーション能力指標に示した指標や表現例は参照例であり、みなさんの工夫で追加・削除できます。指標や表現例をそのままの形で使うことを想定していませんので、ご注意ください。

授業の進めかた: 休み時間にすること(1回目・1時間分)

2時間連続 の1時間目	学習活動	留意点	資料
導入	<p>復習 学校内の施設名の表現 「ラウンジ」カード見せながら 教: 운동장입니까? 라운지입니까? 生: 라운지입니다. 「運動場」カード見せながら 教: 라운지입니까? 운동장입니까? 生: 운동장입니다. 同様に 교실, 계단, 컴퓨터 교실, 시청각 교실, 교무실, 화장실, 매점을確認</p> <p>復習 飲料水名とその好き嫌いの言い方 教: 주스 좋아해요? 싫어해요? 生: 좋아해요. 同様に 커피, 콜라, 우롱차, 녹차, 홍차를確認</p>	<p>・施設名が何かの発問に答えさせながら確認</p> <p>・生徒の飲み物の好き嫌いを問う発問に答えさせながら確認</p>	<p>写真カード</p> <p>写真カード</p>
展開	<p>1. 動詞文-1(하다 動詞文)の提示 教: 「デートします」カードを見せながら 데이트해요. 「買物します」カードを見せながら 데이트해요? 쇼핑해요? 生: 쇼핑해요. 教: 데이트해요は、どういう意味? 生: デートします。 教: 쇼핑해요は? 生: 買物します。 以下、同様に 독서해요, 공부해요, 이야기해요 を提示、意味を確認 教: 共通点は何か、問う。 生:どれも해요がついている。 教: 해요は、どういう意味? 生: します。</p> <p>2. 疑問詞 뭐 の提示 教: 「デートします」カードを見せながら 뭐 해요? 生: ?????? 教: 뭐 해요? 데이트해요? 쇼핑해요? 生: 데이트해요. 教: 뭐 해요?は、どういう意味? 生: 何しますか。</p>	<p>・行動が何かの発問に答えさせながら提示</p> <p>・発音が日本語に近い外来語 漢字語 固有語の順に提示</p> <p>・気づきを引き出すように発問する。</p> <p>・提示と同様に絵カード見せながら。</p> <p>・뭐は初出なので、この段階では答えられない。再度同様に質問し、正解の含まれた発問を付け加えて気づかせる。</p>	<p>絵カード</p> <p>絵カード</p>

<p>まとめ</p>	<p>3. 動詞文(하다動詞)以外の提示 教:「食べます」カードを見せながら 공부해요? 먹어요? 生: 먹어요. 教: 먹어요.はどのような意味? 生:「食べます」。 以下、同様に마셔요, 가요, 자요.を提示、確認。</p> <p>4. ワークシートによる文字化と確認 一連の提示が終わったら、再度質問に答えさせながら、提示事項の音をかなで書き取り、意味を書く。</p> <p>それぞれのハングル表記を、示された選択枝から選び、書かせる。</p> <p>書いたハングル文をさらに一回ずつ書いて練習する。</p> <p>本時の新規学習事項を確認 絵カードと共に韓国語を言い、日本語を答えさせる。 教: 먹어요.は何という意味? 生:食べます: 絵カードなしで日本語を言い、韓国語を答えさせる。 教:「食べます」は何と言う? 生: 먹어요.</p>	<p>・かな表記は、聞こえたとおりに書くように指示する。教師が提示しない。</p> <p>・音と文字がここで結びつくことに留意。</p> <p>・声に出しながら書くように指示</p> <p>・次の時間に使う表現を重点的に</p>	<p>絵カード</p> <p>ワークシート</p> <p>絵カード</p>
------------	---	--	---------------------------------------

授業の進めかた: 休み時間にする(2回目・1時間分)

2時間連続 の2時間目	学習活動	留意点	資料
展開	<p>1. 休み時間にしそうな行動の表現を提示する。 教: 주스 마세요? 도시락 먹어요? 生: 도시락 먹어요. 教: 도시락 먹어요. はどういう意味? 生: 弁当食べます。 同様に、(과자 먹어요, 자요, 라운지에 가요, 화장실에 가요, 이야기해요, 독서해요, 공부해요)を提示、意味を確認</p> <p>2. 쉬는 시간の提示 教: 수업 시간입니다. 수업 시간입니까? 쉬는 시간입니까? 生: 쉬는 시간입니다. 教: 쉬는 시간은何の意味? 生: 休み時間</p> <p>3. 休み時間にするのをやりとりする 教: ~씨는 쉬는 시간에 뭐 해요? * 答えが出ない場合は、黒板に貼った絵カードを指しながら、도시락 먹어요? 공부해요?のように発問して、答えが出るのを援助する。 * 用意した動詞文では、生徒の行動をカバーしきれない場合は、何をするかを日本語で言わせて、韓国朝鮮語の表現を追加提示する。 * ある程度慣れてきたら、生徒同士にやりとりさせる。 * 이야기해요, 도시락 먹어요などの表現が無理なくできるようだったら、仲のよさそうな友達の名前を出して、노리코 씨하고 이야기해요? 메구 씨하고 이야기해요?と問いかけ、助詞하고に発展させることもできる。</p> <p>4. ワークシートによる文字化と練習 * 教師が休み時間にするのをやりとりを再現して聞かせ、生徒はその音をかなで書き取り、意味を書く。 * それぞれのハングル表記を、示された選択枝から選び、書かせる。 * 書いたハングル文をさらに一回ずつ書いて練習する。 本時の新規学習事項を確認 1. 絵カードと共に韓国語を言い、日本語を答えさせる。 教: 주스 마세요. はどういう意味? 生: 「ジュース飲みます」</p>	<p>先時に提示した動詞文を使い、絵カードは組み合わせて、例: 「飲む」+「ジュース」 「食べる」+「弁当」</p> <p>・授業時間か、休み時間の発問に答えさせながら ・時間が時間の意味であることがわかるように、[시가남니다]と連音させずに [시간'입니다] と読む</p> <p>・1で提示した行動の絵カードを黒板に貼っておく。</p>	<p>絵・写真カード</p> <p>時間割表</p> <p>絵カード</p>
まとめ	<p>同様に 도시락 먹어요, 과자 먹어요, 자요, 라운지에 가요, 화장실에 가요, 이야기해요, 독서해요, 공부해요を確認</p> <p>2. 絵カードなしで日本語を言い、韓国語を答えさせる。 教: 「ジュース飲みます」は何という? 生: 주스 마세요. 教: 「休み時間に」は何という? 生: 쉬는 시간에 教: 「休み時間」は? 生: 쉬는 시간</p>	<p>・かな表記は、聞えたとおりに書くように指示する。教師が提示しない。</p> <p>・実際のコミュニケーションで使う形(助詞がついたかたち)もおさえる</p>	<p>ワークシート</p> <p>絵カード</p>

	学習活動	留意点	資料
導入	<p>1. 国名カルタ</p> <p>習熟度に応じ、次のバリエーションで行う。</p> <p>ハングルを読んで日本語を取る。</p> <p>日本語で国名を読んでハングルを取る。</p> <p>ハングルを読んで国旗のカルタを取る。</p>		カルタ
展開	<p>1. 国名と位置の確認 (やりとりの例)</p> <p>여기가 어느 나라입니까? 영국입니다.</p> <p>여기는 프랑스입니까? 아뇨, 독일이에요.</p> <p>2. インタビュービンゴ</p> <p>어느 나라에 가고 싶어요?</p> <p>ビンゴシートに中央に自分の名前と行きたい国をハングルで書かせる。8人にインタビューし、それぞれのますにその生徒の名前とその生徒が行きたい国を書かせる。終了後ビンゴゲームを行う。教員は生徒名を読み上げる。</p> <p>3. 文法ドリル</p> <p>「~したい」のつくりかた</p> <p>動詞の語幹(動詞の原形から다を取り除いた部分)に「고 싶어요」をつける、と教える。</p> <p>教科書の動詞リストを見せ、ペアまたはグループで練習する</p> <p>助詞 을, 를 の導入と「~を~したい」のドリル</p>	<p>입니다, 입니까? 예요, 이에요 などは既習の段階で行う</p> <p>新規学習事項 ~고 싶어요 を語彙として導入する</p> <p>動詞は初出でも導入可</p>	<p>地図</p> <p>ビンゴシート (9ます)</p> <p>教科書 P66, 67</p> <p>教科書 P65</p>
まとめ	<p>1. 小テスト 韓国語で書かせる</p> <p>は作文 ~ はディクテーションと訳を書かせる</p> <p>「私は(国名)に行きたいです。」</p> <p>영화를 보고 싶어요.</p> <p>아이스크림을 먹고 싶어요.</p> <p>음악을 듣고 싶어요.</p> <p>물을 마시고 싶어요.</p> <p>2. ネイティブのいる環境では</p> <p>“한국 사람은 어느 나라에 가고 싶어 해요? 인기가 있는 나라가 어디예요?”</p> <p>などのような会話をし、生徒に聞き取りをさせる</p>	<p>ディクテーションは展開で行った文章で。</p> <p>1問2点、10点満点</p>	<p>テストシート (白紙)</p>

授業の進めかた: 世界の国、行きたい国(1回目・2時間分)

授業の進めかた:世界の国、行きたい国(2回目・2時間分)

	学習活動	留意点	資料
導入	<p>1. 前回の小テストの返却と確認 自分の間違えたところを確認させる。おもに 音から文字が書けなかった場合、その文字は何か 単語の意味がわからなかった場合、その単語は何か を中心に考えさせ、正答を書かせる</p> <p>2. 復習 어느 나라에 가고 싶어요?</p>		ノートまたはシート
展開	<p>1. モデル会話(TTを想定) T1: 어느 나라에 가고 싶어요? T2: 이탈리아에 가고 싶어요. T1: 이탈리아에서 뭐 할 거예요? T2: 맛있는 이탈리아 요리 먹을 거예요.</p> <p>2. ペアワーク・グループワーク ~에서 ~를/을 거예요 世界地図を見せ、ペアまたはグループで、いろいろな国でしたいことを考えさせ、作文させる。わからない語彙については教員に尋ねるように指示する。(~은, 는 한국말로 뭐예요?)</p> <p>3. 文法ドリル 予定を表す「~します」のつくりかた 動詞の語幹(動詞の原形から다を取り除いた部分) に「~를/을 거예요」をつける、と教える。 教科書の動詞リストを見せ、ペアまたはグループで練習する</p>	<p>新規学習事項 ~를/을 거예요 を語彙として導入する</p>	<p>地図</p> <p>教科書 P66, 67</p>
まとめ	<p>1. 提出用の作文の指示 「わたしは~へ行きたいです。~で~するつもりです。」という文をできるだけ多く書かせ、イラストや写真などをつけて次回提出するように指示する。</p> <p>2. ネイティブのいる環境では、どの国にはどのようなイメージがあるかなどを聞き、生徒のイメージと比較させる。</p>		提出用シート (白紙)

単元案(4)

作成日:2007年2月22日

単元名 (活動名)	買い物をする																	
学習目標	韓国語で買い物ができるようになる。値段、数量を含むやりとりができ、欲しいものを買うことができる。																	
学年	2年生	1クラスの人数10名																
履修単位数	今年度の履修単位:2	前年度までの履修単位:0																
授業時間の構成	授業の単位時間(1コマ): 50分	授業のコマ連続2回	1週間の授業時間:100分															
実施時期	2007年2月9日 から	2007年2月16日 まで	総時数:4時間															
授業の担当者	1 秋賢淑 2																	
使用している教科書	1 高校生のための韓国朝鮮語 『好きやねんハングル』 2																	
話題分野*	<table border="0"> <tr> <td>1. ことば</td> <td>6. ふだんの生活</td> <td>11. 天気と季節</td> </tr> <tr> <td>2. 自分と身近な人</td> <td>7. 余暇</td> <td>12. イベント</td> </tr> <tr> <td>3. からだ</td> <td>8. ファッション</td> <td>13. 社会</td> </tr> <tr> <td>4. 食</td> <td>9. 買い物</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 学校</td> <td>10. 町と交通</td> <td></td> </tr> </table>			1. ことば	6. ふだんの生活	11. 天気と季節	2. 自分と身近な人	7. 余暇	12. イベント	3. からだ	8. ファッション	13. 社会	4. 食	9. 買い物		5. 学校	10. 町と交通	
1. ことば	6. ふだんの生活	11. 天気と季節																
2. 自分と身近な人	7. 余暇	12. イベント																
3. からだ	8. ファッション	13. 社会																
4. 食	9. 買い物																	
5. 学校	10. 町と交通																	
話題分野	レベル	参照した言語領域の指標:言ったり、書いたり、聞いたり、読んだりきる	参照した言語領域の表現例: 参照した文化領域の指標: 気づきや理解のための着眼点															
1.ことば	1	(1)なに語ができるか(話せる・読める・書ける) (7)出会い・感謝・謝罪の基本的な決まったあいさつができる	(1)한국말 잘하시네요. (7)고맙습니다.															
2.自分と身近な人	1	(12)国籍や出身がどこか、伝えたり尋ねたりすることができる	(12)일본에서 왔어요.															
4.食	1	(5)注文ができる	(5)불고기버거 하나하고 콜라 주세요. k. 食文化の変容: いろいろな文化が融合した食べ物、特有の食べ物、移り変わり(例:ブルゴギムチバーガー)															
9.買い物	1 2	(2)買いたいものがあるかどうか (2)買いたいものがいくらか (3)どんな規格・色のもをを買いたいか	(2)돌김 있어요? (2)A: 한 개 얼마예요? B: 2 천 원입니다. (3)다섯 개 주세요. a. 店の形態: 在来商店 e. 紙幣・貨幣の種類															
学習・教育方法の工夫	教科書を使い、買い物に必要な基本語句、数詞などを学習する。後、話題分野を取り入れた応用会話をモデルにしてロールプレイを楽しむ。韓国での買い物を想定し、客(日本人)と店員(韓国人)に分かれて、既習内容を駆使しながら臨機応変のやりとりで、韓国語のコミュニケーション能力の伸長を図る。教科書のワークブックで語句や練習問題の答えを書いたり、教師またはペアで対話練習をする。ロールプレイの際は、韓国語のカatalog、雑誌、玩具の韓国の貨幣などを使う。																	
文法・語彙	新しい語句:(ファーストフード) 불고기버거, 치킨버거, 불갈비버거, 데리버거, 새우버거, 치즈버거, 햄버거 (飲み物)커피, 콜라, 사이다, 환타, 오렌지 주스, 바나나 우유, 홍차, 핫초코, 셰이크 (おみやげ)돌김, 김치, 초콜릿, 한국 전통 과자 (表現)얼마예요?, 주세요, 깎아 주세요, 있어요/있습니다, 없어요, 어서 오세요, 뭐 드릴까요, 고맙습니다. 많이 파세요 (数詞)백, 천, 만, 하나, 둘, 셋, 넷, 다섯, 여섯, 일곱, 여덟, 아홉, 열, 스물 (ほかの語句)개, 원, 하고, 만																	

* 1 から 13 の話題分野をクリックすると、各分野の言語領域と文化領域の指標が表示されます。この単元(活動)で扱う言語領域の指標と表現例、文化領域の指標をコピーし、該当欄に貼り付けてください。コミュニケーション能力指標に示した指標や表現例は参照例であり、みなさんの工夫で追加・削除できます。指標や表現例をそのままの形で使うことを想定していませんので、ご注意ください。

授業の進めかた: 買い物をする(4 時間分)

時間	学習項目	学習活動	留意点	資料
1 (2/9) 導入	小テスト	・前回 2/2 学習内容の小テスト: 漢数詞 99 までの問題 ・単元の目標: 韓国語で買い物のやりとりができるようになることを伝える	ex)1 일, 오십칠 57 両方の 問題を作成	小テスト 用紙配布
	基本会話 聞く 言う 書く 日本語訳	・基本会話を繰り返し聞く。ひとりで真似をする ・ワークブックに、基本語句を書き、語句の意味を日本語で書く ・基本会話を聞き、ペアで練習する ・ワークブックに発音しながら基本語句の文を 2 回書き、日本語訳を書く	“이거, 오천 원, 그럼”の “ㄱ, ㄴ(連音化), ㄹ(鼻音化)”に注意 させる	教科書 p. 78 ワークブ ック p. 64-66
2 (連続の 授業)	固有数詞 言う 書く 漢数詞の発 展 練習問題 書く、ペアで 会話	・固有数詞(하나, 둘, 셋……열, 스물)を学習。固有数詞の後ろに付く助数詞: 개, 명, 살, 시とあわせて数え方をペアで練習 ・ワークブックに固有数詞を書く ・漢数詞: 백, 천, 만 を学習 ・ワークブックに万まで漢数詞を書く ・練習問題 1, 2 ・ワークブックに、絵を見て、質問と答えを書かせる。問題を割り当て、黒板にも正解を書かせる ・練習問題を使い、ペアで「いくらか、ください」のやりとりをする	“한 개, 두 명, 세 살, 네 시”のよう に、形が変ることを注 意させる “백, 천, 만”を “일백, 일천, 일만” とは言わない	教科書 p. 79-81 ワークブ ック p. 68-71
3 (2/16) 発展	小テスト 応用会話提 示 ロールプレ イ	・前回 2/9 学習内容の小テスト: 固有数詞 20 までの問題 ・ロールプレイ: ファストフード店でランチをし、市場でおみやげを買う 客(日本人)と店員(韓国人)に分かれて、モデル ファストフード店で注文をするやりとり K: 어서 오세요. 뭐 드릴까요? J: 불고기버거 하나하고 콜라 주세요. K: 5천 원입니다. J: 여기 있어요. K: 만 원 받았습니니다. K2: 맛있게 드세요. モデル 市場でおみやげを買うやりとり J: 저, 돌김 있어요? K: 네, 얼마나 드릴까요? J: 한 개 얼마예요? K: 2천 원입니다. J: 다섯 개 주세요. K: 만 원입니다. J: 일본에서 왔어요. 깍아 주세요. K: 한국말 잘하시네요. 그럼, 9천 원만 주세요. J: 고맙습니다. 많이 파세요. をモデル会話どおり練習した後、自由に既習内容を駆使し、韓国語で欲しいものを買うやりとりをする (例、불고기버거のようにアンダーラインの部分は、提示語彙から入れ替え自由)	ex)한 개, 열 시, 다섯 명, 3 個のよう に助数詞と関連して 問題を作成 ファストフード店 でのやりとりのポイント: メニューをみて注文 できる、いくらか、い くつ買うかのやりとり ができるようになる 市場でおみやげ を買うやりとりのポイ ント: 買いたいものが あるかと尋ねる、値 段の交渉のやりとり ができるようになる	小テスト 用紙配布 ロールプ レイのと き、韓国 語版カタ ログや韓 国ウォン の玩具の 貨幣を使 う
4 (連続の 授業) まとめ	応用練習問 題 言う 書く 自由作文	・教科書: 応用練習問題 1, 2 を言う ・ワークブック: 発展問題 メニューをみて数字をハングルで書く 空欄に既習語句を入れて、自由に会話をつくってみる	練習問題の答えあわ せ、作文チェックを 教師が個々におこな い、学習者の到達度 をはかる	教科書 p. 82-83 ワークブ ック p. 72-73

単元案(5)

作成日:2007年3月4日

単元名 (活動名)	休日にすること、したいこと																	
学習目標	休日にすること・したいことに関わる表現を理解し、習得する。友だちを外出に誘い、待ち合わせの時間や場所を決めることができ伝えられる。																	
学 年	1年__ 2年__ 3年 <u>国際コース1クラス</u> 4年__ その他(記入) *2年目	1クラスの人数10~15人																
履修単位数	今年度の履修単位:4	前年度までの履修単位:2																
授業時間 の構成	授業の単位時間(1コマ): 50分	授業のコマ連続 週に1日は 2コマ連続	1週間の授業時間:200分															
実施時期	07年7月 日 から	07年7月 日 まで	総時数:4時間															
授業の担当者	1 任喜久子 2 韓国語指導助手(ALT)																	
使用している 教科書	1 好きやねんハングル(前年度履修済み) 2 基礎から学ぶ韓国語講座・初級																	
話題分野*	<table border="0"> <tr> <td>1. <u>ことば</u></td> <td>6. <u>ふだんの生活</u></td> <td>11. <u>天気と季節</u></td> </tr> <tr> <td>2. <u>自分と身近な人</u></td> <td>7. <u>余暇</u></td> <td>12. <u>イベント</u></td> </tr> <tr> <td>3. <u>からだ</u></td> <td>8. <u>ファッション</u></td> <td>13. <u>社会</u></td> </tr> <tr> <td>4. <u>食</u></td> <td>9. <u>買い物</u></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. <u>学校</u></td> <td>10. <u>町と交通</u></td> <td></td> </tr> </table>			1. <u>ことば</u>	6. <u>ふだんの生活</u>	11. <u>天気と季節</u>	2. <u>自分と身近な人</u>	7. <u>余暇</u>	12. <u>イベント</u>	3. <u>からだ</u>	8. <u>ファッション</u>	13. <u>社会</u>	4. <u>食</u>	9. <u>買い物</u>		5. <u>学校</u>	10. <u>町と交通</u>	
1. <u>ことば</u>	6. <u>ふだんの生活</u>	11. <u>天気と季節</u>																
2. <u>自分と身近な人</u>	7. <u>余暇</u>	12. <u>イベント</u>																
3. <u>からだ</u>	8. <u>ファッション</u>	13. <u>社会</u>																
4. <u>食</u>	9. <u>買い物</u>																	
5. <u>学校</u>	10. <u>町と交通</u>																	
話題分野	レベル	参照した言語領域の指標:言ったり、書いたり、聞いたり、読んだりできる	参照した言語領域の表現例: 参照した文化領域の指標:気づきや理解のための着眼点															
6.ふだんの生活	2	(2)昨日や先週などに何をしたか(具体的にしたことを簡潔に)	a. 放課後や休日の過ごし方: 学校の帰り道、ふだんの土日、夏休みなど。友だちとよく行くところ(映画、カラオケ、ゲームセンター、ネットカフェなど)															
7.余暇	1	(2)時間があるかないか																
7.余暇	2	(5)友人を外出に誘うことができる																
7.余暇	2	(7)待ち合わせの約束をすることができる																
学習・教育 方法の工夫	聞き取りと発音練習を多く取り入れ、耳と口での定着を心がける。絵カードや韓国語くじを使った席替えなどで、授業展開が単調にならないよう工夫する。スキットの発表では、他の生徒の評価も体験させる。																	
文法・語彙	<p>[過去形] 하다, 가다, 오다, 만나다, 먹다, 공부하다, 사다, 쉬다, 듣다, 읽다 아르바이트하다, 서클 활동하다, 쇼핑하다, 친구를 만나다, 도서관에서 공부하다, TV를 보다, 스키야기를 먹다, 집에서 쉬다 (時を表す表現) 언제, 작년, 4월 초, 아침, 여름, [目的を表す表現] --(으)러 가다, 쇼핑하러 가다, 영화 보러 가다, 식사하러 가다, 공부하러 가다, 축구 보러 가다, 옷을 사러 가다, 불꽃놀이 보러 가다, 베트민턴하러 가다 (その他の表現) 학원, 집, 대학교, 교실, 정말, 잘하네요, 아직 멀었어요</p>																	

* 1 から 13 の話題分野をクリックすると、各分野の言語領域と文化領域の指標が表示されます。この単元(活動)で扱う言語領域の指標と表現例、文化領域の指標をコピーし、該当欄に貼り付けてください。コミュニケーション能力指標に示した指標や表現例は参照例であり、みなさんの工夫で追加・削除できます。指標や表現例をそのままの形で使うことを想定していませんので、ご注意ください。

授業の進めかた:休日にするこゝ・したいこゝ(1回目・1時間分)

	学習活動	留意点	資料
導入	<p>1. 出席点呼と今日の月日・曜日の確認など</p> <p>오늘이 몇 월 며칠이에요? 무슨 요일이에요? 씨, 잘 지냈어요? / 힘들어요? (*월병이에요?)</p> <p>2. 昨日又はこの前の休日に教師がしたことを簡単に話す。</p> <p>어제는 수정 씨하고 같이 난바(難波)에 갔어요. 거기서 '괴물'이란 영화를 봤는데 너무 재미있었어요. 그리고 식사도 했어요. 오코노미야키를 먹었는데 참 맛있었어요.</p> <p>3. 大まかな内容が理解できたかどうか尋ねる</p>	<p>・毎時間、確認する</p> <p>・生徒の今日の気分をたずねる</p> <p>・ゆっくり、2~3回話す</p> <p>・内容理解を助けるために固有名詞を多く取り入れる</p>	<p>教室にはカレンダーを掲示しておく</p>
展開	<p>1. 昨日又はこの前の休日にしたことを生徒にたずね、韓国語ではどう言うか発音させながら表現を黒板に書き出す</p> <p>어제(지난 일요일에) 뭐 했어요? (例) 아르바이트했어요. / 서클 활동했어요. 쇼핑했어요. / 친구를 만났어요. 도서관에서 공부했어요. / TV 봤어요. 스키야키 먹었어요. / 집에서 쉬었어요.</p> <p>* 生徒の答えに柔軟に対応しながら、次のような質問も追加し、少し詳しく答えさせる</p> <p>(例) 몇 시간 했어요? / 힘들었어요? / 뭐 샀어요? / 얼마였어요? 만나서 어디에 갔어요? / 누구하고 같이 갔어요? 무슨 과목 공부했어요? / 몇 시간 했어요? 뭐 봤어요? / 재미있었어요? 어디서 먹었어요? / 맛있었어요?</p> <p>2. 動詞絵カードを見せながら、基本形・해요体・過去形を学習し、発音練習をする</p> <p>(例) 가다 가요 갔어요</p> <p>3. 黒板を見ながら、教師について全員で発音練習を何度か繰り返し、最後は教師と同時に発音する</p> <p>上記の答えをした生徒と別の生徒に、昨日それをしたかどうかたずねる。</p> <p>(例) 씨, 어제 TV 봤어요? 뭐 봤어요? 재미있었어요? ペアで昨日したことを3つ以上たずねあう</p>	<p>・해요体は既習事項</p> <p>・日本語での返事を可とし、その場で、韓国語での表現を教え言わせる</p> <p>・一人の生徒が答えたら「 씨는 어제 쇼핑했어요. 그리고 티셔츠를 샀어요.」と全体にも返す</p> <p>・動詞絵カード 하다, 가다, 오다, 만나다, 먹다, 공부하다, 사다, 쉬다, 듣다, 읽다</p>	<p>動詞絵カード</p>
まとめ	<p>1. 絵カードと黒板の表現をノートに写し、日本語の意味も書かせる</p> <p>2. 自分が昨日又はこの前の休日にしたことをできるだけ詳しく書かせて、ノートを提出させる</p>		

授業の進めかた:休日にするこゝ・したいこと(2回目・2時間分)

<p>導入</p>	<p>1. 出席点呼と今日の月日・曜日の確認など 오늘이 몇 월 며칠이에요? 무슨 요일이에요? 씨, 잘 지냈어요? / 힘들어요? (*월병이에요?)</p> <p>2. 昨日教師がしたことを簡単に話す。 어제는 집에서 한국 드라마/DVD 를 봤어요. NHK 다모라는 드라마/영화인데 정말 재미있었어요. 뉴스도 봤는데 뉴스는 별로 재미없었어요. 저녁밥은 '오뎅'을 먹었어요. 맛있었어요.</p> <p>3. 理解できたかどうか確認する</p> <p>4. 生徒たちに昨日何をしたか、ペアでたずねさせる</p>	<p>・毎時間、確認する ・生徒の今日の気分をたずねる ・ゆっくり、2～3回話す ・内容理解を助けるために固有名詞を多く取り入れる</p>	<p>教室にはカレンダーを掲示しておく</p>
<p>展開</p>	<p>1. 前回の絵カードを使って、絵だけを見せて動詞の基本形・해요体・過去形をあてさせ、繰り返し発音練習をする</p> <p>2. 「韓国語くじ」で席替え * 韓国語のくじには、今日、学習する教科書の新出語彙や表現、既習の語彙などを書いておく (例)언제, 작년, 4월 초, 아침, 여름, 학원, 집, 대학교, 교실, 한국, 일본, 정말, 잘하네요, 아직 멀었어요 座席表を黒板に書いて新しい席を発表し、席替えさせる 自分のくじの語彙や表現を発表させ、意味を確認し、何度か発音練習をしたあとノートに写させる</p> <p>3. 新しい座席のペアで昨日何をしたか、3つ以上たずねあう</p> <p>4. 教科書の過去形を扱った第13課を学習する <教科書を閉じたまま> 本文のCDを聞かせ、どういう内容か意味を考えさせる 1行ずつ本文の意味を確認しながらもう一度CDを聞く 1行ずつ、CDの後にリピートし発音練習を何度かする CDと同時に発音してみる <教科書を開いて> 文字を見ながら発音練習をする <再び、教科書を閉じて> 1行ずつ教師の後について言う、教師と同時に言ってみる</p> <p>5. ペアで、「哲秀」と「ゆかり」の役に分かれ暗唱させ、覚えたペアから発表させる</p> <p>6. 発表を終えたペアは、役を交代して暗唱させる</p> <p>7. 教科書の過去形の練習問題をさせる 時間に余裕があれば、教科書に載っていない動詞を補う</p> <p>8. 練習問題の答えあわせをする</p>	<p>・過去形は既習事項 ・できるだけいろいろな人とペアワークできるように、席替えを多くする ・教科書 p.114 ・教科書 p.117～119</p>	<p>動詞絵カード 韓国語くじと座席表 CD</p>
<p>まとめ</p>	<p>1. 次回の小テスト「昨日したことを3行以上書く」を予告する</p> <p>2. もう一度全員で教科書を見ずに本文を言ってみる</p>		

授業の進めかた:休日にするこゝ・したいこと(3回目・1時間分)

<p>導入</p>	<p>1.出席点呼と今日の月日・曜日の確認など 오늘이 몇 월 며칠이에요? 무슨 요일이에요? 씨, 잘 지냈어요? / 힘들어요? (*월병이에요?)</p> <p>2. 前回予告した小テストを実施する</p> <p>3. テストを回収し、よく出来ている生徒何人か分を発表し、 また、よくあるスペルミスや間違いなども指摘する</p> <p>4. 昨日教師がしたことを簡単に話す。 어제 언니하고 쇼핑하러 우에로쿠에 갔어요. 청마지하고 샌들을 사러 백화점에 갔어요. 그리고 냉면을 먹으러 쓰루하시에 갔어요. 아주 맛있었어요.</p>	<p>・毎時間、確認する</p> <p>・よく出来ている生徒名は発表するなど柔軟に対応する</p>	<p>教室には カレンダー を掲示</p>
<p>展開</p>	<p>1. TT によるモデル会話 T1)수정 씨, 이번 토요일 시간이 있어요? T2)네, 있어요. 왜요? T1)영화 보러 신사이바시에 같이 갈래요? T2)네, 같이 가요. 어디서 몇 시쯤에 만날까요? T1)한 시에 덴노지역에서 만나요. T2)한 시는 안 돼요. 두 시는 어때요? T2)네, 좋아요. 그럼 한 시에 덴노지역에서 만나요.</p> <p>2. 内容が理解できたかどうか確認する</p> <p>3. モデル会話と次の表現(*)が書いてあるプリントを配布する 1 行ずつ教師のあとについて発音練習し、意味を確認する 外出の目的を述べる表現(*)を言うてみる 쇼핑하러 가다 / 영화 보러 가다 / 식사하러 가다 공부하러 가다 / 축구 보러 가다 / 옷을 사러 가다 불꽃놀이 보러 가다 / 베트민턴하러 가다</p> <p>5. ペアで、プリントの下線部分の変更を中心にしたスキットを作成させる。その他の表現を適宜、手助けする</p> <p>6. 生徒が作成したスキットの表現をチェックし、一度発音させて、発音・抑揚のチェックを済ませたペアから練習させる</p> <p>7. スラスラと会話らしくなるまで練習するよう指示し、その間に発表順位のくじをひかせて、時間を決めて発表させる</p> <p>8. 発表の間、他の生徒は聞き取りシートに発表の内容を書かせ、3段階で評価させる (*)聞き取りシートの内容 発表者名・いつ・どこへ・何しに行くか・ 待ち合わせの場所・時間、(評価)A・B・C、ひとこと</p>	<p>・過去形、時間の言い方は既習事項</p> <p>・一度目の発表はプリントを見ながらでよい</p>	<p>自主作成 プリント</p> <p>聞き取りシート</p>
<p>まとめ</p>	<p>1. 完成したスキットをノートに書かせ、意味も書かせる</p> <p>2. 宿題「次回までに暗唱してこゝ」を伝える</p>		

3-2. 文字と発音の導入

本めやすでは、コミュニケーション能力を身につけることを目標として設定することを目指している。コミュニケーションとは、口頭でのコミュニケーションだけではない。言語教育においては、文字によるコミュニケーションも忘れてはならない要素である。典型的には手紙のやり取りもあるし、本や新聞、インターネットから文字情報を受信すること、逆に発信することもあるかも知れない。ここでは、コミュニケーションを目標として設定する中で、文字をどのように導入するかを示す。

また、文字と付随して、発音の指導もコミュニケーションの中で大切な要素である。発音がうまくできなければコミュニケーションに支障をきたすこともある。文字と発音は、確かに切り離せない関係にある。そのため、文字と発音は同一物であるような誤解が生まれ、文字学習を語学の出発点とする考え方がある。いわば文字を知らずしては、会話ができないし、文法を学べないという考え方である。これは、文字を話しているという漠然としたイメージによるものかも知れない。例えば、「アラビア語を勉強している」と聞くと、その反応として、「よくあの文字を覚えられるものだ」「あの文字が分からないから私には無理だ」といったように、文字に対する反応がみられる。このような感覚でカリキュラムを立てると、入門の最初が、コミュニケーションではない文字学習に当てられることになる危険がある。

口頭での会話は、文字によるやり取りではないから、必ずしも文字を必要とはしないはずである。口頭でのやり取り(会話)の道具が声だとするならば、文字は書面(デジタルを含む)でのやり取りの道具である。したがって、文字学習は、文字によるやり取りと切り離すことはできない。コミュニケーションを目標として明確化する語学教育においては、文字もまた、コミュニケーション活動の中に位置づけられなければならないのである。これまで、学習書や実際の授業において、コミュニケーションではない文字学習が多かったのではないか。コミュニケーションに位置づけられない文字学習方法が、文字に1ヵ月、2ヵ月とかかり、それでも文字を習得できない原因の一つであると考えられる。

3-2-1. 文字をコミュニケーションの道具として

コミュニケーション能力養成の中では、文字学習も、会話学習と同じように、コミュニケーション活動にするべきである。会話の練習のために、伝えたい単語を口から発し、聞きたい単語を耳から入力して、意味のあるやり取りをするように、文字で、伝えたい単語を書き、読みとりたい単語を読むようにすれば、コミュニケーションが成立する。そのためには、予めその単語を知っていなければならないが、初めて見る文字列をとおして、新しい単語を知ることは、入門の学習者にとっては非常に困難である。音によって覚えてから、文字を導入するのが、学習者にとって理想的な学習法なのである。会話で使える単語を、こんどは文字でやりとりしたり、書きとめたりする作業がこれにあたる。

会話の後に文字を導入する方法は大きく2つに分類することができる。まず、口頭だけで、ある程度の会話ができるようにし、その後に文字を導入するやり方である。もう一つは、各授業の中で口頭での導入の次に、それを文字でやり取りする方法である。初級を過ぎれば、文字に習熟し、文字から音声を即座にイメージできるから、新しい単語や文章を文字から導入することも可能だが、入門では、口頭よりも先に文字で導入しない方がいいと言える。とくに、基礎語彙や文法的単語(助詞など)に不規則が多く、それは学習者に大きな負担がかかるからである。

文字導入のもう一つは、会話と文字を同時並行的に進める方法である。コミュニケーションを目標とした入門コースの初回の授業では、あいさつや決まり文句を練習することが一般的であろう。韓国朝鮮語は音韻交替や変化が激しいため、初回からそのようなあいさつを、音韻現象もすべて理解した上で、読み書きするのは無理である。最初は、いくつかのあいさつをそのまま写すことや、自分の名前を書けるようにすることから始めることが可能である。各課に出てくる単語に合わせて、綴り規則や音韻変化を徐々に学習させていくのである。

3-2-2. 文字によるコミュニケーション

字母を習得し、既習単語数が100語を越えたぐらいから、まとまった文章を読み書きさせることが可能である。学習者同士に文字でやりとりさせるほか、日記、作文など、教師との疑似コミュニケーションを設定したり、スピーチ原稿を作らせたり、可能ならば、例えば韓国の高校生と手紙をやり取りさせるのも、方法の一つであろう。読む方に重きを置けば、クロスワード、クイズ、なぞなぞなども考えられる。学習が少し進めば、短い文を要約させたり、韓国朝鮮語で書かれた限られた量の資料を提供し、そこから説明文を作らせるなど、情報収集力と発信力を養う作業も取り入れる。あくまでも、学習者にとって「意味」のあるやりとりをさせることが肝要である。

3-2-3. 発音もコミュニケーションの中で

文字と発音は密接な関係にある。しかし同時に、発音は会話とも切り離せない関係にある。書かれた文章の部品が文字であり、話された文章の部品が発音であるから、発音は会話の中に位置づけられなければならないのである。会話は、文字化されて音韻を理想的に反映した発音だけで成り立っているのではなく、喜怒哀楽によるイントネーションや、モゴモゴと話すときなどの発音の崩れ、顔の表情を背景として持っている。逆に、正確な音韻を獲得していなくても、ある程度は聞き取れ、また不自然な発音による発話もある程度は聞き取ってもらえる。

したがって、発話全体としての発音をもっと重視すべきである。入門の最初から発音の細部にこだわって、例えば閉音節(パッチム)の練習に長い時間を費やしたり、平音と激音の区別をしつこく練習させるのは、学習者に、発話をためらわせる結果になり、語学には逆効果であろう。「アンニョンハセヨ」(안녕하세요?)がネット上で「アンニャセヨ」(안냐세요)と書かれることを見れば、文字通りに発話されていないことは明らかである。個々の音韻を正しく発音できたとしても、全体として韓国朝鮮語らしく発音できているとは限らない。また、日本語の多くの方言では、声のピッチ(周波数)が急激に下がることが頻繁であり、これが韓国朝鮮語を発話するときにも見られるが、このような特徴を矯正するのも、会話のやりとりの全体の中でやるのがよい。

3-3. 学習・教育方法の工夫

高校生たちの学習意欲と学習への動機を高めるために、教育方法においては、さまざまな工夫が必要である。

3-3-1. 学習者志向・学習者中心の取り組みを心がける

高校生対象の入門・初級レベルにおいて、授業の導入にあたり、まず言語材料やその運用場面の選定で、生徒の興味関心をひく身近で日常的なものを選定することが望ましい。自分や自分の身のまわりのこと・人、例えば高校生の日常生活や学校生活、クラブ活動やファッションなど、また友だちやクラブの先輩後輩・家族・先生など、学習者と学習内容の距離感が近いものから導入すると負担感が少ない。本「学習のめやす」では、高校生にとって最も身近に感じられると思われる13の話題・分野を選定している。

授業の構成にあたっては、生徒が身につけたいと思われるコミュニケーション能力の目標を明確に定め、それを達成するための言語指標と表現例を設定し授業構成を組み立てることが重要である。例えば「生徒が自分と身近な人について韓国朝鮮語で表現できる」という目標を立て、「自分と身近な人」の話題分野から「家族構成について言ったり、書いたり、聞いたり、読んだりできる」という具体的な言語指標と表現例を設定した場合、その目標が達成できる授業構成を考える。

そして授業の展開においては、学習内容や知識を教師が注的に与えるのではなく、生徒自らの思考力や気づき、自発的な学びを誘導するような工夫が必要である。教師からの一方的な指示はできるだけ避け、例えば何も言わずに絵や写真、文字だけを見せ、生徒側が教師の意図を探り、今何をしようとしているのか、このあとに何があるのか、教師は生徒のようすを見ながら最小限の指示やヒントを与えながら、生徒自身が悩み、考える時間を与え、生徒の気づきや自発的な学びを誘導していく。

例えば、教師が自分の家族の写真や、誰もがその家族構成を知っている有名な漫画（「サザエさん」「ちびまる子ちゃん」など）を前触れなく授業の中で生徒たちに見せ、生徒たちの興味関心をひきつけた後に、写真の中の人物を指差しながら「제 어머니예요 (私の母です)」あるいは「사자에 씨 어머니예요 (サザエさんのお母さんです)」、「제 오빠예요 (私の兄です)」、「제 동생이에요 (私の妹です)」などと韓国朝鮮語で説明を始め、教師が何を言っているのか、生徒に推測させながら家族の呼称を学んでいく。「어머니 (母)」、「오빠 (兄)」、「동생 (妹)」などの語彙を学習しつつ、呼ぶ側の男女の違いによって呼び方が違うなどの文化的な背景についても気づかせる。また「저는 오빠가 있어요 (私には兄がいます)」、「저는 동생이 있어요 (私には妹がいます)」と別の角度から韓国朝鮮語で説明をし、「○○씨, 오빠 있어요? (○○さん、兄がいますか)」、「○○씨, 동생이 있어요? (○○さん、妹・弟がいますか)」と生徒に尋ねかけ、「네, 있어요 (はい、います)」、「아뇨, 없어요 (いいえ、いません)」という答えを導き出す。リピートやペアワークなどで十分な口頭練習をした後で、「어머니をハングルでどう書くかな?」と大きな口の動きを示しながら文字学習に移行し、学習段階によっては「동생이 있어요 (弟・妹がいます)」などと文章を書く。また、この部分に関わるテキストのページに戻って学習する。生徒の気づきや自発的な学びを工夫しな

がら、コミュニケーション活動へと展開することでより効果的に学習の目標が達成される。

また発音練習においては、基本的なリピート学習の後に、グループごとにリピートさせる、文字を見ず音だけを聞いてリピートさせる、適当なジェスチャーを交えながらリピートさせる、教師と同時に発音していく、時間制限を設けるなど、学習者にとって発音学習が創意的なものに感じられるように工夫する必要がある。

3-3-2. 学ぶこと・知ることの楽しさを実感し、達成感・自信・自尊感情を味わう

ハングルは一見、記号のように見え、学習対象として取っ付きにくそうな文字であるがゆえに、実は母音と子音の組み合わせで成り立っていることを理解し、ハングル文字が読めるようになること自体、何よりもまず学ぶこと・知ることの楽しさを実感させてくれる学習である。文字学習においては、絵カードや単語カード、カルタ等を取り入れるとより楽しく学習できる。

文法学習においては日本語との類似点(語順・助詞・漢字語など)を活用し、できるだけ生徒の自発的な気づきを導き出したい。また生徒からの質問があった場合もすぐに教師が答えるのではなく、その質問を生徒全体に投げかけ、生徒の積極的な発言や気づきを尊重することが大切である。会話学習においては生徒の発話意欲をできるだけ尊重し、必ず何か一カ所以上ほめることと、次の小さな課題を与えることが、生徒に達成感と向上心を与えることにつながる。

外国語学習に対する劣等感の代表的なものに、何年学習しても話すことができないということがよく挙げられるが、韓国朝鮮語の場合、日本語との語順の近似性によって、授業の工夫次第で学習開始直後から簡単な文章で話せるという強みがあり、外国語学習に対する苦手意識よりも、自信や優越感を抱きながら学習に取り組むことが可能である。

文字が読めること、言葉が聞き取れること、話せること、自分のスケジュールや手紙・メールなど簡単に実用的なものは書けることを、授業の中にそれぞれバランスよく取り入れ、本来の外国語学習の楽しさを味わえるようにすることが望ましい。

3-3-3. 継続的に学習する動機付け、生涯学習の下地を作る

韓国朝鮮語を初めて学習した高校生たちの感想によると、「街角でハングルを見つけるとつい嬉しくなり、立ち止まって読んでしまう」「テレビのニュースなどに韓国朝鮮語が出てくると、今までは聞き逃していたが、知っている言葉が出てくると嬉しい」「国際交流の場面(修学旅行やホームステイ、韓国からの訪日団の受け入れ)で、韓国朝鮮語をもっと話せるようになりたい」というものが多い。

教室の中と外の世界をつなげるために、テキストだけでなく、街中にあるハングルで書かれた看板や案内の写真、韓国朝鮮語版のデパートの店内案内、雑誌やチラシなどを使ったり、テレビで放映されているドラマや映画、DVD・ネットなどを利用したりして、外の世界を教室の中に取り入れることが大切である。特に韓国朝鮮語学習では、隣国という文化的歴史的な関わりの深さ、地理的な近さによる人々の往来の多さという利点を生かすことで、継続的に学習する動機付けを養うことができる。自分や自分の生活・文化・社会を捉えなおす機会とし、より豊かな生活を送るための生涯学習の下地作りにつなげることも可能である。

3-3-4. 効果的な教室活動の導入

授業で活用できる効果的な学習活動の一例を、次ページの表 3 に示した。【 】内はそれに関わるコミュニケーション能力指標の話題分野を示している(pp. 47-50 参照)。

[表 3] 学習活動の例

カルタ ゲーム	文字や語彙カルタを作成し、競争させながら学習する 名刺を作成して「自己紹介する【自分と身近な人】」 自分の部屋や家をシートに作成し、「家、部屋にあるもの【ふだんの生活】」を尋ねあう 四季に関する語彙や表現をヒントに、クイズ形式でどの季節かを当てるゲーム
インタビュー	インタビュー・シートを作成し、「誕生日・趣味・電話番号や将来の夢など【自分と身近な人】」、「クラブ、好きな科目・苦手な科目、好きな学校行事【学校】」、「好きな食べ物や嫌いな食べ物【食】」、「好きなスポーツ、芸能人、応援しているチーム【余暇】」、「好きな季節【天気と季節】」、「自分の好きな体の部位【からだ】」、「服や持ち物について、値段や買った店【ファッション】」などについてインタビューしあう
スキット	「友だちと待ち合わせる、週末に出かける【余暇】」のスキットを作成し発表する 「買いたいものや、その値段、店【買い物】」のスキットを作成し発表する
劇	ハンデルのメニューを作成し、「レストランで食事をする【食】」 自分の好きな髪形の絵を描き、「美容院で自分の希望を言う【からだ】」
ロールプレイ	店員と客の役に分かれて「ショッピングする【買い物】」 乗客と切符売り場の役に別れて「切符を買う【町と交通】」 教師と生徒の役に別れて「宿題をしたか、学校で楽しいこと、たいへんなこと【学校】」
ディスカッション	「テレビを見る時間・勉強する時間【ふだんの生活】」 「アルバイトについて【余暇】」 「記念日や年中行事、プレゼントについて【イベント】」
プレゼンテーション	「住んでいる場所の様子について【自分と身近な人】」を発表する 「好きな言葉【ことば】」を自分のクラスの友だちや家族、先生に尋ねておいて発表する 「登下校中にあるもので、気になる場所やもの【町と交通】」を発表する 「休日にする事・したこと、旅行で行きたいところ、そこでしたいこと【余暇】」を発表する
スピーチ	「私の一日・私の一週間【ふだんの生活】」をテーマに1分間または3分間スピーチを行う 「学校の特長、日本の高校生活【学校】」をテーマにスピーチを行う
ディベート	「食文化の違い【食】」 「制服について【ファッション】」 「入試について【社会】」
歌・踊り	歌「가나다라(カナダラ)」「아리랑【アリラン】」「생일 축하합니다(Happy Birthday)」で母音と子音、パッチムを学ぶ 歌・踊り「올챙이(おたまじゃくし)」で擬態語を学ぶ K ポップを聞いたり、歌ったりして、韓国の現代の若者文化を知る
料理	「떡볶이(雑煮)」「송편(松葉餅)」の調理実習で、民俗的な行事・文化を体験し、「食に関する表現【食】」を実場面で使ってみる

3-4. 他の教科との連携

韓国朝鮮語は授業としての基盤が脆弱であるため、外国語としての授業だけでなく、他の教科や科目との連携で教えられている例が少なくない。その背景に、韓国朝鮮語を教える教員の多くが社会科・国語科の教員や英語教員だという事情がある。以下、特徴のある事例を紹介する。¹⁾

人権教育と韓国朝鮮語(兵庫県立湊川高等学校)

【授業の特色】1973年に公立高校として初めて、必修選択授業として「朝鮮語」を導入。朝鮮のことばを学ぶと同時に、ことばがもつ朝鮮の文化を正しく知ってもらい、隣国の良きパートナーとして共存していける担い手になってもらうことが授業の大切な目的である。そのため教師と生徒との信頼関係を作ることを心がけている。日本と朝鮮の近現代にいたる関係史も、朝鮮語を交えながら語る。高校生が卒業して実社会に出て「朝鮮」と出会う場面があったとき、朝鮮(人)に対して何の偏見もわだかまりもなく、素直に接するようになっていたとき、朝鮮語授業が本当に成立したといえる。

中国語と韓国朝鮮語、姉妹校づくり(鹿児島県立鹿児島東高等学校)

【導入の経緯と授業の特色】1986年に国際教養科を開設(全国で2番目)、「中国語会話」を導入。1997年に中国語以外の外国語を導入する検討が始まった。「アジア語」を重視しようという学校の考えに、70年代前半から韓国語を学んでいた教員が呼応した。学校の創立50周年記念式典に合わせて姉妹校づくりがスタート。韓国の釜山近くにある金海伽耶(キメカヤ)高校との交流が実現。

4月はほとんどテキストを使わず、紙を切り抜き、母音・子音、パッチム(終声子音)などを扱った。この段階ではノートは開かせないで、ひたすら発音できるようになることをねらった。これをひととおり終えて、改めてテキストの練習問題に入った。授業形態はネイティブとのチームティーチング。1年次は中国語会話が必須。2年次から中韓仏西4ヵ国語の選択必修。

地理教育と外国語教育の関係(神奈川県立岸根高等学校)

【導入の経緯と授業の特色】日頃人なつこく明るい生徒が、授業で韓国・朝鮮に話題が及んだ際に、猛烈に反発して差別意識や蔑視感をあらわにしたり、無関心であったりすることがたいへん気にかかっていた。かれらは日本社会が在日朝鮮人を公然と迫害してきたことを肌で感じて知っていて、大人たちの矛盾を拡大して映しているに過ぎない。考えあぐねた末、ことばに触れることがひょっとしてかれらを変えるきっかけになるのではないかと思いあたった。

ことばの学習は本来外国語教育の分野だが、ことばはその国の文化そのもの、地理における文化学習の一環と位置づけることも可能だ。日本語との共通点も多い韓国朝鮮語を学ぶことは新鮮な発見であり、発見の喜びは相手への尊敬につながる可能性を持っている。ことばに触れることは、身体の中、心の中からその国・民族を認識しようとするようになるのではないか。それは「俯瞰的作業」である地理教育を温もりによって補強することになるのではないか。

総合的な学習の時間:ハングル書道(長野県立明科高等学校)

【導入の経緯と授業の特色】「総合的な学習の時間」との関連で、以前から「合科的」な学習を多

1) 国際文化フォーラム通信に掲載された記事を一部抜粋し編集した。

く取り入れていた。それをさらに発展させ(2000年)、芸術科書道Ⅲのなかの国際理解教育と位置づけ、「ハングル書道」を試みた。書道教育の中にグローバルな感覚を導入することによって、まったく新しい芸術として再生するし、教育的効果が倍増する。筆で文字を書く実習は、本や映像以上に実践的な感覚を生徒に与え、作品自体が国際交流の媒体ともなる。ハングルをほとんど知らない高校生がハングルを筆で書くとき、きわめて新鮮な感覚を得る。それが、歴史的に地理的に日本と最も密接な関係をもっている隣国に対する見方を少しずつ変えていくことを期待している。

「総合的な学習の時間」の一部として、1999年度から書道Ⅲの授業4時間を使ってハングル書道に取り組んだ。2000年度、韓国ソウルにある龍文(ヨンムン)高等学校の生徒と作品の交流を開始した。歴史・料理・映像など、さまざまな要素を取り入れたこともあり、予想以上に生徒の反応はよい。ハングル書道だけでなく、韓国文化全般に興味を持ったようだ。世界の書道や文字について考える生徒が出てきた。4時間の授業なので、語学的な説明には限界がある。すでに韓国朝鮮語の講座がある学校では、その教員と協力すれば、いろいろなことができると思う。

国語表現の授業と韓国朝鮮語(中央大学杉並高等学校)

【授業の特色】3 学年対象の比較表現の授業は、自由選択クラス(2 単位)。生徒が隣国のことば(隣語)と比較しながら日本語の特徴をさぐり、ことばに対する「能動的」な姿勢を養うことを目標にしている。年間授業計画(表 4)に沿って、1 学期に原稿用紙の使い方を手始めに書簡文の書き方を覚えた生徒たちは、3 学期の終わりには日本語についてある程度まとまった考えを持つようになる。その間、中島敦『巡査の居る風景』を読み、作品で使われているカタカナ語に着目し、日本が朝鮮半島を植民地にしていた時代に、そのカタカナ語がどのような意味で使われていたかを学ぶ。約 80 年前に書かれた短編は日本語で書かれていても、生徒たちにとっては「外国」の小説だ。

個々の単語の持つ意味やニュアンスが揺らいだとき、母語に対する疑問が生じる。日本語に取り込まれた「隣語」の単語を媒介にして、ふだん無意識に使っている日本語を見直し、ことばに対する感性を高めていくことで、生徒一人ひとりが自分のことばについて考えたことを整理していく。3 学期の終わりには、多くの生徒が日本語に関する文章を「能動的」に書くようになる。

【表 4】年間授業計画:中央大学杉並高等学校第 3 学年「比較表現」

学期・月	学習単元	学習事項・学習方法等	
1 学期	4 月	ガイダンス 提出用書類の書き方	<ul style="list-style-type: none"> * 外国語を学ぶことを「能動的」に考えてみる * 原稿用紙の書式を身につける
	5 月	書簡の書き方 ブレーンストーミング	<ul style="list-style-type: none"> * 礼状・詫び状の書き方を身につける * 創造性を豊かにするために言語を用いる
	6 月	中島敦『巡査の居る風景』を読む	<ul style="list-style-type: none"> * 小説を読んで日帝時代について理解する * 言語認識について考察する
	7 月	「隣語」の音・ハングルの成り立ち 「隣語」の挨拶を覚えよう	<ul style="list-style-type: none"> * 言語としての音について理解を深める
夏休み	身の周りにあるハングルを採集しよう	<ul style="list-style-type: none"> * 街中で見かけたハングルを採集してみる * 夏休みに採集したハングルの紹介 	
2 学期	9 月	ハングルに慣れよう 「隣語」で自己紹介をしてみよう	<ul style="list-style-type: none"> * 自己紹介「私は～です」 * 日韓の漢数字の共通性を認識する
	10 月	数字を覚えよう 単語で話そう	<ul style="list-style-type: none"> * 固有数詞について日韓の使用法の違いを認識する * コミュニケーションに必要な最低限の単語をつないで会話が成立するかどうか、「買い物をする」「場所を尋ねる」などの場面を設定し、日本語でロールプレイする。その後韓国語に変換してみる
	11 月	疑問・否定・存在を表す	<ul style="list-style-type: none"> * 単語だけで表せない概念について理解を深める
	12 月	歌を聴く・映画を観る	<ul style="list-style-type: none"> * 歌・映画をつかって韓国語に接近してみる
3 学期	1 月 2 月	日本語について文章をまとめる	<ul style="list-style-type: none"> * 言語が自分にとってどのような意味をもつ「モノ」なのか考察し、まとまりのある文章を作成する

ALT とのチームティーチング(大阪府立阪南高等学校)

【授業の特色】韓国朝鮮語教育を外国語科の枠内だけで考えるのではなく、他の教科の一部に導入したり、学校行事と関連づけた授業が、日本の高等学校で行われており、今後ひろがることが予想される。その理由は「隣国のことばと文化が、日本人自身の問題として主体的に関わりやすい異文化理解教育や国際理解教育として取り組みやすいテーマだからだ」とイムさんは言う。2000 年

度から JET プログラム²⁾を通じて韓国人 ALT³⁾を受け入れ、韓国朝鮮語の教員とのチームティーチングを行っている。ALT が日本語に堪能なことが他の教科との連携を容易にし、他の教員の協力を得ることで、ALT を通じて生徒たちの隣国理解を深めることもできる。

阪南高校では、1 学年は全科目共通履修。2 学年後期から学際文系、学際理系、国際(2 学年に韓国朝鮮語または中国語の選択必修が 2 単位で、3 学年は継続して 4 単位が必修)、創造コースに分かれる。国際コースを選択する生徒の人数は多くないが、選択した生徒は意欲的に学習している。韓国朝鮮語 I の授業目標は、1)ハングル文字を自由に書いたり読んだりすることと基本的な文法事項を学習すること、2)隣国の文化風習について理解を深め、自己と自己を取りまく社会について振り返ること、3)韓国との交流活動に積極的に取り組むこと。

[表 5] 年間授業計画:大阪府立阪南高等学校第 2 学年「韓国朝鮮語」

教科名	外国語	科目名	韓国朝鮮語 I
開講学年	2 年後期	対象コース	国際コース
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「文字と発音」を楽しみながら、ハングル文字を自由に書いたり読んだりできるようしっかり定着させる。(ゲーム、グループ活動有り) ・基本的な文法事項を学習し、あいさつや自己紹介をはじめ、簡単な会話ができるようにする。 ・韓国朝鮮の文化や人々の暮らしについて理解を深めるとともに、日本文化及び日本社会についても振り返る機会とする。 ・韓国の姉妹校との交流活動に積極的に取り組む。 		
学期	学習単元・学習内容		
前期	(※後期より授業を開始)		
後期	<テキスト「好きやねんハングル」を使って>		
(10 月)	[前半:文字と発音、ひとこと会話] ・韓国朝鮮語を学ぶ背景知識、ひとこと会話(あいさつ・自己紹介・名前・学校名・学年・住んでいるところ) (1)基本的な母音と子音、あいさつ表現、教室用語、ひとこと会話(好きなこと・食べ物) (2)子音の有声音化、重母音、激音、濃音、終声、連音化、ひとこと会話(好きなスポーツ・好きな歌手) (3)韓国朝鮮の文化(音楽、映画鑑賞、調理実習)、ひとこと会話(行きたいところ・食べたいもの) [後半:会話と文法] (1)第1課 自己紹介(「高校生です」)、ひとこと会話(昨日食べたもの・美味しかった) (2)第2課 趣味・スポーツについてたずねる(「何ですか」)、ひとこと会話(昨日見たテレビ番組・面白かった)		
後期中間考査	*筆記テスト及びリスニングテスト		
(12 月中旬)	(3)第3課 所有・否定表現(「私ではありません」) (4)第4課 数字の学習、月日、曜日(「何月何日ですか」) (5)第5課 買い物の表現(「これ、ひとつください」) (6)韓国朝鮮の文化(伝統的な行事、調理実習「トック・チヂミ」)、歌・映画 *韓国の姉妹校の生徒宅へホームステイ(3泊4日)、交流活動に参加(有志生徒) (7)「韓国語で話そう～スピーチコンテスト～」(韓国文化院主催)紹介と応募 *韓国の姉妹校からの生徒(3泊4日ホームステイ)との交流活動に参加(全員)		
学年末考査	*筆記テスト及びリスニングテスト		
使用テキスト・教材	「高校生のための韓国朝鮮語 I『好きやねんハングル』(白帝社) その他適宜、絵カード・CD・ビデオ・DVD・自主プリント等を使用		
成績評価の方法	・授業中の活動や会話発表、小テスト、その他ノート・プリント等の提出物、2回の定期考査、韓国との交流活動への取り組み等により、総合的に評価する。		
備考	*冬休み・春休み課題(復習プリント・ハングル日記)		

2) 世界的なグローバル化の進行と日本の国際化に対応するため、英語圏を対象に 1987 年に創設された。

3) Assistant Language Teacher の略。語学指導助手。

韓国の姉妹校の生徒との交流(帝塚山学院泉ヶ丘高等学校)

【授業の特色】 国際科コースの1学年は、第2外国語が選択必修。英語10単位、第2外国語2単位、社会科5単位、国際理解2単位を履修。2学年は、第2外国語(1年次と同じ)か数学を選択。1学年の11月ごろ、韓国の姉妹校の生徒と文通を始める。翌年7月、慶州の姉妹校の生徒が帝塚山学院泉ヶ丘高等学校を訪れる。同年10月、国際科の2学年全員が韓国研修旅行に参加、姉妹校との交流事業に参加する。ただし、韓国語を履修していない生徒も参加する。授業の目標は次のとおり。

- (1) 挨拶と自己紹介ができ、疑問詞を使った基本会話ができる。
- (2) 研修旅行で使える基礎会話を覚える。
- (3) 韓国・朝鮮と在日の歴史・文化・習慣を知り、理解を深める。語学学習と研修旅行を結びつけ、教師とのやり取りを通じて生徒が自分を見直す作業を伴う授業を展開していくこと

[表6] 年間授業計画: 帝塚山学院泉ヶ丘高等学校第2学年「国際科コース」

学期・月	学習単元	学習事項・学習方法等	
1 学期	4 月 (5 回)	『好きやねんハングル』会話と文法 [5 課 6 課基本、応用会話]	* 単語 100 問テスト(韓→日) * 1 年の復習 * 漢数詞、固有数詞の学習 * 時間の言い方 * 買い物
	5 月 (7 回)	『ことばの架け橋』 [7 課用言の文] 国際(異文化)理解	* 「個、～枚、～冊」等の学習 * 食べ物の名前 * -입니다/습니다 -지 않습니다 * 中国瀋陽での事件。韓国・朝鮮・中国・日本の 現状、歴史の説明。感想文提出(5/10) * NGO の説明
	6 月 (7 回)	1 学期末テスト 特別授業(国際科 2 学年全員対象)	* 노래: 조성모 [To Heaven] * 期末テストの答え合わせ * 新聞の切り抜き活用(サッカーワールドカップ関連他) * 5 時間 実践例参照
夏休み	課題	* 習った単語と本文およびその翻訳をレポート * 単語 50 問テスト(韓→日)のための自主学習 * 「サッカーワールドカップを通しての日韓関係について」 レポート(400 字、1 枚以上)	
2 学期	9 月 (7 回)	1 学期の復習 『わー通じたハングマル』 [出会い][市内見学]	* 単語 50 問テスト(韓→日) * 1 学期の復習 * 해요体の学習 -아요/어요 -(으)세요 * 体の学習, 研修旅行会話中心 * あいさつ、自己紹介、将来の夢、待ち合わせ、ショッピング、食堂での会話
	10 月 (5 回)	10/15~10/19 研修旅行(韓国) 『ことばの架け橋』 [8 課:数詞・疑問詞][9 課:尊敬形]	* 実践会話 * 研修旅行後、簡単なアンケートを取る * -시, -고, 있어요, -고 싶어요, -아/어 주세요
	11 月 (8 回)	[10 課:連用形・体] 国際(異文化)理解ビデオ 2 学期末テスト	* 「戦後補償」「日韓骨髄バンクの提携」に関するビデオ、 KNTV の幼児向け番組ビデオ * 期末テストの答え合わせ
冬休み	課題	* 習った単語と本文およびその翻訳をレポート * 単語 50 問テスト(韓→日) * 2 学期の復習	
3 学期	1 月	『ことばの架け橋』	* -(으)세요 -는데요 * 語尾の種類のまとめ
	2 月 (9 回)	[11 課: 体の尊敬形] 国際(異文化)理解 調理実習 3 学期末テスト	* 調理実習: 미빔밥, 떡국

教科書: 『好きやねんハングル』『ことばの架け橋』『わー通じたハングマル』 高校生のための交流語彙集 500;
副教材: 自主プリント、ビデオ

科目目標と科目内容

高等学校における外国語としての中国語は、高等学校学習指導要領の第2章「普通教育に関する各教科」・第8節「外国語」・第2款「各科目」・第7「英語以外の外国語に関する科目」のなかで、「英語以外の外国語に関する科目については、第1から第6までに示す英語に関する各科目の目標及び内容等に準じて行うものとする」と位置づけられている。目標および内容として、具体的な記述はない。

高等学校において中国語教育が置かれている現状では、英語に関する各科目である、「オーラル・コミュニケーション」、「オーラル・コミュニケーション」、「英語」、「英語」、「リーディング」、「ライティング」に準じた科目設定は難しいため、「学習のめやす」では、「中国語」という科目設定で、それぞれの目標および内容を設定する。

1. 科目目標

中国語の学習を通じて、中国語およびその背景にある文化に対して関心をもって理解を深め、生徒の関心に根ざしつつ、さらに関心を豊かにするような話題について、中国語で情報や考えなどを理解したり表現したりする基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

2. 科目内容

中国語およびその背景にある文化を領域とするコミュニケーション活動を行う。

なお、言語領域および文化領域にでてくる「様々な話題」は、上記の科目目標に示した「生徒の関心に根ざしつつ、さらに関心を豊かにするような話題」のことを指している。具体的な話題については、-2-2.で示す「コミュニケーション能力指標」において、16 の話題分野を設定して提示している。

16 の話題分野とは、自分・友だち・家族、日常生活、学校・教育、交通・旅行、買い物、食、人とのつきあい、余暇・遊び、衣・ファッション、身体・健康、自然環境、住、地域社会、年中行事、中国語と中国、日本語と日本である。

2-1. 言語領域

中国語で以下の言語活動を行う。

話す

- 様々な話題について、中国語で自分の考えや意見及び情報などを、口頭で発表する。
- 対話のなかで、中国語を話して、他の人と情報のやりとりをしたり、感情を表したり、意見を交換したりする。

書く

- 様々な話題について、中国語で自分の考え、意見及び情報などを、書いて発表する。

- 中国語で書かれたもののやりとりのなかで、中国語を書いて、他の人と情報のやりとりをしたり、感情を表したり、意見を交換したりする。

聞く

- 様々な話題について、中国語で話された内容を理解し、解釈する。
- 対話のなかで、中国語を聞いて、他の人と情報のやりとりをしたり、感情を表したり、意見を交換したりする。

読む

- 様々な話題について、中国語で書かれたものを理解し、解釈する。
- 中国語で書かれたもののやりとりのなかで、中国語を読んで、他の人と情報のやりとりをしたり、感情を表したり、意見を交換したりする。

これらの言語活動を行うために必要とされる、中国語に関する知識、すなわち中国語の文字・発音・しくみ(文法/語法、表現、語彙ほか)について理解を深める。

2-2. 文化領域

中国語の背景にある文化および生徒の自文化を中心とする、文化についての理解を深め視野をひろげる。以下の観点から文化理解を行う。

中国語の背景にある文化に対して、関心をもって観察し、事物や行動等の見える文化に気づき、理解を深める。

中国語の背景にある文化に関する様々な話題について、自文化と比較しながら、相違性、共通性、関係性を発見する。

中国語の背景にある文化に関する様々な話題について、自文化と比較してわかった相違性、共通性、関係性の背景にある要因を考察し、グローバルな視点から文化の多様性・可変性に気づく。

他文化に対して尊重の念をもち、他文化に対する固定観念や先入観を客観的にふりかえる。多様な文化間の調整を図ろうとする。

3. 科目内容の取り扱い

中国語の科目内容として示された、中国語およびその背景にある文化を領域とするコミュニケーション活動を行うにあたっては、以下の点に留意して科目内容を豊かにすることが望まれる。

3-1. 中国語とその背景にある文化

中国語科目の学習の対象とする「中国語」と「その背景にある文化」を、「学習のめやす」では以下のようにそれぞれ定義する。

(1) 学習の対象とする中国語とは

国連の六つの公用語のひとつでもある中国語は、中国、台湾、シンガポールなどの国・地域の公用語であり、世界各地に居住する華僑・華人社会も含めれば、その使用人口は 13 億を超える。地理的に広範囲に分布する中国語は方言間の差が大きいいため、北京方言を音韻体系の基準とし、北方方言を基礎方言とする「標準中国語」が共通言語として使われる。この「標準中国語」のことを

中国では「普通話」、台湾においては「国語」と称し、シンガポールでは「華語」と呼んでいる。なお、多民族国家である中国においては、「普通話」は民族間の共通言語としての役割も担っている。

中国語の正書法は漢字であり、台湾においては漢字の字体を簡略化しない「繁体字」が採用され、中国およびシンガポールでは漢字の字体を簡略化した「簡体字」が部分的に採用されている。また、漢字の発音を示すための手段として、「普通話」や「華語」では、「ピンイン」と呼ばれる表音ローマ字綴りが採用され、「国語」では、日本語におけるカタカナのように漢字の一部を使って発音を示す「注音符號」が使われている。日本の中国語教育において「中国語」という場合、通常は「普通話」を指すことが多く、本「学習のめやす」でいう「中国語」も言語的には「普通話」を指している。

言語を構成する要素として「音声・文法・語彙」が挙げられるが、本「学習のめやす」においては、言語は相互理解・相互交流を目的としたコミュニケーション活動の手段として位置づけられ、そのため言語のもつ「コミュニケーション機能」を重視した考えに立っている。すなわち、ここでいう「中国語」には、日本語話者である学習者が、中国語による円滑なコミュニケーションを行うため、という目的が明確に意図されている。より具体的には「どのような状況で、何を、どう表現するか」という観点で重視され、こうした観点は、「文化」と密接につながっている。その意味では「中国語」は、言語教育の要素としてのみ捉えられているのではなく、異文化教育の一環として位置づけられており、本「学習のめやす」における「中国語」には、話者のもつ「文化」の表れとしての「中国語」という意味合いが含まれている。

(2) 中国語の背景にある文化とは

「文化」という概念は多義的かつ重層的であるが、本「学習のめやす」においてはコミュニケーション活動をより効果的に行うために必要な、当該言語話者の生活様式や行動様式、価値観や考え方、感じ方など生活体系全体を「文化」の具現化したものとして考えている。コミュニケーションは言語的な要素だけでなく数多くの非言語的要素(身振り・表情・姿勢・服装・習慣的行動など)から構成されており、言語活動に付随するそうした非言語的要素も「文化」の範疇に入るものである。

「中国語」話者は中国大陸に居住する漢民族に限定されず、その「文化」の表れは様々ではない。中国語話者の居住する地域・年齢・性別等により異なり、また同一の個人においても、状況に応じて異なった「文化」的な振る舞いを採ることは、我々の日本語における言語生活を顧みれば明らかである。注意しておかなくてはならないことは、こうした「文化」的要素をステレオタイプ的に捉えたり、自文化と比べた場合に目に入る表面的な行為の違いとして一般化することは、円滑なコミュニケーションを行うためには、むしろマイナス面に働く場合があるということである。たとえば、「初対面の挨拶」という場において、「中国語」話者は「握手」という行動をとるという理解では不十分であり、通常男性から女性に対して握手を求めることはまれである。

コミュニケーションを円滑に行うためには、こうした「文化」的要素をルールとして理解するのみではなく、コミュニケーション活動の場において、ルールに適した行動が実現される必要がある。本「学習のめやす」においては、高校生にとって身近であろうと想定されるコミュニケーション場面において現れる「文化」が取り上げられている。つまり、日常生活の様々な場面に現れる「文化」的要素が、言語活動とリンクする形で提示されることになる。

3-2. 学習・教育方法の工夫

コミュニケーション活動を積極的に行うために、学習者志向で学習者参加型の活動を導入する。活動例としては、以下のようなものが挙げられる。具体的には、「 -2-2. コミュニケーション能力指標」(pp. 86-117)、「 -3-3. 単元指導案例」(pp. 130-145)、「 -3-5-2. 効果的な学習活動の導入」(pp. 157-160)でそれぞれ例示している。

歌、図画工作、踊り、劇、ゲーム、買い物、料理、調査、インタビュー、写真撮影、ビデオ収録、ロールプレイ、シミュレーション、ディベート、ディスカッションなどの活動の導入

写真、テープ、ビデオ、映画、実物教材(レリア)などの活用

母語話者との交流:手紙・資料・カセットテープ・ビデオテープ・ファックス・電子メールなどの交換、ホームページ・電子会議による交流、ゲストの教室受入れ・訪問、国際会議(世界教室)、共同授業・共同研究の実施など

3-3. 他教科・領域との連携

科目の内容を豊かなものにし学習の相乗効果を高めるために、中国語を国語、社会、総合的学習の時間(国際理解教育)などの他教科・科目や領域と連携させ、他教科・領域の内容を積極的にコミュニケーション活動に導入する。「 -3-6. 他の教科や教室内外の連携」(pp. 160-163)に具体的な連携例を示している。

3-4. 教室の内外の連携

科目の内容を豊かなものにするために、教室内の活動にとどまらず、教室外から情報を得たり、外部機関、地域社会、他の学校、対象言語話者などと積極的に連携したり、交流などを実施したり、学習成果の発表の場を作ったりしてコミュニケーション活動を行う。「 -3-6. 他の教科や教室内外の連携」(pp. 160-163)に具体的な連携例を示している。

・ 学習目標と学習内容

「学習のめやす」においては、高校生として身につけたい中国語を使ったコミュニケーション能力の向上を目標とした授業づくりをめざして、前章で示した中国語科目の目標と内容に基づき、学習目標と学習内容を以下のとおり設定する。

1. 学習目標

外国語の教科目標(-1.)および中国語の科目目標(-1.)において示した目標は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成、自分の考えなどを表現する能力の養成、情報や相手の意向などを理解する能力の養成、言語や文化に対する理解、の四つの内容から構成されており、それらの目標が、以下の学習目標となる。「学習のめやす」では、コミュニケーションは言語領域と文化領域から成るという考え方にもとづき、文化領域の学習についても言語領域の学習と同じように、四つの目標のなかに位置づけている。すなわち、言語の背景にある文化についても関心をもって学び、異なる文化的背景をもつ相手に対しても積極的にコミュニケーション活動を行おうとする態度を形成すること、文化的背景のなかで言語を表現したり理解したりすること。そして文化を理解することについても、目標言語の背景にある文化について知識を得ることだけを目標とするのではなく、それらを学ぶことをとおして、自らの文化ひいては文化そのものについての理解を深め、新鮮な発見や比較によって考える力、文化を捉える視点を獲得して視野を広げていくことを目標としている。

コミュニケーションへの関心・意欲・態度

中国語およびその背景にある文化に対して関心を持ち、積極的にコミュニケーション活動を行おうとする。

表現の能力

中国語を用いて、情報や考えなど伝えたいことを話したり、書いたりして、中国語の文化的背景の中で表現する。

理解の能力

中国語を聞いたり、読んだりして、情報や話し手や書き手の意向など相手が伝えようとするものを、中国語の文化的背景の中で理解する。

言語や文化についての知識・理解

中国語の学習を通じて、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、言語の背景にある文化を理解する。言語の知識とは、言語の文字・発音・しくみ(文法/語法+表現+語彙ほか)についての知識をさしている。

2. 学習内容と学習到達目標

平成 11 年に高等学校中国語教育研究会が発表した『高校中国語教育のめやす 平成 11 年度版』は、高校中国語教育の目標を、次のように記述している。1) 中国語の音声上の特徴を考慮し、発音指導を重視して中国語の基礎的な能力を養う。2) コミュニケーション能力の養成を図り、国

際理解・異文化理解を深める。11年度版のめやすでは、この目標を達成する材料として、文法項目と語彙を示したが、中国語の基礎的な能力やコミュニケーション能力、国際理解・異文化理解の内容を示すものではなかった。

「学習のめやす」においては、高校生として身につけたい中国語を使ったコミュニケーション能力の向上を目標とした授業づくりをめざして、上記の学習目標を達成するための具体的な学習内容と学習到達目標を示すことにした。これを「コミュニケーション能力指標」とよぶことにし、「2. 科目内容」で示したように、言語領域と文化領域の二つの領域について、話題分野別に設定することにした。言語領域については、さらにレベル別の「言語運用能力指標」を提示している。これらの指標は中国語学習目標や授業計画を設定するための材料と言うこともできる。

2-1. コミュニケーション能力指標とは

生徒の学習への動機づけや意欲を高め、生徒が主体的にコミュニケーション活動に参加できるようにするためには、第一に、生徒に対して、中国語を使ってどのようなコミュニケーション活動ができるようになるのか、学習の到達目標を明確にしてあげることが重要である。第二に、コミュニケーション活動が生徒にとって意味のある内容で行われることが必要である。

こうした観点に立って、「学習のめやす」では、生徒の興味や関心に根ざした身近な話題や、生徒の関心を広げ豊かにするような話題、また同世代の中国語話者と交流することを念頭においた話題などを選定している。それらの話題分野の内容に沿って、教室内だけでなく、日本国内および海外で、生徒が中国語を使用する場面や状況を想定しながら、コミュニケーション能力指標を作成した。具体的な話題を設定することで、具体的な言語活動や文化学習の目標および内容が明確になるといえる。

具体的な話題については、後述する16の話題分野を設定している。話題分野の妥当性および優先度については、今後の教育現場からのフィードバックを得て検討していきたい。

コミュニケーション能力指標のうち言語領域については、言語運用能力指標(以下「指標」という)として、学習の到達目標を4段階のレベルに分けて設定した。「指標」の作成にあたっては、まず全ての話題分野に共通する一般指標を4段階のレベルで設定し、その一般指標に基づいて話題分野ごとに4段階のレベル別の「指標」を提示している。レベルを設定するにあたっては、欧米各国の先行研究および指標を参考にしながら、日本の高校生にあったレベルを設定した。参考例は巻末資料に挙げた。これらの「指標」の妥当性および「指標」のなかの優先度については、今後広く議論を行い、多くの現場で共有できる優先度の高い「指標」と、教育現場の状況に応じて選択できるような「指標」を併せ持つ、弾力性のある指標に成長させていく必要があると考えている。

また、言語運用能力指標に示した学習内容および学習到達目標を達成するためには、学習活動、表現、語彙が必要であるが、「学習のめやす」では、それぞれの「指標」について学習活動例、表現例、語彙例を示した。あくまでも参考例である。表現例では、文法項目の配列を重視した従来の教授法に囚われずに、高校生にとって必要度が高く意味のある表現は、言語のしくみとしての難易度には拘わらず提示している。学習の初期の段階では、言語のしくみの説明は必要最小限に抑え、よく使う表現は慣用句や定型表現として覚えて実際の場面で使えるようにし、その能力をもとに、

その後の学習段階で言語のしくみの理解を深めていくことを含め、弾力的な教授法の導入が必要となろう。言語のしくみの説明については、「表現例のポイント」で記述している。

文化領域については、各話題分野に沿って、文化理解の対象としてふさわしい文化事象を話題例として提示している。これらの話題例を、「 -2.科目内容」の文化領域(p. 78)で示した文化理解の観点から学習することが目標とされる。

2-1-1. 話題分野

コミュニケーション能力指標は、「 -2. 科目内容」において言及されている「話題分野」ごとに示した。話題分野は、高校生が関心を持っている、あるいは中国語の学習を通して高校生がさらに関心を持つであろう16の分野を設定した。

- 1.自分・友だち・家族
- 2.日常生活
3. 学校・教育
- 4.交通・旅行
- 5.買い物
- 6.食
- 7.人とのつきあい
- 8.余暇・遊び
- 9.衣・ファッション
- 10.身体・健康
- 11.自然環境
- 12.住
- 13.地域社会
- 14.年中行事
- 15.中国語と中国
- 16.日本語と日本

16の話題分野は、高校生にとって身近なところから広がりをもつように並べたが、これは教える順を示したものではない。また、すべてを取り上げなくてはならないということではない。

2-1-2. 言語領域の指標

コミュニケーション能力指標の言語領域の記述は、(1)「指標」、(2)学習活動例、(3)表現例、(4)表現例のポイント、(5)語彙例で構成されている。

(1)「指標」

外国語教育における言語運用能力指標の先行例を参照しながら、ほとんどの学習者の母語である日本語、学習対象言語である中国語の特色、高等学校における中国語教育の現状(1単位から28単位)を考慮し、4段階のレベルを設け、すべての話題分野に共通する一般指標(p. 85表1参照)を設定した。指標作成にあたっては、できるだけ各レベルに話す、書く、聞く、読む(一方向、双方向を含む)が入るように工夫した。

話題分野別の「指標」は、この一般指標に基づいて、各レベルでどんなことができるようになるかを具体的に示したものである。同一レベル内の「指標」につけられているアルファベットは、学習の順番を示すものではない。

(2) 学習活動例

生徒たちができるだけ多くの学習活動に参加することを通じて、コミュニケーション能力を身につけていくことが望ましいとの考えから、「指標」ごとにそれを達成するための学習活動例を示した。学習者が意欲的に参加できる活動になるよう心がけた。「 -3-3. 単元指導案例」(pp. 130-145)と「 -3-5-2. 効果的な学習活動の導入」(pp. 157-160)でもいくつかの活動を紹介している。

(3) 表現例

「学習のめやす」作成に関わったメンバーの教授経験や高校生を対象とした教科書などの分析から、「指標」を達成するためにふさわしいと考えられる表現例を提示した。語句の使い方や文型など言語のしくみを教えるためのものではなく、実際の生活場面でよく使われる、高校生が使うであろうと思われる自然な表現を取り上げている。そのため、従来は言語のしくみやその難易度によって

教える順番や項目が設けられることが多かったが、「指標」では、こうしたことに囚われずに、「指標」を達成するために必要かどうかを基準に判断した。なお、必ずしも「指標」と表現例は1対1の対応にはなっておらず、複数の表現例がある「指標」もある。また、「指標」が語彙レベルの理解である場合は、表現例には記載せず、語彙例の欄に示している。

(4) 表現例のポイント

表現例の中で、とりあげたらよいと思われる文型、語句の使い方、表現の要点などを示した。当該レベルの学習において、ここに挙げた項目すべてを説明しなければならないということではないし、言語のしくみとして説明することが難しい表現例については、語彙あるいは定型表現として学習することを前提としている。なお、学習環境に応じて項目を加えることも考えられる。レベル1と2では語句の使い方をできるだけ文型で示した。文法用語や品詞名については、原則として『高校中国語教育のめやす平成11年度版』(全国高等学校中国語教育研究会)に従っている。

(5) 語彙例

話題分野ごとに、コミュニケーション活動によく使われると思われる語句を例示した。ここに挙げた語句をすべて学習しなければならないということではない。また、ここに挙げられていない語句についても、担当教師が学習環境に応じて加えることも考えられる。なお、複数の分野で使用されると思われる語句については、一般語彙としてp. 122に示した。

2-1-3. 文化領域

文化領域では、各話題分野におけるコミュニケーション活動を行うために必要だと思われる、文化的背景、文化事象を話題例として示した。「2-2. 科目内容」の文化領域(p. 78)で示したように、これらの文化的背景や事象をステレオタイプの知識や行動として教えるのではなく、生徒自らが、自文化と対象文化、あるいは他文化と比較しながら、その共通性や相違性、関係性を考えることを経て、自他の文化理解を深め、文化の多様性や可変性などの視点に気づくことをめざしている。こうした学習を通して、異文化に対する寛容な態度や多文化的な視野の形成をはかり、多文化間の調整能力を身につけることが、コミュニケーション能力の向上につながると考えている。また、言語領域におけるレベル別「指標」、それを達成するための学習活動例、表現例および語彙例は、文化領域の内容を考慮しながら作成した。

2-1-4. 評価

現行の高等学校生徒指導要録(平成13年4月)において、普通教育に関する各教科の評価の観点及びその趣旨が定められている。外国語科の評価の観点は、(1)コミュニケーションへの関心・意欲・態度、(2)表現の能力、(3)理解の能力、(4)言語や文化についての知識・理解の四つである。本「学習のめやす」では、「2-1. 学習目標」で示した学習目標の到達度を評価するということから、その観点は、(1)言語領域および文化領域を含むコミュニケーションへの関心・意欲・態度、(2)文化的背景の中での表現の能力、(3)文化的背景の中での理解の能力、(4)言語や文化についての知識・理解となる。指導と評価の一体化の考え方から、学習内容と学習到達目標を示したコミュニケーション能力指標を踏まえて、観点別評価をすることを想定している。具体的な評価例については、「2-3-3. 単元指導案例」(pp. 130-145)を参照されたい。

2-2. コミュニケーション能力指標(案):中国語

次ページ以降に示しているのが、16 の話題分野ごとのコミュニケーション能力指標である。なお、4 段階のレベル別の「指標」は、表 1 の一般指標にもとづいて作成した。

[表 1] 一般指標

1	基本的な言い回しを使って伝えたり、相手の協力を得ることができれば、簡単なやりとりができる。 よく耳にしたり目にしたりする、文や語句のうちごく基本的なものを理解することができる。
2	話者が想定している範囲で、学んだ文や語句から選択して、相手の協力を得ることができればやりとりができる。 よく耳にしたり目にしたりする、文や語句を理解することができる。
3	学んだ文や語句を使って、相手の協力を得ることができれば状況に応じてある程度創造的なやりとりができる。自分の意見や感情を伝えることができる。ある程度まとまった文章を、辞書の助けを借りながら読んで大意を理解できる。
4	話者が想定していない状況においてもなんとか対応ができる。ある程度まとまった内容についてより適切な文や語句を使って話したり、書いたりできる。ある程度まとまった文章を読んで大意を理解することができる。

自分・友だち・家族

言語領域	レベル	指標	学習活動例	表現例	表現例のポイント	語彙例
	1	(a)自分の名前、学校名や学年、年齢、誕生日、干支、国籍、出身、住んでいるところを言ったり、相手にたずねたりすることができる。 (b)自分の名前、愛称、学校名や学年、年齢、誕生日を書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介カードを書く。 カードに書かれた情報をもとに自分や友達の紹介をする。 クラスメンバーにインタビューする。 	(1)我姓山田。 (2)我叫山田太郎。 (3)您贵姓？ (4)你叫什么名字？ (5)我是高中生。 (6)我是札幌国际高中的学生。 (7)你是几年级的学生？ (8)大家叫我“小新”吧。 (9)他的外号叫“火腿”。 (10)今年十六岁。 (11)你多大了？ (12)你今年多大岁数？ (13)我是日本人。 (14)你家在哪儿？ (15)我家在川口市。 (16)他是大阪人。 (17)我的生日是十月十九号。 (18)你的生日几月几号？ (19)你属什么？ (20)我属猪。	<ul style="list-style-type: none"> 人称代詞 姓名のたずね方・答え方 A“是”B “的” “叫”+人+名称 年齢のたずね方・答え方 “……在哪儿？” “在” 出身の言い方 月日のたずね方・答え方 “什么” “属”+生肖 	姓 游泳 叫 滑雪 姓名 滑冰 名字 滑旱冰 外号 唱 日本人 歌 中国人 看 家里人 电影 家庭 书 家 听 爷爷 音乐 奶奶 弹 老爷 钢琴 姥姥 吉他 伯伯 拉 叔叔 小提琴 姑姑 中提琴 舅舅 大提琴 姨妈 二胡 爸爸 古筝 父亲 学 妈妈 书法 母亲 跳舞 哥哥 旅行 弟弟 想 姐姐 当 妹妹 将来 年 理想 月号 未来 日 梦 生日 个子 岁 高 大学 矮 高中 大 初中 认真 小学 开朗 年级 严厉 学生 亲切 高中生 外向 内向
	2	(a)自分の家族(構成、職業)について話したり、簡単に書いたりできる。 (b)相手の家族についてたずねることができる。 (c)自分の好きなことや趣味を言ったり、簡単に書いたりできる。 (d)相手に好きなことや趣味をたずねることができる。 (e)どんなペットを飼っているかやペットの名前を言うことができる。 (f)持ち物(通学時のカバンに入っているようなもの)について言ったり、相手にたずねることができる。	<ul style="list-style-type: none"> クラスメンバーにインタビューする(架空の家族を設定したカードを配っておこなう)。 簡単な自己紹介フォームをつくって、中国の高校生にメールが手紙で送る。 簡単な質問文をつくって中国の高校生にメールが手紙で送る。 	(1)我家有四口人,爸爸、妈妈、妹妹和我。 (2)你家有几口人？ (3)爸爸是公务员。 (4)妈妈在银行工作。 (5)你叔叔做什么工作？ (6)我的爱好是打篮球。 (7)我喜欢章子怡。 (8)我喜欢踢足球。 (9)你的爱好是什么？ (10)你喜欢什么？ (11)你喜欢看电影还是喜欢看电视？ (12)我家养了一只狗,它叫小黑。 (13)你有手机吗？ (14)我没有词典。	<ul style="list-style-type: none"> “和” “几”+量詞+名詞 “在”+場所+動詞 “什么”+名詞 “喜欢”+名詞 “喜欢”+動詞+目的語 A“还是”B？ 人+“有/没有”+もの ものを数える単位 	弟弟 旅行 想 当 姐姐 将来 妹妹 理想 年 未来 月号 梦 日 个子 生日 高 岁 矮 大学 大 高中 认真 初中 开朗 小学 严厉 年级 亲切 学生 外向 高中生 内向

言語領域	3	(a)将来の職業や希望について話したり、たずねたりできる。 (b)自分の経験(～をしたことがある / ～をどのくらい長くしている)について話したりたずねたりできる。 (c)得意なこと、不得意なことについて話したりたずねたりできる。 (d)家族と自分の関係(年齢差)や家族の特徴について話したり、たずねたりできる。	・クラスをいくつかのグループに分け、お互いにインタビューし、その結果をまとめ、グループごとに発表する。(希望する職業のベストテン、外国旅行先、特技など)	(1)我想当汉语老师。 (2)上完高中,我想考艺术院校。 (3)我想在大学学经济,然后去美国留学。 (4)你将来想当什么? (5)你的理想是什么? (6)我去过北京。 (7)我学了五年钢琴。 (8)我不会游泳。 (9)你会不会游泳? (10)你妈妈很会做菜。 (11)我唱得不好。 (12)妈妈做菜做得没有爸爸好。 (13)我比哥哥高。 (14)我姐姐比我大两岁。 (15)我弟弟个子很高。	・助動詞“想” ・結果補語 動詞+“完” ・接続詞“然后” ・アスペクト助詞“过”(経験) ・アスペクト助詞“了”(実現) ・動詞+継続時間+目的語 ・助動詞“会”(可能) ・反復疑問句 ・状態補語 ・比較表現 ・主述述語句	初中生 中学生 大学生 小学生 老师 鼠 牛 虎 兔 龙 蛇(小龙) 马 羊 猴 鸡 狗 猪 猫 小鸟 只 口 公司职员 家庭主婦 教师 护士 医生 大夫 律师 空姐 工作 爱好 喜欢 打 篮球 排球 网球 棒球 羽毛球 保齡球 乒乓球 踢足球	活泼 课本 本子 词典 铅笔 自动铅笔 圆珠笔 钢笔 手机 钱包 眼镜 镜子 手表
	4	(a)自分や家族の性格、日常の様子について話することができる。 (b)自分の将来の夢や希望について理由を含めて話することができる。 (c)将来の夢や希望について書かれた文章を読んで大意を理解することができる。 (d)自分のおいたちについて書いたり話することができる。 (e)おいたちについて書かれた文章を読んで大意を理解することができる。	・スピーチ原稿をつくる。 ・中国の高校生が書いたおいたちや将来の夢に関する文章を読む。	(1)我爸爸很严厉。他工作很认真。 (2)我想给更多的人带来感动,所以想当一名演员。 (3)我是大阪人,小学四年级的时候搬到东京。小时候身体比较弱,自从上中学参加了篮球俱乐部以后,身体好多了。	・“给……带来”+もの ・副詞“更” ・接続詞“所以…” ・“……的时候” ・副詞“比较” ・結果補語 動詞+“到” ・“……多了。”		
文化領域	話題例						
	(1)自己紹介の仕方 (2)名前にまつわること(名前のつけ方、夫婦別姓、多い名前、愛称など) (3)相手に対する呼びかけ方 (4)家族に対する呼びかけ (5)歳の教え方(満と教え) (6)子 (7)家族の形態(一人っ子政策、共稼ぎ、単身赴任など) (8)家族や親戚とのつながり (9)若い人たち(高校生)が好きなこと (10)高校生に人気のある職業 (11)家族それぞれの役割						

日常生活

言語領域	レベル	指標	学習活動例	表現例	表現例のポイント	語彙例
	1	(a) 1日の生活の中で使う基本的なあいさつが言えたり、聞いて理解できる。 (b) 1日の生活(何時になにをするか)について簡単に話したりたずねたりできる。 (c) 日常的な行動(1週間単位)について簡単に話したりたずねたりできる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の一日の過ごし方を発表する。 何時に何をするか会話練習をする。 	(1)早上好! (2)我走了。 (3)你回来了。 (4)小心点儿。 (5)我每天六点半起床。 (6)我两点四十五分下课。 (7)你几点吃午饭? (8)星期四我参加足球队的训练。 (9)星期二晚上你做什么?	<ul style="list-style-type: none"> 時刻の表し方 時間を表す言葉+動詞 “几点”+動詞(+目的語)? 曜日と言い方 “的” “什么” 	起床 洗脸 刷牙 洗澡 洗淋浴 换衣服 校服 睡衣 铺床 睡觉 吃 早饭 午饭 晚饭 去 学校 上课 放学 下课
	2	(a) 日常的な行動(1日単位、1週間単位)について頻度、時間の長さなどを含めて話したりたずねたりできる。 (b) 1週間単位の予定を簡単に書くことができる。 (c) 日常生活の様子を表現したりたずねたりできる。	<ul style="list-style-type: none"> インタビューをする。 日記を書く。 一週間の予定を手帳に書く。 	(1)星期天早上我常常带狗去散步。 (2)每个星期六下午我都去补习学校上课。 (3)每个星期天你做什么? (4)你每天睡几个小时? (5)我每天看两个小时电视。 (6)我有时候和朋友一起去逛街。 (7)你起得很早啊! (8)你每天睡得晚不晚? (9)晚上你在家做什么? (10)下课以后,我经常去图书馆。 (11)晚上我帮妈妈做家务。 (12)我学习非常紧张。 (13)高中生活非常愉快。 (14)你最近怎么样? (15)还行。/还可以。	<ul style="list-style-type: none"> “常常” “每” “都” 時間の長さの表し方 “去”+場所+動詞 動詞+継続時間+目的語 “有时候” “和”+人+“一起”+動詞 動詞+“得”(+副詞)+形容詞: 状態補語 助詞“啊”(感嘆) “在”+場所+動詞 “……以后” “帮”+人+動詞 主述語句 “怎么样” 	参加 课外活动 补习学校 玩儿 打工 唱卡拉OK 回家 看电视 报 书 杂志 漫画 动漫 写 信 跑步 散步 做作业 做饭

言語領域	3	(a)自分の生活について感想や希望を含めて書いたり話したりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活の様子を手紙文形式で書く。 ある日の出来事や感じたことを書いた文をクラスで発表する。また、クラスメートの発表内容を聞き取る練習をする。 	<p>(1)每天参加俱乐部的活动, 忙得不得了。</p> <p>(2)放学后要参加俱乐部的活动或者去补习学校上课, 很晚才回家, 总是十二点以后才睡。所以, 有时上课时常常打盹。</p> <p>(3)我把座右铭贴在墙上。</p> <p>(4)我把喜欢的歌手的照片贴在墙上。</p> <p>(5)我想安安静静地看看书, 听听音乐。</p>	<ul style="list-style-type: none"> “不得了” 副詞“才” 接続詞“所以” 助動詞“要”〈心理〉 接続詞“或者” 副詞“总是” “把”構文 動詞+“在”+場所 助動詞“想” 動詞の重ね型 形容詞の重ね型 構造助詞“地” 	上网 发短信 愉快 紧张 忙 休息 早上 上午 中午 下午 晚上 夜里 经常 常常 有时候 月 号 日 每天 每 星期 礼拜 周 星期一 星期二 星期三 星期四 星期五 星期六 星期天 星期日 点 分
	4	レベル4を設定しない				
文化領域	話題例					
	<p>(1)1日の生活の中で、どんな時に誰にどんな挨拶をするか</p> <p>(2)高校生の1日の過ごし方、1週間の過ごし方</p> <p>(3)家での時間の過ごし方</p> <p>(4)放課後の過ごし方</p> <p>(5)アルバイト事情（アルバイトをする・しない、どんなアルバイトをするか）</p> <p>(6)習いごと事情（どこでどんなことを習うか）</p>					

学校・教育

レベル	指標	学習活動例	表現例	表現例のポイント	語彙例
1	(a)学校の名前を言ったりたずねたりできる。 (b)勉強している科目を中国語で言える。 (c)中国語で書かれた時間割や年間スケジュールを見て理解できる。 (d)教室にあるものや学校の設備などを言ったり書いたりできる。	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介をする。 教室の中にあるものを指して、中国語で言ってみる。 	(1)我是横浜第三高中的学生。 (2)我学习汉语。 (3)我们学校有食堂。 (4)教室里没有空调。	<ul style="list-style-type: none"> A“是”B “的” 場所+“有/没有”+もの “……里” 	义务教育 幼儿园 小学 初中 高中 中学 高等学校 大学 年级 班 补习学校 上学 留学 升学 食堂 操场 体育馆 游泳池 图书馆 办公室 教室 小卖部 校歌 校规 校训 学生食堂 课本 黑板 桌子 椅子 词典 铅笔 圆珠笔 钢笔 校长 副校长 老师 班主任 班会 板报 体育 劳动 外语 英语 汉语 日语 韩语 法语 德语 俄语 西班牙语 意大利语 早自习 晚自习 团队活动 眼保健操 课外活动 学习 复习 预习 功课 三好学生 班长 值日生 课间操 少年宫 科技中心
2	(a)参加している部活動を言ったりたずねたりできる。 (b)授業の科目についての好き嫌いや興味のあるなしについて言ったりたずねたりできる。 (c)1日の学校生活スケジュールについて話したりたずねたりできる。 (d)学校の年間スケジュールについて簡単に説明したりたずねたりできる。 (e)クラスの人数や男女の数、学校の場所や規模、先生について言ったりたずねたりできる。	<ul style="list-style-type: none"> 2人ずつペアになって相手の部活動や好きな科目等をインタビューしあい、クラスで発表する。 中国の高校生との交流会という設定で、学校生活について会話練習をする(実際に交流会を開く)。 	(1)我参加足球俱乐部的活动。 (2)我喜欢英语，不喜欢数学。 (3)一天有几节课？ (4)一节课有多长时间？ (5)星期几有汉语课？ (6)你们学校从几月几号开始放暑假？ (7)我们学校九月有运动会，十一月有文化节。 (8)你们学校有什么课外活动？ (9)我们班有三十八个学生。 (10)我们学校在上野。 (11)你们学校有多少学生？ (12)你们班有几个男同学？ (13)谁教你们汉语？	<ul style="list-style-type: none"> “喜欢” “不” “有” “几” “节” “……有多长时间？” 前置詞“从” “什么”+名詞 “个” “在” “多少”+名詞 “教”+人+名詞 	游泳池 图书馆 办公室 教室 小卖部 校歌 校规 校训 学生食堂 课本 黑板 桌子 椅子 词典 铅笔 圆珠笔 钢笔 校长 副校长 老师 班主任 班会 板报 学习 复习 预习 功课 三好学生 班长 值日生 课间操 少年宫 科技中心

言語領域	3	<p>(a)学校内の配置について説明すること(簡単な学校案内)ができる。</p> <p>(b)自分の学校生活について(授業、先生、クラス等)、内容や感想を述べることができ、簡単な文が書ける。</p> <p>(c)学校行事について簡単に話したり書いたりできる。</p> <p>(d)中国語で書かれた簡単な学校案内を、辞書の助けを借りて大意を理解することができる。</p> <p>(e)交流先の高校で(または中国からのお客様の歓迎で)簡単なスピーチができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中国からお客様がいらした(訪問団・同世代の交流等)、という設定で校内を案内する。 (教室の掲示板等に)年間行事予定を中国語で書く。 	<p>(1)音楽教室在三楼。</p> <p>(2)小売部在食堂后边。</p> <p>(3)教学楼的左边是图书馆。</p> <p>(4)请这边走。</p> <p>(5)汉语课真有意思。</p> <p>(6)我们老师非常亲切,你们老师呢?</p> <p>(7)我们学校是北京的重点校。</p> <p>(8)我们学校已经有一百多年的历史了。</p> <p>(9)欢迎你们来参观我们学校。</p> <p>(10)我把学校的情况给大家介绍一下儿。</p> <p>(11)做完自我介绍,我带大家去参观校园。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 位置や方向の表し方 助詞“呢” 副詞“已经” 助詞“了”〈変化〉 “把”構文 前置詞“给” 動詞+“一下(儿)” 結果補語 動詞+“完” 連動文 	<p>家长</p> <p>家长会</p> <p>男生</p> <p>女生</p> <p>同学</p> <p>少年宫</p> <p>高考</p> <p>学生会</p> <p>课堂</p> <p>课程表</p> <p>开学典礼</p> <p>入学典礼</p> <p>毕业典礼</p>
	4	<p>(a)学校の概要および特色を説明する学校案内を作ることができる(学科、校訓、制服の有無、年間行事スケジュール、校則など)。</p> <p>(b)日本の教育制度(義務教育、進学など)について簡単に説明することができる。</p> <p>(c)日中両国の学校生活や教育制度について書かれた文章を読んで自分の意見を述べたり、ディスカッションできる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校案内の中国語版を作成する。 中国語壁新聞(“板报”)を作成する。 「制服はあったほうがよいか」、「必要な校則、不要な校則」など、テーマを決めてディスカッションする。 自分の学校生活について書いて発表する。 	<p>(1)日本の高中和中国の高中有什么不同的地方?</p> <p>(2)日本の高中一般有校服,但是我们学校没有校服。</p> <p>(3)中国的高中也有校歌吗?</p> <p>(4)日本の义务教育是九年制,小学六年,初中三年。</p> <p>(5)二〇〇六年日本高中生的大学升学率是49.3%。</p> <p>(6)今年夏天我去中国短期留学时的感想,用一句话来说,就是“百闻不如一见”。</p> <p>(7)我觉得中国的学生从早到晚只知道学习,考大学的负担很重。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 副詞“一般” 接続詞“但是” 副詞“也” %の言い方 副詞“就” “觉得” “从~到...” 副詞“只” 	<p>运动会</p> <p>长跑</p> <p>马拉松</p> <p>文化节</p> <p>考试</p> <p>笔试</p> <p>面试</p> <p>期末考试</p> <p>期中考试</p> <p>修学旅行</p> <p>春游</p> <p>成绩单</p> <p>成绩</p> <p>学生证</p> <p>必修课</p> <p>选修课</p> <p>放假</p> <p>暑假</p> <p>寒假</p> <p>语文</p> <p>数学</p> <p>化学</p> <p>物理</p> <p>生物</p> <p>历史</p> <p>政治</p> <p>德育</p> <p>地理</p> <p>美术</p> <p>音乐</p>
文化領域	話題例					
	<p>(1)学校教育制度</p> <p>(2)授業科目や時間割(始業時刻や一時間の長さ、授業科目)</p> <p>(3)授業外の活動(部活動、ボランティア活動など)</p> <p>(4)生徒数やクラスサイズ</p> <p>(5)学校行事</p> <p>(6)学校の設備</p> <p>(7)教室にあるもの(掲示物など)</p> <p>(8)受験・進路</p> <p>(9)生徒会、学級委員など生徒の活動</p> <p>(10)PTA</p> <p>(11)校則や校歌</p> <p>(12)先生と生徒の関係</p>					

交通・旅行

レベル	指標	学習活動例	表現例	表現例のポイント	語彙例
1	<p>(a)行きたい場所を言うことができる。 (b)駅や空港の案内表示(例：“开往西安”“售票处”“进站口”“入境”)を見て理解できる。 (c)普段通学などで利用する交通機関について言ったりたずねたりできる。 (d)目的地と枚数を言って切符を買うことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 通学に利用する交通手段についての会話練習をする。 中国の駅や空港の写真を見て、案内表示が簡体字でどう書かれているかを発表する。 日本国内の駅や空港等における中国語表記を探して発表する。 	<p>(1)我想去上海。 (2)去北京大学。 (3)你每天怎么来学校？ (4)我坐地铁上学。 (5)我骑自行车去学校。 (6)我走着去学校。 (7)三张，到天津的票。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 助動詞“想” “怎么”+動詞 “坐”+交通手段+動詞 “张” 	<p>坐 美丽 上 漂亮 飞机 感动 船 火车 电车 地铁 新干线 公共汽车 公交车 出租汽车 的士 骑 自行车 摩托车 站</p>
2	<p>(a)目的地までの所要時間について言ったりたずねたりできる。 (b)目的地までの交通機関、ルートについて話すことができる。 (c)旅行計画(いつ、どこへ、誰と、何日くらい)について言ったりたずねたりできる。 (d)今までに行ったことのある場所についての簡単なやりとりができる。 (e)地図を見せながら目的地までの道順をたずねることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> お店や公共の建物の位置を示した地図を A、B2 種類用意し、B の地図を持っている人は、A の地図を持っている人に 行きたい場所(A にあって B にはない)までの道順を尋ねる。たずねる側と答える側を交換して同様におこなう。 地図、ガイドブック等を用意し、旅行の計画を立てる。立てた計画を中国語で発表する。 	<p>(1)从你家到车站要多长时间？ (2)你在哪儿上车？ (3)我在新宿站坐山手线到涩谷。 (4)在涩谷倒车。 (5)这个暑假你打算去哪儿？ (6)你跟谁一起去？ (7)祝你一路平安！ (8)你去过迪斯尼乐园吗？ (9)去过几次？ (10)是跟朋友一起去的吗？ (11)到车站怎么走？ (12)要走多长时间？</p>	<ul style="list-style-type: none"> “从～到…” “……要多长时间？” “在”+場所+動詞 “哪儿” “打算”+動詞 “跟”+人+“一起”+動詞 “谁” “祝……！” アスペクト助動詞“过”(経験) “……吗？” “几” “次” “是……的” 助動詞“要”(必要) 	<p>入境 出境 海关 票 月票 门票 单行线 进站口 检票口 出口 站台 月台 快车 慢车 去 旅行 北京 上海 杭州 苏州</p>

言語領域	3	<p>(a)目的地までの道順を説明したり、聞き取ることができる。</p> <p>(b)旅行について感想を含めて話したり簡単な文章を書くことができる。</p> <p>(c)観光地の案内プレートや解説文、ガイドブックを見て、辞書の助けを借りて大意を理解することができる。</p> <p>(d)ガイドさんの説明を聞いてある程度理解することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ガイドブックやインターネットなどを利用し、中国語で書かれた観光地の解説文を読む。 写真付きの簡単な旅行記を作る。 日本に来た中国のお客さんを案内するという設定で、身近な観光名所について中国語で説明する練習をする。 	<p>(1)从这儿一直往前走，到了第三个十字路口往右拐，再走五分钟左右，路左边就是超市。</p> <p>(2)今年夏天我去西安参观了兵马俑博物馆。那儿的情景真动人。</p> <p>(3)兵马俑是1974年3月发现的，被认为是古代的奇迹，是当代最重要的考古发现之一。1987年被联合国教科文组织列入世界文化遗产名录，并被誉为“世界八大奇迹”。</p> <p>(4)这就是举世闻名的兵马俑，每个陶俑的装束、神态都不一样。具有鲜明的个性和强烈的时代特征。这批兵马俑是雕塑艺术的宝库，为中华民族灿烂的古老文化增添了光彩。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前置詞“往” 接続詞“再” 副詞“就” 連動詞 前置詞“被” “……之一” 前置詞“为” 	<p>西藏 新疆 西安 青岛 厦门 成都 大连 开往 换车 倒车 卫生间 厕所 洗手间 公厕 男厕 女厕 单程 往返 硬卧 软卧 硬座 软座 太平门 宾馆 饭店 酒店 大厅 服务台 前台 餐厅 单人间 双人间 钥匙 订 叫醒服务 风景 世界文化遗产 世界自然遗产 山清水秀 爬山 温泉 随身物品 动人</p>
	4	<p>(a)旅行の目的地の説明(地理、歴史など)をすることができる。</p> <p>(b)旅行の手配(交通機関、ホテルなど)をする。</p> <p>(c)列車や駅・空港でのアナウンスを聞き取る。</p> <p>(d)旅行の途中で発生した交通機関やホテルのトラブルに対応する。</p> <p>(e)日本の交通システムについて説明することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 旅行会社と旅行者という設定でロールプレイをする。 飛行機の機内放送や中国の駅やバスの車内、駅の案内放送等を録音したテープを使って聞き取り練習をする。 	<p>(1)绍兴是鲁迅的故乡，以绍兴酒闻名。</p> <p>(2)我要订一个双人间。</p> <p>(3)下一站是复兴门。请带好您的随身物品，准备下车。</p> <p>(4)开往广州的193次列车，马上就要进站了。</p> <p>(5)各位旅客请注意。由北京飞往上海的631次航班现在开始登机。</p> <p>(6)我把钥匙忘在房间里了。请给我开一下门。</p> <p>(7)东京的电车、地铁网络四通八达，而且绝大多数是安全正点。</p>	<ul style="list-style-type: none"> “以……闻名” 結果補語 動詞+“好” 副詞“马上” “就要……了。” 前置詞“由” “把”構文 動詞+“在”+場所 接続詞“而且” 	
文化領域	話題例					
	<p>(1)普段利用する交通手段 (2)主要な交通機関 (3)交通ルールや道路標識 (4)象印表示 (5)地下鉄やバスの利用方法 (6)人気の旅行先 (7)有名な観光地 (8)世界遺産 (9)方向の表し方(北に向かうなど) (10)電車の座席 (11)時刻表</p>					

買い物

	レベル	指標	学習活動例	表現例	表現例のポイント	語彙例
言語領域	1	(a)従業員の基本的な接客表現を聞いて理解できる。 (b)ほしいものがあるかどうか身振りを交えてたずねることができる。 (c)値段をたずね、値札や書かれた数字を見て理解し購入できる。 (d)ほしいかどうかを言うことができる。	・教室内に品物を持ち込み、お店の状況を作り買い物のロールプレイをする。	(1)你好！ (2)谢谢！ (3)欢迎光临！ (4)欢迎再次光临！ (5)请慢走。 (6)你要什么？ (7)你要几个？ (8)有。 (9)对不起，没有。 (10)有圆珠笔吗？ (11)有没有圆珠笔？ (12)多少钱？ (13)我要这个。 (14)不要。	・“要” ・“什么” ・“几” ・“个” ・“有……吗？” ・“有没有……？” ・“有” ・“没有” ・“这个”	有 便利店 没有 书店 要 面包 不要 开门 给 关门 想用 房 不用 质量 去 问题 来 出毛病 买 广播 卖 家 付 邮局 交 银行 试 退 货
	2	(a)広告等を見てショッピングリストを作ることができる。 (b)お店や売り場がどこにあるか見て理解できる。 (c)お店や売り場が何階にあるかたずねたり、聞いて理解できる。 (d)価格の決め方に関する表示を見て理解することができる。 (e)お店の営業時間をたずねたり、聞いて理解できる。 (f)数やサイズ、色を指定して買いたいことができる。 (g)ほしいものの有無や値段をたずね、聞いて理解できる。 (h)ほしいものを店員に見せてもらうことができる。 (i)商品の感想を簡単にいうことができる。 (j)支払い場所を聞いてお金を払うことができる。	・中国のスーパーマーケットやデパート等の写真・チラシを見て、気づいたことを発表する。 ・店内配置図お店マップや絵カードを使い買い物のロールプレイをする。	(1)体育用品在哪儿卖？ (2)“肯德基”在几层？ (3)八折 (4)买五送一 (5)几点开门？ (6)二十四小时营业。 (7)要三件中号的 T 恤衫。 (8)多少钱一件？ (9)有没有滨崎步的最新专辑？ (10)没有了，卖完了。 (11)这个怎么样？ (12)怎么卖？ (13)三块一斤。 (14)请给我看看。 (15)太贵了！ (16)这枝笔真漂亮！ (17)在哪儿付钱？	・“在”+場所+動詞 ・“哪儿” ・“在” ・“几点”+動詞(+目的語)？ ・“的” ・人復疑問文 ・助詞“了”〈変化〉 ・“怎么样” ・“怎么”+動詞 ・“请” ・“给”+人+動詞 ・動詞の重ね型 ・“太……了！” ・“真” ・ものを数える単位	换 包 寄 帮 搬 拿 找 产 送 看 听 喜 欢 欢 迎 漂 亮 好 看 好 听 好 坏 大 中 小 长 短 贵

言語領域	3	(a)代わりのものを求めることができる。 (b)値段の交渉をすることができる。 (c)試してみてもいいかたずねることができる。 (d)数量を指定して値段をたずねることができる。	・客と店員という設定でロールプレイをする。	(1)有别的吗？ (2)有大点儿的吗？ (3)有没有绿色的？ (4)便宜点儿，好吗？ (5)再便宜点儿吧。 (6)打几折？ (7)可以试试吗？ (8)二两乌龙茶多少钱？ (9)买五个八十块钱，行不行？	・形容詞+“(一)点儿” ・“……，好吗？” ・副詞“再” ・助詞“吧”〈軽い命令〉 ・“可以……吗？” ・“……，行不行？”	便宜 新旧 重 轻 有用 钱 人民币 日元 信用卡 现金 打折 免费 收费 别的 柜台 东西 牌子 名牌 块 元 圆 角 毛 分 个 件 枝
	4	(a)購入したものの返品、交換を依頼することができる。 (b)包装を頼むことができる。 (c)店内放送を聞きとることができる。 (d)買った物の配送を頼むことができる。 (e)電話で注文することができる。 (f)メール、ファックスで注文書を書くことができる。 (g)品物の比較・検討をすることができる。	・客と店員という設定でロールプレイをする。 ・録音した店内放送を聞かせて、聞き取り練習をする(日本の大型電気店やデパートの中国語放送などを利用してよい)。	(1)我想退货。 (2)请换一下儿。 (3)能帮我包一下儿吗？ (4)请把这个包一下儿。 (5)四点开始在地下一层肉制品柜台出售优惠食品。 (6)能帮我寄到家里吗？ (7)这是什么牌子？ (8)质量好不好？ (9)是哪儿产的？	・助動詞“想” ・動詞+“一下儿” ・助動詞“能” ・“帮”+人+動詞 ・結果補語 動詞+“到”	大号 中号 小号 颜色 黑(色) 白(色) 红(色) 绿(色) 黄(色) 蓝(色) 粉红(色) 咖啡色 商店 百货大楼 购物中心
文化領域	話題例					
	(1)お店での基本的な応対表現 (2)ものの値段や貨幣価値 (3)どこで何を売っているのか (4)だれが買物に行くか (5)支払いの仕方 (6)売り方(量り売りなど) (7)価格の決め方(割引、セール) (8)色に対するイメージ (9)値段交渉 (10)さまざまな販売方法 (11)数の数え方(手の指をを使って) (12)大字の復月 (13)商品広告					

食

言語領域	レベル	指標	学習活動例	表現例	表現例のポイント	語彙例
	1	(a)おながすいた/いっばいだと言ったりたずねたりできる。 (b)レストランの表示(例：“飯店”、“餐厅”、“快餐”)を見て理解できる。 (c)レストランで従業員を呼ぶことができる。 (d)メニューを指差しながら注文できる。 (e)メニューや食べたいものがあるか、たずねることができる。 (f)料理が好きかどうか、おいしいかどうかを言うことができる。 (g)レストランで従業員を呼んで支払いをしたり、持ち帰りたいと頼むことができる。 (h)朝食、昼食、夕食に何を食べるかを言ったりたずねたりできる。	・中国のレストランでの会話をビデオで見て気づいたことを発表。 ・メニューなどを用意し、レストランでの会話のロールプレイをする。	(1)我饿了。 (2)口渴了。 (3)吃饱了。 (4)你饿了吗？ (5)服务员！ (6)有菜单吗？ (7)我要这个。 (8)有麻婆豆腐吗？ (9)我喜欢。 (10)真好吃！ (11)好喝！ (12)买单。 / 结账。 (13)请打包。 (14)我早上吃面包。 (15)晚上你吃什么？	・“有……吗？” ・“要” ・動詞+“这个” ・“喜欢” ・“真” ・“请” ・時点を表す言 彙+動詞 ・“什么”	主食 快餐 米饭 麦当劳 面包 肯德基 饺子 盒饭 水饺 带饭 面条 请客 粥 AA 制 油条 吃 馒头 喝 小笼包 尝 包子 喜欢 汤 要 蔬菜 有 萝卜 好吃 胡萝卜 好喝 土豆 酸 青椒 甜 黄瓜 苦 生菜 辣 西红柿 咸 茄子 烫 水果 热 苹果 凉 香蕉 盐 西瓜 糖 梨 酱油 樱桃 醋 草莓 烤 鸡蛋 炒 豆腐 煎 鱼 炸 螃蟹 煮 虾仁 切 鱼翅 剥 肉 筷子 猪肉 勺子 鸡肉 盘子 牛肉 大碗 羊肉 小碗
	2	(a)食べ物の好き嫌いを言ったり、たずねたりできる。 (b)食べ物や飲み物の味や状態(甘い、辛い、すっぱい、塩辛い、熱い、冷たい)を言うことができる。 (c)普段の食事(昼食はどこで食べているか、お弁当を持ってきているか)について話したり、たずねることができる。 (d)料理の種類(洋食、和食、日本料理など)の好みを話したり、たずねることができる。 (e)中国語で書かれたメニューを見て大きな分類(例“涼菜”、“热菜”、“肉”、“鱼”、“主食”)が理解できる。 (f)支払いの仕方について言ったり、聞いて理解することができる。	・食べ物の好みについてインタビューし、発表する。 ・友だちと食事に行くときのロールプレイをする。	(1)我不喜欢吃香菜。 (2)你喜欢吃什么？ (3)什么都行。 (4)这个蛋糕太甜。 (5)这个菜不太辣。 (6)有点儿咸。 (7)你们中午在哪儿吃饭？ (8)我们学校没有食堂，我在教室里吃盒饭。 (9)我妈妈给我做盒饭。 (10)妈妈不让我在外面买盒饭。 (11)我们吃西餐还是吃中餐？ (12)我想吃西餐。 (13)今天 AA 制。 (14)我请客。	・“喜欢”+動詞+目的語 ・“这个”+名詞 ・“太” ・“不太” ・“有点儿” ・“在”+場所+動詞 ・“……里” ・“给”+人+動詞 ・言+“让 / 不让”+人+動詞+目的語 ・A“还是”B？ ・助動詞“想”	西红柿 茄子 水果 苹果 香蕉 西瓜 梨 樱桃 草莓 鸡蛋 豆腐 鱼 螃蟹 虾仁 鱼翅 肉 猪肉 鸡肉 牛肉 羊肉

言語領域	3	(a)中国語で書かれた簡単なレシピを見て、辞書の助けも借りながら、料理の作り方が理解できる。 (b)中国と日本の食文化、食事のマナーについて簡単に話したり、書いたりできる。	・中国語で書かれたレシピを訳し、実際にその料理を作ってみる。	(1)魚香肉絲 原料：猪肉、水发玉兰片、水发木耳、泡辣椒、姜、葱、盐、食用油、酱油、醋、糖、味精、淀粉等。 做法：把猪肉切成丝加点盐用淀粉拌匀，把玉兰片、木耳切成丝，泡辣椒剁细；姜、蒜切细末，葱切成花。用酱油、醋、白糖、味精、淀粉、鲜汤、盐兑成芡汁。锅里倒上油，油六成熟时下肉丝炒散，倒入泡辣椒、姜、蒜末炒出香味，放木耳、玉兰片丝、最后放入葱粒炒一下，再倒入兑好的糖醋汁炒一下，滴入香油就可以起锅了。 (2)日本料理有什么特点？ (3)日本菜口味清淡，季节感强。 (4)吃面条的时候可以出声。 (5)晚饭全家人一起吃吗？ (6)中国的筷子比日本的长。 (7)中国摆放筷子的方法和日本不同。 (8)中国为什么筷子竖着摆？	・ …、…、…等” ・ “把”構文 ・ 結果補語 動詞+“成” ・ “……的时候” ・ 助動詞“可以” ・ 前置詞“比” ・ “和……不同” ・ “为什么”	甜食 汉堡包 冰淇淋 蛋糕 巧克力 意大利面 比萨 咖喱饭 饭团 生鱼片 寿司 天麩罗 饮料 可乐 雪碧 牛奶 咖啡 红茶 花茶 茉莉花茶 绿茶 乌龙茶 珍珠奶茶 茶叶 矿泉水 酸奶 小吃 点心 家常菜 北京烤鸭 麻婆豆腐 青椒肉丝 菜单 中餐 西餐 中国菜 日本菜 法国菜 意大利菜 食堂 餐厅 饭店 饭馆	锅 杯子 茶壶
	4	(a)料理の説明を聞いて理解することができる。 (b)料理の特徴(味付け、材料、作り方等)について聞いて理解したり、説明することができる。 (c)食習慣について話したり、書いたりできる。	・中国の料理番組のテレビ(ビデオ)を見て聞き取り練習をする。	(1)魚香肉絲是很多中国人喜爱的一道菜，几乎每个饭店都有这道菜。菜名中有鱼，可菜中却没有，是有鱼肉香味的炒猪肉丝。 (2)天麩罗一般常以虾、各种小海鱼、墨斗鱼等海鲜以及蘑菇、莲藕、茄子、青椒、南瓜、白薯等蔬菜为材料，外面裹上一层用面粉、鸡蛋和水调合而成的面糊，然后放进油锅内炸至焦黄后，蘸食盐或天麩罗专用汁食用。 (3)在家里吃早饭的人比较多，一般是日式饭菜或牛奶面包。中午在外面吃或带饭，小学生一般吃由学校提供的午餐。 (4)工薪家庭中，因为父亲一般都回来得比较晚，所以各自就餐的家庭越来越多。	・ 副詞“几乎” ・ 接統詞“可” ・ 副詞“却” ・ 副詞“一般” ・ “以…为…” ・ 接統詞“以及” ・ 接統詞“然后” ・ 接統詞“或” ・ 副詞“比较” ・ 前置詞“由” ・ “因为…所以…” ・ 狀態補語 ・ “越来越…”		
文化領域	話題例						
	(1)地域ごとの食習慣(③食の道いなど) (2)生活形態ごとの食習慣 (3)テーブルマナー(食卓の際のタブー、食べ方、食器など) (4)調理(味付け、調味料、食材、調理法、食具など) (5)食品の加工や保存の技術 (6)外食(いつ、誰がどんなときに外食をするのか) (7)ファーストフード (8)伝統的な行事と食べ物 (9)食と健康						

人とのつきあい

レベル	指標	学習活動例	表現例	表現例のポイント	語彙例
1	(a)人とのつきあいでの基本的な表現を言ったり聞いて理解できる。 (b)電話やファックスの番号を伝えたり、たずねたりできる。 (c)中国語で書かれた住所を見て理解できる。 (d)自分の住所を中国語で書くことができる。 (e)電話での常用表現を聞いて理解できる。 (f)お祝いの表現を言ったり書いたりできる。 (g)招いたり、招かれたときの基本的な表現を言ったり聞いて理解できる。 (h)人をほめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 電話での会話(役割を決め、かける相手、対応の仕方などを書いたカードを引いてロールプレイを行う) 誕生日カードを書く。 	(1)你好！ / 您好！ (2)再见！ (3)谢谢！ (4)不客气！ (5)对不起！ (6)没关系！ (7)不好意思。 (8)我家的电话号码是 53225211。 (9)你的手机号码是多少？ (10)这是我家的地址。 (11)天津市北辰区丁字沽奥园四号楼一门四〇二号。 (12)喂！何平在吗？ (13)您找谁？ (14)祝你生日快乐！ (15)恭喜，恭喜！ (16)请进。 (17)请喝茶。 (18)欢迎欢迎！ (19)真了不起！ (20)真棒！	<ul style="list-style-type: none"> “的” A“是”B 数字の言い方 “多少” “请” “在” “……吗？” “谁” “祝……！” “真” 	打 接 挂 回 电话 手机 号码 留言电话 总机 分机 转告 发 短信 电子邮件 传真 打字 上网 写 寄 收 信 航空信 信封 明信片 圣诞卡 贺年卡 收信人 寄信人 邮局 邮票 邮政编码 快件 挂号信 订 买 报纸 卡片 名片 给 送
2	(a)電話で簡単なやりとりができる。 (b)相手の都合を聞くことができる。 (c)誰かを誘ったり、誘いを受けたり、断ることができる。 (d)待ち合わせの時間や場所についてやりとりできる。 (e)贈り物を渡すときの表現を言ったり聞いて理解できる。 (f)招いたり、招かれたときの表現を言ったり聞いて理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の予定表を見て、相手を誘う、または誘いを受ける、というロールプレイをおこなう。 贈り物のやりとりをする。 	(1)请问，您是哪位？ (2)请您等一下。 (3)对不起，我打错了。 (4)您现在方便吗？ (5)那，就这样。再见！ (6)下星期天你有时间吗？ (7)我没有空儿。 (8)我很想去。几点开始？ (9)一点钟在车站见面。不见不散。 (10)让我考虑考虑。 (11)这是一点儿小意思，请收下。 (12)你太客气了！ (13)这是送你的生日礼物。希望你能喜欢。 (14)你喜欢吗？ (15)我太高兴了！ (16)谢谢你们的热情款待。 (17)时间不早了，我该走了。 (18)再呆一会儿吧。 (19)有时间再来！	<ul style="list-style-type: none"> 動詞+“一下(儿)” 助動詞“想” “几点”+動詞？ “在”+場所+動詞 “让”+人+動詞 動詞の重ね型 “太……了！” “希望”+動詞 “喜欢” 副詞“再” 動詞+“一会儿” 助動詞“吧”〈勧誘〉 	航空信 信封 明信片 圣诞卡 贺年卡 收信人 寄信人 邮局 邮票 邮政编码 快件 挂号信 订 买 报纸 卡片 名片 给 送

言語領域	3	(a)中国語で書かれた手紙やメールを、辞書の助けを借りながら読んで理解できる。 (b)簡単な手紙やメールを書くことができる。 (c)インターネット用語(例:“ダウンロード”、“電子メール”)を理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> 手紙やメールを書く。 中国語のサイトをたずねて必要な情報を収集する。 	(1)亲爱的李蕾，你好! (2)尊敬的王老师，您好! (3)好久不见了。 (4)最近怎么样? (5)你还好吗? (6)好久没跟你联系，实在抱歉。 (7)我是前天从奶奶家回来的。 (8)请把我的伊妹儿转发给刘力。 (9)我回老家了，昨天才回来。 (10)等着你的回信。 (11)问你父母好。 (12)祝你身体健康! (13)祝你学习进步! (14)祝全家幸福! (15)万事如意! (16)心想事成!	<ul style="list-style-type: none"> 疑問代詞“怎么样” 副詞“还” 副詞“没(有)” 前置詞“跟” 副詞“实在” “是……的” 前置詞“从” 方向補語 動詞+“来/去” “把”構文 動詞+“给”+人 副詞“才” アスペクト助詞“着”(持續) “问”+人+“好” 	生日 礼物 蛋糕 下载 网页 网站 单击 双击 打印 关机 编辑 工具 帮助 附件 后退 搜索 文档 密码 保存 博客 铃声 阿姨 伯伯 叔叔 哥哥 姐姐
	4	(a)日中両国における通信手段とその価格、利用度などについて書かれた文章(例:中国語で書かれた宅配便サービスのサイト)を読んで理解し、簡単に説明できる。 (b)日中両国の贈答習慣の違いについて書かれた文章を読んで理解し、簡単に説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> 中国語で書かれたサイトや出版物を読み、自分の言葉で簡単に説明する。また、その内容について生徒間で質疑応答する。 	(1)“宅配便”运输的主要服务内容包括为客户提供货物问询、网上跟踪、当日配送、指定时间段指定配送日服务、城际间的配送服务、货物保管服务、贵重商品当面交付服务等。 (2)“网上跟踪”是指客户可以在网上查询货物在什么地方。 (3)在中国，送给朋友婚礼礼物时，最好不要送钟。因为“送钟”的发音和“送终”一样。	<ul style="list-style-type: none"> 前置詞“为” “……、……、……等” 助動詞“可以” “最好”+“(不要)”+動詞 “和……一样” 	
文化領域	話題例 (1)日本の郵便システムについて (2)封筒の書き方 (3)手紙の書き方 (4)招待の受け方 断り方 (5)メールの使い方 (6)メール独得の表現(顔文字、数字を使った表現) (7)チャット (8)贈り物を渡すタイミング (9)贈り物のタブー (10)喜ばれる贈り物 (11)家族以外の人への呼びかけ (12)相槌の打ちかた (13)日にちの指定方法(今週の日曜日はいつかなど)					

余暇・遊び

レベル	指標	学習活動例	表現例	表現例のポイント	語彙例
1	(a)放課後、週末、長期休暇などに何をするかを言ったりたずねたりできる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアになって、スケジュール表を見ながらお互いの予定を聞きあう。 	(1)星期天你做什么? (2)星期天我在家睡觉。 (3)放学以后,我去麦当劳打工。	<ul style="list-style-type: none"> ・曜日 の言い方 ・“什么” ・“在”+場所+動詞 ・“……以后” ・“去”+場所+動詞 	星期天 星期日 星期六 周末 暑假 寒假 春假 黄金周 打扑克 踢毽子 下围棋 下象棋 玩儿 电子游戏 做游戏 上网 看 书 漫画 杂志
2	(a)休みの日に何かをするのに、友達を誘うことができる。 (b)友だちの誘いを受ける/断ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・日時・行く場所・やる内容・待ち合わせ場所などを書き込むシートを配布し、2人1組で遊ぶ約束をするスキットを作って発表。他の生徒はそれを聞き取る練習をする。 ・友達を誘う手紙を書き、その誘いを受けたり断ったりする返事を書く。 	(1)星期天我们一起去看电影,好吗? (2)对不起,我有事儿。 (3)不行,我有足球俱乐部的活动。 (4)那,星期六怎么样? (5)好,看什么电影? (6)咱们一起玩儿电子游戏吧。	<ul style="list-style-type: none"> ・“……,好吗?” ・“有事儿” ・“不行,我有……” ・“那,……怎么样?” ・“什么”+名詞 ・“咱们” ・“一起” ・助詞“吧”(勧誘) 	电视 电影 音乐剧 话剧 比赛 听 音乐 广播 音乐会 演唱会 唱歌 卡拉OK 弹 钢琴 吉他 拉 小提琴 中提琴

言語領域	3	(a)余暇の過ごし方について、ある程度まとまった文章で話したり書いたりできる。 (b)ゲームのルールを読んで大意を理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「私の夏休み」といったテーマで300字程度の作文を書く。書いたものをクラスで発表する ・中国の高校生の遊びについて本やインターネットで調べてまとめる。 	<p>(1)今年暑假我去北京短期留学的时候，在中国高中生的家庭寄宿。晚上跟他的家里人一起打扑克。</p> <p>(2)现在发五张牌。</p> <p>(3)该你了。</p> <p>(4)石头，剪子，布。</p> <p>(5)猜猜我是谁？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・“……的时候” ・前置詞“跟” ・“现在” ・量詞“张” ・“该……了。” ・“谁” 	大提琴 二胡 古筝 踢足球 打棒球 篮球 排球 网球 乒乓球 羽毛球 保龄球 橄榄球 太极拳 滑雪 滑冰 滑旱冰 游泳 石头 剪子 布 赢输猜
	4	(a)日本の高校生と中国の高校生の余暇の過ごし方について、似ている点・違う点を話したり書いたりできる。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の高校生と中国の高校生の余暇の過ごし方について、似ている点・違う点についてディスカッションし、その内容をまとめる。(中国の高校生と交流する機会がない場合は、中国人の先生に聞いたり、インターネット等を利用して調べる) 	<p>(1)日本的高中生下课后喜欢去唱卡拉OK的人比较多。</p> <p>(2)听说你们中国的高中生喜欢看日本漫画,是不是?</p> <p>(3)据统计,日本高中生一半儿以上都有手机。有空就发短信。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・“……后” ・副詞“比较” ・“听说” ・“……, 是不是?” ・“据统计” ・副詞“就” 	
文化領域	話題例					
	<p>(1)休日の過ごし方 (2)放課後の過ごし方 (3)学校帰りに行く場所 (4)夏休みや冬休みの過ごし方 (5)流行っている遊び</p>					

衣・ファッション

レベル	指標	学習活動例	表現例	表現例のポイント	語彙例
1	(a)身に着けている服やアクセサリーの名称や色を言うことができる。 (b)服の好みを言うことができる。 (c)服やアクセサリーについての感想を簡単に言うことができる。 (d)服の売り場や美容院の表示を見て理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> 初めて会う人に電話をする想定で自分の服装を伝える。 集合写真や絵から該当者を探し出す。 デパート等の衣料品売り場の表示の写真を見て気づいたことを発表する。 	(1)她穿一件蓝衬衫。 (2)我喜欢穿牛仔裤。 (3)他喜欢戴棒球帽。 (4)非常漂亮! (5)真可爱! (6)真酷!	<ul style="list-style-type: none"> “喜欢”+動詞+ (目的語) ものを教える単位 “非常” “真” 	衣服 毛衣 裙子 裤子 衬衫 大衣 袜子 内衣 T恤衫 牛仔裤 皮鞋 运动鞋 睡衣 休闲服
2	(a)相手の服装や髪型、身に着けているアクセサリーをほめることができる。 (b)服装や身につけているもの、髪型の説明を聞いて理解できる。 (c)雑誌や写真を見せながら、美容院・理髪店で自分の希望する髪型を伝えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 美容院やデパートでの売り場を想定したロールプレイをする。 	(1)你的衬衫很漂亮! (2)老师今天系的领带很不错! (3)这种款式很大方。 (4)这件T恤衫很适合你。 (5)她头发比较长,茶褐色。 (6)戴着眼镜的是我哥哥。 (7)我想剪头发。 (8)我喜欢这种发型。	<ul style="list-style-type: none"> 形容詞述語で “的” アスペクト助詞“着”〈持續〉 “比较” 助動詞“想” 	校服 帽子 手套 围巾 领带 耳环 项链 眼镜 隐形眼镜 手表 包 手提包 钱包 书包 背包 和服 旗袍 唐装 服装 头发 发型 发夹 指甲 美甲 时装

言語領域	3	(a)服装のTPOについて簡単に説明できる。 (b)服を買う場所や美容院に行く頻度、それぞれにかけるお金などについて言ったりたずねたりできる。 (c)服装やアクセサリ、髪型についての流行や感じたことを言うことができる。	・ファッション雑誌やヘアカタログなどを見ながら会話練習をする。	(1)学校里不能化妆。 (2)明天我穿什么最合适? (3)你们什么时候得穿校服? (4)这件衣服是在哪儿买的? (5)我们去新宿买衣服,怎么样? (6)你一年剪几次头发? (7)头发不要剪得太短了。 (8)你每年买衣服大概花多少钱? (9)这种式样现在已经过时了。 (10)你今天衣服搭配得很好。 (11)你今天头发怎么这么乱! (12)你今天穿得怎么这么怪! (13)我们现在流行穿“耐克”牌的运动鞋。 (14)这么难看的衣服我怎么穿得出去!	・“……里” ・助動詞“能” ・“什么时候……?” ・助動詞“得” ・“在”+場所+動詞 ・“是……的” ・連動詞 ・疑問代詞“几” ・動量詞“次” ・助動詞“不要”(禁止) ・副詞“大概” ・“已经……了” ・状態補語 ・片語表現 ・複合方向補語 動詞+“出去” ・可能補語	发廊 理发店 美容院 大号 中号 小号 颜色 黑(色) 白(色) 红(色) 绿(色) 黄(色) 蓝(色) 粉红(色) 咖啡色 穿戴 剪裁 烫染 喜欢 买 打扮 漂亮 好看 酷 长短 大小 时髦 流行 合适 适合 条件 条 双
	4	(a)服装のTPOや伝統的な衣服についてある程度まとまった文章を読んだり、話したりできる。	・「制服はあったほうがよいか/服装や頭髪に関する校則は必要か」などテーマを決めてディスカッションをする。 ・日中双方の伝統的服装や民族衣装について本やインターネットで調べてまとめ、発表する。	(1)和服は日本の传统服装,平时不穿,有的人在过年时或者参加成人节典礼、婚礼时穿。 (2)你们什么时候穿旗袍? (3)我们学校六月一号换夏装,十月一号换冬装。	・“有的”+名詞 ・“在……时” ・接統詞“或者”	
文化領域	話題例					
	(1)色に対するイメージ (2)服装のTPO(季節、行事など) (3)衣類を売っている場所や売り方(展示の仕方) (4)服や靴のサイズ表示 (5)ファッション情報の取り入れ方 (6)民族衣装					

身体・健康

レベル	指標	学習活動例	表現例	表現例のポイント	語彙例
1	(a) 身体の調子について(疲れた/気分が悪い) 言ったりたずねたりできる。 (b) 身長と体重を言ったりたずねたりできる。 (c) 体型(痩せている/太っている/背が高い/背が低い)について表現できる。	※ クラスメートと体調をたずねあう 会話練習をする。 ・ 複数の人物が描かれた絵や写真の中から、身長・体重・体型などの情報をもとに該当者を探し出す。	(1) 我累了。 (2) 你身体好吗？ (3) 有点儿不舒服。 (4) 我哥哥身高一米八，体重一百公斤。 (5) 她很瘦。 (6) 我爸爸个子很高。 (7) 姚明有多高？ (8) 朝青龙有多重？	・ “……吗？” ・ “有点儿”+形容詞 ・ 形容詞述語文 ・ 主述述語文 ・ “……(有)多高？” ・ “……(有)多重？”	头 头发 眼睛 耳朵 鼻子 嘴 牙齿 虫牙 嗓子 脖子 肩膀 胳膊 心脏 腰
2	(a) 自分の病状を簡単に説明でき(風邪を引いた/おなかや頭が痛い/せきがでる)、病院にいきたいと言うことができる。 (b) 健康のためにしていること(運動、ダイエットなど)について言うことができる。 (c) 病気について聞かれたことや言われたことを聞いて理解できる。 (d) お見舞いの言葉が言える。 (e) 体型について二者を比較して言うことができる。	・ ホームステイ先の家族に体調不良を訴えるという設定で、ロールプレイをする。	(1) 我好像感冒了。 (2) 我肚子疼得厉害,请你带我去医院好吗？ (3) 我每天早上锻炼身体。 (4) 最近我姐姐在努力减肥。 (5) 早睡早起,身体好。 (6) 你脸色不太好,是不是病了？ (7) 吃点儿药,多喝点儿水,注意休息。 (8) 发烧不发烧？ (9) 你先试一下表。 (10) 你身体好了吗？ (11) 请多多保重。 (12) 祝你身体健康。 (13) 祝你早日康复。 (14) 妈妈比我矮三公分。	・ “好像” ・ 形容詞+“得”+“厉害” ・ “带”+人+動詞 ・ 副詞“在” ・ “不太” ・ “一点儿” ・ “是不是……？” ・ 助詞“了”〈変化〉 ・ 反復疑問文 ・ “先” ・ 動詞+“一下(儿)” ・ “请” ・ “祝……！” ・ 比較表現	肚子 手指 大拇指 食指 中指 无名指 小指 腿 脚 身高 个子 体重 身体 健康 保健 医院 中医 西医 高 矮 胖 瘦 累 好 舒服

言語領域	3	(a)病院で受付の手続きができる。 (b)医者に聞かれたことを理解し、病気やけがの状況を簡単に説明することができる。 (c)医者に診断書を書いてもらうことができる。 (d)医師の指示や診断内容を聞いてほぼ理解できる。 (e)入院日数や薬の服用の仕方等についてたずねることができる。 (f)辞書の助けも借りながら、薬の説明書を読んで理解できる。 (g)健康のためにしていることをたずねたり、まとまった文章で説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医者と患者の会話という設定でロールプレイをする。 ・ 「私の健康法」と題して作文を書き、発表する。 	(1)在哪儿挂号？ (2)你哪儿不舒服？ (3)已经退烧了，但是头还有点疼。 (4)请开个证明。 (5)请把上衣解开。 (6)我给你开点儿药。 (7)骨折了，需要住两个星期的院。 (8)一个星期出不了院。 (9)躺在床上好好休息。 (10)这种药一天吃几片？ (11)一个星期出得了院吗？ (12)桑菊感冒片 作用：适用于风热感冒初起，头痛，咳嗽，口干，咽痛。 用法用量：口服。成人一次4—8片，一日2—3次，温开水送服，7岁以上儿童服1/2成人量，3—7岁儿童服1/3成人量。 (13)你有什么保健秘诀吗？	<ul style="list-style-type: none"> ・ “在”+場所+動詞 ・ “哪儿” ・ 副詞“已经” ・ 接續詞“但是” ・ 副詞“还” ・ “把”構文 ・ 前置詞“给” ・ 動詞+継続時間+“的”+目的語 ・ 可能補語 ・ 動詞+“在”+場所 ・ 疑問代詞“几” ・ “有什么……吗？” 	不舒服 感冒 头疼 肚子疼 拉肚子 咳嗽 流鼻涕 打喷嚏 退烧 脸色 休息 看病 挂号 取药 住院 出院 骨折 减肥 保重 讲卫生
	4	(a)保健に関する文章を読んで理解できる。 (b)健康に関して、自分の意見や考えを述べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健・健康に関する文章を読んで大意をつかむ。 ・ 「ダイエットはすべきか」など健康に関するテーマを設定し、ディスカッションをする。 	(1)日本の学校有保健室和有负责保健的老师。有的学校还有心理咨询老师。 (2)每年有一次身体检查，检查视力、听力、体重、身高等等。 (3)养成早睡早起的习惯就好了。	<ul style="list-style-type: none"> ・ “有的”+名詞 ・ 動量詞“次” ・ “……、……、……等等” ・ “……就好了。” 	吃药 涂药 开药 打针 镶牙 抗生素 胶囊 药丸 药片 散剂 眼药 感冒药 止痛药 解毒药 退烧药 中药 西药 药铺 药店 药房
文化領域	話題例					
	(1)病院の種類（中医、“西医”） (2)受診の仕方 (3)健康維持法（太極拳、社交ダンス、眼の体操、休み時間の体操）やダイエット法 (4)お見舞いのエチケット (5)病気の治し方 (6)漢方薬 (7)食と健康 (8)民間療法					

自然環境

レベル	指標	学習活動例	表現例	表現例のポイント	語彙例
1	(a)気候についての簡単な表現(暑い、寒い、涼しい、暖かい)を言うことができる。 (b)天気に関するもっとも基本的な用語を聞いて理解できる。 (c)好きな季節を言ったり、たずねたりできる。	・離れた所にいる2人が電話でお互いの天候をたずねあうという設定でロールプレイをする。また他の生徒はその会話を聞いて天気地図から2人のいる場所を探し出す。	(1)今天很冷。 (2)不太热。 (3)今天天气真好! (4)最近天气怎么样? (5)下雨了。 (6)昨天下午刮大风。 (7)我喜欢春天。 (8)你喜欢什么季节?	・形容詞述語句 ・“不太” ・“怎么样” ・“喜欢”+名詞 ・“什么”+名詞	晴天 阴天 下雨 下雪 刮风 晴转阴 多云 有雨 小雨 中雨 大雨 阵雨 雷阵雨 暴雨
2	(a)最高気温、最低気温などを使って、天候や季節の特徴を簡単に話したり、たずねたりできる。 (b)天候の地域差などを書いたり話したりできる。	・自分の住んでいる地域の一年間の天候を書いて発表する。 ・2つの都市の天候のデータを用意し、比較し気づいたことを発表する。	(1)今天最高气温多少度? (2)六月七月是梅雨季节。 (3)冲绳下不下雪? (4)北海道冬天常常下雪。 (5)在北京,一月的最低气温是零下十度左右。 (6)天气预报说,明天晴转阴,最高气温十三度,最低气温六度。 (7)东京的冬天比北京暖和。 (8)今年夏天没有去年热。	・“多少”+名詞 ・反復疑問句 ・“常常” ・“……左右” ・比較表現	气温 最高气温 最低气温 零下 摄氏度 度 闷热 热 暖和 凉快 春天 梅雨 夏天 秋天 冬天 空气清新 空气污染 干燥 潮湿 环境问题 环境保护 环保 酸雨 生态 保护

言語領域	3	<p>(a) 気候や自然現象、自然災害に関するまとまった文章を辞書の助けを借りて大意を理解できる。</p> <p>(b) 気候や自然現象、自然災害について話したり、たずねたりできる。</p> <p>(c) 環境問題に関する文章を辞書の助けを借りて大意を理解できる。</p>	<p>・新聞やインターネットなどに書かれた自然現象や自然災害、環境問題に関する文章を読む。</p>	<p>(1) 日本属温带气候，是一个四季分明的国家。</p> <p>(2) 在日本，到了四月到处都开樱花，非常漂亮。</p> <p>(3) 日本的气候有什么特点？</p> <p>(4) 一年要来几次台风？</p> <p>(5) 今年气候有点儿反常。</p> <p>(6) 中国南方北方气候不同。</p> <p>(7) 春天风沙较大。所以很多人出去时都戴纱巾。</p> <p>(8) 冬天很冷，出去的时候得戴手套。不戴手套根本出不去。</p> <p>(9) 中国的沙尘暴给日本带来极大的环境问题。</p> <p>(10) 中国暖气的燃料70%以上依靠煤炭，所以冬天空气污染很严重。</p>	<p>・“到了……，”</p> <p>・“到处都……”</p> <p>・副詞“非常”</p> <p>・疑問代詞“几”</p> <p>・動量詞“次”</p> <p>・“有点儿”</p> <p>・接統詞“所以”</p> <p>・助動詞“得”</p> <p>・方向補語 動詞+“来/去”</p> <p>・可能補語</p> <p>・“给……带来”+もの</p> <p>・%の言い方</p>	<p>地震</p> <p>台风</p> <p>火灾</p> <p>海啸</p> <p>洪水</p> <p>全球变暖</p> <p>沙漠化</p> <p>风沙</p> <p>沙尘暴</p> <p>循环再生</p> <p>分类回收</p> <p>资源</p> <p>风景秀丽</p> <p>景色宜人</p> <p>山清水秀</p> <p>春暖花开</p> <p>樱花</p> <p>红叶</p>
	4	<p>(a) 気候や自然現象、自然災害についてまとまった文章を話したり、書いたりできる。</p> <p>(b) 環境問題に関して自分の意見を言うことができる。</p>	<p>・「防災」、「地球温暖化」、「リサイクル」などテーマを決めてディスカッションをする。</p>	<p>(1) 东京没有北京那么冷。最冷的时候最低气温也很少下降到零下。</p> <p>(2) 北海道的纬度和吉林省相同，所以夏天也很凉爽。冲绳的纬度相当于香港的纬度，属于亚热带气候。</p> <p>(3) 北海道和日本海沿岸冬天降雪量很多，连东京也要下几场雪。</p> <p>(4) 企业应该更加关注环境问题。</p>	<p>・“和……相同”</p> <p>・A“相当于”B</p> <p>・“连……也”</p> <p>・助動詞“应该”</p> <p>・副詞“更加”</p>	
文化領域	話題例					
	<p>(1) 暑/さ寒さの程度</p> <p>(2) 自然災害</p> <p>(3) 季節感や季節のもつイメージ（日中、夜の地域間）</p> <p>(4) 時候のあいさつ</p> <p>(5) 自然の愛でかた</p> <p>(6) 環境問題（砂漠化、空気汚染など）</p> <p>(7) リサイクル</p>					

言語領域	3	(a)家の間取り、構造などを簡単に説明したり、書いたりできる。 (b)部屋の使い方や特徴についてたずねたり話したりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・家の間取り図を書く。 ・ホームステイする中国の高校生に家の中の様子を紹介するという設定で、書いた間取り図を使って説明する。 	<ol style="list-style-type: none"> (1)我的卧室在二楼。 (2)我家朝南。 (3)我们住两室一厅。 (4)每天晚上我们在客厅里看电视。 (5)从你家的阳台上能看到富士山吗？ (6)我家很乱，常常找不到要找的东西。 (7)你的房间有多大？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・前置詞“朝” ・“在”+場所+動詞 ・前置詞“从” ・助動詞“能” ・結果補語 動詞+“到” ・副詞“常常” ・可能補語 ・助動詞“要”〈意志〉 ・動詞+“的”+名詞 ・“……(有)多大？” 	被褥 被子 褥子 地毯 商店 邮局 银行 车站 公园 公厕 公共厕所 市政府 文化馆 公民馆 体育馆 图书馆 博物馆 美术馆 电影院 医院 便利店 超市 面包房 咖啡厅 茶馆 饭馆 饭店 药店 洗衣房 周围环境
	4	(a)日本と中国の住環境の違いなどについて書いた文章を読んで理解したり、簡単に説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットで日中の住環境の共通点や相違点について調べ、まとめる。また調べたことをクラスで発表する。 	<ol style="list-style-type: none"> (1)在日本进门要脱鞋。 (2)很多日本人的家里有电暖桌。 (3)日本的高中生一般跟父母住在一起，上大学以后，有的人搬到学校附近租房住。 (4)你在学生宿舍住还是在外面的公寓住？ (5)你知道“榻榻米”吗？“榻榻米”是日本式房间里铺的草垫。 	<ul style="list-style-type: none"> ・助動詞“要”〈必也〉 ・副詞“一般” ・前置詞“跟” ・“有的”+名詞 ・A“还是”B？ 	上边 下边 前边 后边 里边 外边 左边 右边 对面 斜对面 旁边 中间
文化領域	話題例					
	<ol style="list-style-type: none"> (1)間取り (2)好まれる（好まれない）住環境 (3)住宅の売り方（販売時についている設備） (4)気候風土と住宅の関係（暑さ、寒さ、湿気、乾燥対策） (5)地域の環境と住宅の関係 (6)家の広さと家賃 (7)伝統的住居 (8)家具など部屋の中にあるものとその配置 (9)部屋の使い方や部屋での過ごし方 					

地域社会

	レベル	指標	学習活動例	表現例	表現例のポイント	語彙例
言語領域	1	(a)自分の住んでいる町や都市の名前を言うことができる。 (b)自分の住んでいる町の特徴(大きい都市か田舎かなど)を言うことができる。 (c)自分の住んでいる町にどんな公共施設があるか言うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の住んでいる市や町についてペアでお互いにたずねる。 地域の地図を用意し、自分の町にある公共施設を発表する。 	(1)我住大阪市。 (2)我家不在东京。 (3)我们市很大。 (4)我们区有一个体育馆、五六个图书馆。 (5)我们市没有美术馆。	<ul style="list-style-type: none"> “在” 形容詞述語文 場所+“有/没有”+もの 	家 房子 屋子 房间 楼 写字楼 办公楼 高楼大厦 公寓 邻居 商店 邮局 银行 车站
	2	(a)自分の住んでいる町や都市が好きか/嫌い か、どんなところが好きか/嫌い か話せる。 (b)自分の住んでいる町や都市の 特徴(位置、産物、人口など) について簡単に言うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 人口・面積・町の特産物・有名スポットなど自分の住んでいる町についての情報を集め、簡単に発表する。 	(1)我很喜欢京都，风景很美。 (2)你住的地方什么最有名？ (3)青森县在日本的东北地区，是苹果的产地。 (4)横滨人口有三百多万。 (5)兵庫县的县政府在神戸市。 (6)东京是北京的友好城市。 (7)我们市连一个电影院都没有。	<ul style="list-style-type: none"> “喜欢” “什么” “最” “的” A“是”B 概数：数量+“多” “连……都” 	公园 公厕 公共厕所 省政府 县政府 市政府 文化馆 公民馆 体育馆 图书馆 博物馆 美术馆 电影院 医院 便利店 超市 面包房 蛋糕店 咖啡厅 咖啡馆 饭馆 饭店 药店 洗衣房

言語領域	3	(a)地域で行われる行事等についてたずねたり、簡単に説明できる。 (b)都市や町について書かれた文章を、辞書の助けを借りて大意を理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事について調べ、発表する。 ・観光案内マップの中国語版などを用い、読んでその内容を言う。 	(1)你们社区举行什么活动？ (2)人们常去公民馆做什么？ (3)你们那儿有居民委员会吗？ (4)你参加志愿者活动吗？ (5)我们社区八月份有盂兰盆舞会。 (6)长崎市以龙舟竞赛闻名。 (7)住在这个小区的居民都非常关心他人。	<ul style="list-style-type: none"> ・“什么”+名詞 ・連動式 ・人称代詞+“这儿”/“那儿” ・“以……闻名” ・動詞+“在”+場所 	山海 大河 湖 森林 櫻花 竹子 松树 蒲公英 故事 传说 民间故事 小区 社区 周围环境 好 安静 热闹 美丽 脏 干净 安全 麻烦 住 在 上边 下边 前边 后边 里边 外边 左边 右边 对面 斜对面 旁边 中间
	4	(a)日中両国における地域社会の共通点・相違点などについて話したり、書いたりできる。	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の地域社会の特徴について調べてまとめ、それをもとに日中の共通点・相違点を話し合う。 	(1)公民馆跟文化馆有什么区别？ (2)你知道人们早上在公园里做什么吗？ (3)你们常跟邻居来往吗？ (4)我觉得年轻人应该积极参加社区活动。 (5)老人们常常参加社区活动吗？ (6)为了维护社区的治安，人们自愿组织起来进行互助活动，比如说接送孩子等等。	<ul style="list-style-type: none"> ・前置詞“跟” ・“觉得” ・助動詞“应该” ・前置詞“为了” ・方向補語 動詞+“起来” ・“比如说……等等” 	
文化領域	話題例					
		(1)地域社会を表す指標 (2)地域にある公共施設 (3)地域で行う行事や活動 (4)地域にある組織（町内会、氏子、糟家、学校など） (5)行政単位 (6)人口問題				

年中行事

	レベル	指標	学習活動例	表現例	表現例のポイント	語彙例
言語領域	1	(a)年中行事や祝日の名称・月日を言ったりたずねたりできる (b)祝祭日の決まり文句やお祝いの言葉を見たり聞いたりして理解できる。 (c)祝祭日の決まり文句やお祝いの言葉を話したり書いたりできる。	・年賀状やクリスマスカードなどを書く。 ・日本のカレンダーに中国の年中行事や祝祭日を書き込む。	(1)十月一号是中国的国庆节。 (2)三月八号是什么日子？ (3)阴历一月一号是春节。 (4)新年好！ (5)过年好！ (6)过个好年！ (7)拜个早年！ (8)祝圣诞快乐！ (9)恭喜，恭喜！	・月日の言い方 ・A“是”B ・“什么”+名詞 ・“祝……！”	元旦 赏月 春节 登高 元宵节 放风筝 灯节 狮子舞 国际妇女节 奥运会 清明节 国际劳动节 五一 中国青年节 五四 端午节 国际儿童节 七夕 乞巧节 教师节 中秋节 菊花节 重九 国庆节 十一 八一建军节 情人节 圣诞节 盂兰盆节 公历 阴历 农历 除夕 大年夜 过年 正月初一 初二 初三 少数民族 蒙古族 那达慕大会 傣族 泼水节 壮族
	2	(a)年中行事や祝日の過ごし方について、簡単に言ったりたずねたりできる。	・中国の年中行事や祝祭日を書き込んだカレンダーを使って、その日の過ごし方をたずねる。	(1)怎么过新年？ (2)我们去神社参拜。 (3)过年的时候也吃年夜饭吗？ (4)爸爸给你压岁钱了吗？ (5)春节是一家团圆的日子。 (6)中秋节吃月饼。 (7)情人节你送朋友什么礼物？	・“怎么”+動詞 ・“去”+場所+動詞 ・“……的时候” ・“也” ・“给”+人+もの ・“送”+人+もの	

言語領域	3	(a)中国の年中行事や祝日の過ごし方について書かれた文章を辞書の助けを借りて大意を理解することができる。 (b)日本の祝日や年中行事の名称・月日・過ごし方を簡単に説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> 本や新聞、インターネットなどに書かれた中国の年中行事に関する文章を読む。 日本の年中行事についても本や新聞、インターネットなどで調べ、中国語でまとめて発表する。 	<ol style="list-style-type: none"> 北方大年三十，一般吃饺子。南方有些地方吃年糕。 中国大年三十晚上，中央电视台播放春节联欢晚会。 我帮妈妈做完扫除后，和爸爸一起去买鞭炮。 在日本，一月第二个星期一是成人节。很多地方为年满二十岁的青年举行庆祝仪式。 把自己的愿望写在“绘马”上。 五月五号把鲤鱼旗挂在外边。 	<ul style="list-style-type: none"> 副詞“一般” “有些”+名詞 “帮”+人+動詞 結果補語 動詞+“完” 前置詞“和” 連動文 前置詞“为” “把”構文 動詞+“在”+場所 	<p>歌節 彝族 火把節 白族 伊斯蘭教 開齋節 古爾邦節 復活節 苗族 臘八節 儀式 給 巧克力 鮮花 禮物 吃 年夜飯 年飯 餃子 年糕 元宵 粽子 月餅 賀年片 壓歲錢 貼 剪紙 財神 春聯 對聯 掛 年畫 放鞭炮 拜年 團圓 猜燈謎 觀燈 賞冰燈 掃墓 踏青 龍船競賽 牛郎織女</p>
	4	(a)日中両国の年中行事の特色、共通点・相違点などについて話したり、書いたりできる。	<ul style="list-style-type: none"> 日中両国の年中行事について、その特色、共通点・相違点などについてディスカッションする。また、日本の年中行事の中で中国に由来すると思われるものについて、全く同じか、違うところがあるかなどを調べ、まとめる。 	<ol style="list-style-type: none"> 日本の很多节日是从中国传来的，比如说中秋节、端午节、七夕等。 农历五月五号是纪念屈原的节日，叫端午节。 日本的儿童节是五月五号，中国的儿童节是六月一号。 	<ul style="list-style-type: none"> 前置詞“从” “比如说，……、……、……等” 	
文化領域	話題例					
	<ol style="list-style-type: none"> 年中行事や祝日の種類 年中行事や祝日の由来 年中行事の過ごし方（お正月など） 通過儀礼（七五三、成人式など） 					

中国語と中国

	レベル	指標	学習活動例	表現例	表現例のポイント	語彙例
言語領域	1	(a)自分の話す中国語について言われたことが理解できる。 (b)中国語を学んでいることや、中国語を学んで思っていることについて簡単に言うことができる。 (c)中国や世界の主な国名・都市名を言ったり見て理解できる。 (d)中国の国家主席や首相の名前を言うことができる。 (e)漢字の読み方をたずねることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 中国語を学んだ感想を簡単に言う。 国名当てクイズ(漢字とピンインで書かれた国名、都市名を見てあてる。) 	<ol style="list-style-type: none"> (1)你的发音很好。 (2)声调不对。 (3)我学习汉语。 (4)汉语发音不太难。 (5)学习中文很有意思。 (6)中国的首都是北京。 (7)中国的国家主席是胡锦涛。 (8)纽约是美国的首都吗? (9)这个字怎么念? 	<ul style="list-style-type: none"> 主 述語 “不太” 形容 述語 “的” A“是”B “……吗?” “怎么”+動語 	中国 中华人民共和国 中国人 汉语 中文 普通话 华语 国语 方言 拼音 简体字 繁体字 声调 四声 北京 上海 天津 重庆 黄河 黄山 长江 长城 国家 首都 省 省会 直辖市 面积 人口 民族 少数民族 国家主席 全国人民代表大会 全人代 外交部 财政部 教育部 卫生部 国防部
	2	(a)中国の首都や主な都市の地図上の位置を言うことができる。 (b)中国の特徴を簡単な文章で言うことができる。 (c)中国語の学習について(好きか/どこで学んでいるか/どのくらい学んでいるか)言ったり聞いたりできる。 (d)中国語で何と言うかたずねることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 教室に地図を貼り、都市がどこにあるかをたずね、答える。 中国に関する基本情報(民族の数、面積、人口など)を短文で暗唱する。 自分の中国語学習に関する情報をまとめて発表する。 教室にあるもの、自分の持ち物などを指さし、中国語で何というかたずねる。 	<ol style="list-style-type: none"> (1)黑龙江省在中国的北边。 (2)中国在亚洲的东部。 (3)中国有 50 多个民族。 (4)中国的面积是日本的 26 倍。 (5)我喜欢学习汉语。 (6)我在高中学习中文。 (7)我学了一年汉语了。 (8)你学了多长时间汉语了? (9)我汉语说得太不好。 (10)我汉语还说得不好。 (11)我会说一点儿汉语。 (12)这个用汉语怎么说? 	<ul style="list-style-type: none"> “在” “最” 概数: 数量 + “多” “喜欢”+動語 (+目的語) “在”+場所+動語 動語 + “了” + 継続時間 + 目的語 + “了” 動語 + “得” + (副語) + 形容語: 状態補語 助動語“会”(可能) 前置語“用” 	面积 人口 民族 少数民族 国家主席 全国人民代表大会 全人代 外交部 财政部 教育部 卫生部 国防部

言語領域	3	<p>(a)中国語の勉強をしていて面白いところ、難しいところなどについて理由も含めて話すことができる。</p> <p>(b)中国のことわざ、成語、慣用句、新語などについてたずね、理解できる。</p> <p>(c)中国人の好みや日常の習慣について書いたり話したりできる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の中国語学習について、作文を書き、発表する。 中国語のことわざなどの説明を聞き、漢字で書き取り、どのことわざにあたるか選択肢から選ぶ。 中国人の習慣について書かれたものを読み、まとめ発表する。 	<p>(1)学习中文很有意思,因为可以交很多朋友。</p> <p>(2)汉语有四种声调,所以发音比较难。</p> <p>(3)第一次听到汉语,好像是听到一种音乐。</p> <p>(4)“知音”是什么意思?</p> <p>(5)“亲友”不是好朋友的意思,是亲戚朋友的意思。</p> <p>(6)很多中国人喜欢梅花和牡丹。</p> <p>(7)日本的“汉诗”,在中国叫“古诗”。</p> <p>(8)汉语里有很多从日本传来的外来语。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ……“因为” 助動詞“可以” ……“所以” 副詞“比较” “好像” 結果補語 動詞+“到” 前置詞“从” 方向補語 動詞+“来/去” 	<p>公安 人民法院 法院 法律 书法 看京剧 打太极拳 相声 中国象棋 梅花 牡丹 地图 世界 亚洲 欧洲 非洲 北美洲 南美洲 日本 韩国 泰国 美国 加拿大 澳大利亚 俄罗斯 蒙古 越南 新加坡 土耳其 英国 法国 意大利 德国 埃及 伦敦 巴黎 柏林 开罗 新德里 纽约 华盛顿 汉城</p>
	4	<p>(a)政治制度、地理、歴史、風俗習慣など中国について書かれた文章を読んで理解できる。</p> <p>(b)中国語の特色について、日本語や英語などと比較して説明できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 中国を紹介した雑誌、旅行雑誌などを辞書を用いて読む。 中国の観光案内ビデオを中国語字幕でみる。 中国語と英語、日本語とを比較して共通点・相違点などをまとめ、発表する。 	<p>(1)除了中国以外,还有一些国家以汉语为公用语,比如新加坡。</p> <p>(2)长城、黄河是中华民族的象征。</p> <p>(3)孙中山、鲁迅、周恩来曾来日本留过学。</p> <p>(4)《红楼梦》是中国四大古典小说之一。</p> <p>(5)全国人民代表大会相当于日本的国会。</p> <p>(6)很多日本人也知道章子怡和巩俐的名字,中国演员中最有名的还是要数成龙吧。</p>	<ul style="list-style-type: none"> “除了……以外,还……” “以……为……” “比如” 副詞“曾” アスペクト助詞“过”(経験) “……之一” A“相当于”B 副詞“还是” “(要)数” 助詞“吧”(推測) 	
文化領域	話題例					
	<p>(1)「中国語」ということば(呼び方、文字)</p> <p>(2)中国語の特徴(声調がある、外来語の取り入れ方など)</p> <p>(3)中国語が使われている地域</p> <p>(4)国・民族・ことば・文化</p> <p>(5)日本・日本語との関係</p> <p>(6)中国の地理</p> <p>(7)中国の政治</p> <p>(8)中国の文学</p> <p>(9)伝統文化</p> <p>(10)中国の経済</p> <p>(11)サブカルチャー</p> <p>(12)礼儀作法</p>					

日本語と日本

	レベル	指標	学習活動例	表現例	表現例のポイント	語彙例
言語領域	1	(a)日本語の文字(ひらがな、カタカナ、漢字)について言うことができる。 (b)ひらがなの書き方を書きながら説明できる。 (c)日本の首都や主な都市の名称を言うことができる。 (d)日本の有名人の名前を言うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 日本の地名や日本人の名前をピンインや簡体字で書く。 ピンインで書かれた日本の有名人の名前と簡体字を用いて書かれた同じ人の名前を線で結ぶ。 	(1)日语有汉字、平假名和片假名。 (2)日语的“あ”这样写。 (3)东京是日本の首都。 (4)东京是政治、经济的中心。 (5)横浜、神戸和长崎有中华街。 (6)京都是古都，有很多寺庙。 (7)高仓健在中国很有名。 (8)小泉纯一郎是前首相。	<ul style="list-style-type: none"> “有” “...、...和” ... “A”是“B” “的” “在”+場所+形容詞 	国家 首都 日本 日本人 日语 北海道 九州 冲绳 札幌 东京 横浜 名古屋 大阪 京都 神戸 福岡 面积 人口 县政府 市政府 中华街 富士山 樱花 茶道 花道 柔道 相扑 剑术 书法 围棋 象棋 俳句 和歌 折纸 和服 相声 狂言 歌舞伎
	2	(a)日本の面積や人口が言える。 (b)日本語や日本の特徴を簡単に言うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 日本の基本情報(面積や人口など)が書いてある表を見ながら、中国語で説明する。 	(1)日本の面积有三十七万七千平方公里，人口有一亿两千多万。 (2)日本是一个四面环海、四季分明的美丽岛国。 (3)富士山是日本最高的山。 (4)《万叶集》是日本最早的和歌集。 (5)村上春树是著名的作家，谁都知道《挪威的森林》这篇小说。 (6)茶道、花道、柔道、相扑是日本的传统文化。 (7)“经济”、“哲学”是日本人创造的词。 (8)俳句被称为世界上最短的诗。	<ul style="list-style-type: none"> 概数：数量 + “多” “最” “谁都……” 同格表現：……“这”+量詞+名詞 “被称为……” 	

言語領域	3	(a)日常よく用いる日本語の挨拶言葉の使い方を説明できる。 (b)日本人の好みや習慣について書いたり話したりできる。 (c)日本語で何と言うか、説明することができる。 (d)よく用いられる日本のことわざや慣用句を中国語に直し、説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「いただきます」「ごちそうさまでした」などの日本語特有の表現をカードに書き、グループごとにカードを引き、その言葉の説明を協力して中国語に直し、発表する。 ・チームに分かれ、日本のことわざなどを中国語で説明し、その言葉が何にあたるかをあてる。(連想ゲーム) 	(1)在日本，吃饭前要说一句“いただきます”，吃完饭后要说“ごちそうさまでした”。 (2)日本人听别人说话时常常点头。 (3)一到春天日本人有赏樱花的习惯。 (4)春天赏樱花，秋天赏红叶。 (5)在日本，电车上看漫画的人不少。 (6)年龄不同，喜欢的歌手也不一样。在日本年轻人中最受欢迎的还是木村拓哉吧。 (7)在初中、高中学习中国的古汉语和古诗。 (8)入门的地方日语叫“玄关”。 (9)日语的“噂をすれば影”相当于汉语的“说曹操，曹操就到”。 (10)“三日坊主”是没有常性的意思，相当于汉语的“三天打鱼，两天晒网”。	<ul style="list-style-type: none"> ・助動詞“要”〈心電〉 ・“……时” ・“……上” ・“在……中” ・“受欢迎” ・副詞“还是” ・助詞“吧”〈推測〉 ・動詞＋“的”＋名詞 ・A“相当于”B 	演员 男演员 女演员 歌手 主持人 汉字 平假名 片假名 政治 经济 文化 教育 国会 众议院 参议院
	4	(a)政治制度、地理、歴史、風俗習慣など日本について書かれた文章を読んで理解したり、簡単に説明できる。 (b)日本語の特色について、中国語や英語などと比較して説明できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本を紹介した中国語の本や雑誌、新聞、インターネット記事を読む。その内容をまとめ、説明文をつくる。 ・中国語や英語を学習する中で感じた日本語の特色を中国語で書き、発表する。 	(1)总理大臣是由国会提名，天皇任命的。一般是由执政党领导人出任首相。国会分众议院和参议院。日本有很多政党，如自民党、民主党、公明党、共产党及社民党等。国会议员大多数都属于某个政党。 (2)失业率今年下降到4%。不过，很难成为正式员工，当钟点工或合同工的人数在增加。 (3)日本的中小学里都有书法课。社会上还有很多书法学习教室。常言说“字如其人”，很多人希望能写一笔好字。 (4)日本是南北向狭长的国家，各地气候不同。 (5)日语有以下特征。比如，日语里有很多敬语，对师长要用敬语。还有，日语里有很多外来语，一般用片假名表示。	<ul style="list-style-type: none"> ・“是……的” ・前置詞“由” ・副詞“一般” ・“如……” ・接統詞“及” ・“……等” ・接統詞“不过” ・%の言い方 ・“很难”＋動詞 ・副詞“在” ・前置詞“对” ・接統詞“还有” 	天皇 首相 总理大臣 部长 国会议员 执政党 在野党 法院 四季分明 梅雨 台风 海啸 地震 温泉
文化領域	話題例					
	(1)日本の地理 (2)日本の政治制度 (3)日本の文芸 (4)伝統文化 (5)日本語の特徴 (6)日本の経済 (7)サブカルチャー (8)礼儀作法					

2-3. 言語領域の指標一覧：中国語

レベル1

自分・友だち・家族

- (a)自分の名前、愛称、学校名や学年、年齢、誕生日を書くことができる。
- (b)自分の名前、学校名や学年、年齢、誕生日、干支、国籍、出身、住んでいるところを言ったり、相手にたずねたりすることができる。

日常生活

- (a)1日の生活の中で使う基本的なあいさつが言えたり、聞いて理解できる。
- (b)1日の生活(何時になにをするか)について簡単に話したりたずねたりできる。
- (c)日常的な行動(1週間単位)について簡単に話したりたずねたりできる。

学校・教育

- (a)学校の名前を言ったりたずねたりできる。
- (b)勉強している科目を中国語で言える。
- (c)中国語で書かれた時間割や年間スケジュールを見て理解できる。
- (d)教室にあるものや学校の設備などを言ったり書いたりできる。

交通・旅行

- (a)行きたい場所を言うことができる。
- (b)駅や空港の案内表示(例：开往西安、售票处、进站口、入境)を見て理解できる。
- (c)普段通学などで利用する交通機関について言ったりたずねたりできる。
- (d)目的地と枚数を言って切符を買うことができる。

買い物

- (a)従業員の基本的な接客表現を聞いて理解できる。
- (b)ほしいものがあるかどうか身振りを交えてたずねることができる。
- (c)値段をたずね、値札や書かれた数字を見て理解し購入できる。
- (d)ほしいかどうかを言うことができる。

食

- (a)おなかがすいた/いっぱいだと言ったりたずねたりできる。

- (b)レストランの表示(例：饭店、餐厅、快餐、食堂)を見て理解できる。
- (c)レストランで従業員を呼ぶことができる。
- (d)メニューを指差しながら注文できる。
- (e)メニューや食べたいものがあるか、たずねることができる。
- (f)料理が好きかどうか、おいしいかどうかを言うことができる。
- (g)レストランで従業員を呼んで支払いをしたり、持ち帰りたいと頼むことができる。

- (h)朝食、昼食、夕食に何を食べるかを言ったりたずねたりできる。

人とのつきあい

- (a)人とのつきあいで基本的な表現を言ったり聞いて理解できる。
- (b)電話やファックスの番号を伝えたり、たずねたりできる。
- (c)中国語で書かれた住所を見て理解できる。
- (d)自分の住所を中国語で書くことができる。
- (e)電話での常用表現を聞いて理解できる。
- (f)お祝いの表現を言ったり書いたりできる。
- (g)招いたり、招かれたときの基本的な表現を言ったり聞いて理解できる。
- (h)人をほめることができる。

余暇・遊び

- (a)放課後、週末、長期休暇などに何をすることを言ったりたずねたりできる。

衣・ファッション

- (a)身につけている服やアクセサリーの名称や色を言うことができる。
- (b)服の好みを言うことができる。
- (c)服やアクセサリーについての感想を簡単に言うことができる。
- (d)服の売り場や美容院の表示を見て理解できる。

身体・健康

- (a)身体の調子について(疲れた/気分が悪い)言ったりたずねたりできる。
- (b)身長と体重を言ったりたずねたりできる。
- (c)体型(痩せている/太っている/背が高い/背が低い)について表現できる。

自然環境

- (a)気候についての簡単な表現(暑い、寒い、涼しい、暖かい)を言うことができる。
- (b)天気に関するもっとも基本的な用語を聞いて理解できる。
- (c)好きな季節を言ったり、たずねたりできる。

住

- (a)家の各部屋の名称(例：厨房、卫生间、卧室)を言ったり見て理解できる。
- (b)部屋の中にあるものを言うことができる。
- (c)住んでいる所(自宅か学校の寮か、何階かなど)についてたずねたり言ったりすることができる。

地域社会

- (a)自分の住んでいる町や都市の名前を言うことができる。
- (b)自分の住んでいる町の特徴(大きい都市か田舎かなど)を言うことができる。
- (c)自分の住んでいる町にどんな公共施設があるか言うことができる。

年中行事

- (a)年中行事や祝日の名称・月日を言ったりたずねたりできる。
- (b)祝祭日の決まり文句やお祝いの言葉を見たり聞いたりして理解できる。
- (c)祝祭日の決まり文句やお祝いの言葉を話したり書いたりできる。

中国語と中国

- (a)自分の話す中国語について言われたことが理解できる。
- (b)中国語を学んでいることや、中国語を学んで思っていることについて簡単に言うことができる。
- (c)中国や世界の主な国名・都市名を言ったり見て理解できる。
- (d)中国の国家主席や首相の名前を言うことができる。
- (e)漢字の読み方を尋ねることができる。

日本語と日本

- (a)日本語の文字(ひらがな、カタカナ、漢字)について言うことができる。
- (b)ひらがなの書き方を書きながら説明できる。
- (c)日本の首都や主な都市の名称を言うことができる。
- (d)日本の有名人の名前を言うことができる。

レベル2

自分・友だち・家族

- (a)自分の家族(構成、職業)について話したり、簡単に書いたりできる。
- (b)相手の家族についてたずねることができる。
- (c)自分の好きなことや趣味を言ったり、簡単に書いたりできる。
- (d)相手に好きなことや趣味をたずねることができる。
- (e)どんなペットを飼っているかやペットの名前を言うことができる。
- (f)持ち物(通学時のカバンに入っているようなもの)について言ったり、相手にたずねることができる。

日常生活

- (a)自分の日常的な行動(1日単位、1週間単位)について頻度、時間の長さなどを含めて話したりたずねたりできる。
- (b)1週間単位の予定を簡単に書くことができる。
- (c)日常生活の様子を表現したりたずねたりできる。

学校・教育

- (a)参加している部活動を言ったりたずねたりできる。
- (b)授業の科目についての好き嫌いや興味のあるなしについて言ったりたずねたりできる。
- (c)1日の学校生活スケジュールについて話したりたずねたりできる。
- (d)学校の年間スケジュールについて簡単に説明したりたずねたりできる。
- (e)クラスの人数や男女の数、学校の場所や規模、先生について言ったりたずねたりできる。

交通・旅行

- (a)目的地までの所要時間について言ったりたずねたりできる。
- (b)目的地までの交通機関、ルートについて話すことができる。
- (c)旅行計画(いつ、どこへ、誰と、何日くらい)について言ったりたずねたりできる。
- (d)今までに行ったことのある場所についての簡単なやりとりができる。
- (e)地図を見せながら目的地までの道順をたずねることができる。

買い物

- (a)広告等を見てショッピングリストを作ることができる。
- (b)お店や売り場がどこにあるか見て理解できる。
- (c)お店や売り場が何階にあるかたずねたり、聞いて理解できる。

- (d)価格の決め方に関する表示を見て理解することができる。
- (e)お店の営業時間をたずねたり、聞いて理解できる。
- (f)数やサイズ、色を指定して買いたいということができる。
- (g)ほしいものの有無や値段をたずね、聞いて理解できる。
- (h)ほしいものを店員に見せてもらうことができる。
- (i)商品の感想を簡単にいうことができる。
- (j)支払い場所を聞いてお金を払うことができる。

食

- (a)食べ物の好き嫌いを言ったり、たずねたりできる。
- (b)食べ物や飲み物の味や状態(甘い、辛い、すっぱい、塩辛い、熱い、冷たい)を言うことができる。
- (c)普段の食事(昼食はどこで食べているか、お弁当を持ってきているか)について話したり、たずねることができる。
- (d)料理の種類(洋食、和食、日本料理など)の好みを話したり、たずねることができる。
- (e)中国語で書かれたメニューを見て大きな分類(例:涼菜、熱菜、肉、魚、主食)が理解できる。
- (f)支払いの仕方について言ったり、聞いて理解することができる。

人とのつきあい

- (a)電話で簡単なやりとりができる。
- (b)相手の都合を聞くことができる。
- (c)誰かを誘ったり、誘いを受けたり、断ることができる。
- (d)待ち合わせの時間や場所についてやりとりできる。
- (e)贈り物を渡すときの表現を言ったり聞いて理解できる。
- (f)招いたり、招かれたときの表現を言ったり聞いて理解できる。

余暇・遊び

- (a)休みの日に何かをするのに、友達を誘うことができる。
- (b)友だちの誘いを受ける/断ることができる。

衣・ファッション

- (a)相手の服装や髪型、身に着けているアクセサリーをほめることができる。
- (b)服装や身につけているもの、髪型の説明を聞いて理解できる。
- (c)雑誌や写真を見せながら、美容院・理髪店で自分の希望する髪型を伝えることができる。

身体・健康

- (a)自分の病状を簡単に説明でき(風邪を引いた/おなかや頭が痛い/せきがでる)、病院にいきたいと言うことができる。
- (b)健康のためにしていること(運動、ダイエットなど)について言うことができる。
- (c)病気について聞かれたことや言われたことを聞いて理解できる。
- (d)お見舞いの言葉が言える。
- (e)体型について二者を比較して言うことができる。

自然環境

- (a)最高気温、最低気温などを使って、天候や季節の特徴を簡単に話したり、たずねたりできる。
- (b)天候の地域差などを書いたり話したりできる。

住

- (a)部屋の中の様子が言える。
- (b)家の近所にある建物や様子を簡単に説明できる。

地域社会

- (a)自分の住んでいる町や都市が好きか/嫌いか、どんなところが好きか/嫌いか話せる。
- (b)自分の住んでいる町や都市の特徴(位置、産物、人口など)について簡単に言うことができる。

年中行事

- (a)年中行事や祝日の過ごし方について、簡単に言ったりたずねたりできる。

中国語と中国

- (a)中国の首都や主な都市の地図上の位置を言うことができる。
- (b)中国の特徴を簡単な文章で言うことができる。
- (c)中国語の学習について(好きか/どこで学んでいるか/どのくらい学んでいるか)言ったり聞いたりできる。
- (d)中国語で何と言うかたずねることができる。

日本語と日本

- (a)日本の面積や人口が言える。
- (b)日本語や日本の特徴を簡単に言うことができる。

レベル3

自分・友だち・家族

- (a) 将来の職業や希望について話したり、たずねたりできる。
- (b) 自分の経験(～をしたことがある/～をどのくらい長くしている)について話したりたずねたりできる。
- (c) 得意なこと、不得意なことについて話したりたずねたりできる。
- (d) 家族と自分の関係(年齢差)や家族の特徴について話したり、たずねたりできる。

日常生活

- (a) 自分の生活について感想や希望を含めて書いたり話したりすることができる。

学校・教育

- (a) 学校内の配置について説明すること(簡単な学校案内)ができる。
- (b) 自分の学校生活について(授業、先生、クラス等)、内容や感想を述べることができ、簡単な文が書ける。
- (c) 学校行事について簡単に話したり書いたりできる。
- (d) 中国語で書かれた簡単な学校案内を、辞書の力を借りて大意を理解することができる。
- (e) 交流先の高校で(または中国からのお客様の歓迎で)簡単なスピーチができる。

交通・旅行

- (a) 目的地までの道順を説明したり、聞き取ることができる。
- (b) 旅行について感想を含めて話したり簡単な文章を書くことができる。
- (c) 観光地の案内プレートや解説文、ガイドブックを見て、辞書の助けを借りて大意を理解することができる。
- (d) ガイドさんの説明を聞いてある程度理解することができる。

買い物

- (a) 代わりのものを求めることができる。
- (b) 値段の交渉をすることができる。
- (c) 試してみてもいいかたずねることができる。
- (d) 数量を指定して値段をたずねることができる。

食

- (a) 中国語で書かれた簡単なレシピを見て、辞書の助けも借りながら、料理の作り方が理解できる。

- (b) 中国と日本の食文化、食事のマナーについて簡単に話したり、書いたりできる。

人とのつきあい

- (a) 中国語で書かれた手紙やメールを、辞書の助けを借りながら読んで理解できる。
- (b) 簡単な手紙やメールを書くことができる。
- (c) インターネット用語(例: 下载、电子邮件)を理解できる。

余暇・遊び

- (a) 余暇の過ごし方について、ある程度まとまった文章で話したり書いたりできる。
- (b) ゲームのルールを読んで大意を理解できる。

衣・ファッション

- (a) 服装のTPOについて簡単に説明できる。
- (b) 服を買う場所や美容院に行く頻度、それぞれにけるお金などについて言ったりたずねたりできる。
- (c) 服装やアクセサリ、髪型についての流行や感じたことを言うことができる。

身体・健康

- (a) 病院で受付をしてもらうことができる。
- (b) 医者に聞かれた病気やけがの状況を理解し、簡単に説明することができる。
- (c) 医者に診断書を書いてもらうことができる。
- (d) 医師の指示や診断内容を聞いてほぼ理解できる。
- (e) 入院日数や薬の服用の仕方等についてたずねることができる。
- (f) 辞書の助けも借りながら、薬の説明書を読んで理解できる。
- (g) 健康のためにしていることをたずねたり、まとまった文章で説明できる。

自然環境

- (a) 気候や自然現象、自然災害に関するまとまった文章を辞書の助けを借りて大意を理解できる。
- (b) 気候や自然現象、自然災害について話したり、たずねたりできる。
- (c) 環境問題に関する文章を辞書の助けを借りて大意を理解できる。

住

- (a) 家の間取り、構造などを簡単に説明したり、書いたりできる。
- (b) 部屋の使い方や特徴についてたずねたり話したりすることができる。

地域社会

- (a) 地域で行われる行事等についてたずねたり、簡単に説明できる。
- (b) 都市や町について書かれた文章を、辞書の力を借りて大意を理解することができる。

年中行事

- (a) 中国の年中行事や祝日の過ごし方について書かれた文章を辞書の力を借りて大意を理解することができる。
- (b) 日本の祝日や年中行事の名称・月日・過ごし方を簡単に説明できる。

中国語と中国

- (a) 中国語の勉強をしていて面白いところ、難しいところなどについて理由も含めて話すことができる。
- (b) 中国のことわざ、成語、慣用句、新語などについてたずね、理解できる。
- (c) 中国人の好みや日常の習慣について書いたり話したりできる。

日本語と日本

- (a) 日常よく用いる日本語の挨拶言葉の用い方を説明できる。
- (b) 日本人の好みや習慣について書いたり話したりできる。
- (c) 日本語で何と言うか、説明することができる。
- (d) よく用いられる日本のことわざや慣用句を中国語に直し、説明できる。

レベル4

自分・友だち・家族

- (a)自分や家族の性格、日常の様子について話すことができる。
- (b)自分の将来の夢や希望について理由を含めて話すことができる。
- (c)将来の夢や希望について書かれた文章を読んで大意を理解することができる。
- (d)自分のおいたちについて書いたり話することができる。
- (e)おいたちについて書かれた文章を読んで大意を理解することができる。

日常生活（設定しない）

学校・教育

- (a)学校の概要および特色を説明する学校案内を作ることができる(学科、校訓、制服の有無、年間行事スケジュール、校則など)。
- (b)日本の教育制度(義務教育、進学など)について簡単に説明することができる。
- (c)日中両国の学校生活や教育制度について書かれた文章を読んで自分の意見を述べたり、ディスカッションできる。

交通・旅行

- (a)旅行の目的地の説明(地理、歴史など)をすることができる。
- (b)旅行の手配(交通機関、ホテルなど)をする。
- (c)列車や駅・空港でのアナウンスを聞き取る。
- (d)旅行の途中で発生した交通機関やホテルのトラブルに対応する。
- (e)日本の交通システムについて説明することができる。

買い物

- (a)購入したものの返品、交換を依頼することができる。
- (b)包装を頼むことができる。
- (c)店内放送を聞きとることができる。
- (d)買った物の配送を頼むことができる。
- (e)電話で注文することができる。
- (f)メール、ファックスで注文書を書くことができる。
- (g)品物の比較・検討をすることができる。

食

- (a)料理の説明を聞いて理解することができる。
- (b)料理の特徴(味付け、材料、作り方等)について聞いて理解したり、説明することができる。
- (c)食習慣について話したり、書いたりできる。

人とのつきあい

- (a)日中両国における通信手段とその価格、利用度などについて書かれた文章(例:中国語で書かれた宅配便サービスのサイト)を読んで理解し、簡単に説明できる。
- (b)日中両国の贈答習慣の違いについて書かれた文章を読んで理解し、簡単に説明できる。

余暇・遊び

- (a)日本の高校生と中国の高校生の余暇の過ごし方について、似ている点・違う点を話したり書いたりできる。

衣・ファッション

- (a)服装のTPOや伝統的な衣服についてある程度まとまった文章を読んだり、話したりできる。

身体・健康

- (a)保健に関する文章を読んで理解できる。
- (b)健康に関して、自分の意見や考えを述べたり、議論できる。

自然環境

- (a)気候や自然現象、自然災害についてまとまった文章を話したり、書いたりできる。
- (b)環境問題に関して自分の意見を言うことができる。

住

- (a)日本と中国の住環境の違いなどについて書いた文章を読んで理解したり、簡単に説明できる。

地域社会

- (a)日中両国における地域社会の共通点・相違点などについて話したり、書いたりできる。

年中行事

- (a)日中両国の年中行事の特色、共通点・相違点などについて話したり、書いたりできる。

中国語と中国

- (a)政治制度、地理、歴史、風俗習慣など中国について書かれた文章を読んで理解できる。
- (b)中国語の特色について、日本語や英語などと比較して説明できる。

日本語と日本

- (a)政治制度、地理、歴史、風俗習慣など日本について書かれた文章を読んで理解したり、簡単に説明できる。
- (b)日本語の特色について、中国語や英語などと比較して説明できる。

2-4. 一般語彙と教室中国語

一般語彙			
【数に関する表現】	【何かを指すことば】	一点儿	每天
零	这	一下	每个星期
一	这个	【貨幣の単位】	每个月
二	这些	块	每年
三	那	元	【時に関する表現】
四	那个	毛	年
五	那些	角	月
六	哪	分	日/号
七	哪个	圆	星期 / 周
八	哪些	【量を測る単位】	星期一/周一
九	这儿	斤	星期二/周二
十	这里	克	星期三/周三
百	那儿	两	星期四/周四
千	那里	公斤	星期五/周五
万	哪儿	米	星期六/周六
亿	哪里	平方米	星期日/周日
第一	【疑問文を作ることば】	【位置や方角を表すことば】	星期天
【人称を表すことば】	哪	上(边)	天
我	哪个	下(边)	点
我们	哪些	里(边)	分
你	哪儿	外(边)	刻
您	哪里	左(边)	小时
你们	多少	右(边)	早上
他	几	前(边)	上午
他们	什么	后(边)	中午
她	为什么	东(边)	下午
她们	怎么	南(边)	晚上
它	怎么样	西(边)	夜里
它们	谁	北(边)	前天
咱们	什么时候	旁边	昨天
【親族の呼び方】	【物を数えるときの単位】	对面	今天
爸爸	个	中间	明天
父亲	张	【色に関することば】	后天
妈妈	本	黑(色)	上(个)星期
母亲	枝	白(色)	这(个)星期
哥哥	条	红(色)	下(个)星期
弟弟	把	蓝(色)	上(个)月
姐姐	只	绿(色)	这(个)月
妹妹	块	黄(色)	下(个)月
爷爷	杯	【頻度を表すことば】	前年
奶奶	碗	常常	去年
老爷	次	经常	今年
姥姥	遍	有时候	明年
	趟	每	后年

教室中国語	
【毎回の授業で】	请看黑板。
同学们好！老师好！	有问题吗？ 有。/没有。
点名。	懂了吗？ 不懂。/懂了。
到。是什么意思？
请打开课本。用汉语怎么说？
请合上课本。	今天就上到这里。下次再见。
请翻到第.....页。	【意見を発表するときに】
请听我说。	现在我发表一下.....的情况。
请跟我念。	现在我谈一下有关.....的问题。
请念一下(这一段)。	【ディベートで】
请再说一遍。	同意你的意见。/我不同意。
请慢点儿说。	你说的对,但是.....。

3. コミュニケーション能力指標にもとづく中国語の授業

3-1. 授業計画の立てかた

授業計画を立てる際に、生徒たちがその授業を通じて「何ができる」ようになっているかという明確な目標を持つこと、そしてその目標を達成するための効果的な教育方法は何かを考えようというのが、「学習のめやす」の中心的な考え方である。

これまでも年間指導計画、単元指導案、授業案を作成してきたと思うが、書式や用語、指す内容はまちまちであり、誰もが一目見てすぐに授業の形式や流れ、その工夫点などを理解することは容易であるとは言い難い。とりわけ、高校の中国語教育は、現場によって単位数・選択する学年・交流行事等の有無など学習条件の違いが大きく、これらの条件をふまえた上でないと授業の目標や教育方法の工夫も見えにくい。

今回、コミュニケーション能力指標を使った授業づくりの共通のツールとして機能する、年間指導計画と単元指導案の様式を作成した。なお、今回提案する単元指導案の様式は、国際理解教育の分野で開発されたシートを参考にし、コミュニケーション能力指標にもとづく授業づくりの趣旨をうまく反映できるところを取り入れたものである。まだまだ整備を要するところはあるが、これに基づき作成された年間指導計画や単元指導案が蓄積されれば、中国語担当者間で授業づくりのノウハウを共有化していく可能性を持っていると思う。

3-1-1. 年間指導計画

1年間の授業を通じて、「何ができる」ようになるかを、単元ごとに示すもの。各単元で扱う言語領域の指標、文化領域の話題例、語句や文型などを整理して記入することにより、全体を把握し不足部分を調整することができる(pp. 146-156 の記入例参照)。

3-1-2. 単元指導案

単元ごとに「何ができる」ようになるか、どのような学習活動でどのような言語材料を使ってそれを達成するかを示すためのものである。様式作成にあたって工夫した点は以下のとおり。項目前の丸数字は、pp. 125-127の様式各欄にある丸数字と対応している。具体的な記入例はpp. 130-145参照。

単元の学習目標

単元全体の目標と文部科学省が示している外国語科の評価観点別目標の記入欄を設けた。

[表 2] 観点別評価の内容

関心・意欲・態度	対象言語および対象文化に対して関心をもち、積極的にコミュニケーション活動を行おうとする。
理解の能力	対象言語を用いて、情報や考えなど伝えたいことを話したり、書いたりして、文化的背景の中で表現する。
表現の能力	対象言語を聞いたり、読んだりして、情報や話し手や書き手の意向など相手が伝えようとするのを、文化的背景の中で理解する。
知識・理解	対象言語の学習を通じて、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解する。

学習内容

学習内容をコミュニケーション能力指標の話題分野別の「指標」、表現例、文化領域の話題例を参考に記入する。話題分野は授業の内容に応じて組み合わせて使う。

学習活動

コミュニケーション能力をつけるためには、体験型・主体行動型・共同作業型などさまざまな学習活動が導入されるべきである。この単元でどのような学習活動を取り入れるかをここに記入する。その際、教室内外との連携や他教科との連携も考慮する。ただし、こうした活動は必ずしも毎時間に取り入れなければならないのではない。

展開計画

単元を構成する時間分の指導計画を記入する。教育実習などでは1時間ごとのシナリオ的な流れを示したものが有効であろうが、生徒に「できる」力をつけさせる、という目標を立てるなら、数回のまとまりで示す方が、レクチャープランとして価値が高いだろう。目標にたどり着くには予備練習や訓練的要素も必要であり、それらも含めた上で計画を立てる必要がある。

評価方法と評価の基準

評価は目標と対応していなくてはならない。どのような方法で評価を行うかは、の学習活動にもつながる。

苦労した点・問題点

改善するとしたら

授業は指導案通りに進行するとは限らないし、練習や学習活動が教師が期待した結果を生まないこともある。また、同じ案を使っても、対象者が変われば必ずしも効果的でない場合もある。大事なものは、授業作りの過程で苦労したところや教師自身を感じている問題点である。これらを共有して初めて指導案の蓄積を意義あるものにできる。

単元で利用した資料など

研究授業の後の研修会などで、使ったデータや授業の小道具の入手方法などについてよく質問が出る。あらかじめ整理しておけば、自分にとってもあとあと便利である。

生徒の感想

授業をやって終わりではなく、その後の生徒の変化や発展などを記入する。生徒の中国語作文などを載せてもいいだろうし、例えばこの授業実践の後にこんなスピーチをすることができたなどという生徒の感想文を記入しても教育効果や波及効果の事例となるだろう。生徒自ら書いたものの方が、その時の興味や関心の度合いがわかりやすいと思われる。

なお、単元指導案例(pp. 130-145)の振り返りの部分に記入されている、苦労した点・問題点、改善するとしたらおよび生徒の感想は、この単元指導案に基づいて授業を実施したことを想定してのものである。

単元指導案

作成日： 年 月 日

科目名				授業担当者:
学校名			学年と人数: ____年____人 ____年 ____人 計____人	
単元名				
実施時期	____年____月____日 から ____年____月____日 まで		総時間数: ____ 時間	
履修単位数	____年め ____ 単位		学習活動の場所:	
単元の学習目標	目標: <観点別> 関心・意欲・態度: 表現の能力: 理解の能力: 知識理解:			
使用教材	1. _____ 2. _____ 3. _____			
学習内容				
話題分野	言語領域の指標(レベル別)	表現例	文化領域の話題例	
学習活動	他教科との連携: 教室内外との連携:			
表現例のポイント				
語彙				

展開計画

	月 日	主な学習活動	留意点など

評価

評価方法と 評価の基準	<p>関心・意欲・態度:</p> <p>表現の能力:</p> <p>理解の能力:</p> <p>知識理解:</p>
------------------------	---

振り返り

苦勞した点 問題点	実際にこの単元を実施してみても苦勞した点や問題点
改善するとし たら	次回この単元を実施するために、上記問題を改善するための案など
単元で利用 した資料など	単元を構成するために利用した参考資料、学習者のための参考資料、ウェブサイト、生教材など
生徒の感想	この単元を学習しての生徒の感想などがあつたら記入してください。
備考	

3-2. 発音と文字

「中国語の発音は難しい」「中国語は日本語と同じく漢字を使っているから学びやすい」とよく言われるが、どんな外国語にも、母語にはない音が存在すると思われる。また、同じ漢字を使っているために、陥りやすい落とし穴もある。

「学習のめやす」では、「他の発見」を教育理念の一つにかかげている。文字や音との出会いを通じた新たな発見が、生徒たちの学習意欲の向上につながるような授業を進めるためのポイントを考えてみた。

3-2-1. 発音

「学習のめやす」が前提としているコミュニケーション能力養成のための発音学習のポイントを以下のとおり提案したい。

(1) スパイラルな学習

発音は中国語学習の重要な要素であり、学習開始時期にある程度まとまった時間を取って発音練習に取り組むことが望ましいと考える。しかしながら、たとえばある特定の音節が完全に習得できなければ次の段階に進まないというやり方ではなく、ある程度練習を積んで近い発音ができたら、実際に使えるコミュニケーション表現の学習に進むのがよいだろう。その過程で発音に問題が見受けられれば、常に指導していくというスパイラルな進行を提案したい。

(2) コミュニケーションを意識した練習

学習者が実際にコミュニケーションに使える語句を発音練習になるべく多く使うなどして、「発音練習のための単調な練習」にならないよう留意する。たとえば、単音節の語や挨拶・呼びかけのような短いフレーズであってもコミュニケーションとして使われていることを意識させた学習が大事である。具体例は以下のとおり。

国や都市名に限定した声調の組み合わせ練習<話題分野:中国語と中国、日本語と日本、交通・旅行>

	1声	2声	3声	4声
1声	東京(Dōngjīng)	中国(Zhōngguó)	山口(Shānkǒu)	千叶(Qiānyè)
2声	福岡(Fúgāng)	韓国(Hánguó)	福島(Fúdǎo)	岐阜(Qífù)
3声	北京(Běijīng)	美国(Měiguó)	広島(Guǎngdǎo)	水戸(Shuǐhù)
4声	静岡(Jìnggāng)	奈良(Nàiliáng)	日本(Rìběn)	那霸(Nàbà)

日常生活のあいさつ表現を集めた練習<話題分野:人とのつきあい>

请坐。 欢迎。 你好! 非常感谢你。

親族呼称を使った軽声音節の練習<話題分野:自分・友だち・家族>

妈妈 爷爷 姐姐 爸爸

(3) インプットとアウトプットのバランス

外国語学習するうえで、インプットは非常に重要である。発音の習得には、インプットとしての「聞くこと」も重視し、音を発することとのバランスを考える。その際、効果的かつ学習者が関心を示すような

インプットを心がける。なお、学習者が耳にする音声の模範となるものは複数あることが望ましい。

(4) 中国語らしさ

一つひとつの音節単位の発音がいくら正しくても、プロソディ(ストレス、イントネーション、リズム、ポーズなど)が適切でないと相手に伝わりにくい。中国語らしさを身につけさせるために以下の点に留意したい。

- ・早い時期からストレス、イントネーション、リズム、ポーズ、意味のまとまり、速く読む箇所や遅く読む箇所などを意識させる。
- ・なるべく早い時期から実際に使われている中国語を聴覚教材として使用する。
- ・まとまった文章の音読や長い会話のやりとりをしながら、学習者にプロソディを意識させる。

(5) 学習活動の工夫

発音は一つのトレーニングであり、練習の反復により定着を図ることは大切だが、学習者がより積極的に取り組めるよう、ペアやグループで練習したり、チェーンドリルなどゲーム的な要素を取り入れるなどの工夫をする。

(6) ピンイン(漢語拼音字母)の学習

ピンインの学習は発音の導入と平行して進めることが望ましい。学習開始時期においては、中国語の漢字を見た時に日本語の漢字の音が喚起され、中国語の音が定着しにくいことも考えられるため、ピンインのみでの練習も効果がある。ピンインの習得は、自学自習の有効な手段となることが理解できるよう、学習者が主体的にピンインを使う学習活動の工夫をする。

3-2-2. 文字

中国語における文字の学習は、簡体字、繁体字、日本の漢字を比較しながら漢字の成り立ちについて学ぶ、同形語を使っても意味が違うこと、漢字を使った中国語ならではの外来語の表記方法を学ぶなど、文字＝漢字との出会いが新たな発見につながる可能性を持っている。授業において文字の学習を行う際には、生徒たちの学習意欲が高まるような活動を工夫することが望ましい。

3-3. 単元指導案例

単元指導案例(1)

作成日:平成 19 年 3 月 15 日

科目名	中国語会話		授業担当者: 胡興智
学校名	希望高等学校	学年と人数: 1 年生 40 人	
単元名	中国語学習の第一歩		
実施時期	平成 19 年 4 月 12 日 から 平成 19 年 4 月 12 日 まで		総時間数: 2 時間
履修単位数	1 年め 2 単位	学習活動の場所: 普通教室	
単元の学習目標	<p>目標:1 年間学んでいく中国語に興味を持ってもらい、語学を学ぶ楽しみを感じてもらう。</p> <p><観点別> 関心・意欲・態度:授業中の質問や学習活動を積極的に行う。</p> <p>表現の能力: 基本的なあいさつを言うことができる。その際、相手との距離や使用場面を考えて使うことに気づく。</p> <p>理解の能力: 基本的なあいさつを聞き、適切な応答をすることができる。</p> <p>知識理解: 中国語には声調、簡体字、ピンインがあることを知る。</p>		
使用教材	1. 『高校生からの中国語』(白帝社) 2.		
学習内容			
話題分野	言語領域の指標(レベル別)	表現例	文化領域の話題例
人とのつきあい	1 - (a) 人とのつきあいでの基本的な表現を言ったり聞いて理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・你好! / 您好! ・再见! ・谢谢! ・不客气! ・对不起! ・没关系! 	人と話すときの距離
自分・友だち・家族			自己紹介の仕方
中国語と中国	1 - (a)自分の話す中国語について言われたことが理解できる。	・(你的发音 / 汉语)很好。	日本から輸出された漢語
学習活動	三人一組(日本人、通訳、中国人役)であいさつの練習をする。 ペアで練習する。 他教科との連携: 社会科・歴史・国語 教室内外との連携: 授業の展開により、留学生や地域にいる中国人を招いて、実際に挨拶を交わすことも考えられる		
表現例のポイント	教室用語 请听我说。请跟我说。请再说一遍。		
語彙	你 您好 谢谢 不客气 对不起 没关系 再见 很好 汉语 普通话 拼音		

展開計画

	月 日	主な学習活動	留意点など
全2時間の 1回目	4月12日 (木) 50分×2	<p>中国語を聞く ベルが鳴ったら、「你们好」で始め、中国語で名前と趣味などを紹介し、挨拶する。 日本語に切り替えて挨拶の内容を紹介する。</p> <p>教師に質問をする 何でもいいので、質問するように促し、「出身地」など自己紹介の基礎に関する質問が出た場合には、必要に応じて、黒板に名前と出身地を簡体字とピンインで書き、簡体字やピンインについての紹介しながら質問に答える。</p> <p>人間関係の基礎である距離感に気づく わざと一人の学生に近づき、これくらいの距離で話しても大丈夫かと聞く。たいていの生徒は「ちょっと落ち着かない」と答える。 中国人同士が話す時の距離は、一般的に日本人より近く、自分が日本に来たとき、あるパーティーの席で、日本人の友達が自分と距離を取ろうとして、さがってゆき、とうとう壁によりかかるほどだったという異文化体験を話す。</p> <p>日本語と中国語の関係性に気づく 日本国内でも異文化体験の機会が増えている。たくさんの中国人留学生在が日本文化、科学技術、経済などを学びに日本にやってくる。「経済」のことを話題にし、「経済」は中国の古典に基いて日本人が作った言葉であること、このことから、単なる模倣ではなく高い想像性と創造性を持って、中国の文化を自らのものとしている優れた日本人の先輩がいたこと、その事実があまり知られていないことに触れ、外国語で自分の文化を誇りを持って伝えることも語学学習の目的の一つだと伝える。</p> <p>簡単な挨拶をしてみる、教室用語に慣れる コミュニケーションの基本である挨拶から始まる。まず旅行会話ができるまで、どれくらい時間がかかるか質問し、(大体半年、一年という答えが返ってくるため)、今日は、半年分の旅行会話を一緒に学ぶと伝える。 ページを開かせ、ピンインで「你好！你好！谢谢！不客气。对不起。没关系。再见。再见。」を板書する。</p> <p>これから教室用語をできるだけ中国語で行うことを言い、手振りをつけながら「请听我说。请跟我说。请再说一遍。」を聞かせて、教える。 教室用語を使い、指示し、挨拶の練習に入る。何度か挨拶を復唱させる。</p> <p>ピンインのこと、声調のことを簡単に紹介、挨拶文の中国語の意味を説明していく。</p> <p>再び何度か挨拶を復唱させる。</p>	<p>最初に緊張感を与え、その後リラックスさせるようにする。</p> <p>中国人は日本人と比べて、人間関係の心理的距離が近いので、付き合っていく中で様々なことを聞かれることがあることを説明する。 常に質問をしやすい雰囲気をつくっておく。</p> <p>自己開示により、学生との距離が縮むようにする。また、発信型コミュニケーションが可能であるように技術面及び心理面のハードルを低くするようにする。</p> <p>語学学習はただセンテンスを作る能力を高めるだけでは十分ではなく、相互理解を深めるための文化や言語の背景知識も学ぶ必要があり、言葉と同時に、意識して異文化コミュニケーション能力を高めなければならぬことに気づかせるようにする。</p> <p>想像力を働かせ、挨拶する場面を教室だけに限定することではなく、外の世界へ広がるようにイメージを膨らませ、より臨場感のある生きた言葉として覚えてもらい、使ってもらうように工夫する。</p> <p>手でサインをしながらを教室用語など繰り返し聞かせ、できるだけ早く中国語で授業をする楽しみを覚えるように工夫する。</p> <p>中国語の話を少し紹介し、多民族、多言語などに触れ、今、習っている言葉は汎用性の高い標準語であることを伝えるようにする 発音の予告編として、ピンインの表記などについて、簡単なイメージをもってもらうようにして、漢字をしばらく出さない理由を話しておく。</p>

	月 日	主 な 学 習 活 動	留 意 点 等
全2時間の 1回目		<p>あいさつの使い方の違いに気づく 「もしあなたが日本語の教師だったら、「すみません」はどのような場面で使うと外国人に説明するか。」何人かの学生に聞いていく。 (大体「謝る」「尋ねる」「呼びかける」は出るが、「感謝する」にも使われることはなかなか思いつかないようなので、「落ちた鉛筆を拾ってくれた人にはどう言いますか」と水を向けて「感謝する」の意味もあることに気づかせる。)</p> <p>三人一組(日本人、通訳、中国人)であいさつの練習 二人の学生に黒板の前に来てもらい、三人で練習モデルを示す。日本人役の学生に「挨拶する 感謝する」を書いた紙を渡す。 日本人: こんにちは! 通訳: 你好! 教師: 你好! 通訳: こんにちは! 日本人: ありがとう! 通訳: 谢谢! 教師: 不客气。 通訳: どういたしまして。 グループに分けて、この練習をしてもらい、最も楽しそうなグループに前で発表してもらう。 挨拶を定着させる練習に移す前に、その練習パターンを三人の学生にやってもらい、二人の学生に黒板を見ないで、中国語で挨拶してもらい、もう一人の学生は監督として、黒板に書いた挨拶を見ながら、表現のチェックや気持ちが伝わっているかどうかを確認してもらい、グループを分けて、挨拶を定着させる練習する。</p> <p>宿題を出す 次回は小テストをするという予告する。その用紙を示す。 「こんな時、何ていうの?」 以下の場面を想定して、ピンインで書いてください。 初対面の人に挨拶する _____ 感謝を表したい時 _____ 感謝されたことに対して返事する時 _____ 謝りたいとき _____ 謝られて、大丈夫だよという気持ちを表したい時 _____ さようならと告げて、別れる時 _____</p> <p>中国語の「再见」は「再び見る」だが、日本語の「さようなら」は、どんな意味か考えてくるようにと。</p> <p>前期の目標を確認する 発音がきちんとできること。自己紹介できるようにする。 挨拶を全員で復唱し、「再见」で授業を終える。</p>	<p>外国人に自分の言語、文化を伝えたり、教えたりすることを体験することにより、自己発信のための気づきを促す。</p> <p>日本語と共通した表現であっても、使い方が違うようなものについて注意を促す。</p> <p>通訳ごっこ、ロールプレーをやる必要性、実用性を感じてもらうようにする。</p> <p>ただ機械的に話したり、訳したりすることではなく、自分の気持ち、相手の気持ちをよく伝えるように注意を促す。</p> <p>握手するか、お辞儀するのか、話す距離、声の大きさなどコミュニケーションに大きな影響を与える文化現象(「交際文化」)に留意しながら、注意するように指導する。</p> <p>退屈させないように、メンバーをチェンジするようする。</p> <p>外国語を話す楽しみを感じさせる。</p> <p>学生に監督としての責任、また学びあう喜びを感じてもらい、達成感が感じられるように工夫する。</p> <p>これからの授業の進み方、到達度の計り方を理解してもらい、少しでも不安を取り除くようにする。</p> <p>「聞く、話す、読む、書く」という技能の習得だけではなく、外国語を習得していく中で「考える」力を養う必要があり、異文化(民族、地域、世代などより広い意味で捉えたい)に自ずと出会い、また、自らの文化の発見のきっかけを得られる環境作りをして、自己発見の喜びを感じてもらうように工夫する。</p> <p>「再见」について、自分で調べたり、親に聞いたりするように勧める。自ら学ぶまた、親と学ぶあう喜びを味わってもらい、その習慣化を図る。</p>

評価

<p>評価方法と評価の基準</p>	<p>関心・意欲・態度： 積極的に質問をしたかどうか。通訳ごっこに恥ずかしがることなく参加したかどうか。</p> <p>表現の能力： 基本的なあいさつを言うことができたかどうか。声の大きさ、相手との距離や握手などの非言語のコミュニケーション活動が伴っていたかどうか。</p> <p>理解の能力： 基本的なあいさつを聞き取り、適切な挨拶を返せたかどうか。</p> <p>知識理解： 中国語の声調、簡体字、ピンインについての知識が得られたかどうか。</p>
--------------------------	--

振り返り

<p>苦勞した点 問題点</p>	<p>程よい緊張を保ちつつ、リラックスした雰囲気、語学の楽しさを味わってもらえるようにする。 積極的に質問やあいさつの練習ができるようになるまでの時間配分及びそのフォロー。</p>
<p>改善すると したら</p>	<p>練習と説明のバランス、切り替えのタイミング 生徒と教師、生徒同士がもっと話やすい雰囲気を作る。</p>
<p>単元で利用 した資料など</p>	<p>「経済、哲学」など日本人が作った言葉を集めたプリント これから行われる予定の小テストの用紙の見本 いくつか中国の高校生のホームページ</p>
<p>生徒の感想</p>	<p>意外に覚えやすかったため、上手くできるかも。 クラスメートの発音や動作などをチェックするのは大変だったが、学びあう楽しさを覚えて楽しかった。 日本語と共通した表現でも使い方が違うことがわかっておもしろかった。 もっと中国、中国人について知りたいし、もっと自分の文化を知らなければならぬと思った。</p>
<p>備考</p>	

単元指導案例(2)

作成日:平成 19 年 3 月 10 日

科目名	中国語		授業担当者: 千場 由美子、金 晶(ALT)
学校名	大阪府立柴島高等学校	学年と人数 : 2 年 14 人 3 年 9 人 計 23 人	
単元名	中国語、友だちとの出会い		
実施時期	平成 19 年 4 月 16 日 から 平成 19 年 4 月 25 日 まで		総時間数: 8 時間
履修単位数	1 年め 2 単位	学習活動の場所: LL 教室、普通教室	
単元の学習目標	<p>目標: 中国語に関心を持ち、中国語であいさつや名前が言えるようになる。</p> <p><観点別></p> <p>関心・意欲・態度: 中国語の漢字や発音に関心をもち、積極的に中国語で自分のことを伝え、他人のことを知ろうとする。</p> <p>表現の能力: あいさつや簡単な自己紹介を中国語で表現する。</p> <p>理解の能力: あいさつなど簡単なやりとりを聞いて相手を理解する。</p> <p>知識理解: ピンインで表される声調、音の違いを聞き分ける。どのような場合にどの表現を用いるか理解している。</p>		
使用教材	1. 『改訂版 高校中国語』(白帝社) 2.		
学習内容			
話題分野	言語領域の指標(レベル別)	表現例	文化領域の話題例
自分・友だち・家族	1-(a)自分の名前、学校名や学年、年齢、誕生日、干支、国籍、出身、住んでいるところを言ったり、相手にたずねたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・我姓山田。 ・我叫山田太郎。 ・您贵姓? ・你叫什么名字? 	(1)自己紹介の仕方 (2)名前にまつわること(名前のつけ方、夫婦別姓、多い名前、愛称など) (3)相手に対する呼びかけ方
人とのつきあい	1-(a)人とのつきあいでの基本的な表現を言ったり聞いて理解できる	<ul style="list-style-type: none"> ・你好! /您好! ・谢谢! ・不客气! ・请进。 ・请坐。 ・请喝茶。 ・欢迎欢迎! 	
中国語と中国	1-(a)自分の話す中国語について言われたことが理解できる。	・(你的发音 / 汉语)很好。	(1)「中国語」ということば、(2)中国語の特徴、(3)中国語が使われている地域、(4)国・民族・ことば・文化、(5)日本・日本語との関係、(6)中国の地理
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアであいさつする。 ・自己紹介カード(名刺)をつくる。 ・ロールプレイ。 ・クラスメンバーにインタビューする。 ・唐詩の朗読・暗唱。 他教科との連携: 国語(漢字の音読みと訓読み)、地理・歴史(中国の地理)		
表現例のポイント	・人称代詞 ・姓名のたずね方・答え方 ・A “是” B ・“的” ・“几” ・“叫” + 人 + 名称 ・“请”		
語彙	姓 名字 普通话 拼音 简体字 繁体字 声调 你 您 好 请 进 坐 喝 茶 谢谢 不客气 叫		

展開計画

	月日	主な学習活動	留意点など
全8時間の 1回目	4月16日 50分×2	<p>導入</p> <p>中国語とはどんな言葉か</p> <ul style="list-style-type: none"> 知っている中国語を発表する。 普通話、簡体字、拼音についての説明 <p>自分の名前、友人の名前を中国語で言う</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の名前、クラスメートの名前を発音(ひらがな、国字の名前の生徒がいれば音訳、意識について説明し、命名する) 中国語で呼名されたら簡体字とピンインを書いた名前のシールを取りに行き自分のテキストに貼る。 声調の説明と練習 生徒の名前を用いて、声調練習 <p>中国語であいさつをする</p> <ul style="list-style-type: none"> あいさつ表現(第一課本文)を発音する。ALTに問いかける形でどのような場合に使うか、他にどのような表現があるかを聞き、板書する。 あいさつをペアで練習 第一課の新出単語をプリントに書く あいさつ(授業の開始、終了)を練習 授業終了のあいさつ 	<p>生徒が発表した中国語を簡体字で板書し、普通話で発音することによって、文字の違い、方言に気づかせる。</p> <p>生徒の発音の出来にはこだわらず、自分が中国語を話しているという感覚を大事にする。</p> <p>順番をバラバラに呼名し、自分の名前を聞き分けられるかのテストを兼ねる。</p> <p>日本語の単音節語を大阪弁で発音し、音の変化に気づかせる。声調符号のみを板書し、発音の音色にはこだわらず、声調のみ正しければ、ほめる。</p> <p>日本語の「こんにちは」とは用いられ方が違うことを意識させる。</p> <p>日本語の意味が書いてあるプリントにピンインと漢字を1度ずつ書く。次回からは予習の宿題とする</p> <p>授業中に積極的に発言したり、廊下で出会ったときに中国語で話しかけると奨励カードがもらえる。</p>
全8時間の 2回目	4月18日 50分×2	<p>自分の名前を中国語らしく発音する</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国語で呼名されたら“到”と答える 声調の復習 音節、韻母、声母の説明 単韻母の説明と発音練習 声調と単韻母の聞き取りテスト 聞き取りテストに用いた音を漢字で書き、それが誰の名前にある字か説明する 複韻母の説明と発音練習 鼻音をもつ韻母の説明と発音練習 クラスメートの名前を簡体字とピンインで書いたプリントを見ながら発音する <p>人とつきあう際の表現を覚える</p> <ul style="list-style-type: none"> 第二課本文の発音と練習 ペアで練習 前に出て、小道具を使って実演 	<p>慣れるまでしばらくは出席簿通りの順番で呼名し、中国語で返答することに集中させる。声調符号と音の高さに意識させる</p> <p>生徒の発音が正しい場合には、“(你的发音)很好。”と中国語でほめるようにする(以下の授業でも同じ)。</p> <p>選択問題とし、生徒が自信をもてるようにする。</p> <p>ei, ie, en, ian, engに注意を促す</p> <p>てんま...、てんの...、てんが...という言葉から日本語の「ん」の3つの音の違いを自分で発見させる</p> <p>韻母の発音さえ正しければ、声母は矯正しない</p> <p>qingのingとjinのin発音に注意する</p> <p>中国語で話している内容と動作がきちんと合うようにする。</p>

<p>全8時間の 3回目</p>	<p>4月23日 50分 × 2</p>	<p>自分の名前を発音する ・第二課重点を用いて韻母の復習 ・声母(無気音・有気音の説明と)練習 ・名前一覧のプリントを見ながら声母、韻母、声調に気をつけて発音する ・第二課の本文を発音に気をつけて発音する ・第二課練習Bを用いて、声母の聞き分けと発音練習 ・第二課練習Cを用いて、n・ngの聞き分けと発音練習 ・春暁の朗読 ・宿題の確認(第三課の新出単語をプリントに書いてくる)</p>	<p>有声音、無声音との違いに注意 今回は声母、韻母、声調すべてに わたり発音矯正をする。</p> <p>qingのqとjinのjの発音に注意する。</p> <p>1行ずつ、まず発音練習し、次にペアのうちどちらが発音されたか拳手で答えさせる。</p> <p>中間考査の口頭試験を春暁の暗唱とし、声調と点数をつける発音のポイントをあらかじめ説明する。</p>
<p>全8時間の 4回目</p>	<p>4月25日 50分 × 2</p>	<p>自分の名前を言う、友人の名前をたずねる ・ALTより名前の付け方についての話 ・名前一覧のプリントを見ながら声母、韻母、声調に気をつけて発音する ・第三課の新出単語の発音練習と注意すべき漢字の説明 ・第三課の本文の発音練習と意味確認(日本語から生徒が中国語になおす) ・ペア練習(自分の名前を入れて) ・第三課重点の表現を確認する。 ・自分の名前を漢字(簡体字)とピンインで書いて名刺を3枚作り、教室内を歩き回って、自己紹介をする。(何年生、~と呼んでください、など付け加えてもよい) ・第三課練習Bを用いて、表記法について説明する。(句読点、ピンインの大文字、分かち書きなど)</p>	<p>日本人教員が逐次訳す。</p> <p>漢字の説明時に、事前に書いてきたプリントの字を確認させ、最後にひとりずつ発音させる。</p> <p>本文にある語句を日本語で言い、生徒がその部分を中国語になおして発音する方法で、単語の意味を確認しながら、自然に文全体の意味も考えながら発音するようにする。文の初めの単語から言うのではなく、中心になる語からだんだん語句をつなげていくことで、語順も意識させる。</p> <p>“你好!” “请多关照”という言葉が自然にできるように促す。</p> <p>名前以外にも言いたいという生徒がいれば、その都度中国語に直し、生徒に伝える。</p>

評価

<p>評価方法と評価の基準</p>	<p>関心・意欲・態度: 大きな声で発音していたか。活動中に教室内を歩き回り、積極的に自分から話しかけていたか。廊下ですれ違ったときに中国語であいさつをしようとしたか。</p> <p>表現の能力: 相手に理解される中国語の発音で、伝えられたか。</p> <p>理解の能力: 相手からの問いかけやあいさつに答えた、または、体で反応できたか。</p> <p>知識理解: ピンインで書かれたものと実際の音を聞き分けることができたか。場面に応じた表現であいさつなどをしたか。</p>
--------------------------	---

振り返り

<p>苦勞した点 問題点</p>	<p>ピンインが発音記号ではないので、同じアルファベットが幾通りかに発音され(e, i, u, a)、それが難しく感じられる。3声 + 2声の組み合わせ、2声 + 1声の組み合わせをどのように発音させるか。</p>
<p>改善するとしたら</p>	<p>読みにくい(混同しやすい)ピンインがペアになっている2文字の言葉を何度も練習する。</p>
<p>単元で利用した資料など</p>	<p>簡体字の成り立ち http://zh.wikipedia.org/wiki/%E7%AE%80%E5%8C%96%E5%AD%97 中国人の名前によく用いられる字 http://www.52name.com/name/ArticleShow.asp?ArticleID=94 http://www.yqr.cn/Html/wlzs/204350312.html http://www.5iyq.com/viewthread.php?tid=12180</p>
<p>生徒の感想</p>	<p>自分の名前が増えたみたいでうれしい。 中国語は漢字だから簡単だと思っていたけど、ピンインがあって思っていたよりむずかしい。ピンインが覚えられるか不安。 中国語の音はすごくきれい。</p>
<p>備考</p>	

単元指導案例(3)

作成日:平成 19 年 3 月 11 日

科目名	中国語		授業担当者: 植村麻紀子、中国人 ALT
学校名	埼玉県立和光国際高等学校	学年と人数: 2 年 13 人 計 13 人	
単元名	中国語で買い物しよう		
実施時期	平成 19 年 4 月 12 日 から 19 年 6 月 14 日 まで		総時間数: 90 分×8 時間
履修単位数	2 年め 4 単位	学習活動の場所: セミナー1 教室, 横浜中華街(授業外の遠足で)	
単元の学習目標	<p>目標:5 月上旬の横浜中華街への遠足に向けて、現地への行き方や所要時間、道のたずね方に関する表現および買い物の際の表現を学ぶ。また、時刻のたずね方・こたえ方を学ぶ。</p> <p><観点別></p> <p>関心・意欲・態度:道案内や買い物等、中国語で積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を養う。</p> <p>表現の能力:中国語で自分の買いたい物を的確に伝え、安く買えるよう交渉する力を身につける。</p> <p>理解の能力:中国語で書かれた案内表示を見て理解したり、接客表現等を聞いて理解する。</p> <p>知識理解:時刻の表し方や、道をたずねたり買い物をしたりする際に用いる基本的表現を覚える。また、買い物の仕方や習慣等について、日中両国の共通点や相違点を考える。</p>		
使用教材	1. 『語学三十六景』(相原茂・陳淑梅著・東方書店) 2. 中国のお店の写真、スーパーのチラシ等。		
学習内容			
話題分野	言語領域の指標(レベル別)	表現例	文化領域の話題例
交通・旅行	1-(a)行きたい場所を言うことができる 1-(b)駅や空港の案内表示を見て理解できる。 2-(a)目的地までの所要時間について言ったりたずねたりできる。 2-(b)目的地までの交通機関・ルートについて話することができる。 2-(e)地図を見せながら目的地までの道順をたずねることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 我想去横浜中华街。 ・ 从这儿到中华街要多长时间? ・ 在哪儿下车? ・ 你先坐东武东上线到池袋, 在池袋倒车。 ・ 去车站怎么走? ・ 一直往前走, 过了十字路口往右拐。 ・ 离这儿远不远? 	(2)主要な交通機関 (4)案内表示 (5)地下鉄やバスの利用方法
買い物	1-(a)従業員の基本的な接客表現を聞いて理解できる。 1-(b)ほしいものがあるかどうか身振りを交えてたずねることができる。 1-(c)値段をたずね、値札や書かれた数字を見て理解し購入できる。 1-(d)ほしいかどうかを言うことができる。 2-(b)お店や売場がどこにあるか見て理解できる。 2-(c)お店や売場がどこにあるかたずねたり、聞いて理解できる。 2-(e)お店の営業時間をたずねたり、聞いて理解できる。 2-(f)数やサイズ、色を指定して買いたいということができる。 2-(g)ほしいものの有無や値段をたずね、聞いて理解できる。 2-(h)ほしいものを店員に見せてもらうことができる。 3-(a)代わりのものを求めることができる。 3-(b)値段の交渉をすることができる。 3-(c)試してみてもいいかたずねることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 欢迎光临! ・ 有没有乌龙茶? ・ 多少钱? ・ 我要这个。 ・ 请问, 包子在哪儿卖? ・ 这个商店几点关门? ・ 我要买一件中号的。 ・ 这种衬衫有没有黑色的? ・ 请给我看看。 ・ 有大点儿的吗? ・ 太贵了! ・ 能不能便宜一点儿? ・ 可以试试吗? 	(7)価格の決め方(割引、セール) (10)さまざまな販売方法 (11)数の数え方(手の指を使って)

<p>学習活動</p>	<p>・横浜中華街について本やインターネット等を使ってグループごとに調べ、クラスで1冊オリジナルガイドブックを作成。 ・教科書やプリントを使った会話練習や文法事項の学習。 ・写真やスーパーのチラシ等の生教材の使用。 ・通行人、店員、買い物客という設定でのロールプレイ。</p> <p>他教科との連携: 社会科(中華街の歴史の学習・中国の貨幣の紹介等) 教室内外との連携: 横浜中華街でのフィールドワーク</p>
<p>表現例のポイント</p>	<p>・助動詞“想” ・“从～到…” ・“……要多长时间?” ・“怎么” + 動詞 ・“在” + 場所 + 動詞 ・“哪儿” ・“坐” + 交通手段 + 動詞 ・前置詞“离” ・“有……吗?” ・動詞“要” ・指示代詞“这个” ・“有” ・“没有” ・“几点” ・動詞“在” ・助動詞“要” ・“的” ・反復疑問文 ・“请” ・“给” + 人 + 動詞 ・動詞の重ね型 ・助動詞“能” ・助動詞“可以” ・“太……了!” ・形容詞 + “一点儿” ・ものを数える単位(常用量詞)</p>
<p>語彙</p>	<p>(教科書第13課) 劳驾, 从, 去, 东方商场, 怎么, 走, 一直, 往, 过, 十字路口, 右, 拐, 离, 远, 大概, 要, 分钟, 小时, 左右, 家用电器, 前, 电梯, 皮鞋, 柜台, 左边儿, 就是, 顺便, 一下, 商店, 几点, 关门, 早上, 上午, 中午, 下午, 傍晚, 晚上, 半夜, 夜里, 楼, 厕所, 车站, 美术馆, 大使馆, 附近, 下车</p> <p>(教科書第14課) 种, 衬衫, 黑色, 卖完, 可以, 试穿, 短, 一点儿, 试试, 件, 大号, 多少钱, 能, 便宜, 给, 打折, 块, 学会, 坐好, 听懂, 买到, 稍等一下</p> <p>(その他) 中华街, 横滨, 池袋, 涩谷, 东武东上线, 山手线, 东急东横线, 检票口, 售票处, 洗手间, 乌龙茶, 包子, 旗袍, 文具, 食品など</p>

展開計画

	月 日	主な学習活動	留意点など
<p>全8時間の 1回目</p>	<p>4月12日 (50分)</p>	<p>導入・動機付け (1年間の初回授業なので、前半40分は一人ずつ中国語による簡単な自己紹介をしたり、授業の進め方や試験についての説明、座席決めをする)</p> <p>日本の中の「中国」・「中国語」を見つけよう ・和光市駅の中国語表示や横浜中華街の写真を見せ、何と書いてあるか、どこの写真が等たずね、考えさせる。</p> <p>中華街についての既存の知識・イメージの確認 ・行ったことがあるか、中国語でたずねる。 ・中華街のイメージ、売っていると思われるものなどを話してもらおう。 ・中華街に行く前に何を知っておきたいか、考えさせる。</p> <p>中華街について調べよう(事前研究テーマ・役割分担) ・オリジナルガイドブックの作成(3~4人一組で1テーマ) ・中華街までの交通手段、所要時間 ・横浜中華街の歴史や関帝廟について ・中華街の地図(お店マップ)と売っているもの ・イベント情報、お役立ち情報 などについて、本やインターネットを利用して調べ、まとめておくよう指示。 4/26までの宿題</p> <p>中国語で会話するとしたら ・通りやお店で中国語が聞こえてきたら何と話しかけてみる? どんな話題で話ができる?(1年次の復習) ・道をたずねたり、買い物をする際に必要な表現・単語は?(これから学ぶことへの動機付け)</p>	<p>初めは中国語だけで発問し、習っていない語句や文型であっても何を問われているのか聞き取るようとする姿勢を養う。教師は身振り手振りも交えて生徒が理解できるよう工夫する。</p> <p>教師の用意したテーマを見せる前に、調べたいこと、知っておきたいことを生徒自身に考えさせ、興味・関心を引き出す。</p> <p>調べたことのうち、特に駅名や店名、食品等買いたいものの名前等は辞書で調べて中国語(簡体字 + ピンイン)で表記しておくよう指示する。</p>

<p>2回目</p> <p>4月19日 (90分) (後半45分は日本人教員のみ。ALTは別のクラスの授業へ。以下同様。)</p>	<p>表現の学習</p> <p>目的地までの道順をたずねたり、買いたい物を売っている場所をたずねる表現を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書第13課の会話を日本人教師と中国人ALTが身振り手振りや小道具を使って実演。 どの程度理解できたか確認し、その後、新出単語だけ導入して、再度みせる。 新出単語の発音練習ならびに意味、簡体字の説明。 本文会話の発音練習(教師について/生徒どうしペアで) 本文の意味の確認をしながら文型・ポイントを説明。 <p>時刻のたずね方・こたえ方や時間の長さの言い方を学ぶ (第13課の学習のポイントの1つ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 紙とマグネットシートで作った時計を黒板に貼り、針を動かしてさまざまな時刻を提示し、答える練習をさせる。 ペアワーク <p>宿題:教科書付属のCDを使った本文の音読練習と時刻を書き取る練習(ドリル1, 2番)</p>	<p>教科書の本文であることを告げずに、どんな内容の会話なのか聞くことに集中させ、考えさせる。</p> <p>単語の発音練習は一つ一つの音節や声調を丁寧に、本文は自然なスピードでプロソディを意識させる。</p> <p>生徒の様子を見ながら、必要があればまず数字(1~60)の言い方の復習をする。</p>
<p>3回目</p> <p>4月26日 (90分)</p>	<p>表現の学習</p> <p>買い物をする際に必要な基本的表現を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書第14課の会話を日本人教師と中国人ALTが身振り手振りや小道具を使って実演。 どの程度理解できたか確認し、その後、新出単語だけ導入して、再度みせる。 新出単語の発音練習ならびに意味、簡体字の説明。 本文会話の発音練習(教師について/生徒どうしペアで) 本文の意味の確認をしながら文型・ポイントを説明。 <p>値段交渉の仕方等、買い物に関する表現を補充する</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書「今日の表現」欄にある値切り表現を音読。 店員とお客さんの簡単な会話をまとめたプリントを配布し、発音練習後、ペアでロール・プレイ。 <p>宿題:第13、14課の本文の暗唱(2人1組)。</p>	<p>教科書の本文であることを告げずに、どんな内容の会話なのか聞くことに集中させ、考えさせる。</p> <p>単語の発音練習は一つ一つの音節や声調を丁寧に、本文は自然なスピードでプロソディを意識させる。</p> <p>教師が用意した表現以外に、「こんなことを言いたい! たずねたい!」という表現が他にないかたずね、挙げさせる。</p>
<p>4回目</p> <p>5月10日 (遠足前日) (90分)</p>	<p>興味の深まり・疑似体験</p> <p>事前研究の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとに調べたことを発表(各組10分×4組)。 各グループが調べてまとめたものを集め、クラスで1冊オリジナルガイドブックを作成。 <p>教科書第13、14課の本文会話の暗唱発表</p> <p>オリジナルガイドブックを利用した会話練習</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちで作成したガイドブックを見ながら、教科書の本文や今まで習った表現の一部を置き換え(駅名、店名、買うもの等)、通行人または店員と観光客のロール・プレイ。 <p>宿題:教師の用意した「中華街クイズ」プリントを渡し、遠足時に答えを見つけてくるよう指示。</p>	<p>「中華街に行って したい」という気持ちが生徒一人ひとりに沸いてくるよう、また調べたことを実際に確かめる楽しみを喚起したい。</p> <p>発音の良し悪しや文法的に正しいかどうかを気にするよりも、中国語を使って積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢を重視する。</p>

<p>5回目</p>	<p>5月17日 (90分)</p>	<p>表現の復習と要点の学習 遠足の感想発表・振り返りシートの記入等 ・調べたことや練習した会話が、実際にどの程度役にたったかの確認。 ・調べておけばよかったこと、勉強しておけばよかった表現、中華街で気づいたこと・気になったことなどをグループごとに話し合い、振り返りシートに記入。 ・前回配布した「中華街クイズ」の答え合わせ。</p> <p>表現の復習 ・道案内や買い物に必要な表現、時刻のたずね方・こたえ方に関する表現を復習する。</p> <p>文法ポイントの説明 ・教科書第13、14課「文法のポイント」欄にある文法事項・例文の説明。 ・例文の音読。</p>	<p>中華街で撮った写真や買った物、パンフレットや地図等手に入れたものを持ってくるよう指示しておく。</p> <p>二週間後の聞き取り試験・実技試験の内容ややり方もあわせて説明する。</p> <p>実際のコミュニケーションに役に立ちそうな例文を補う。</p>
<p>6回目</p>	<p>5月31日 (中間試験) (90分)</p>	<p>聞き取り試験 ・時刻を聞いて書き取る。 ・店員(中国人ALT)と客(日本人教員)との会話を聞き、2人のやりとりの内容を書き取る。 ・道案内の説明を聞き、地図上から目的地を探し出す。</p> <p>実技(会話)試験 ・地図を見ながら、たずねられた場所までの道順を教える。 ・店員(中国人ALT)と値段交渉しながら買い物をする。</p>	<p>後日(学期末)おこなう筆記試験で、文法事項の理解度チェック、道案内や買い物に必要な表現の作文等をさせる。</p> <p>発音の正確さや文法的に正しいかどうかだけでなく、情報や自分の意思を相手に伝えるために積極的にコミュニケーションをとろうとしているかどうかを評価する。(今までに習った表現を多用して会話をふくらませられたらプラス点を与える)</p>
<p>7回目</p>	<p>6月7日 (90分)</p>	<p>表現の学習 文法ポイントの復習と説明 ・前回説明した「文法のポイント」を、置き換え練習や作文練習で復習する。 ・残りの「文法のポイント」の説明と例文の音読。</p>	<p>実際のコミュニケーションに役に立ちそうな例文を補う。</p>
<p>8回目</p>	<p>6月14日 (90分)</p>	<p>まとめ 文法ポイントの復習 ・前回説明した「文法のポイント」を、置き換え練習や作文練習で復習する。</p> <p>本物の「中国」と「中華街」の違い、日本との違いを考える ・中国のデパートやスーパーの写真、市場の様子をとったビデオ等を見せながら、日本との共通点や相違点を探す。また、先日見てきた「中華街」と実際の中国とではどこが同じで何が違うか、気づいた事を発表させる。 ・人民元の実物を見せ、日本円との為替レートや中国の都市や農村の平均年収等について中国人ALTに話してもらおう。 ・中国のスーパーのチラシを見せ、物価の違いや安売りの仕方、広告の違い等、気づいたことを発表させる。</p>	<p>中国に行き、値段交渉等しながら買い物をするのが楽しみになるような締めくくりをしたい。 (なお、人民元を使った買い物練習(お店屋さんごっこ)は3年生の授業で行なっている。)</p>

評価

評価方法と評価の基準	<p>関心・意欲・態度:評価方法...授業中の発言・行動観察、事前研究や振り返りシートへの取り組み</p> <p>評価基準...事前研究や会話練習、暗唱などに意欲的に取り組んだか。中国語を使って積極的にコミュニケーションをとろうとしていたか。</p> <p>表現の能力:評価方法...授業中の発言・行動観察・会話練習、事前研究(ガイドブック)、定期試験(筆記)</p> <p>評価基準...目的地までの道案内ができたか。自分の買いたい物を的確に伝え、安く買えるよう交渉できたか。時刻を正しく表現できたか。また、それらの表現を簡体字で正しく書くことができたか。</p> <p>理解の能力:評価方法...授業中の発言・行動観察・会話練習、定期試験(聞き取り)</p> <p>評価基準...中国語で書かれた案内表示等を見て理解したり、道案内の表現、店員の接客表現、時刻の表現等を聞いて理解することができたか。</p> <p>知識理解:評価方法...授業中の発言・行動観察、定期試験(筆記)</p> <p>評価基準...時刻の表し方や道をたずねたり、買い物をしたりに際して用いる基本的表現を覚えることができたか。また、買い物の仕方や習慣等について、日中両国の共通点や相違点を理解することができたか。</p>
-------------------	---

振り返り

苦勞した点 問題点	遠足まで計4回という授業の中で、道案内や買い物表現などを多数盛り込みすぎ、生徒がそれを覚えて使いこなすにはそれぞれじっくり発音練習する時間が足りなかった。
改善するとしたら	教科書の音読や説明は後回しにし、遠足までに、最低限必要な交通や買い物に関する表現をプリントにまとめ、その発音練習や単語を置き換えての練習にもっと時間を割きたい。
単元で利用 した資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・TJF PhotoDataBank「中国編」 http://www.tjf.or.jp/photodatabank_c/index ・中国のスーパーのチラシ ・中国でとったデパートや市場の写真(授業実践者撮影) ・中国語で書かれた、日本の電車の路線図やデパートの店内案内パンフレット ・横濱中華街 http://www.chinatown.or.jp/index.html
生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にいろいろと調べていく中で、中華街に行って中国語を使うのが楽しみになっていった。 ・実際に調べたものを見たときは超感動! ・学校以外ではじめて中国語を使ったけど、通じたときはとてもうれしかったです。 ・中華街では日本語で通じてしまうので、中国に行って中国語だけで買い物にチャレンジしてみたい。
備考	

展開計画

	月日	主な学習活動	留意点など
全14時間の 1.2時間め	9月11日	(ティームティーチング 以下T.T) ・前の時間に配っておいた中国語新聞のコラム1(1,020字)を読む。 ・録音しておいた中国語ニュース(1分、150-300字程度、例:東京股市股价全面下挫、蒙古总统呼吁各方落实六国协商文件)を聞き、要点(いつ・どこで・誰が・何をおよびその他聞き取れたこと)を用意したシートに書き取る。 ・わからなかったところはALTにゆっくり読んでもらいながら、語句の解説を中国語でもらう。事柄そのものがわからないときは日本人教師に日本語で補助的に説明を受ける。 ・最後にニュース原稿受け取る。	中国人講師に発音矯正はしてもらおうが、文章の意味は教師がリードしてあまり難しく思わせないように留意する。
3.4時間め	9月13日	(単独授業) ・引き続き配布済みの新聞コラム2を読む。前回聞いたニュースの原稿を見ながら語句や文法の解説を聞く。重要語彙をチェックする。 ・朗読練習の後、もう一度聞く。時間的に余裕があれば、シャドーイングをする。	文法の解説でも生徒が受け身にならないように持っている知識を生かして理解する姿勢を作る。
5.6時間め	9月18日	(T.T) ・配っておいた新聞のコラム3を読んで訳す。 ・新しいニュースを聞き、要点を書き取り、わからない単語はネイティブ講師に聞く。聞き取れた箇所は、ネイティブ講師の内容に関する質問に答える。 ・ニュース原稿を持ち帰って復習。	少しずつ解説を少なくし、自力で意味が取れるよう促す。
7.8時間め	9月20日	(単独) ・新聞コラム4を確認。今までの授業で出てきたよく使われる単語や語句をクイックレスポンスで練習する。 ・今まで出てきたニュースや記事の内容の中から班ごとにテーマを決め、そのテーマについて授業で取り上げたもの以外の関連報道をインターネットで集める(例:6カ国協議 世界同時株安)。 ・班内で分担を決め、テーマを時系列でまとめる。終わらなければ課題。	コラムは4枚目なのでより速く読めるようにリードする。テーマを決めにくそうならあらかじめ割り振っても良い。
9.10時間め	9月25日	(T.T) ・班ごとに前時にまとめた内容を発表。聞いている生徒はメモを取りながら聞く。 ・発表の途中区切りのいいところでネイティブ講師が聞いている生徒に内容について確認する。	発表の終わったところで発音矯正と解説。内容の確認に対して生徒は日本語で答えても良いが、できるだけ中国語で答えるよう促す。集中が切れないように援助する。
11.12時間め	9月27日	(単独) ・各班は自分たちの担当していないテーマについて教師の解説を聞き、整理する。内容理解の足りないところについて質問を出し合う。	中国語以外の知識も調べて補うよう指示。
13.14時間め	10月2日	(T.T)まとめ ・今まで学習したニュースについて聞き取りテスト。その後、ネイティブ講師による問答テスト。	到達度に応じて問答が難しければ、簡単な復述をし、達成感を持たせたい。

評価

<p>評価方法と評価の基準</p>	<p>関心・意欲・態度： リスニングの際、諦めずに聞こうとしたかをニュース聞き取りシートにより、聞き取りの度合いを確認。グループ内の作業、発表を観察。 読解やリスニングにおいてわからない箇所を中国語を積極的に使って質問できたか。</p> <p>表現の能力： リスニングの後のネイティブ講師との問答において適切に返答できたか。 グループ作業において発表メモ・原稿を適切にまとめられたか。 十分に準備して発表できたか。</p> <p>理解の能力： 文章を速く正しく読解できているか観察。最後にリスニングとネイティブ講師による問答で達成度を評価する。</p> <p>知識理解： 後日行う筆記テストにより、報道によく使われる表現の定着の度合いと正しく記述できるか評価する。難易度がほぼ同じくらいの未読の文の大意をつかめるかを測定。</p>
--------------------------	---

振り返り

<p>苦勞した点 問題点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まず日本に関連した時事内容に興味を持たせ、そのあと「世界の諸問題は中国語でどのように報道されているのだろう」の単元につなげようとしたが、思った以上に日本の報道について知らないために内容理解が遅かった。 ・また、ネイティブ講師が生徒達のネット上で取った表現について「中国で生活している人にはわかりにくい表現」と言ったときにとまどいが見られ、説明に苦慮した。
<p>改善するとしたら</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この単元に入る前に日本語の新聞を読んで切り抜きを教室の後ろに貼るなどして予備知識を得ると同時に意識を高めておけば良かった。 ・班の発表の準備をT.Tの時にいき、発表が書面語に傾かないように指導するべきだったか。新聞コラムの読解は夏休みの宿題にしておいて慣らしておいた方が効果があがったかもしれない。
<p>単元で利用した資料など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人民日報海外版 http://paper.people.com.cn/rmrbhwb/html/2007-02/27/node_34.htm (新聞コラム1：対待“核”問題 还须两面看(望海楼) 本文1,020字) ・ラジオ日本オンライン外国語ニュース http://www.nhk.or.jp/nhkworld/chinese/index.html ・人民网 http://www.people.com.cn/ ・週刊こどもニュース http://www.nhk.or.jp/kdns/
<p>生徒の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「最初はむずかしくて辞書を引くのもいやになったが、やっているうちに似たような表現が多いのでだんだん意味が取れるようになった」 ・「ラジオで実際に流れているものが少しずつだけ聞き取れるようになったのでうれしい」 ・「とても無理だと思っていたものが意外に読めたので今度は自分でも読んでみようと思う」 ・「今まで世の中のことを知らなかったと思った。中国語で知識を増やすことができた気がする。」
<p>備考</p>	

3-4. 年間指導計画例

年間指導計画例(1) 科目名:中国語 履修単位数:2単位(前期) 使用教材:『改訂版 高校中国語』(白帝社)

授業担当者:千場由美子・金晶

時期	単元名	単元の目標	学習内容		文型や語句の 使い方、定型表現等	教書
			話題分野	指標 / 話題例		
4月	中国語、友だちとの出会い	中国語に関心を持ち、中国語であいさつや名前が言えるようになる。	自分・友だち・家族 人とのつきあい 中国語と中国	指標 1-(a) 話題例(1)(2)(3) 指標 1-(a) 指標 1-(a) 話題例(1)(2)(3)(4)(6)	人を指すことば 姓名のたずね方・答え方、A“是”B“的” 谢谢! 不客气! 请进。请坐。请喝茶。 欢迎欢迎! (你的发音)很好。 教室中国語	第1課 第2課 第3課
5月	自分を語る	簡単な自己紹介を中国語で表現する。	自分・友だち・家族 学校・教育	指標 1-(a)(b) 話題例(5)(6) 指標 1-(a)	数字、“几” 年齢のたずね方・答え方 出身の言い方 月日の言い方、時を表す言い方 “什么”“属”+干支	第4課 第6課 第7課 第8課
6月	自分と家族を語る	家族構成や家がどこにあるかについてやりとりする。	自分・友だち・家族 食	指標 2-(a)(b) 話題例(4)(7)(8) 指標 2-(a)	“和” “在哪儿?”“在”+場所 “几”+量詞+名詞 “喜欢”+名詞、“喜欢”+動詞+目的語	第9課 第11課 第13課
7月	私の学校生活	学校の設備、学校の生活について簡単に表現できる。中国の高校生の学校生活について知る。	日常生活 学校・教育	指標 1-(b) 話題例(2)(3)(4) 指標 1-(b)(c)(d) 話題例(1)(2)(3)	時刻の表し方 時間を表すことば+動詞 場所+“有/没有”+もの “……里”	第5課 第12課 第14課
8月	買い物をする	自分のほしいものを伝え、中国語で買い物ができるようになる。	買い物	指標 1-(a)(b)(c)(d) 話題例(2)(3)(5)(6)	“要” “有……吗?”“有没有……?” “多少钱?” “这个”	第10課 第15課 第16課
9月	自己紹介を発表する	学校生活や余暇の過ごし方などについて自己紹介文をワープロで作成し発表する。	学校教育 余暇 交通・旅行 中国語と中国	指標 2-(a)(b) 指標 1-(a) 指標 1-(c) 話題例(1)(2)(5) 指標 1-(b)(e)	“坐”+交通手段+動詞	第7課 第13課 第14課 第16課

教室内外 / 他教科との連携

時期	内容
4月	地歴 中国の地名、貨幣価値 国語 漢字の成り立ち
7月	中国帰国生徒の中国での高校生活について、聞き取りをする。
9月	情報 ワープロで文書を作成する。

扱う話題分野、レベル別言語領域の指標

分野 レベル	自分・ 友だち・ 家族	日常生活	学校・教育	交通・旅行	買い物	食	人との つきあい	余暇・遊び	衣・ファッ ション	身体・健康	自然環境	住	地域社会	年中行事	中国語と 中国	日本語と 日本
1		(b)		(c)		×	(a)		×	×	×	×	×	×	(a)(b)(e)	×
2	(a)(b)		(a)(b)	×	×	(a)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
3	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
4	×		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

はその分野の全指標を扱うこと、×は扱えないことを示す。

年間指導計画例(2)- 平成 19 年度 科目名:中国語 履修単位数:2 単位 使用教材:『語学三十六景』(相原茂・陳淑梅著、東方書店)

授業担当者:植村麻紀子

時期	単元名	単元の目標	学習内容		文型や語句の 使い方、定型表現等	教書
			話題分野	指標 / 話題例		
4-5 月	中国語ってどんなことば？ 中国ってどんな国？	・中国語学習に必要な基礎的知識を身につけ、ピンイン表記と発音を学ぶ。 ・中国についての基礎的知識を学ぶ。 ・自分の名前を言ったり書いたりできるようにする。 ・簡単な挨拶表現を学ぶ。	中国語と中国 自分・友だち・家族 人とのつきあい	指標 1-(b) 話題例(1)(2)(3)(4) 指標 1-(a)(b) 指標 1-(a)	“普通話”と方言、簡体字と繁体字、韻母・声母・声調、ピンイン等。 中国の面積、人口、民族、貨幣単位、首都や主な都市名など。 “你好!”, “谢谢。”, “再见。”, “老师好!”	第 1～4 課
6 月	初対面の挨拶	・初対面の人と名前をたずねあい、挨拶する表現を学ぶ。	自分・友だち・家族 人とのつきあい	指標 1-(a)(b) 話題例(1)(2) 指標 1-(a)	人称代詞、姓名のたずね方・こたえ方、 名詞 + “呢”?, 形容詞述語文, “也”	第 5 課
7-8 月	久しぶりに会ったら	・久しぶりに会った人との挨拶表現を学ぶ。 ・謝るときの表現を学ぶ。 ・持ち物(文房具や携帯電話等)を中国語で表現する。	人とのつきあい 身体・健康 自分・友だち・家族	指標 1-(a) 指標 1-(a) 指標 2-(f)	“对不起。”, “没关系。”, “好久不见。”, “您身体好吗?” “有”と“没有”, A “是” B, “...吗?”, “怎么样”	第 6 課
9 月	先生のお宅を訪問	・招いたり、招かれたときの表現を学ぶ。	人とのつきあい	指標 1-(g), 2-(e)(f) 話題例(8)(9)(10)	いろいろな動詞 + 目的語, “请”, “这”と“那”, 動詞 + “一下”, “一点儿” + 名詞	第 7 課
10 月	自分や友達、学校について話そう	・自分の名前、国籍、学校名、友達や先生の名前、学校の様子を簡単にまとめて発表する。	自分・友だち・家族 学校・教育	指標 1-(a)(b) 話題例(2) 指標 1-(a)	“的”, “和”, “都”, 主述述語文	第 8 課
11 月	年齢や誕生日、家族についてたずねよう	・年齢、誕生日、家族の人数、家族構成のたずね方やこたえ方を学ぶ。	自分・友だち・家族	指標 1-(a)(b), 2-(a)(b) 話題例(5)(7)(8)	数字 1～100、1000、10000、年月日の言い方、常用量詞, “多” + 形容詞?, “比”, 年齢のたずね方・こたえ方、親族呼称	第 9 課
12 月	授業や先生、余暇の過ごし方について語りあおう	・コース名や学年、専門に学んでいること、先生や授業について、週末の過ごし方についての表現を学ぶ。	自分・友だち・家族 学校・教育 余暇・遊び	指標 1-(a)(b) 指標 1-(b) 指標 1-(a)	指示代詞“这/那/哪” “这个/那个/哪个” “这儿/那儿/哪儿”, 曜日の言い方, “谁”, 反復疑問文, 二重目的語をとる動詞	第 10 課
1 月	中国のお正月 家族のことや自分の経験について語ろう	・旧正月(春節)の過ごし方やお正月の挨拶表現を学ぶ。 ・住んでいる所、両親の職業、自分の経験などについての表現を学ぶ。 ・部屋の中にあるものを表現する。	年中行事 自分・友だち・家族 住	指標 1-(a)(b)(c) 話題例(3) 指標 1-(a)(b), 3-(b) 指標 1-(b)	“新年好!”, “春节/初一/拜年/年夜饭/压岁钱” など。 2つの“在”(動詞/介詞), 経験の“过”, “不”と“没”, “是不是……?”	第 11 課

2-3月	自己紹介	・趣味や将来の夢、ペットについてなども含め、簡体字 250 字程度の作文を書き、発表する。	自分・友だち・家族 地域社会	指標 2-(a)(c)(e)3-(a)(d) 話題例(9)(10)(11) 指標 1-(a)	動詞句 + “的”，“的”の省略， いろいろな程度副詞， “比如”，“喜欢”	第 12 課
------	------	---	-------------------	--	--	--------

教室内外 / 他教科との連携

時期	内容
9、11月	スピーチコンテスト(埼玉県日中友好協会主催の「中国語発表のつどい」や高等学校中国語教育研究会関東支部主催の「高校生中国語発表大会」)への参加。
1-2月	旧正月(春節)の過ごし方について、写真や年賀状、中国中央電視台のニュース、「春节联欢晚会」のビデオを見せたり、中国人講師に話してもらい、理解を深める。

中国語 (外国語科 1 年生の必修選択科目) では、基本的な挨拶表現ならびに自分のこと(友達や家族、先生や学校のことを含めて)を語るための表現を学ぶ。

年間指導計画例(2)- 平成 19 年度 科目名:中国語 履修単位数:2 単位(中国語 2 単位に続き計 4 単位) 使用教材:『語学三十六景』

授業担当者:植村麻紀子

時期	単元名	単元の目標	学習内容		文型や語句の 使い方、定型表現等	教科書
			話題分野	指標 / 話題例		
4-6月	中国語で買い物しよう	・5月上旬の横浜中華街への遠足に向けて、現地への行き方や所要時間、道のたずね方に関する表現を学ぶ。 ・買い物の際の基本的表現を学ぶ。 ・時刻のたずね方・こたえ方を学ぶ。	交通・旅行	指標 1-(a)(b), 2-(a)(b)(e)話題例(2)(4)(5)	“怎么”，3つの介詞“从”・“往”・“离”， 動詞 + “了”，時刻の言い方，時間の長さの言い方 結果補語，助動詞“可以”と“能”，文末の“了”，形容詞 + “了点儿”，介詞“给”， 動詞の重ね型	第 13 課
			買い物	指標 1-(a)(b)(c)(d), 2-(b)(c)(e)(f)(g)(h), 3-(a)(b)(c), 話題例(7)(10)(11)		第 14 課
7-9月	中華料理を食べにいこう	・レストランでの注文の仕方を学ぶ。 ・食習慣や食事のマナー等、日本と比較しながら、中国の食文化について理解を深める。	食	指標 1-(a)(b)(c)(d)(e)(f)(g), 2-(a)(b)(e), 話題例(1)(3)(4)(5)	人 + “这儿” / “那儿”，可能補語，量詞の前の“一”の省略，度量衡“斤”，“两”， “公斤”，“吃饱了。”，“请结账。”	第 15 課
10月	ある日の出来事や一週間の過ごし方について書いてみよう	・自分の一日や一週間の過ごし方についての表現を学び、簡体字 300 字程度の作文を書く。	日常生活 学校・教育	指標 1-(a)(b)(c), 2-(a)(b)(c), 話題例(2)(3)(4) 指標 2-(a)(c)	量詞のいろいろ，動詞 + 継続時間 + 目的語，連動文，呼応文型“因为～，所以…”， “虽然～，但是…”，“即使～，也…”， “如果～，就…”	第 16 課
11月	カラオケに誘ってみよう	・得意なこと、不得意なことについての表現を学ぶ。 ・友達を誘って遊びに行く約束をし、待ち合わせをする表現を学ぶ。	自分・友だち・家族 余暇・遊び 人とのつきあい	指標 3-(c) 指標 2-(a)(b) 指標 2-(b)(c)(d), 話題例(4)(13)	助動詞“会”，様態補語，“再”と“又”， 動詞 + “着”，“不要” + 動詞 禁止， 掲示・案内表示の書き言葉	第 17 課
12月	電話をかけてみよう	・電話をかけるときの常用表現を学ぶ。 ・相手が何をしているところかたずね、答える表現や誘いを断る表現を学ぶ。 ・天気に関する表現を学ぶ。	人とのつきあい 自然環境	指標 1-(e), 2-(a) 指標 1-(a)(b)	動詞の進行形“在……呢”，助動詞“想” と“要”，現象文，兼語文，時の表し方 “前天”，“下个月”，“上星期”等	第 18 課

1-3月	頼みたいことがあったら	・頼みごとをするときの表現を学ぶ。 ・頼みごとを引き受けたり、断るときの表現を学ぶ。	人とのつきあい	指標 1-(a)(b)(c)(d)(f) 話題例(8)(9)(10)	“是……的”, “就要……了”, 方向補語, “把” 構文, “好几…”, “为了…”, “让”, 3つの“de” “的” “得” “地”, “祝您身体健康!”, “祝你一路顺风!”	第19課 第20課
------	-------------	---	---------	---------------------------------------	---	--------------

教室内外 / 他教科との連携

時期	内容
5月	横浜中華街へ行き、習った表現を実際を使って買い物をする。売られている物やお店の人のファッション、建物、街の様子等をよく観察する。
9、11月	スピーチコンテスト(埼玉県日中友好協会主催の「中国語発表のつどい」や高等学校中国語教育研究会関東支部主催の「高校生中国語発表大会」)への参加。

中国語 (外国語科2年生の必修選択科目)では、人にもものをたずねたり、人を誘ったり、人に何か頼んだりするときの表現を学ぶ。

年間指導計画例(2)- 平成19年度 科目名:中国語 履修単位数:2単位(中国語 + =4単位に続き、計6単位)
使用教材:自作プリント、アニメビデオ『恋する莎莎』(相原茂・陳淑梅・飯田敦子著、朝日出版社)ほか

授業担当者:植村麻紀子

時期	単元名	単元の目標(内容)	学習内容		文型や語句の 使い方、定型表現等	使用教材
			話題分野	指標 / 話題例		
4-7月	おたがいのことを語り合おう	・1、2年次に学習した表現や文法事項を用いてインタビューシートを作成し、お互いのこと、友だち、家族、学校、日常生活や休日の過ごし方についてたずねあう。 ・中国の高校生の書いた自己紹介エッセイを読み、内容を理解する。 ・自己紹介文を書いてクラスで発表し、それを中国の高校生に送って文通をおこなう。	自分・友だち・家族 日常生活 学校・教育 交通・旅行 人とのつきあい 余暇・遊び 衣・ファッション 住 地域社会 中国語と中国	指標 レベル1~4全て 話題例(6)~(11) 指標 レベル1~3全て 話題例(1)~(6) 指標 2-(a)(b)(e), 3-(b) 話題例(2)~(5) 指標 1-(c) 指標 1-(a)~(d) 指標 レベル1(a) 話題例(1)~(5) 指標 1-(a)(b)(c) 指標 1-(b)(c), 2-(a)(b) 指標 レベル1,2全て 指標 1-(a), 2-(c), 3-(a)	(以下、3年次に新たに学ぶことのみ記入) ・“叫”+人+名称, ・“属”+干支 ・介詞“为了” ・副詞“更”, “比较” ・“……的时候” ・接続詞“然后” ・位置や方角の言い方(方位詞) ・概数:数量+“多” ・“连……都”などの強調構文	・インタビューシート ・TJF であい Photo Essay ・アニメビデオ『恋する莎莎』(挨拶や自己紹介に関する会話の聞き取り)
9-10月	買い物 Part2	・おみせやささんごっこをしながら、買い物の際に使える表現を学ぶ。 ・デパートや大型電気店の中国語店内放送を聞き取る。 ・中国のデパート・スーパーのチラシや売り場の写真、市場の様子などを見て、日中の共通点や相違点を見出す。	買い物 衣・ファッション	指標 レベル1~3全て 4-(a)(b)(c)(d)(g) 話題例(1)~(13) 指標 1-(d), 話題例(1)(3)(4)	・“帮”+人+動詞 ・受身表現(“被”, 意味上の受身文) ・疑問代詞の非疑問用法 ・“A是A, 可是……。”	・3人1組で値札・チラシを作成。商品は実物が写真等を用意。 ・中国のデパート・スーパーのチラシ等

11-12月	中国旅行に行こう	・2人1組で旅行計画をたて、クラスで発表する。 ・それぞれの目的地の紹介や旅行に必要な会話表現をまとめたオリジナルパンフレットをクラスで1冊作成する。	交通・旅行 中国語と中国	指標2-(a)～(e) 話題例(6)～(9) 指標1-(b), 2-(a)	・方向補語の派生用法 ・可能補語を含む慣用表現	・旅行ガイドや旅行会社のパンフレット
1月	地域や日本のことを中国語で語ろう	・自分の住んでいる地域や日本について中国語で簡単に紹介する。 ・中国語で書かれた地域の広報紙や日本についての文章を読む。	地域社会 日本語と日本	指標レベル1～3全て 話題例(2)(3) 指標1-(c)(d), 2-(a)(b)	・“以……闻名” ・“受欢迎” ・同格表現:……“这”+量詞+名詞ほか	・地域の広報紙の中国語版

教室内外 / 他教科との連携

時期	内容
4-7月	自己紹介エッセイを書いて中国の高校生に送り、文通を開始。
1月	自分の住んでいる地域や日本について中国語で簡単に紹介した文章を書き、中国の高校生に送る(文通の継続)。

中国語 (外国語科3年生の自由選択科目)では、自分の気持ちや伝えたい情報をより豊かに適確に表現し、相手と交渉したり調整したりするための表現を学ぶ。

扱う話題分野、レベル別言語領域の指標(3年間、計6単位)

分野 レベル	自分・友だち・家族	日常生活	学校・教育	交通・旅行	買い物	食	人とのつきあい	余暇・遊び	衣・ファッション	身体・健康	自然環境	住	地域社会	年中行事	中国語と中国	日本語と日本
1			(a)(b)	(a)(b)(c)		(a)(b)(c)(d)(e)(f)(g)				(a)	(a)(b)	(b)(c)	(a)		(a)(b)	(c)(d)
2			(a)(b)(c)(e)	(a)(b)(e)	(b)(c)(e)(f)(g)(h)	(a)(b)(e)			×	×	×	(a)(b)		×	(a)(c)	(a)(b)
3			(b)	×	(a)(b)(c)	×	×	×	×	×	×	×		×	(a)	×
4			×	×	(a)(b)(c)(d)(g)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

は2年間4単位でその分野の全指標を扱うこと、は3年間で全指標扱うこと、×は扱えないことを示す。太字のアルファベットは2年間4単位で扱うもの、細字のアルファベットは3年次で扱うもの。

年間指導計画例(3) 平成 19 年度 中国語 I、中国語 II、中国語 III 使用教科書:なし

授業担当者:藤井達也

時期	単元名	単元の目標	学習内容		文型や語句の 使い方、定型表現等	教書
			話題分野	指標 / 話題例		
1 年次 (中国語 I)						
4 月	ことばのしくみ	・四声を聞き分け発音できる。 ・基礎的なピンイン規則を理解し、発音できる。	中国語と中国	指標 1-(a) 話題例(1)～(6)	声母、韻母、声調 基本的な挨拶表現、“是”構文 “吗”疑問文、形容詞述語文 “姓”…’、“叫”…’ 所属を表す定語 疑問詞を用いた疑問文” ピンイン規則、動詞述語文	
5 月	あいさつをする	・基本的な挨拶ができる。 ・自分の名前を言ったり書いたりできる。	自分・友だち・家族 人とのつきあい	指標 1-(a)(b) 話題例(1)～(4) 指標 1-(a)		
中間 考査	自分とクラスの仲間	・自分とともに学ぶ仲間のことをたずねて、他の人に紹介できる。	学校・教育	指標 1-(a)(b) 話題例(1)		
	中国の地図を見る	・中国の都市など地理についてたずねたり言ったりできる。	中国語と中国	指標 1-(c) 話題例(6)		
6 月 7 月 期末 考査	友だちと家族	・友だちや家族を簡単に紹介できる。	自分・友だち・家族 交通・旅行	指標 2-(a)(b)(c)(d) 話題例(5)～(11) 指標 1-(c)	反復疑問文、連動文 副詞の位置、存在を表す“有” “有”構文、介詞構造、“几”と“多少” 百以内の数の言い方、定語としての数量詞	
9 月 10 月 中間 考査	私たちの生活・私たちの学校	・自分と周りの人の日常生活を表現できる。	日常生活 学校教育 余暇・遊び	指標 1-(a)(b)(c) 2-(a)(b) 話題例(1)～(6) 指標 1-(c)(d) 2-(a)～(e) 話題例(2)～(6), (8)(10) 指標 1-(a)	時間の言い方、“…，好吗？”を用いた質問文 二重目的語をとる動詞述語文 “…，是吗？”を用いた質問、兼語文 選択疑問文、年・月・日の表現、 名詞述語文、動詞の重ね型	
11 月 12 月 期末 考査	友だちの家に行く	・誘ったり誘われた時の表現ができる。	人とのつきあい 交通・旅行 余暇・遊び 衣・ファッション 食	指標 1-(b)(c)(d)(f)(g)(h) 2-(a)～(f) 話題例(8)～(11) 指標 1-(a)(c)(d) 2-(a)(b) 話題例(1)～(5) 指標 2-(a)(b) 話題例(1)～(4) 指標 1-(a)(b)(c) 指標 1-(a)(f)	方位詞、存在を表す文、進行相 時間量の言い方、主述述語文、 疑問詞+“都/也”	

1月 2-3月 学年末 考查	中国の高校生との 交流	・日本にやってきた中国人高校生と簡単な交 流ができる	自然環境 身体・健康 住 日本語と日本 買い物	指標 1-(a)(b)(c) 指標 1-(a)(b)(c) 指標 1-(a)(b)(c) 指標 1-(c)(d) 指標 1-(a)(d)	自然現象を表す表現、経験相 “因为” “所以”	
2年次(中国語Ⅱ)						
4月 5月 中間 考查	中国へ行く	・旅行の準備や中国へ行く過程を表現でき る。 ・目的地の気候など特徴を理解し表現でき る。	交通・旅行 中国語と中国 身体・健康 自然環境	指標 1-(b) 2-(c)(d)(e) 話題例(1)～(7) 指標 1-(d) 2-(a)(b)(c)(d) 話題例(1)～(7) 指標 2-(a)(c) 指標 2-(a)(b)	将然相、様態補語、助動詞 反語表現 “是…的” 構文、感嘆文 形容詞の重ね型	
6月 7月 期末 考查	中国(北京・天津) で経験する買い物 とホームステイ	・自力で欲しいものを満足して求めることが できる。 ・ホームステイを円滑に経験できる。	交通・旅行 買い物 住 食	指標 2-(a)(b)(c)(d) 指標 1-(a)(c) 2-(a)～(j) 指標 1-(a)(b)(c) 指標 1-(h) 2-(a)(b)(c)(d) 話題例(1)～(4)	“往”、“再”、完了相、語気助詞の“了” “几”と“多”を用いた概数、 動作量の表現、持続相、 構造助詞“地”、人民元通貨単位 比較表現、差量表現、結果補語	
9月 中間 考查 11月 12月 期末 考查	日本を紹介	・自分の身近なところから広がりを持って、 色々な角度から日本を紹介できる。	地域社会 日本語と日本 中国語と中国	指標 1-(a)(b)(c) 指標 1-(a)(b) 指標 2-(a)(b) 指標 3-(a)～(d) 話題例(1)～(8) 指標 3-(b)	程度補語、複合方向補語 可能補語、“把”構文、“被”構文 複文構造の文	
1-3月 学年末 考查	中国語で自分を表 現しよう	・自分が現在考えていること、自分の将来の 夢についてまとめた内容を書いて話すこと ができる。またその内容を聞いて大意を理 解できる。	日常生活 自分・友だち・家族 中国語と中国 学校教育	指標 3-(a) 指標 3-(a)(b)(c)(d) 指標 4-(a)(b)(c)(d)(e) 指標 3-(a) 指標 3-(b)(c)		

時期	単元名	単元の目標	学習内容		文型や語句の 使い方、定型表現等	教科書
			話題分野	指標 / 話題例		
3年次(中国語Ⅲ)						
4月 5月 (中間 考查)	中国の文化を詳しく知ろう	・中国の文化に関する文章を読み大意を理解することができる。 ・要旨をまとめて発表できる。	年中行事 中国語と中国	指標 1-(a)(b)(c) 2-(a) 3-(a)(b) 話題例(1)～(4) 指標 4-(a) 話題例(12)		
6月 7月 (期末 考查)	中国の文化を深く知ろう	・中国の文化に関する文章を読み理解することができる。 ・知ったことを中国語で要旨をまとめて発表できる。	中国語と中国 食 自然環境 地域社会	指標 4-(a)(b) 指標 2-(e) 3-(a)(b) 指標 3-(a)(b)(c) 話題例(1)(2)(6) 指標 3-(a)(b)		
9月 10月 (中間 考查)	中国の報道から見た日本	・様々なメディアの情報から自分の考えをまとめる、言う、発表する。	日本語と日本	指標 4-(a) 話題例(1)～(4)		
11月 12月 (期末 考查)	中国の報道に見る世界の諸問題	・様々なメディアの情報から自分の考えをまとめる、書く、発表する。ディベートする。	学校教育 食 人とのつきあい 余暇・遊び 身体・健康 自然環境 地域社会	指標 4-(b)(c) 指標 4-(c) 指標 3-(a)(c) 指標 4-(a)(b) 指標 3-(a) 4-(a) 指標 4-(a)(b) 話題例(3)(7) 指標 4-(a)(b) 指標 4-(a)		
	中国語の小説にチャレンジ	・中国の現代小説を読んで社会的背景を含めて理解できる。	中国語と中国	指標 4-(a) 話題例(8)～(11)		

教室内外 / 他教科との連携

時期	内容
1年次	
6月	大学の先生を招いての出張講義 国語・地歴・公民他
11月	「中国語学習発表会」に参加
1月	中国の高校生と交流 (交流校の訪日)
2年次	
6月	大学の先生を招いての出張講義 国語・地歴・公民他
8月	中国訪問・交流
10月	「中国語の集い」(埼玉県日中友好協会主催)に参加
11月	「中国語学習発表会」に参加
1月	中国の高校生と交流 (交流校の訪日)
3年次	
6月	大学の先生を招いての出張講義 国語・地歴・公民他
8月	中国語学研修
10月	「中国語の集い」(埼玉県日中友好協会主催)に参加
1月	中国の高校生・先生を接待 (交流校の訪日)

扱う話題分野、レベル別言語領域の指標(中国語Ⅰ～Ⅲ)

分野 レベル	自分・友だち・家族	日常生活	学校・教育	交通・旅行	買い物	食	人とのつきあい	余暇・遊び	衣・ファッション	身体・健康	自然環境	住	地域社会	年中行事	中国語と中国	日本語と日本
1						(a) (f) (h)			(a) (b) (c)							
2	(a) (b) (c) (d)					(a) (b) (c) (d) (e)			×	(a) (c)		×	×			
3			(b) (c)	×	×	(a) (b)	(a) (c)	(a)	×	×		×			(a) (b)	
4	×		(b) (c)	×	×	(c)	(a) (b)	(a)	×	(a) (b)		×		×		(a)

はその分野の全指標を扱うこと、×は扱えないことを示す。

*年間指導計画例(5)を立てるにあたって

現行では『实用漢語課本Ⅰ』及び『同Ⅱ』(東方書店)を使用教材としている。中国語Ⅰは第1課～第22課、中国語Ⅱ2年次は第23課～第37課、中国語Ⅲは第38課～第50課と進み、1年次から3年次までで二冊を終わらせる予定で進めてきた。右は教科書『实用漢語課本Ⅰ』及び『同Ⅱ』に出てくる文法事項を目次に出ている順に大まかに示したものである。なお、文法の記述の仕方については、『高校中国語教育のめやす平成11年度版』に合わせ部分もあるが、記述のままにしたものもある。また項目をまとめてしまったものもある。

この順序で学ぶと実際の口語表現では多く見られる「反語表現」や「感嘆文」なども3年次の後半にならないと学習しないことになる。複文構造や呼応表現などもある程度まとまった表現をしようと思ったら使わざるを得ないのに最後の方にならないと出てこない。しかもこの教科書の成立した時代は1981年であり、使われている語彙や表現も古くさいと言わざるを得ない。

考えねばならないのは、「なぜこの教科書を使ってきたか」ということである。それは単位数の多い教育現場(高校以外も含めて)にとってこの教科書以外に単位数に堪える、内容の濃いものがなかったからである。これを使わないなら中国で出版されている留学生向けのもを手に入れなければならなかった。

この教科書は中国語を構造的に理解したうえで多くの置き換え練習をして定着を図っていたり、四技能のバランスを取っているなどの良い点もあるが、前述のデメリットを解消するためには現場の教師が現場にあった授業づくりをするしかない。単位数の多い高校にとっては3年間を見通して指導計画を立てることは容易ではない。また受験に対応することも考慮しなくてはならないという現実もある。ここでは、1,2年次で実際のコミュニケーション能力を養い、基礎的な力の定着を図った上で、3年次ではできるだけ生教材を使用し、総合的に伸ばすことを考えて計画を立てることを試みた。

年間指導計画案の「教科書」の欄は既製の教科書を使用ながら、このプロジェクトの趣旨に添った指導計画を立てる場合、それぞれの学習事項と合致した課を記入するが、この教科書は本文がストーリー性が強く、編者の考える文法の学習順序に沿って作られているため、今まで使ってきた教科書との対応は考えないこととした。

3年間で学習する文型や語句の使い方、定型表現等

‘声母’、‘韻母’、‘声調’、‘“吗”疑問文’、‘形容詞述語文’
 ‘“是”構文’、‘所属を表す定語’、‘疑問詞を用いた疑問文’
 ‘ピンイン規則’、‘動詞述語文’、‘反復疑問文’、‘連動文’
 ‘副詞の位置’、‘存在を表す“有”’、‘“有”構文’、‘介詞構造’
 ‘“几”と“多少”’、‘百以内の数の言い方’、‘定語としての数量詞’
 ‘二重目的語をとる動詞述語文’、‘時間の言い方’
 ‘“…，好吗？”を用いた質問’、‘“…，是吗？”を用いた質問’
 ‘兼語文’、‘選択疑問文’、‘年・月・日の表現’、‘名詞述語文’
 ‘動詞の重ね型’、‘方位詞’、‘存在を表す文’、‘進行相’
 ‘様態補語’、‘助動詞’、‘完了相’、‘語気助詞の“了”’
 ‘将然相’、‘主述述語文’、‘時間量の言い方’、
 ‘“几”と“多”を用いた概数’、‘経験相’、‘動作量の表現’
 ‘自然現象を表す表現’、‘持続相’、‘構造助詞“地”’
 ‘人民元通貨単位’、‘比較表現’、‘差量表現’、‘結果補語’
 ‘程度補語’、‘単純方向補語’、‘複合方向補語’、‘形容詞の重ね型’
 ‘可能補語’、‘反語表現’、‘“是…的”構文’、‘感嘆文’
 ‘“把”構文’、‘疑問詞+“都/也”’、‘“被”構文’、‘複文構造の文’

3-5. 学習・教育方法の工夫

中国語の学習を通して高校生たちの学習意欲と学習への動機を高めるためにも、教育方法においては、さまざまな工夫が大切である。

3-5-1. 学習への意欲や動機を高めるための工夫

学習意欲や動機を高めることを考える際には、生徒のコミュニケーション能力をバランス良く伸ばす必要がある。ここでいうバランスとは、言語領域における「話す」「書く」「聞く」「読む」の4技能のバランスと、言語領域と文化領域のバランスを意味する。このことを念頭に置き、それに見合った学習・教育方法を考えたい。

(1) 教室に中国語環境をつくる

生徒が教室の中で積極的に中国語を使用したり、できるだけ多くの中国語に触れられるよう、教師は授業での指示や生徒への声かけに中国語を多用するよう心がける(p. 122 教室中国語参照)。

(2) 学習者志向・学習者中心の取り組みを心がける

何ができるようになりたいと望んでいるかなど生徒側の希望も考慮しながら、それを達成するためのコミュニケーション能力指標を参考にしながら、授業を組み立てることが重要である。講義型ではなく、生徒がより多くのコミュニケーション活動を行えるような授業づくりを心がける。

(3) 学ぶこと・知ることの楽しさを実感し、達成感・自信・自尊感情を味わう

一つひとつの学習活動の中で、何ができるようになったかを生徒自身が実感しながら学んでいけるように心がける。

(4) 継続的に学習する動機付け、生涯学習の下地を作る

学習成果が達成感につながり、さらに継続して学習する動機付けとなるような学習方法を提示する。生徒が教室を離れた後も、自ら学ぼうとする姿勢を養いたい。

3-5-2. 効果的な学習活動の導入

コミュニケーション能力をつけるためには、体験型・主体行動型・共同作業型などさまざまな学習活動を導入することが望ましい。ここではジャンルごとについていくつかの教室活動を紹介し、コミュニケーション能力指標のどの話題分野で取り入れられる活動かを< >で示した。学習活動は、コミュニケーション能力指標中の「学習活動例」や単元指導案例に具体的な記述があるので、そちらも参照してほしい。なお、学習活動を考える際の留意点を以下のように考えた。

学習活動を行う際には、できるだけ実際のコミュニケーション活動が行われる場面に近い環境を作る。

教師がすべて用意してしまうのではなく、できるだけ生徒たち自身が考えるような活動にする。

楽しいだけでなく、その活動を通してどんな能力が身につくかが明確な活動にする。

ゲーム

漢字とピンインを書いたカードを使った文字の学習

数字や学習した単語を使ったビンゴゲーム

人物の特徴を聞き取って、複数の写真の中からその人物が誰であるかを当てる。 <身体・健康>

いくつかのヒントを中国語で出して答えを当てる連想ゲーム

作品づくり

コミュニケーションというと、どうしても聞く話すに重点が置かれがちだが、学習活動の中に、書くことも積極的に入れてはどうか。作品を作ることで終わらせるのではなく、実際に使うあるいは発表できるような機会を作ることを心がけたい。

名刺や簡単な履歴書を作成する。〈自分・友だち・家族〉 クラスに中国語母語話者を招き名刺を使って自己紹介をする。

自分たちの簡単な学校案内を作成する。〈学校・教育〉 学校の HP に掲載する。

誕生日カード、年賀状、クリスマスカードなどを書く。〈人とのつきあい〉 中国の高校生に送る。

自分の家の間取り図を作成する。〈住〉

インタビュー

インタビュー・シートを作成し、クラスメート同士でインタビューしあう。その結果をまとめ、分析し発表する活動につなげることもできる。

架空の家族を設定したカードを配り、家族の構成や職業についてインタビューする。〈自分・友だち・家族〉 将来の職業や希望、特技などグループごとにインタビューし、その結果(希望する職業ベスト 3、特技など)をまとめて発表する。〈自分・友だち・家族〉

スキット・ロールプレイ

実際のコミュニケーション活動が行われる場面に近い環境を作って、スキットやロールプレイを行うようにする。

お店での買い物 〈買い物〉

実際の商品や中国語で書かれた百貨店や店の案内図を持ち込み、店員、客の役を決め、実際の売り場での買い物の流れ(動き)をつけながら行う。

友だちを誘う 〈人とのつきあい〉

自分のスケジュール表を見ながら、友だちを誘ったり、誘いを断ったりする。

レストランでの注文 〈食〉

中国語で書かれたメニューを用意し、実際の店の雰囲気を考えながら、店員、客の役を決めスキットやロールプレイを考える。

ディスカッション・ディベート

身近なテーマを選んでディスカッションやディベートを行う。グループごとにまず日本語でディスカッションし、その結果を中国語で発表するところから始めるとよい。

制服や校則の是非について 〈学校・教育〉

日中の高校生の余暇の過ごし方 〈余暇・遊び〉

プレゼンテーション

本やインターネットで調べる学習と結びつけ、その結果を発表する。

都市の天候のデータを用意し、比較して気づいたことを発表する。〈自然環境〉

日中双方の伝統的服装や民族衣装について調べて発表する。〈衣・ファッション〉

Show and Tell・スピーチ

何かを見せながら、伝えたいことを話す Show and Tell や、1分間・3分間など時間を決めたスピーチを行う。発表内容の質疑応答をすれば、発表者以外の生徒にとっても、リスニングや会話の練習となりうる。

自分の将来の夢や希望 〈自分・友だち・家族〉

私の学校生活 <学校・教育>

私の旅行記 <交通・旅行>

歌・ドラマ・映画・アニメ

中国映画、中国の高校生に人気のある歌手やグループの歌、中国語にカバーされた日本の歌、中国で放映されている日本のドラマなどを通して、学習した言語表現がどんな場面で使われるのか、文化領域との関係を踏まえて学習する。

《漂亮妈妈》母親が子どもにことばを教える場面を取り出し、生徒が聞き取れた単語(漢字でもピンインでもよい)を書き出す。 <中国語と中国>

《霸王別姫》中国の伝統文化である京劇について学ぶ。 <中国語と中国>

「名探偵コナン」や「スラムダンク」など中国語に翻訳されている漫画から表現を学ぶ。

実習

調理や太極拳など体験型の活動は、体験だけで終わらせるのではなく、必要な言語表現をあらかじめ学習し、その表現を聞いたり、言ったりしながら行う。文化的な背景について考えるきっかけを作る。

中国茶<食、中国語と中国>

「餃子」づくり <食、中国語と中国>

太極拳 <身体・健康、中国語と中国>

中国結び <中国語と中国>

日本の折り紙 <日本語と日本>

フィールドワーク

教室の中にいるだけでなく、機会があれば学校外の活動も行うとよい。

日本国内で中国を感じられるような場所(中華街、中国の食材や物品を販売している店、デパートの中国展など)に出向き、そこで売っている物などについて調べる。 <地域社会、食>

地元で中国とゆかりのある名所旧跡などに出かけ、中国との関わりについて学習する。 <地域社会>

中国語母語話者との交流

中国語母語話者と実際に中国語を使って交流する中で、自分が話す中国語が通じたときに、生徒は達成感を味わうことができる。実施にあたっては、十分な事前準備をしてから行ったほうが効果的であろう。直接交流以外にも、メールや手紙での交流も考えられる。

中国で日本語を学んでいる高校生とメールや手紙のやりとりをする。 <人とのつきあい>

日本に来ている留学生を学校に招き、自己紹介や学校案内をする。 <学校・教育>

コンピューターを利用した学習

メールのやりとりやインターネットでの検索による調べ学習、中国語のサイトに書かれている文章を読むなどコンピューターを使用した学習は、中国や中国語への興味・関心を深め、生徒の自学自習を促すのにも有用であると考えられる。ただし、その使用においては、十分な準備と注意が必要である。

TJF「であいフォトエッセイカフェ」に掲載されている中国の高校生のエッセイを読み、コメントを書く。

<自分・友だち・家族ほか>

TJF Photo Data Bank 「中国編」に掲載されている写真の使用

中国の高校、あるいは高校生が作っている HP を見て、そこに書いてある情報を収集したり、サイト上で意見交換をしたりする。

3-6. 他の教科や教室内外の連携

中国語の学習は必ずしも外国語科目の中だけで行われているのではない。英語、国語、社会など他の教科や総合的な学習の時間の中で中国語学習が行われることは、中国語教育の裾野拡大にもつながる。また、教室の中だけでことばを学ぶのではなく、それを実際に使う教室の外と連携させさせることは、高校生の学習意欲を高めると考えられる。ここでは、すでに実践されているいくつかの例を紹介する。なお、本稿は、『国際文化フォーラム通信』と『小溪』に掲載された原稿をもとに編集した。

英語の授業で中国語と中国文化を学習(さいたま市立浦和高等学校)

【導入の経緯】 河南省鄭州市との姉妹都市提携 5 周年を機に昭和 60 年に始まった中国への修学旅行は、市立高校の特色づくりの一つと位置づけられた。中国の高校生との交流を主眼とし、その方法について中国側と話し合った結果、生徒同士の交流の言語は英語にすることが決まった。

【授業の特色】 事前に英語で手紙を交換することが決まり、英語の授業で、交流校の生徒への手紙の書き方を指導するとともに、中国語の簡単な会話と中国文化の基礎知識を教えることとなった。そのために、AET や国語の教師とともに『Good Morning China』(B5 判、48 頁、5 課構成)というオリジナルの教材を作成している。教材には、中国の有名人や祝祭日のことを紹介する「ここがポイント」というコラムや簡単な中国語会話を掲載し、生徒が楽しく学べるように工夫がされている。また、少しでも早く中国や中国修学旅行の具体的イメージをつくってもらうため、以下のような事前研修も行っている。

[表 3] 事前研修の内容

1 年次	目標 時期と内容	文化が異なる人たちと接触する機会があまり多くない生徒たちに、異文化との出会いの場を提供し、多文化共生について考えてもらう。 2 学期: 1 泊 2 日の集団宿泊研修で長野県へ行き、ファームステイを体験する。冬休みには地理の宿題として、中国関係の新聞記事を切り抜き、コメントをつける。 3 学期: 埼玉大学の協力を得て留学生(あえて中国人以外の人)を招き、クラスごとに交流する。
2 年次	目標 時期と内容	中国に対するイメージを少しずつつくっていく。 1 学期: 総合学習の時間を利用して、横浜中華街の歴史と華僑の人々の暮らしを学ぶ。5 月の最終週に横浜に遠足に行き、中華街などを訪れ、日本の中での中国文化に触れる。その後、事後レポート集を作成する。 夏休み: 中国関連の本を読んで A4 判 1 枚のレポートを書く。クラスごとにレポート集を作成し、読み合わせて情報を交換する。 2 学期: 日本史 A で数時間かけて日中間の歴史問題について学ぶ。教材として『日本は中国になにをしたの』(映画「侵略」上映全国連絡会)を利用する。 3 学期: 埼玉大学の協力を得て中国人留学生を招き、クラスごとに交流し、旅行のアドバイスを受ける。

総合的な学習で中国語や中国理解をめざす(清心女子高等学校)

【実施の経緯】 平成 15 年度から日本の高校に登場する「情報」と「総合的な学習」を他校に先駆けて、教員の問題意識や日常の研究に立脚して「発展科目」を立ち上げていくことになり、世界史を担当する教諭 2 名が「中国語入門～言葉を通じてアジアを見る～」という講座を開設した。

21世紀に日本がアジアの国々とともに歩いていくためには、若い世代の人々が隣国中国やその他のアジアの国々を理解し、親しみを持つことが大切である。しかも肝心な現代史が省略されがちだった従来の歴史教育や地理教育だけでなく、「言葉」の学習を通して高校時代に興味・関心を持つことは大きな意義があると考え、講座の柱を「中国語の発音の基礎と簡単な会話文の習得」「中国を中心とするアジアの社会や文化の理解」とし、特に後者に世界史の教員としての経験を生かして歴史理解や異文化理解を図っていくことにした。

【授業の特色】生徒の「言葉」の学び方は、講座の定員を20人程度にして、他者の前での発表やグループ単位で創造的に取り組める活動を取り入れた。学習のまとめとして「ある日の学園生活」と題する中国語による創作ビデオの制作もとりいれている。たとえ一言でも人前で自己表現することの喜びや、グループ活動を通してお互いを認め合う態度を大切にする方法を考えた。

また、新聞記事のスクラップやビデオ教材の利用、さらに夏休みや冬休みには、スクラップ帳の作成を通じて興味・関心をもったテーマを発展させたアジア研究のレポートを書くことで視野を広げ、総合的な力をつけるように図っている。

中華街フィールドワーク(神奈川県立大師高等学校)

【導入の経緯】総合選択科目として設置されている「中国語」の授業は、毎週2回2コマ続きで行われており、中国語母語話者である佐藤先生とのチームティーチングで、日々発音を中心に基礎会話を学習している。「中国語」の授業では、単に語学を習得するだけでなく、体験的学習を取り入れながら、幅広く中国の文化に接していくことを目指している。本来、中国文化を理解する教育の実践という視点に立つと、生徒たちを中国に連れて行くのが一番であるが、すべての生徒が海外に行けるわけではない。海外に行かなくても、自分が住んでいる身近な地域から中国の文化を理解するということもできるのではないかと考え、学校からそれほど遠くない横浜にある日本最大規模の中華街を訪問する「中華街フィールドワーク」を毎年1回実施している。

【授業の特色】中華街は日本人客を相手にしたテーマパークであり、中国そのものではない。ただ、多くの日本人が持っている中国、中国文化に対するイメージを顕著に反映していることは確かである。中華街＝中国ではないということ、また、その違いは何なのかを話しあわせたり、中華街で生活する人の話を聞くなど工夫をしている。

1年間の授業の感想を見ると、ほとんどの生徒が、この中華街フィールドワークについて、大変よかった、今度は中国に行ってみたい等と書いてくれる。また、フィールドワークの感想や講師の方への手紙を読むと、生徒たちは話をしっかり聞き、体験を通じて自分なりによく考えを深めていると感じる。生徒の中国および中国語に対する興味・関心を高める動機付けから考えると、中華街フィールドワークは一応の成果を修めていると言える。近くに中華街がなくても、中国の商品を扱うお店や中国料理店でも、そこから中国を見るフィールドワークができると考えている。

[表 4] 授業の内容

時期	内容
事前準備	横浜中華街発展会協同組合に連絡し、中華街の歴史や生活について話をしてもらうよう依頼。 保護者向け文書の作成 事前学習用プリント、ワークシートの作成 中華街の通り、牌楼、関帝廟について調べた内容を記述するワークシート 中華街で見つけたモノについて、場所、中国音、日本語を記述するワークシート
事前学習 (2 コマ)	中華街についてのイメージ、自分が知っていること等を書いてもらう。 横浜中華街発展会協同組合への質問を考えてもらう。 売り手と買い手に分かれて、中国語で買い物ゲームをする。その際人民元と日本円の交換レートを理解させたり、応用表現を教えたり、臨場感を出すようにする。
フィールドワーク	横浜中華街発展会協同組合訪問 中華街の歴史について話を聞いた後、事前学習で用意した質問に答えてもらう。 中華街散策 佐藤先生と中華街を一緒に歩き、与えられた課題について調査する。
事後学習	感想文とお礼の手紙を書く フィールドワークに参加した感想を 1 人ひとりに書いてもらう。 話をしてくれた中華街発展会協同組合の方にお礼の手紙を書く。 地図を書いて行き先ゲーム 中華街にあった関帝廟などの場所を中国語で表現する。 中華街で見つけたモノがどこにあったかを中国語で表現する。 人形を使って、目的地までの行き方を中国語で表現する。

REXプログラムを生かした授業づくり(北海道共和高等学校)

【導入の経緯】 1 人の教諭の要望から平成 13 年度に 3 年生の自由選択科目の一つとして「中国語」が開講された。北海道教育委員会は平成 13 年より、REX プログラムを利用して、北海道内の教員 1 名をハルビン市の高校に日本語教師として派遣している。平成 17 年度には、共和高等学校で中国語を担当していた教諭が REX 生として派遣されることとなり、交替に、REX14 期の帰国生が、同校の中国語担当教諭として着任した。このことがきっかけとなり、REX プログラムを生かした中国語の授業づくりを始めることになった。

【授業の特色】 授業ではコミュニケーション能力の養成を重視するとともに、中国、特に高校での生活を体験した REX 教員の強みを生かして、中国の伝統的な文化紹介、文化体験、高校生の生活などを多く盛り込んでいる。教科書に書いてある表現を学ぶだけでなく、「今の中国」を知り、いろいろな角度からの異文化理解を試みている。また、現派遣者と連携することにより、以下のことが実施可能となった。

高校生同士の文通、メールを利用して交流する。

日本の連歌や中国語の漢詩の共同制作(連歌の場合、上句を中国の高校生、下句を日本の高校生が作る)など。

互いの言語を教えている日中の教師が、教材や素材や情報を交換する。

訪日団の受け入れ(横浜市立みなと総合高等学校)

【導入の経緯】 ことばは生き物であり、時代が変われば使っていることばも変わり、同じ中国語でも地域が変われば言い方や使い方が変わる。こうしたことは、授業で学ぶより、現地に住んでいる人に会えば簡単にわかる。ことばを学ぶ際に一番大切な、この気付きを多くの生徒に体験してもらうために、中国大陸や台湾からのお客様をできるだけ多く受け入れるようにしている。

違う文化や違うことばを持つ人たちと出会う体験をした生徒は、自分に大きな自信を持ち、自信を持った生徒は、次回交流する時には、友だちともしっかりとたくさん話しをしてみたいという思いから、熱心にことばの学習に取り組むようになる。

【活動の特色】 受け入れは、学校の施設案内、授業参加、食事、交流会などを組み合わせ、できるだけ生徒中心に行う。受け入れがスムーズに行える理由の一つが、みなと総合高等学校のバディー制度である。学校が独自に実施している国際ボランティア制度で、国際交流に興味のある生徒がバディーとして登録し、留学生の日常生活の世話役をしたり、学校で行われる国際交流活動に参加する。中国語の授業を受けている生徒たちも多くがバディーに登録しており、中国大陸や台湾の生徒たちの交流に積極的に参加している。

[表 5] 過去 2 年間の受け入れ実績

年	月	来訪した学校
2005 年	5 月	台北市立育成高級中学
		台北市立華紅高級中学
	6 月	国立宜蘭高級中学
2006 年	10 月	国立鳳山高級中学
	3 月	台北市立基隆高級中学
	4 月	沈陽育才外語学校
	5 月	高雄市立三民総合高級中学
	5 月	台北市立育成高級中学
2006 年	10 月	私立治平高級中学
		大連市 104 中学

平成 18 年度の研究経過

平成 18 年度は、17 年度の成果を土台に本格的な研究に着手した。前年度の研究を通じて日本の高等学校における中国語と韓国朝鮮語教育の目標をコミュニケーション能力の増進に定め、それを具体的に指標化するための作業に取り組んだといえる。なお、プロジェクトの推進委員の構成は前年度と同じである。¹⁾

平成 17 年度に定めた「学習のめやす」作成の骨子案(平成 17 年度報告書 -5 参照)に沿って「コミュニケーション能力指標」の、特に言語領域に関する内容を検討することに多くの時間を割いた。ほとんどの作業は中国語部会と韓国朝鮮語部会の高校教員等(非常勤を含む)の委員によって行われ、会議はそれぞれ 18 回に及んだ(表 1 参照)。各部会の大学教員の委員からこれら会議の検討結果に対するコメントを得ながら、内容を詰めていった。

平成 18 年度に開催した推進委員会、中国語部会、韓国朝鮮語部会、両部会の合同部会、小委員会の実施状況は、表 1 のとおりである。両部会とも「コミュニケーション能力指標」をチームとして作成する作業に多くの時間とエネルギーを費やした。特に、コミュニケーション能力指標の言語領域の部分を作成するのに時間を要した。

8 月以降は、大学等の機関が実施する教師研修会や高校教員の研修等を利用して研究の途中経過を報告し、出席した関係者から意見を聞く機会を得た。中国語部会は 2 回²⁾、韓国朝鮮語部会は 3 回³⁾の報告を行い、そこで得た意見・感想等を指標づくりに反映させた。

1. 推進委員会(平成 18 年 5 月 28 日)

第 1 回推進委員会が平成 18 年 5 月 28 日(日)、国際文化フォーラムの会議室において開催された。推進委員長ほか、計 17 名が出席した。議事は次のとおりである。

1-1. 平成 17 年度の事業報告(議題 1)

(1) 平成 17 年度報告書(めやす骨子案)の内容確認

「高等学校中国語・韓国朝鮮語の学習のめやす」の内容構成案が提示され、了承された。

(2) 平成 17 年度報告書の配布等の報告

1-2. 平成 18 年度の事業内容・分担の確定(議題 2)

(1) 二言語共通の作成のため、推進委員 5 名程度で構成する「小委員会」を 6 月に発足させることが推進委員長より提案され、了承された。平成 17 年度の報告書に記載された内容を評価、吟味、加筆修正し、後に各部会で検討、フィードバックを得ながら完成させることとした。小委員会のメンバーは、野間秀樹、藤井達也、森茂岳雄、山下誠、山田真一の各委員(敬称略、50 音順)とし、委員長が進行役を務めることとした。

1) 平成 17 年度報告書参照 <http://www.tjf.or.jp/jp/publication/wakaru/report2005.htm>

2) 桜美林大学孔子学院(平成 18 年 8 月 14 日、東京)、大阪外国語大学(8 月 20 日、大阪)

3) 第 3 回大学等韓国語教師研修会(平成 18 年 8 月 12 日、京都)、第 3 回韓国語教師研修(8 月 15 日、東京)、第 4 回高等学校韓国語教育セミナー(11 月 18 日、広島)

(2) 各言語が作成する部分は従来どおり、各部会で進めることとした。各部会のチーフには、平成 17 年度に続いて、藤井達也(中国語部会)、山下誠(韓国朝鮮語部会)が選任された。

1-2-1. 学習内容および学習到達指標の作成

平成 18 年 4 月以降、各部会で進めてきたテーマ(トピックス)別・段階別の学習内容、学習到達指標(案)に関する各部会のチーフ報告のあと質疑応答が行われた。報告では、それぞれの部会におけるテーマ(トピックス)の選定基準、段階設定のしかた、指標項目の設定等について説明があり、2 つのテーマ(トピックス)について素案が発表された。

1-2-2. 学習内容と学習到達指標等の作成に関する意見交換

部会ごとに、それまでの作業内容と成果を報告し、内容調整を図った。テーマ(トピックス)の選定や指標の作り方の違いを確認し、平成 18 年度末に作成する指標について共通理解を深めた。

テーマ、トピックス等の用語、テーマの数、選定基準、指標段階の数と設定基準、指標の項目:達成目標、評価のための教室活動、コンテキスト(話題や文脈、考えさせたい文化内容等)、学習する言語要素(表現例、文型例、語彙例)、指標に基づいて作成する、事例としての年間指導計画案や授業案、作成する数の予想、骨子案に提示された学習・教育方法の工夫のまとめ方等について、意見交換した。

1-3. 最終成果物の確認(議題 3)

- (1) 印刷物(案):判形 A4、150 ページ、部数:中国語 800 部、韓国朝鮮語 500 部
- (2) 報告書を平成 19 年 3 月末に発行。配布先は前年度の報告書に準ずる。
- (3) 内容は 2 つの部会の共通部分と各部会で作成する学習内容と学習到達指標、学習方法の工夫等とする。
- (4) CD-ROM(同時にホームページに掲載し、随時追加していくことを検討)
- (5) 各部会が作成するもの(年間指導計画例集、授業案例集、評価例集)

1-4. 作業内容と日程の確定(議題 4)

- (1) 各部会の 8 月までの予定(部会チーフ)
- (2) 8 月 10-15 日に各部会とも他の教師を対象に「めやす」について発表
- (3) 平成 19 年 3 月までの日程概要

2. 小委員会(平成 18 年 10 月 22 日)

第 1 回小委員会が平成 18 年 10 月 22 日(日)、国際文化フォーラムの会議室において開催された。推進委員長ほか、オブザーバーを含む-計 8 名が出席した。議事は次のとおりである。

2-1. 平成 17 年度報告書の骨子案のレビュー(議題 1)

中国語と韓国朝鮮語部会チーフによる、それぞれの作業の進捗状況に関する報告を受けて、平成 17 年度報告書の「学習のめやす」骨子案に沿った検討を行った。

2-2. 前言と理念に関する議論(議題 2)

- (1) 委員長より骨子案に含まれていない「外国語を学ぶ意味」を、平成 18 年度報告書の「前言」に挿入することが文案とともに提案され、了承された。⁴⁾
- (2) 英語以外の外国語を学ぶ意味と位置づけ、中国語と韓国朝鮮語を選択外国語科目とする可能性について意見交換した。⁵⁾
- (3) 科目目標に関して、学習指導要領の定める「教科」と「科目」の関係について議論した。⁶⁾
- (4) 「指標」を 4 技能別に記述するか、4 技能にわけてコミュニケーション活動として有機的に捉えた記述にするかについて議論した。⁷⁾
- (5) 指標全体と事例集に関し、平成 18 年度どこまで完成させるかについて検討した。

3. 合同部会(平成 18 年 12 月 17 日)

中国語と韓国朝鮮語の合同部会が平成 18 年 12 月 17 日(日)午前 10 時から午後 1 時、国際文化フォーラムの会議室において開催された。推進委員長ほか、計 11 名が出席した。議事は次のとおりである。

3-1. 内容構成案に沿った両部会の用語の統一(議題 1)

中国語と韓国朝鮮語部会で作成してきた「コミュニケーション能力指標」の基本枠組み、および「学習のめやす(案)」に関わる用語について推進委員長より問題提起が行われ、2 つの部会間で調整を行った。

これらの調整をふまえて中国語部会と韓国朝鮮語部会が作成したコミュニケーション能力指標の詳細は、韓国朝鮮語(pp. 33-46)、中国語(pp. 85-117)を参照されたい。

-
- 4) 「国際的に通用度の高い英語を学べる環境とともに、多文化・多言語の立場にたって、近隣地域の言語をはじめとする複数の外国語とその文化を学べる環境を整えることが必要である」「複数の言語や文化的背景をもつ人々がともに共生し、協働していく 21 世紀の社会に適応できる力を子どもたちは身につけることができる」
 - 5) a. 言葉と文化を一体的に学習する意味: 言葉を特定の文化と一体化して捉えることがしにくい英語教育に代わって、言葉と文化を一体化して捉える外国語教育が導入できる。
b. 必修でも受験科目でもない外国語を学ぶ意味: ほとんどの高校では、英語以外の外国語は必修科目ではなく、受験科目として学習している場合も少ない。そのなかで、言語学習本来の楽しさをとりもどし、試験のためではない「使える外国語」を導入しやすい。
 - 6) a. 学習指導要領では、教科「外国語科」の下位項目として「科目」がある。外国語 = 英語の想定から、「英語」の目標を設定せずに科目目標を直接設定している。中国語・韓国朝鮮語も、科目目標にあたるものが必要である。
b. 中国語・韓国朝鮮語としての目標を立てるか、科目としての中国語()/韓国朝鮮語()として、科目目標を立てるか検討したい。科目案: に「基礎」をいれる。
c. 学習到達指標のレベル 1-2/3-4 をそれぞれ () に想定するか。
d. 内容としてテーマ(分野)別の学習到達指標を提示するので、話題シラバスを意識した目標設定にしたい。
e. 準教科案の例: 「中国語/韓国朝鮮語の学習を通じて、自他の言語および文化に対して関心をもって理解を深め、生徒の関心および発達年齢にあった話題について、中国語/韓国朝鮮語で情報や考えなどを理解したり表現したりする能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる」
 - 7) 中国語: 受信(理解)・発信(表現)・やりとり(対話)、韓国語: すべて「やりとり」としている。次の代案を検討した。
 - (1) さまざまな話題について、対象言語で話されたり、書かれたりしたものを理解し、解釈する。
 - (2) さまざまな話題について、自分の考えや意見及び情報などを、口頭で発表したり、書いて発表したりする。
 - (3) さまざまな話題について、対話や対象言語で書かれたもののやりとりのなかで、対象言語を使って、他の人と情報のやりとりをしたり、感情を表したり、意見を交換したりする。

「学習のめやす」作成プロジェクトについて

[表 1] 平成 18 年度の事業実施状況

[中] 中国語部会、[韓] 韓国朝鮮語部会

時期	実施事項		出席者ほか
	推進委・中国/韓国朝鮮語部会	指標づくりほか	
平成18年 4月16日	[中01] [韓01]	「めやす」と言語領域の枠組み確認	[中]6名、[韓]7名
5月6日	[韓02]	言語領域の一般指標に関する議論	[韓]7名
5月14日	[中02]	言語指標と表現例の検討	[中]4名
5月28日	推進委員会	平成18年度の事業内容・日程の検討	推進委員長ほか17名
6月11日	[韓03]	言語領域の指標と表現例の検討	[韓]5名
6月18日	[中02]、[韓04]	言語指標・表現例・一般指標の検討	[中]8名、[韓]8名
7月9日	[中03]、[韓05]	言語領域の指標と表現例の検討	[韓]6名 [中]8名
7月23日	[韓06]	8月の研究発表用の資料作成	[韓]6名
8月6日	[韓07]	8月の研究発表用の資料作成	[韓]5名
8月12日	[韓08]、京都研修で発表	研究発表と意見交換会	[韓]6名
8月13日	[中05]	8月の研究発表用の資料作成	[中]4名
8月14日	高校中国語研修(東京)で発表	研究発表と意見交換会	[中]4名
8月15日	[韓09]、東京研修で発表	研究発表と意見交換会	[韓]7名
8月20日	高校中国語研修(大阪)で発表	研究発表と意見交換会	[中]6名
8月20-21日	[中06]	言語指標と表現例・語彙例の検討	[中]6名
9月17日	[中07]	言語指標と表現例・語彙例の検討	[中]5名
10月22日	小委員会	「めやす」の内容構成案ほかの検討	推進委員長ほか8名
10月14日	[中08]	言語指標と表現例・語彙例の検討	[中]4名
10月15日	[韓10]	11月の研究発表用のアンケート調査	[韓]7名
11月5日	[韓11]	11月の研究発表用の資料作成	[韓]7名
11月12日	[韓12]	11月の研究発表用の資料作成	[韓]7名
11月18-19日	広島セミナー・教師研修で発表	研究発表とワークショップ、意見交換	[韓]6名
11月26日	[中09]	言語指標と表現例・語彙例の検討	[中]9名
12月10日	[韓13]	表現例の検討	[韓]5名
12月17日	[中10] [韓14]	[中] 言語指標と表現例・語彙例の検討 [韓] 表現例の検討(5分野)	[中]5名 [韓]5名
12月29日	[中11]	言語指標と表現例・語彙例の検討	[中]4名
平成19年 1月7日	[韓15]	文化指標に関する議論	[韓]6名
1月8日	[中12]	言語指標と表現例・語彙例の検討	[中]4名
1月13日	[中13]	言語指標と表現例・語彙例の検討	[中]5名
1月21日	[韓16]	文化指標の検討(8分野)	[韓]5名
1月27日	[中14]	言語指標と表現例・語彙例の検討	[中]4名

1月28日	[中15]	文化指標に関する議論	[中]8名
2月4日	[韓17]	文化指標の検討(5分野)	[韓]5名
2月10日	[中16]	「学習のめやす」(案)原稿の検討、 指標の整理	[中]4名
2月11日	[韓18]	「学習のめやす」(案)原稿の検討、 指標の整理	[韓]6名
2月12日	[中17]	「学習のめやす」(案)原稿の検討、 指標の整理	[中]4名
2月18日	[中18]	「学習のめやす」(案)原稿の検討、 指標の整理	[中]3名
2月以降 3月下旬まで		「学習のめやす」(案)の原稿修正、 校了、印刷入稿	
		「学習のめやす」(案)発行	発行部数1500部

「学習のめやす」作成プロジェクトについて

「学習のめやす」作成プロジェクトの参加者

推進委員会(役職)ほか	氏名	所属及び役職
推進委員会	委員長	中野佳代子 国際文化フォーラム理事・事務局長
	委員	鈴木啓修 埼玉県教育局指導部高校教育指導課指導主事
中国語部会	委員	植村麻紀子 埼玉県立和光国際高等学校ほか講師
	委員	胡興智 上智大学講師、日中学院専任講師
	委員	千場由美子 大阪府立柴島高等学校教諭
	委員	藤井達也 埼玉県立伊奈学園総合高等学校教諭
	委員	古川裕 大阪外国語大学教授
	委員	森茂岳雄 中央大学教授
	委員	山田眞一 富山大学教授
	委員	水口景子 国際文化フォーラム事務局主任
韓国朝鮮語部会	委員	イム・ヒグジャ 大阪府立阪南高等学校教諭
	委員	チュ・ヒョンスク 二松学舎大学、同附属高等学校ほか講師
	委員	長渡陽一 立教新座高等学校ほか講師
	委員	増島香代 神奈川県立横浜清陵総合高等学校教諭
	委員	山下誠 神奈川県立鶴見総合高等学校教諭
	委員	野間秀樹 東京外国語大学大学院教授
	委員	長谷川由起子 九州産業大学専任講師
	委員	油谷幸利 同志社大学教授
	委員	小栗章 国際文化フォーラム職員
	講師	當作靖彦 Professor, University of California, San Diego
講師	吉岐久子 元米国ウィスコンシン州教育庁日本語教育アドバイザー	
講師	吉田研作 上智大学教授	

所属及び役職は平成 18 年 4 月現在

「学習のめやす」内容構成図



「学習のめやす」作成プロジェクトについて

「学習のめやす」執筆担当一覧

内容項目	執筆担当一覧	
はじめに	国際文化フォーラム	中野佳代子
高等学校の外国語教育の再考		
高等学校における外国語教育		
1. 外国語を学ぶ意味	小委員会	中野佳代子
2. 英語以外の外国語を学ぶ意味	"	"
3. 隣国のことばを学ぶ意味	"	"
3-8. 高等学校における中国語と韓国朝鮮語教育の理念	"	山下誠・藤井達也
外国語の教科目標		
1. 高等学校学習指導要領・普通教育・「外国語」の教科目標	小委員会	中野佳代子
2. 外国語教育の再考 1	"	"
3. 外国語教育の再考 2	"	森茂岳雄・中野佳代子
高等学校の韓国朝鮮語：学習のめやす		
科目目標と科目内容		
1. 科目目標	小委員会	中野佳代子
2. 科目内容	"	"
3. 科目内容の取り扱い		
3-1. 韓国朝鮮語とその背景にある文化	小委員会	野間秀樹
3-2. 学習・教育方法の工夫	"	中野佳代子
3-3. 他教科・領域との連携	"	"
3-4. 教室の内外の連携	"	"
学習目標と学習内容		
1. 学習目標	小委員会	中野佳代子
2. 学習内容と学習到達目標		
2-1. コミュニケーション能力指標とは	韓国朝鮮語部会	山下誠
2-2. コミュニケーション能力指標(案)：韓国朝鮮語	"	韓国朝鮮語部会コアメンバー
2-3. 言語領域の指標一覧：韓国朝鮮語	"	"
3. コミュニケーション能力指標にもとづく韓国朝鮮語の授業		
3-1. 単元案と授業の進めかた		
単元案(1) 習得した会話の内容を文字で書いて読む	韓国朝鮮語部会	長渡陽一*
単元案(2) 休み時間にすること	"	山下誠*
単元案(3) 世界の国、行きたい国	"	増島香代*
単元案(4) 買い物をする	"	チュ・ヒョンスク*
単元案(5) 休日にする、したいこと	"	イム・ヒグジャ*
3-2. 文字と発音の導入	"	長渡陽一
3-3. 学習・教育方法の工夫	"	イム・ヒグジャ
3-4. 他の教科との連携	"	小栗章

内容項目	執筆担当一覧	
高等学校の中国語:学習のめやす		
・ 科目目標と科目内容		
1. 科目目標	小委員会	中野佳代子
2. 科目内容	〃	〃
3. 科目内容の取り扱い		
3-1. 中国語とその背景にある文化	小委員会	山田眞一
3-2. 学習・教育方法の工夫	〃	中野佳代子
3-3. 他教科・領域との連携	〃	〃
3-4. 教室の内外の連携	〃	〃
・ 学習目標と学習内容		
1. 学習目標	小委員会	中野佳代子
2. 学習内容と学習到達目標		
2-1. コミュニケーション能力指標とは	中国語部会	中国語部会コアメンバー
2-2. コミュニケーション能力指標(案):中国語	〃	〃
2-3. 言語領域の指標一覧:中国語	〃	〃
2-4. 一般語彙と教室中国語	〃	〃
3. コミュニケーション能力指標にもとづく中国語の授業		
3-1. 授業計画の立てかた	中国語部会	中国語部会コアメンバー
3-2. 発音と文字	〃	〃
3-3. 単元指導事例		
単元指導事例(1) 中国語学習の第一歩	中国語部会	胡興智**
単元指導事例(2) 中国語、友だちとの出会い	〃	千場由美子**
単元指導事例(3) 中国語で買い物しよう	〃	植村麻紀子**
単元指導事例(4) 日本に関連する中国語の報道を取り入れよう	〃	藤井達也**
3-4. 年間指導計画例		
年間指導計画例(1) 半期 2 単位	〃	千場由美子
年間指導計画例(2) 3 年間 6 単位	〃	植村麻紀子
年間指導計画例(4) 3 年間 18 単位	〃	藤井達也
3-5. 学習・教育方法の工夫	〃	中国語部会コアメンバー
3-6. 他の教科や教室内外の連携	〃	水口景子
「学習のめやす」作成プロジェクトについて	推進委員会	事務局

*韓国朝鮮語部会のコアメンバー、 **中国語部会のコアメンバー

プロジェクト協力者と参照資料

1. プロジェクト協力者

「学習のめやす」作成にあたっては、以下の3名の外国語教育専門家の助言を得た。ここに改めて深く感謝の意を表したい。

(1) 米国カリフォルニア大学サンディエゴ校・當作靖彦教授（日本語教育）

當作教授には、平成17年度から18年度にわたって、「学習のめやす」の作成に関わっていただき貴重な助言をしていただいた。當作教授の後ろ盾なくしては、到底「学習のめやす」は実現しなかったものと思う。米国ナショナルスタンダーズの「日本語スタンダード」の作成委員会の委員長だったご経験を踏まえて、プロジェクト発足当初に外国語教育についての哲学、理念、ミッション、目標の設定からを始め、基準作成の過程について解説していただいた。特にプロジェクトメンバーに、教えた言語材料が先にあるのではなく、何を生徒たちに理解してもらい、何ができるようになってほしいか、そこが起点となってスタンダードの目標が作られ、その目標達成のために言語材料があるという考え方を説明してもらった。従来の文法積み上げ方式からのパラダイムの転換がなぜ必要なのか、メンバー間で共有することができ、プロジェクトのスタートが切れたことが大きかった。

(2) 上智大学・吉田研作教授（英語教育）

吉田教授には、平成17年度のプロジェクト当初に、日本の英語教育を背景として、外国語教育の基本的な考え方を整理していただき、特に外国語教育の基準づくりの目的と外国語教育の基本的考え方（アプローチ）について取り上げ、外国語教育の目標と内容と方法は一体化して一つのアプローチを形成していることについて解説してもらった。コミュニケーション能力を養成することを目標とするならば、従来の文法積み上げ式のアプローチでは達成できないことが指摘され、コミュニケーション能力の有効性について説明があった。また教師が外国語教育のアプローチについて理解を深め、高い意識をもって実践すれば、教育効果も確実に上がることがデータを交えて実証された。本研究の基本的な立場を共有するためのセミナーとなったと思う。

(3) 元米国 Wisconsin 州教育庁日本語教育アドバイザー吉岐久子氏（日本語教育）

吉岐氏は、米国 Wisconsin 州の教育庁で日本語教育アドバイザーを務め、在職中に同庁の外国語教育指導主事だったポール・サンドロック氏とともに、*Japanese for Communication* の作成にあたった。州の行政による、幼稚園から高校までの一貫した日本語のガイドラインは、全米初の画期的なものだった。国際文化フォーラムはその一年間にわたって助成をした。サンドロック氏は後に ACTFL (全米外国語教育協議会) の会長に就任したが、*Japanese for Communication* の考え方はナショナルスタンダードにつながっている。吉岐氏にはガイドラインの考え方、構成、テーマ（話題）やレベルの設定、ガイドライン作成の過程や留意点などを説明していただき、「学習のめやす」の作成に役立つ数多くの助言を得ることができた。

2. 「学習のめやす」作成にあたって参照した主な資料

- ・ 高等学校学習指導要領第2章第8節「外国語」、文部科学省、平成11年

- ・ 中学校学習指導要領第2章第9節「外国語」、文部科学省、平成10年
 - ・ National Standards in Foreign Language Education Project, *Standards for Foreign Language Learning in the 21st Century*, ACTFL, 2001
- 米国の全米外国語教育協議会(ACTFL)の全米外国語教育標準

(1) 韓国語部会が特に参照したもの

- ・ *Common European Framework of Reference for Languages (CEFR)*, Council of Europe, 2001
- ヨーロッパ共同体(EU)の言語の学習・教授・評価のための共通参照枠(共通参照レベル) 4技能言語運用能力別指標 CEFRの基準ともいべき「全体的な尺度」(Common Reference Levels: global scale)のA(基礎段階の言語使用者)とB(自立した言語使用者)のレベルを主に参照した。韓国朝鮮語の言語領域の指標が定めるレベル1と2は、おおむねCEFのA1とA2を参考にしている。ただし、CEF 共通参照レベルが一般の言語使用者を対象にしているのに対し、韓国朝鮮語の指標は、日本の高校生を対象にしている。

[表] CEFの共通参照レベル:全体的な尺度

自立した言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに緊張しないで母語話者とやり取りができるくらい流暢かつ自然である。かなり広汎な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができ、さまざまな選択肢について長所や短所を示しながら自己の視点を説明できる。
	B1	仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいいてい事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。
基礎段階の言語使用者	A2	ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。自分や他人を紹介ことができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

注: 『外国語教育 :外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』(2006)より A1, A2, B1, B2 レベルのみを抜粋した(熟達した言語使用者 C1, C2 の記述を除いた)。

(2) 中国語部会が特に参照したもの

- ・ 『高校中国語教育のめやす 平成11年度版』

高等学校中国語教育研究会が5年かけて作成したガイドライン。コミュニケーション能力の養成を図り、国際理解・異文化理解を高校中国語教育の目標に設定した際に、学習すべき文法項目と語彙を提示している。国際文化フォーラムは「めやす」作成、編集および出版に際して助成した。

「学習のめやす」作成プロジェクトについて

- *Japanese for Communication, A Teacher's Guide*, Wisconsin DPI (Department of Public Instruction), 1996
米国ウィスコンシン州教育庁編のK-12(幼小中高校)向け日本語教育用カリキュラムガイドライン。12のテーマ別4段階レベル別の教授・学習到達目標を設定している。文化理解を重視。国際文化フォーラムは4年度にわたって作成に対して助成を行った。
- *Proficiency Guideline*, ACTFL (American Council on the Teaching of Foreign Languages), 1986
米国の全米外国語教師協議会 (ACTFL) の学校教育用4技能言語運用能力基準。米国政府作成の政府関係機関職員の外国語力評価基準 ILR (Interagency Language Roundtable) Scale (1985) の初級レベルをさらに3段階に設定した。
- *The Chinese Benchmarks*, CASLS (The Center for Applied Second Language Studies)
米国オレゴン州オレゴン大学にあるCASLSが開発した中等教育用4技能言語運用能力別評価基準・検定。ACTFLのProficiency Guidelineの初級Noviceの3段階をさらに6段階に設定した。機能・トピックス別の学習到達目標を設定している。